

令和7年度

学生による授業改善のための
授業評価結果に関する
報告書

公表用

目 次

1. 「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みについて	…	1
2. 実施方法/令和7年度学生による授業評価アンケートの調査用紙等	…	2
3. 授業担当教員による授業評価アンケート結果の考察	…	6
4. 学生による授業評価アンケート調査結果報告（学科別集計結果）	…	152
6. 分析に基づく検証評価・改善について	…	157

「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みについて

全ての授業は、学生の実態やニーズを踏まえた質の高いものでなければならない。「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みの目的は、各授業に対する受講学生の意見や要望、自己評価等の情報を収集することで、集約したデータを各々の教員が分析を行い、指導方法の工夫・改善に具体的に生かすということである。

本学における「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みは、平成 13 年度より実施されている。

また、平成 21 年度からは、西九州大学と同一内容の授業評価アンケート調査を実施し、大学との教育内容の共有を図りながら授業の質の向上を目指してきた。

平成 29 年度からは相互授業参観がスタートしたが、平成 31 年度に各教科の専門性のみならず、汎用的な授業力を振り返る質問項目や、大学教育に求められている「深い学習」「深い理解」「深い関与」に着目したディープ・アクティブラーニング的な授業を展開するための質問項目を加える等、評価内容を改善した。

本年度も、学生による授業改善のための授業評価を実施し考察を行った。以下、学内用報告書としてとりまとめる。なお、報告書の公表においては、授業担当者を伏せてとりまとめる。

分析、考察と合わせ、本学の授業改善に生かされることを期待する。

令和 7 年度 西九州大学短期大学部 FD 委員会

令和7年

授業担当教員 各位

西九州大学短期大学部FD委員会
委員長 武富 和美

学生による授業改善のためのアンケートの実施について

平素より本学FD活動につきまして、先生方におかれましては、多大なるご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、今年度も学生による授業改善のためのアンケートを実施いたします。前期につきましては、下記のとおり実施したいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

なお、WEBアンケートの質問項目には、先生方が自由に質問できる項目を設けております。質問したい事項（4段階評価で集計されます。）があれば実施日までにご検討ください。特になければ、ご検討いただく必要はございません。

また、本アンケート実施結果については、集計後、各先生方へ周知するとともに学生も閲覧（自由記述除く）できるよう本学図書館でも公開し、授業評価実施報告書作成のため集計結果の分析と次年度に向けての取り組みについて報告書作成のご依頼をさせていただきたいと存じますので、ご了承をお願いいたします。取りまとめた報告書は、学内外に公表いたします。

記

1. アンケート項目 : 別紙「学期末調査 評価項目」参照
2. 授業評価実施期間 : (前期) 令和7年7月9日(水)～令和7年8月1日(金)
(後期) 令和8年1月5日(月)～令和8年1月30日(金)
3. 授業評価実施方法 : 別紙「学生による授業改善のための授業評価アンケート調査の実施について」参照
※学生ポータルサイトでのWeb調査になりますが、回答率向上のため、授業時間内に実施をお願いいたします。
なお、学生には掲示板及び学生ポータルサイトで回答要領を周知します。
4. 授業評価対象科目 : 前・後期開講の全科目（通年開講科目を除く）

以上

(学生用)

令和7年度
学生による授業改善のための授業評価アンケート調査の実施について
【 西九州大学短期大学部 】

このアンケートは、授業の内容をより充実したものに改善するための大切な調査です。あなたの成績評価には、一切影響しませんので、率直に回答してください。学生の皆さんは、今年度後期に履修している科目で、担当教員から指示された科目の授業評価をしてください。 授業評価は全て学生ポータルサイト上での回答となります。

《操作手順》

- 1. 学生ポータルサイトを利用しますので、各自のログインIDとパスワードを準備しておいてください。忘れた場合は、事前に学生支援課窓口にお問い合わせください。
- 2. 学生ポータルサイト上の〈授業〉⇒〈授業評価アンケート〉にある履修科目の【回答する】ボタン（※1）を押すと授業評価シートがでできます。

①授業情報

学生ポータルサイト

- ホーム
- トップ
- 資格・免許希望
- 履修登録
- 成績閲覧
- 出欠閲覧
- 授業評価アンケート
- 学修到達度マップ
- 学修到達度成果
- 授業情報

② 授業評価アンケート

履修番号	履修科目名	開設期	担当教員	提出開始日	提出終了日	※1
112180	臨床心理地域援助特論	前期	教員 001	2014/08/01	2014/08/31	回答する
411250	英語表現Ⅰ	前期	教員 002 教員 101	2014/08/01	2014/08/31	回答する
112401	老年心理学特論	前期	教員 003	2014/08/01	2014/08/31	回答する
411150	国語	前期	教員 004 教員 102	2014/08/01	2014/08/31	回答する

③「回答する」ボタンを押すことにより、「授業評価アンケート」が表示されます。

※履修中の科目全てが表示されますが、担当教員から指示された科目のみ回答してください。

- 3. 授業評価シートの質問1～18は共通です。該当番号のチェックと自由記入をしてください。質問19～25は、先生からの質問提示がある場合に回答してください。

学生ポータルサイト

- ホーム
- トップ
- 資格・免許希望
- 履修登録
- 成績閲覧
- 出欠閲覧
- 授業評価アンケート
- 学修到達度マップ
- 学修到達度成果
- 授業情報

一覧 > 回答

このアンケートは、授業の内容をより充実したものに改善するための大切な調査です。あなたの成績評価には、一切影響しませんので、率直に回答してください。

【411158】あすなろう体験Ⅰ（基礎） 通年（ ）

設問番号	設問	回答
（あなた自身の授業参加態度について）		
Q1.	授業は何回欠席しましたか。	☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4
【Q1の評価基準： 4 ⇒ 0回、3 ⇒ 1回、2 ⇒ 2～3回、1 ⇒ 4回以上】		
Q2.	シラバス（授業計画）を活用しましたか。	☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4
Q3.	授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。	☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4
Q4.	あなたはこの授業を理解するために自分で何が工夫をしましたか。	☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4

学生による授業改善のためのアンケート

このアンケートは、授業内容をより充実したものに改善するための大切な資料です。あなたの成績評価には一切影響しません。

この授業について気付いた事や要望等を自由に記入してください。

400文字以内（残り393文字）

自由記入

登録 リセット

④「授業評価アンケート」回答終了後、「登録」してください。

- 4. 回答終了後は、授業評価シートの下にある【登録】ボタンを押すことで提出となります。
- ※授業評価回答は、回答期間中であれば、変更して再提出することが可能です（「登録」ボタンを押すことにより更新されます。）。

回答期間：（前期）令和7年7月9日(水)～ 8月1日(金)迄
（後期）令和8年1月5日(月)～ 1月30日(金)迄
※上記の期間外に実施する科目もあるため先生からの指示に従ってください

授業評価アンケート（学期末調査） 評価項目

（学生ポータルサイトでの質問項目）

（あなた自身の授業参加態度について）

☐ Q1. 授業は何回欠席しましたか。

【Q1の評価基準：4⇒0回、3⇒1回、2⇒2～3回、1⇒4回以上】

☐ Q2. シラバス（授業計画）を活用しましたか。

☐ Q3. 授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。

☐ Q4. あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。

（例えば、ノートをまとめる。テキスト・参考書の活用。教員への質問。予習・復習等）

【Q2～4の評価基準：4⇒そう思う、3⇒だいたいそう思う、2⇒あまりそう思わない、1⇒そう思わない】

☐ Q5. あなた自身の総合自己評価

【Q5の評価基準：4⇒良い、3⇒やや良い、2⇒やや悪い、1⇒悪い】

（授業内容・方法について）

☐ Q6. シラバス（授業計画）について説明がありましたか。

☐ Q7. 教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。

☐ Q8. 授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか。

☐ Q9. 授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。

☐ Q10. 視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。

☐ Q11. 教科書・配布資料等は役に立ちましたか。

☐ Q12. 声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。

☐ Q13. 授業の進む速さは適切でしたか。

【Q6～13の評価基準：4⇒十分、3⇒だいたい十分、2⇒やや不十分、1⇒不十分】

（教員の対応について）

☐ Q14. 学生の質問等に誠実に対応しましたか。

☐ Q15. 公平に学生に対応しましたか。

☐ Q16. 教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。（コメントを付したレポートの返却、学生からの質問を授業で取り上げるなど）

☐ Q17. 教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。

【Q14～17の評価基準：4⇒そう思う、3⇒だいたいそう思う、2⇒あまりそう思わない、1⇒そう思わない】

（総合評価）

☐ Q18. この授業を総合評価してください。

【Q18の評価基準：4⇒良い、3⇒やや良い、2⇒やや悪い、1⇒悪い】

（教員による自由項目）※授業担当教員からの指示に従ってください。（指示があれば記入すること。）

☐ Q19.

☐ Q20.

☐ Q21

☐ Q22

☐ Q23

☐ Q24

☐ Q25

【Q19～25の評価基準：4⇒良い、3⇒やや良い、2⇒やや悪い、1⇒悪い】

（自由記述）

教員各位

西九州大学短期大学部FD委員会

令和7年度「学生による授業評価アンケート」集計結果の分析及び評価の報告について

本学では、例年、学生による授業評価アンケートを実施しており、コンピュータによる統計処理後の集計表を実施された各先生方に返却し、その結果をもとに分析・検討及び評価を行い各授業に反映していただいています。

今年度も、各教員の分析・検討および評価などの内容について、教員間で共有するとともに、学生および対外的に公表するため、教員のコメントを掲載した報告書を作成いたしますので、下記の要領にて報告書冊子原稿のコメント文の提出をお願いいたします。

1. 分析及び評価の対象：令和7年度に実施した授業評価結果

2. 報告書の内容：学部名、学科名、科目担当者名、科目名、履修者数及び以下の（１）～（３）

- （１）学生による授業評価結果
- ・WEB（ポータルサイト）入力画面に自動表示されます。
- （２）結果の分析と評価（300～500 字程度）
- ・学科平均との比較（共通教育科目については共通教育科目全体平均との比較）
 - ・特に低（高）い項目についての考察
 - ・自由記述についての分析と評価
 - ・本授業の目標、ねらいと照らし合わせた分析と評価
 - ・授業全般に対する反省点
 - ・回答率が低かった理由 など
- （３）次年度に向けての取り組み（300～500 字程度）
- ・（１）の授業評価結果で特に低かった項目に対する改善方法
 - ・（２）の授業全般の反省点に対する取り組み方法
 - ・次年度に新たに導入したいと思っている授業方法 など
 - ・授業評価そのものに対する意見を含んでも可

3. 報告科目数

授業評価結果がある全科目（※オムニバス開講など複数教員で担当する科目は代表１名の報告で可）

4. 提出方法

WEB（ポータルサイト）で提出

5. 提出期限 令和8年6月5日（金）

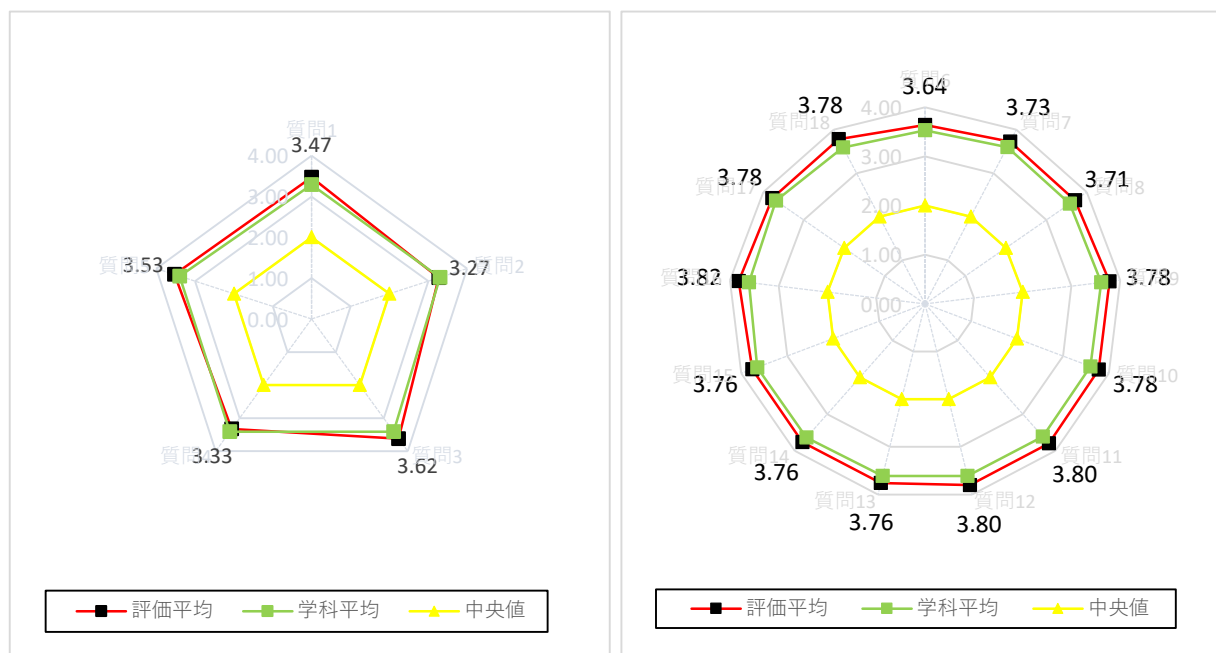
6. その他 WEBマニュアル及び参考資料（授業評価アンケート評価項目、学科別平均値）は、以下の共通フォルダに格納しています。

全学教職員（¥¥nobita (x)） ⇒ ●●●【短大部】授業評価に関する報告書●●●
⇒ 報告書様式&記入マニュアル等

授業担当教員による授業評価 アンケート結果の考察

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		あすなろう(大学生活のデザイン)	56名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

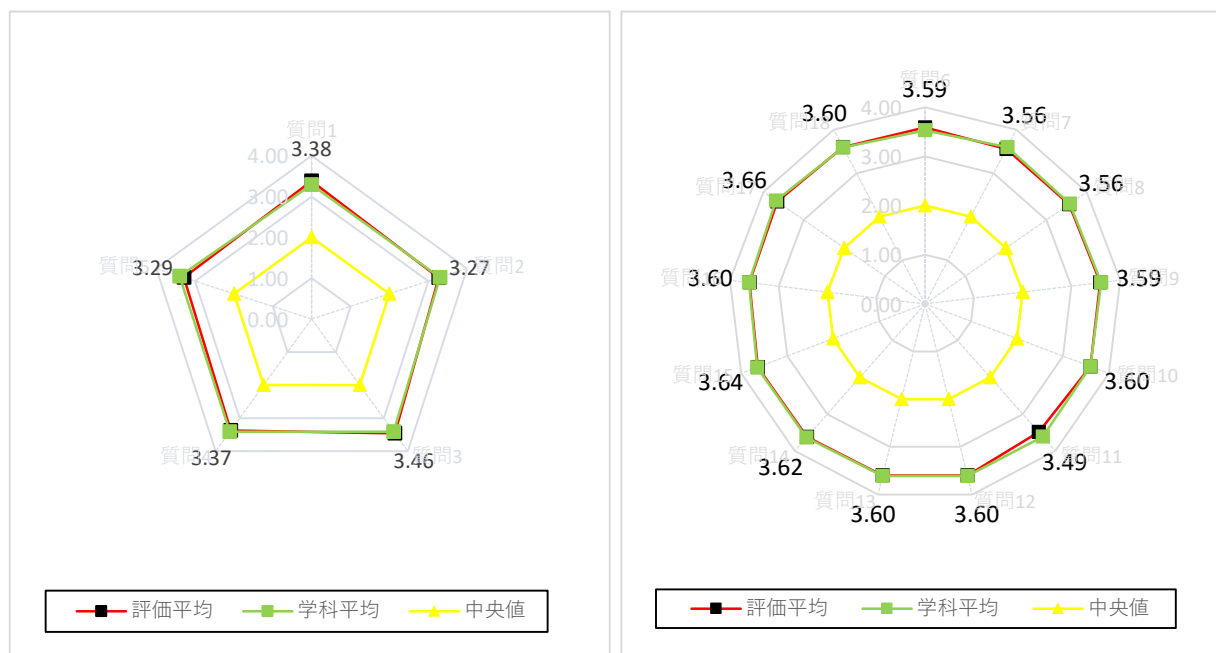
回答結果としては、履修者56名中45名（80％）であった。
 自己に関する設問の評価平均としては、どの設問においても平均的だが、特に質問2「シラバスを活用したか」、質問4「自分で何か工夫したか」に関してはわずかに下回っている。
 授業に対する設問についてはほぼ平均値である。

(3) 次年度に向けての取り組み

この授業は複数教員が関わったり、ゲストを招いたり、時に学生主体としたグループワークを実施しているが、結果はほぼ平均値を示していることから、ある程度の共通理解を保って授業を行っていることがわかる。
 しかしながら週ごとに色んな形態の授業となることから、学生にとっては学習のペースがつかみづらい面もあったのではないかと考える。
 シラバスではなく、紙面で実施計画を周知しているが、できるだけ予定変更なく実施できるように配慮していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		あすなろう(大学生活のデザイン)	113名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本科目は、学校での学びや自身の将来について考えるとともに、先輩・後輩との交流や地域活動など、幅広い内容を学ぶ科目である。特に、さまざまな交流の機会を重視して授業を展開している。

授業の結果、学生自身による総合自己評価は3.18であった。一方、教員に対する評価では、授業内容・方法に関する各項目がいずれも良好であり、評価は3.61～3.82の範囲であった。総合評価は3.61で、学科平均と比較すると0.02低い結果となった。

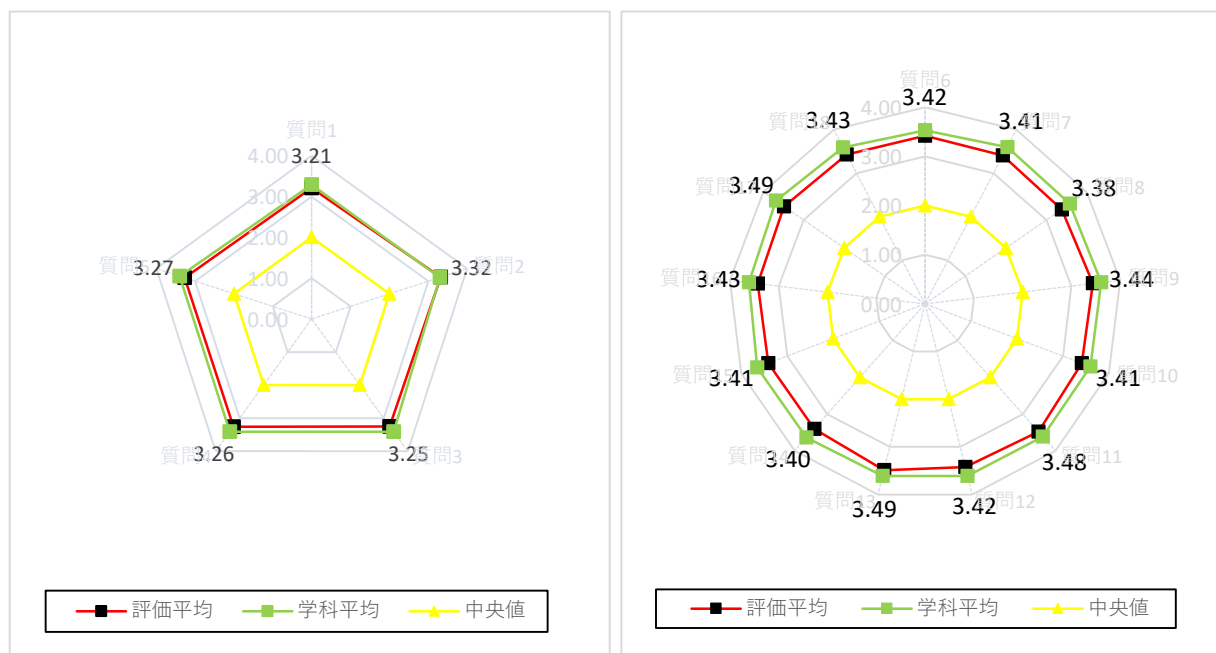
自由記述では、「あすなろうの授業ではさまざまな知識を学ぶことができました。」「グループ学習を通して、多くの知識を学ぶことができました。ありがとうございました。」といった意見が見られ、本科目における学習内容やグループ活動が学生の学びにつながったことがうかがえた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、学生が様々な価値観や文化に触れ、学生が主体的に学習できるようにさまざまな交流を取り入れていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		あすなろう(大学生活とキャリア)	105名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

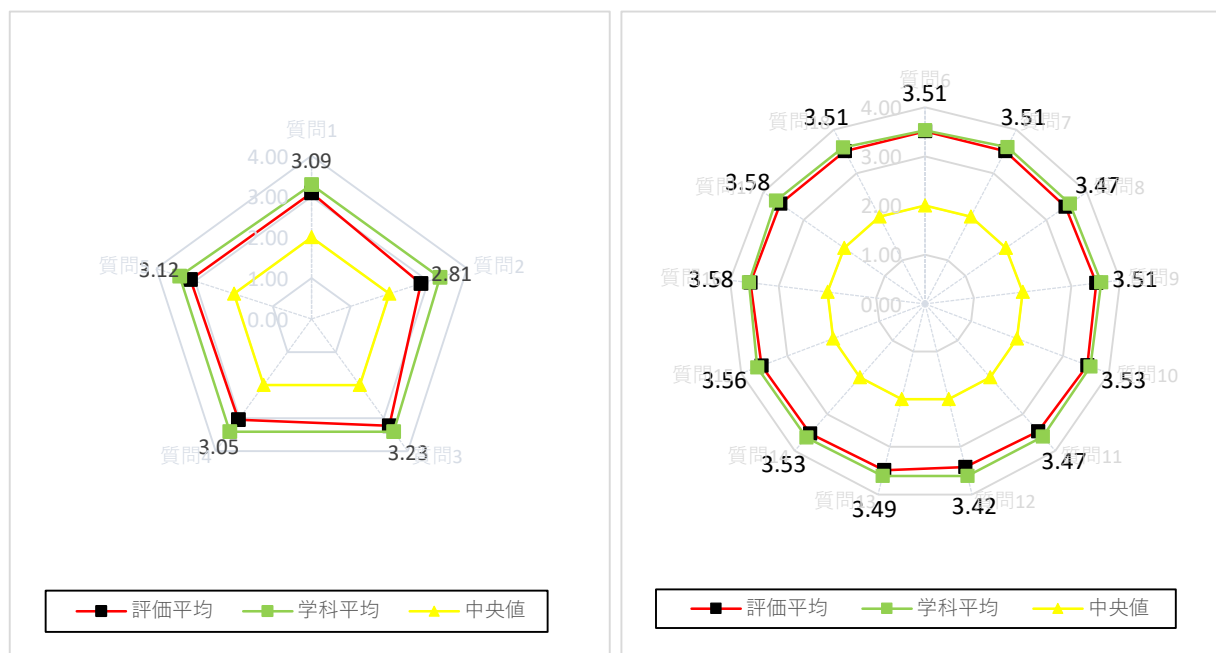
本科目は、1年次の「あすなろう（デザイン）」での学びを2年次のキャリア形成へと発展的につなげることを目的としており、授業の目的や活動内容を十分に理解したうえで、学生が主体的・積極的に参加できるように構成している。授業終了後に実施した学生自身による総合自己評価は3.38であった。一方、教員に対する評価では、授業内容および授業方法に関する各項目が概ね良好な評価を得ており、評価値は3.38～3.42の範囲で推移した。総合評価は3.38であり、学生の自己評価と同水準であったものの、学科平均と比較すると0.25低い結果となった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度のに向けての取り組みは、学生が積極的に授業に参加できるように授業の目的や学習内容・計画が理解できるように細やかな対応をしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		あすなろう(大学生活とキャリア)	51名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

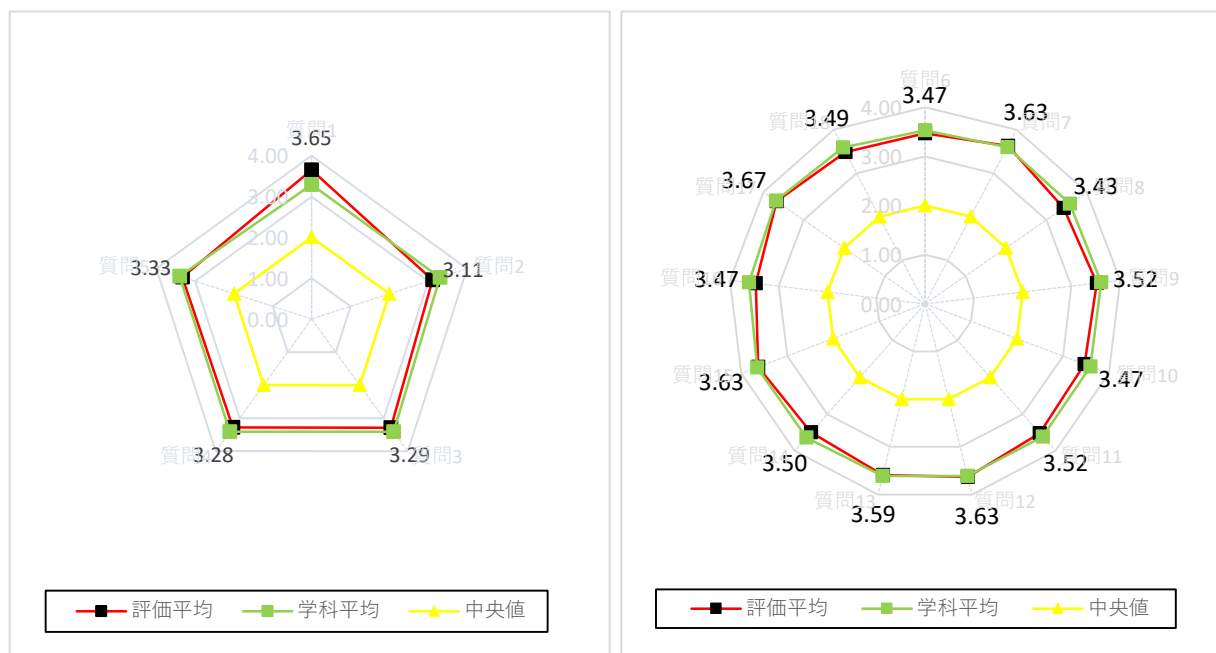
回答率は、履修者51名に対して43名（84%）であった。
 学生自身の評価は、全体的に学科平均より下回っており、特に質問2「シラバスを活用したか」質問4「自分で何か工夫したか」質問5「総合自己評価」はさらに下回る結果となった。
 授業への評価としては、すべてが概ね平均値であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

この科目は複数教員によるオムニバス形式で成り立っている。
 1年生開講の「あすなろう(大学生活のデザイン)」と比較すると、2年生では授業形態にも慣れ、学習のペースもつかみやすくなったと言える。
 自由記述には4名程度の記載があり、様々な分野を体験的・総合的に学べたと述べる回答も見られた。
 本科目に対して、学生自身の取り組みに対する評価が比較的低かったことから
 今後は、学生自身が目標や意義を見出せるような課題の出し方など、工夫の余地があると考えます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		SDGs入門	170名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

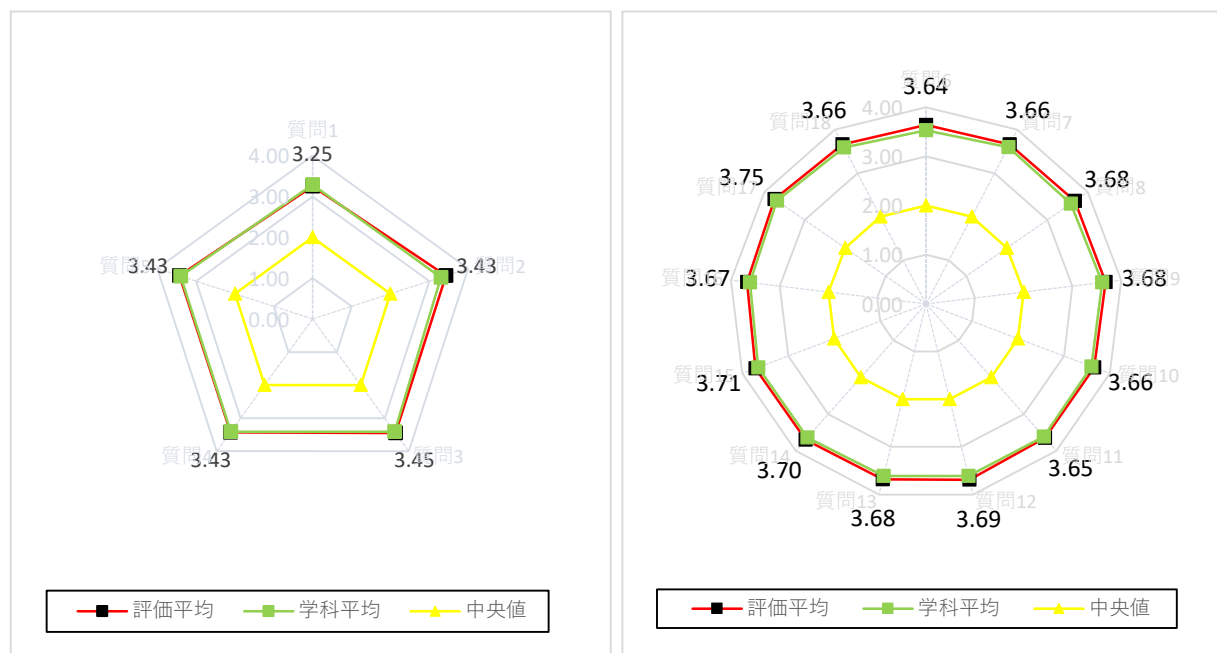
授業評価は回答者155名、回答率100%であり、総合評価は4点満点中3.48であった。質問6?18の授業運営に関する項目は3.43?3.67で、授業目標の提示、資料・動画の活用、教員の熱意などは概ね良好に評価されている。一方、質問2「シラバスの活用」は3.11、質問3「真剣な取り組み」は3.29、質問4「理解のための工夫」は3.28であり、学生自身の主体的な学習行動には課題が見られる。自由記述では、動画や資料が分かりやすいという肯定的意見がある一方、課題の難しさ、実習期間中のレポート提出、音量への要望も確認された。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、オンデマンド授業の利点を生かしつつ、学生が主体的に学習しやすい設計を強化する。具体的には、各回の到達目標、学習の進め方、課題の目的をより明確に示し、課題作成例やまとめ方の見本を提示する。特に、専門性とSDGsを関連づける課題については、学科ごとの具体例を示し、考え方の手順を段階的に説明する。また、実習期間と課題提出が重なる場合は、提出時期や締切設定を再検討する。動画教材については、音量や聞き取りやすさを事前確認し、資料・動画・課題の一体感を高めることで、学生の理解と学習意欲の向上を図る。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		SDGsの実践	170名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

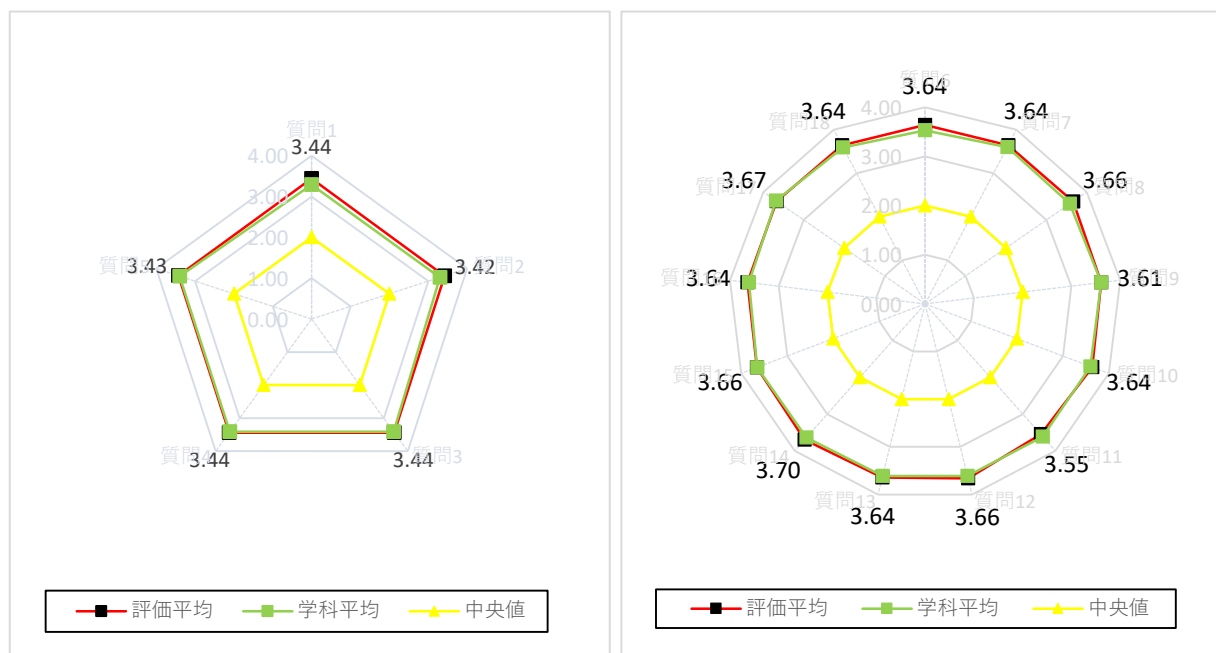
本科目は学科共通科目であるため留学生も多い。講義のシラバスは外部講師を招いての実践の紹介、それに対する質疑応答やレポートの提出のため、外部講師による授業内容への評価には差がみられる。本年度も前年度から引き続き「地球温暖化防止ネット」のスタッフを招聘しデコ活アクションの実践シリーズ①～④を実施した。学生と年齢が近い講師の講話もあり、学生たち、特に留学生は積極的に質問や意見校交換を行う様子が見られた。前期の「SDGs入門」で学修した内容を実践につなげることが目的であるため、「デコ活に関するアンケート」を行い学生への意識づけを行った。アンケート結果は学生に戻し、最終回の各グループごとのプレゼンテーションにも活用させた。「デコ活」に対する学生の意識の高まりが感じられ、日常生活における実践の広がりが見られる。外部講師には、留学生の受講者が多いことを伝え、話すスピードや使用する語句のレベル、配布する資料へのルビなどをお願いしているが、レポートを見ると留学生の中には日本語能力が低い学生の中には十分に理解できていない者が見られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

昨年度から、グループ活動がスムーズに展開できるように、学科コースが混在しないグループ構成を行うと共に、日本人学生と留学生が混在するグループでは双方の割合が半々になるような配慮を行っている。このグループ分けの方式は次年度も継続したい。また、合理的な配慮が必要な学生に対する支援も学科コースを越えて共有して行っていく。シラバスにおいては各領域で活躍している外部講師を招いた講義と質疑応答、レポート提出というスタイルは継続していくが、その際、留学生等に対する配慮を具体的をお願いしていく。「デコ活」をテーマにした授業については、継続してシリーズ化して実施したいと考えている。そこではこれまでのように、学生たちと歳の近い講師（主として佐賀大学の学生及び卒業生）を招聘しながら学生の主体的・対話的な学びを展開していきたい。加えて、次年度中には不可能であるが、現在前期と後期に開講している「SDGs入門」と「SDGsの実践」の二つの講義の在り方について、一本化して実施する等、担当のメンバーや教務課と共に検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		データサイエンスの基礎	170名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

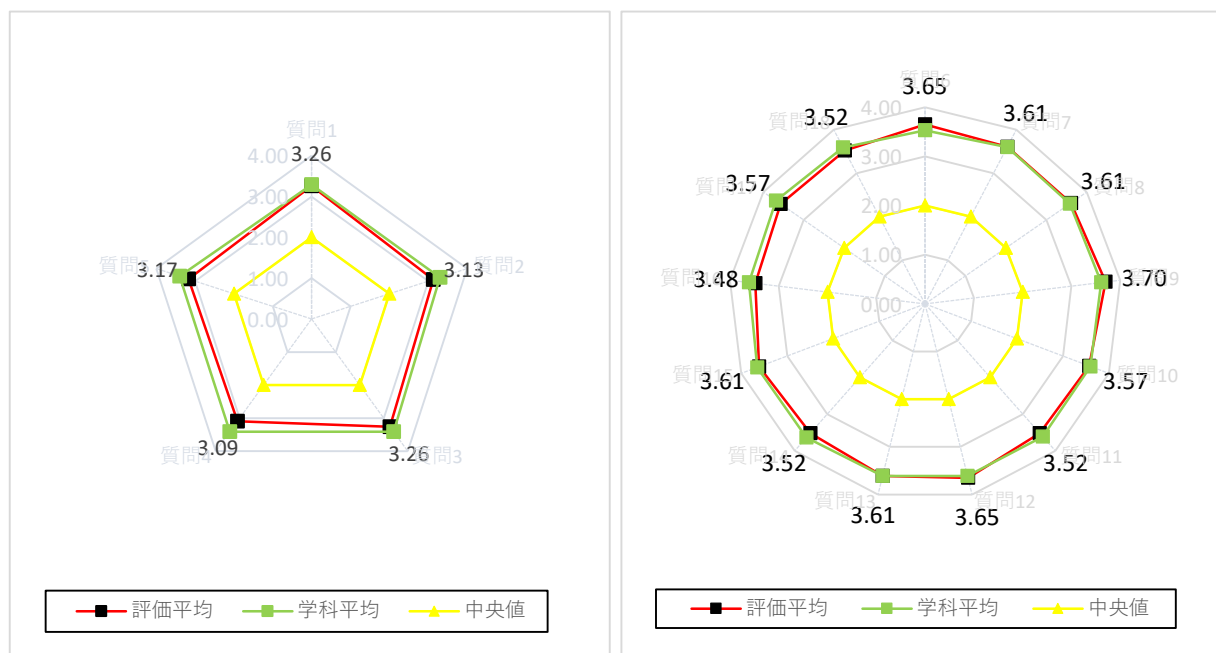
この科目は、リモート授業とオンデマンド授業で行われており、毎回教員が交代するオムニバス授業となっている。
 質問14（質問への誠実な対応）や質問17（熱心な取り組み）が高く、教員の真摯な姿勢が学生に高く評価されていると考える。
 質問5（自己評価）は高いものの、質問4（工夫して理解しようとしたか）が相対的に低くなっており、受け身の姿勢が見受けられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後、取り組むべき内容として下記を考える。
 自学自習の促進：学生自身の工夫（質問4）を促すため、予習復習の具体的なガイドラインを提示したり、授業内で自ら考える時間を増やす。
 アクティブラーニングの導入：双方向性（質問16）をさらに高めるため、ペアワークや投票システムなどを活用し、学生の主体的な参加を促す。
 以上を考えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		心理学入門	27名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

質問1～5については、全体的に平均を若干下回っている。また、質問14「学生の質問等に誠実に対応しましたか。」と質問16「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。」については若干平均値を下回っている。

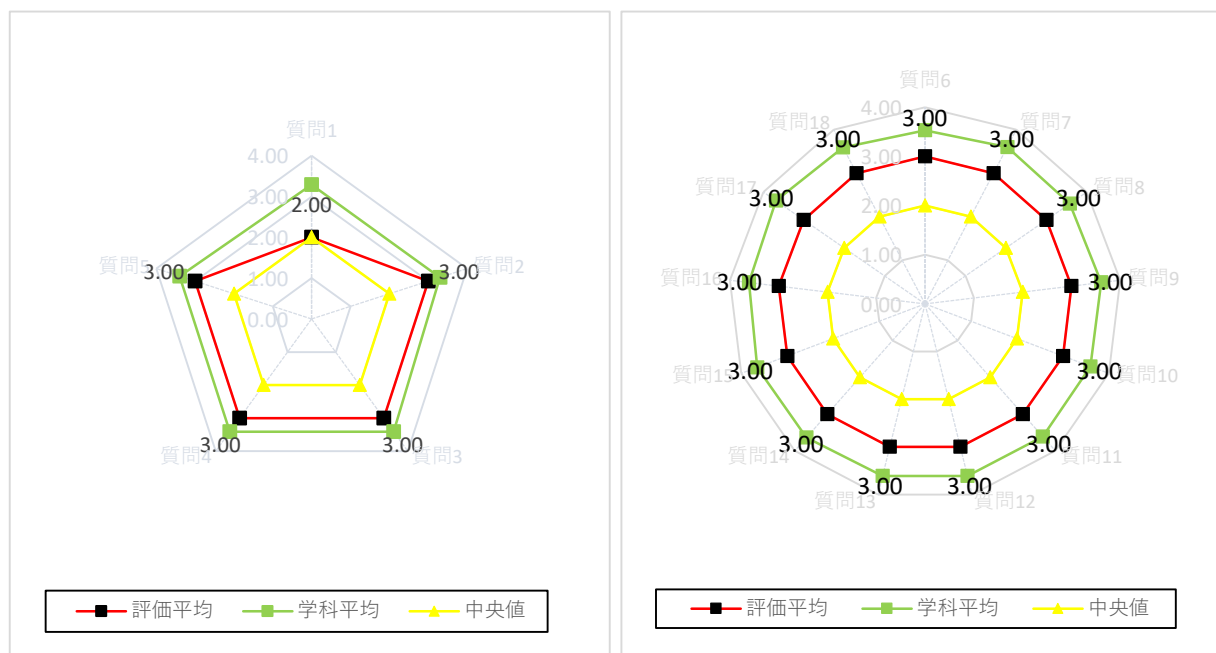
本科目は完全オンデマンドであり、動画配信と視聴後の課題提出で成り立っている。その点で質問3と質問4については学生側で何か工夫をしたり、セルフコントロールするのは困難と思われる。また、毎回の課題に対して、返信をしており、さらに質問についてはメールや対面にて対応しているにも関わらず、質問14と質問16が平均値を下回ったことについて、理由は不明である。オンデマンドであることが本授業評価の質問項目にマッチしていないことも考慮する必要があるだろう。なお、自由記述には、「様々なことを学べた授業でした。」とコメントが1件のみであったこともオンデマンド科目ならではの結果と受け取れる。

(3) 次年度に向けての取り組み

動画視聴以外の工夫が必要だが、そもそもオンデマンド科目に対する授業評価項目ではないとも思われる。全体として数少ない授業形態である為に、この科目だけに対応した授業評価は難しい。これを踏まえて、すぐに回答するのは困難ではあるが、今後、なるべく自由記述にて記述できるような工夫が必要だろう。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		海外研修	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

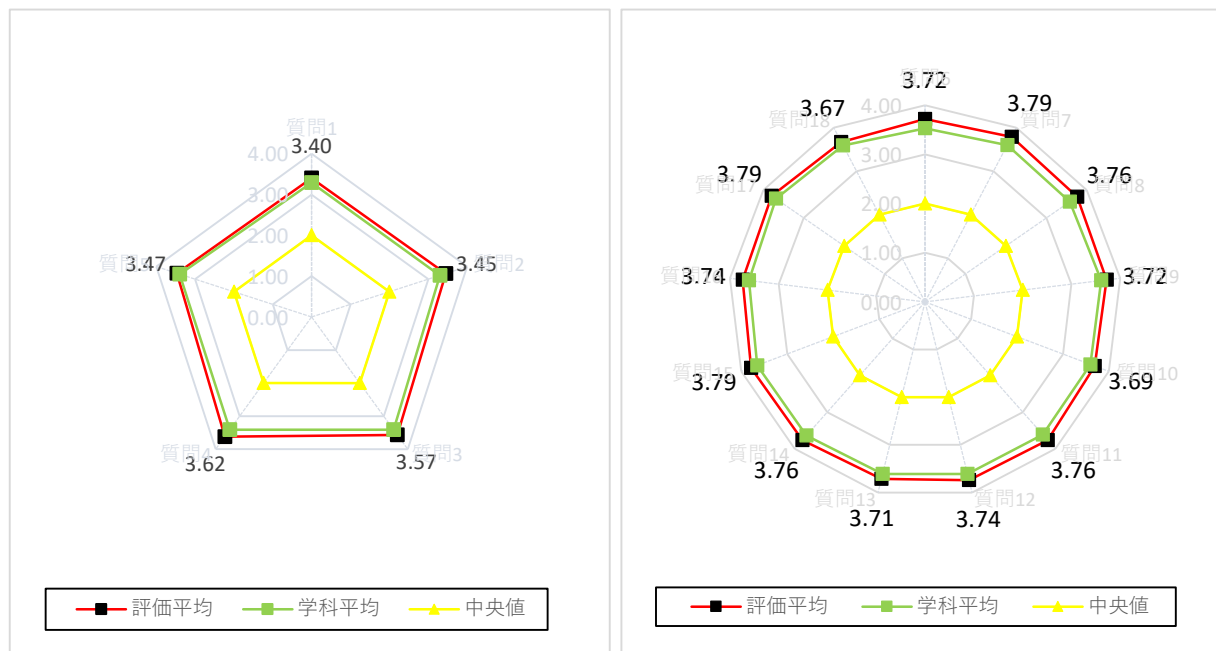
前期は履修者0名、後期は3名だったが、授業評価アンケートの回答者は計1名だった。この科目の特性上、授業内容は海外研修に関する事前事後の指導（レポート提出と映像制作）、そして研修中の連絡となっている。その為、これらの授業評価項目では評価できないことが多く、このような結果になったと思われる。なお、海外研究終了後の聞き取りでは全履修者が満足と回答している。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後も、学生支援課、教務課、国際交流センター、ダイバーシティセンターと連絡を密にした上で、学びある安全な海外研修を継続していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		異文化理解	63名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

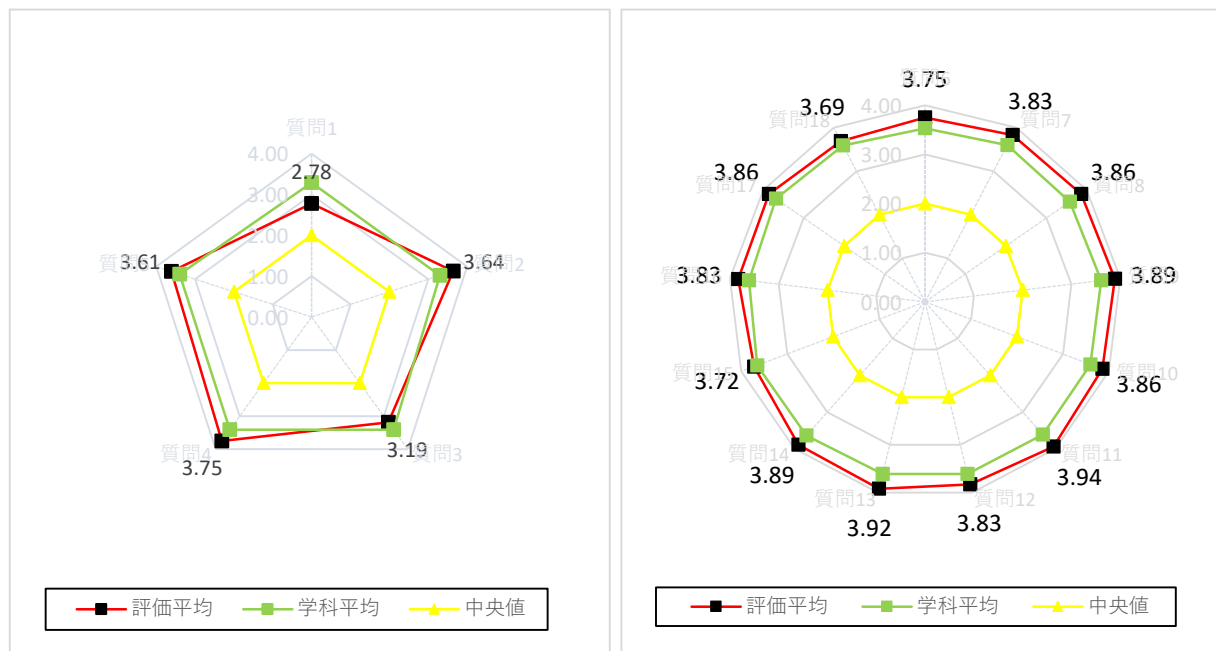
授業は、リアルタイムのオンライン授業を実施している。毎回Teamsを活用し、全体での内容解説をした後、個別演習し、その後にグループ（ルーム）に分かれて意見交換をしている。授業内容には比較的関心が高く、「この異文化についての授業では、国や地域によって考え方や価値観が大きく異なることを学び、とても興味深く感じました。自分とは違う文化を知ること、相手を理解しようとする気持ちが強くなり、視野が広がったと思います。先生の体験談や映像などを使った説明もわかりやすく、楽しく学ぶことができました。もっと多くの国の文化や、実際に起きた異文化のすれ違いの例なども紹介していただけると、さらに理解が深まると思います。これからの授業も楽しみにしています。」といった自由記入もある。

(3) 次年度に向けての取り組み

受講クラスは、特定国の留学生が多勢となっており、異文化理解という多様な価値観等について意見交換することが難しい状況がある。しかし、国や地域の違いからくる異文化への理解は深まっているようである。一方では、他者理解における異文化理解は手応えが弱いと実感している。今後の改善点としては、人との関わりにおける異文化について、ワークを再考し、同郷人同世代にあっても異なる点を理解し、より柔軟に対応できるよう、考えを深めていけるように改善に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		日本語Ⅱ	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

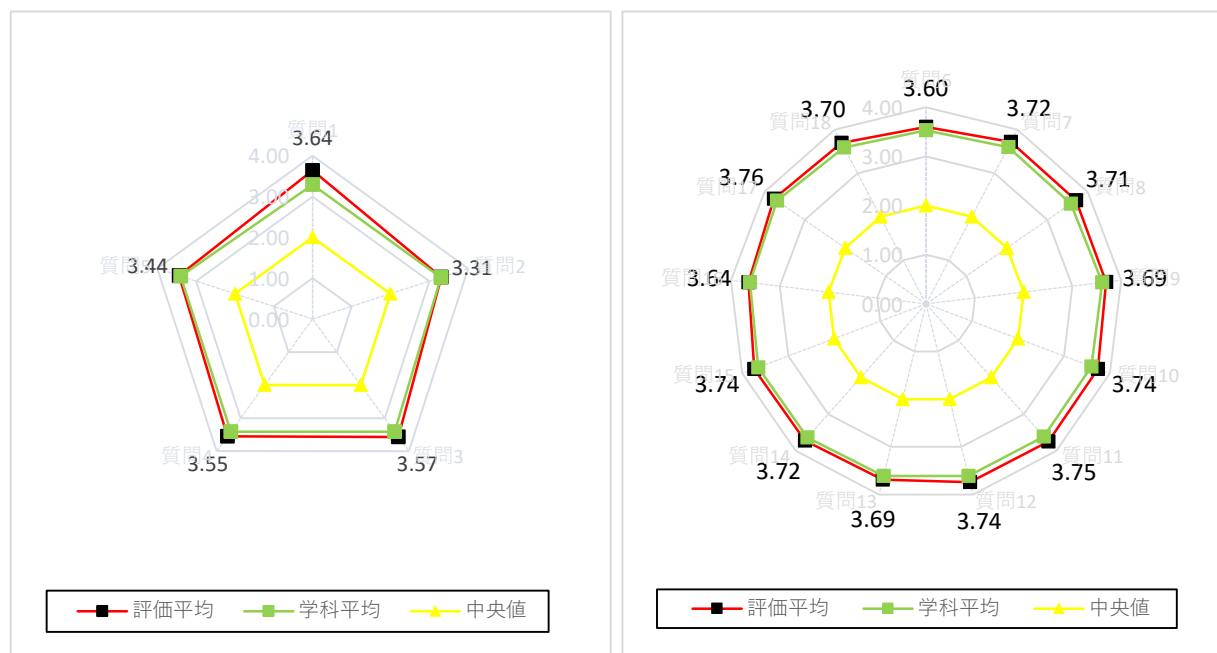
学生自身の授業への取組は、出席状況と居眠り・私語に関する項目を除き、学科平均を上回る評価であった。
授業内容の理解に向けた工夫や学習への意欲が比較的高く、主体的に学ぼうとする姿勢が見られた。
教員の授業方法についても、学科平均を上回る評価となっており、
授業の分かりやすさや資料の活用、学生への対応などが評価されたものと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の主体的な学習姿勢を維持・向上させるとともに、出席率の向上と授業への集中を促す工夫を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		健康スポーツ理論	122名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

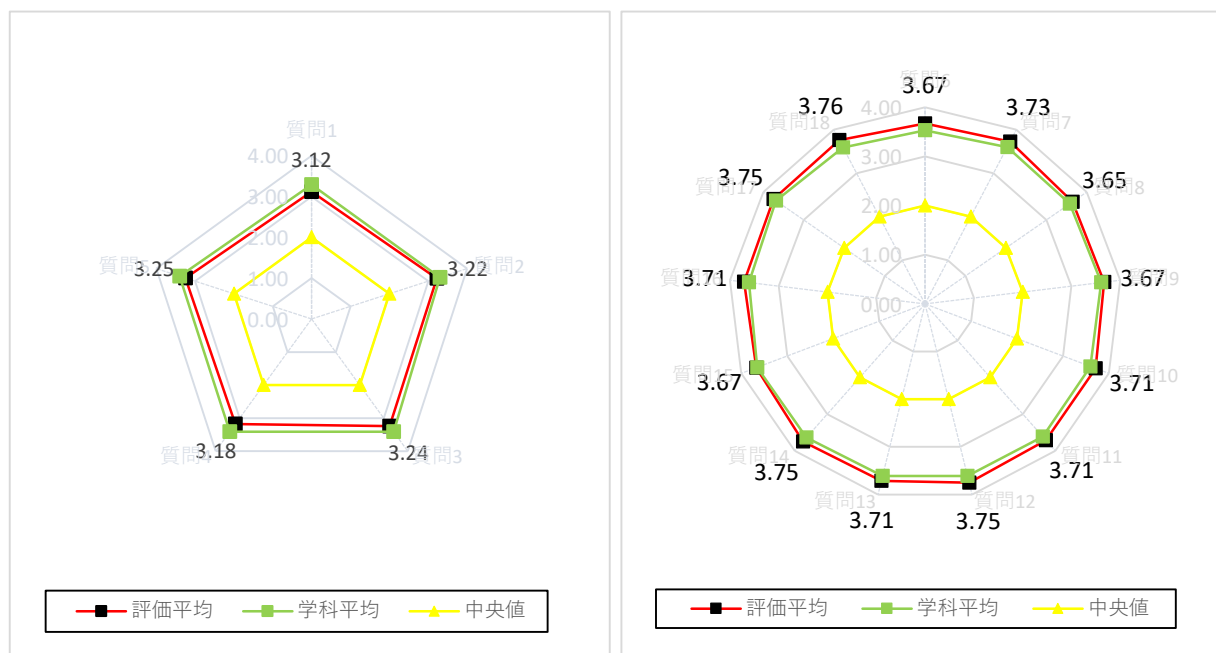
この科目は遠隔授業で行い、リアルタイムによるオンライン形式で実施した。学生の顔が見えない中での授業となり、学生の理解度や授業の反応を確認することが難しく、昨年に引き続きやすさや話す声の聞きやすさはどうだったのか不安な点は多かったが、評価としては平均以上の評価を得ることができた。学生の視聴方法として、PCで受講するよう促しているもののスマートフォン等で視聴する学生もいると考えられることから文字の大きさにも気をつけたことや学生に答えてもらいたくてもマイクの調子や通信状況により上手く回答できないこともあったためFormsを活用することにし、一方的な授業にならないように努めたことも評価につながったのではないかと考えられる。しかしながら、授業とは別にいろいろと気を遣うことが多く、難しさも感じている。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も遠隔授業での実施のため、オンラインで実施する上でより良い方法を検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども家庭支援論	52名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

51/52 (98%) の回答であった。

授業評価の各質問項目においては、質問6以降については学科平均と同程度であった。

本科目は、学年全体を対象としており、どうしても大人数での講義となるためグループワーク等の学生交流が実施しにくいことが難しい点であった。

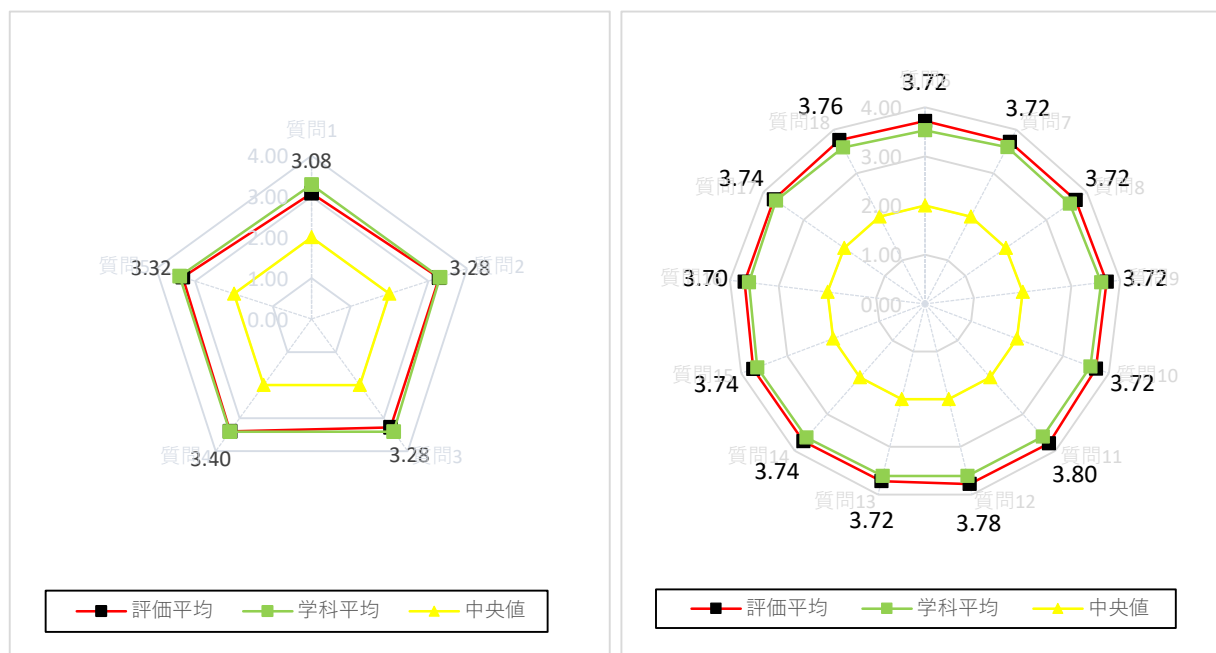
また、本科目は講義系となるが、「わかりやすい」などの評価もあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

自由記述にて、学生よりレジュメが毎回配布されていることが評価されていた。テキストのみでは重要なポイントが明確にならないと思われるので、次年度においても引き続きレジュメ配布を継続していきたい。また、事例など教材を上手く活用しながら、より保護者支援などの実践に役立つ授業になるように工夫を図っていくようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		社会的養護 I	53名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

50/53 (94%) の回答であった。

授業評価の各質問項目においては、質問6以降については学科平均と概ね同程度であった。

学年全体を対象としており、どうしても大人数での講義となるためグループワーク等の学生交流が実施しにくいことが難しい点であった。

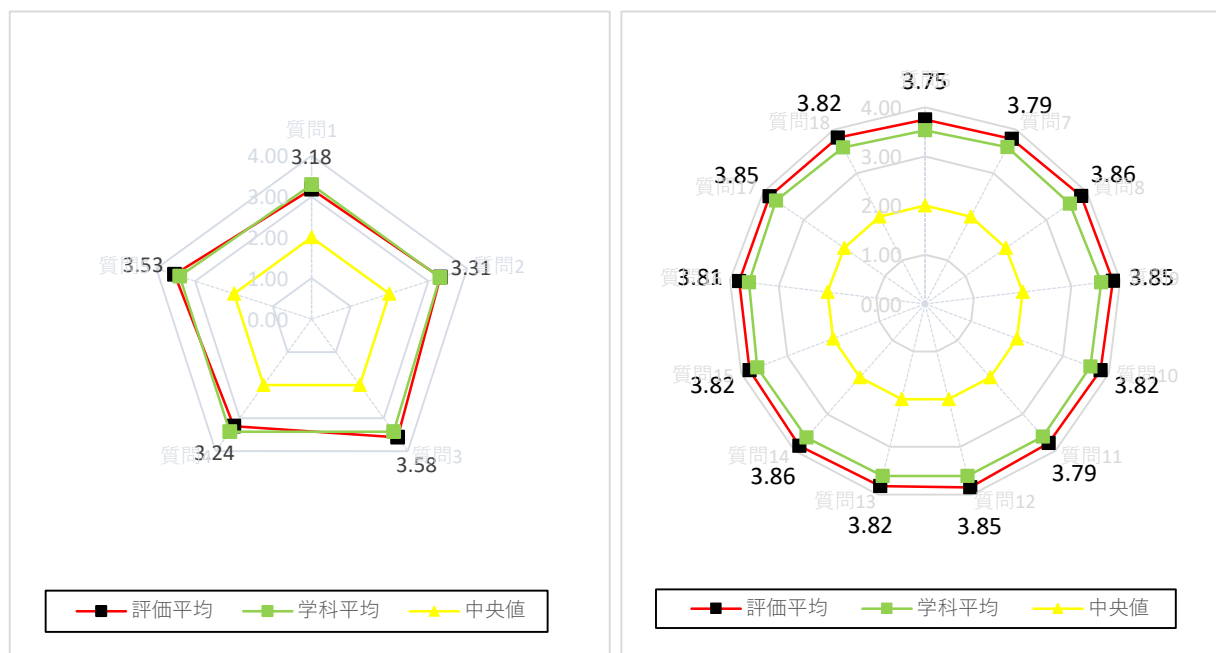
また、本科目は講義系となるが、「深く学べた」などの評価もあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

自由記述にて、学生よりレジュメが毎回配布されていることが評価されていた。テキストのみでは重要なポイントが明確にならないと思われるので、次年度においても引き続きレジュメ配布を継続していきたい。また、社会的養護に興味をもち就職を選択を学生もおり、より学生の進路選択に貢献できるように工夫を図ってきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		健康スポーツ	80名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

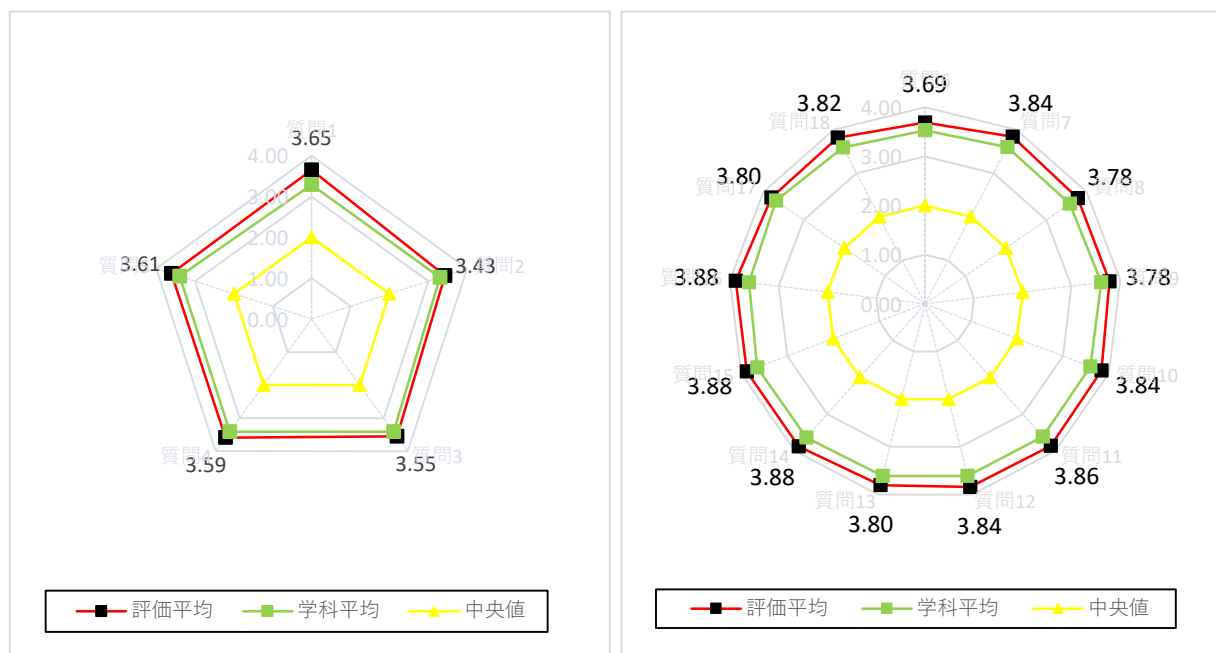
全体的に高い評価を得ることができた。この科目は実技科目であり、運動・スポーツを通して健康意識を高めることにつながるよう授業を展開している。運動・スポーツの好き嫌いが二極化する中、いかに前向きに取り組んでもらうかを意識しながら展開したことも評価につながったと考えられる。また、留学生はスポーツの経験が少ないことからルールについても丁寧に教えることを意識した。私自身も学生と一緒に運動することで学生が取り組みやすくなるように展開した。しかしながら、こちらの意図が伝わっていないことや積極的に取り組む学生と消極的な学生に分かれてしまうこともあったりともう少し工夫ができたのではないかと課題もみられた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も得意不得意関係なく学生たちが意欲的に取り組めるような工夫をさらにしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育原理	57名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

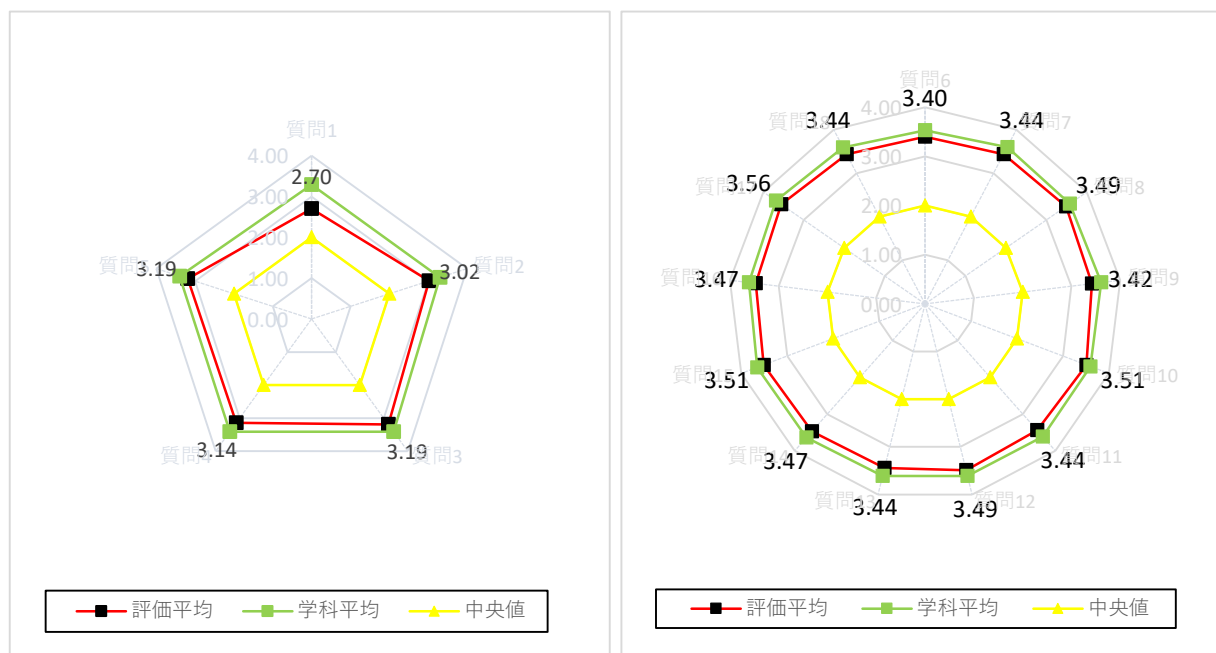
学生自身の授業への取組は、全体として学科平均と同等以上の評価であり、授業に対して概ね前向きに取り組む姿勢が見られた。特に、授業内容の理解に向けた工夫や真剣な受講態度については良好な結果であった。教員の授業方法についても学科平均をやや上回る評価となり、授業の分かりやすさや資料の活用、学生への対応などが一定の評価を得ていると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の主体的な学びをさらに促進するため、保育現場の事例や具体的なエピソードを取り入れながら、理論と実践を結び付けて理解できる授業づくりに努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育・保育者論	51名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

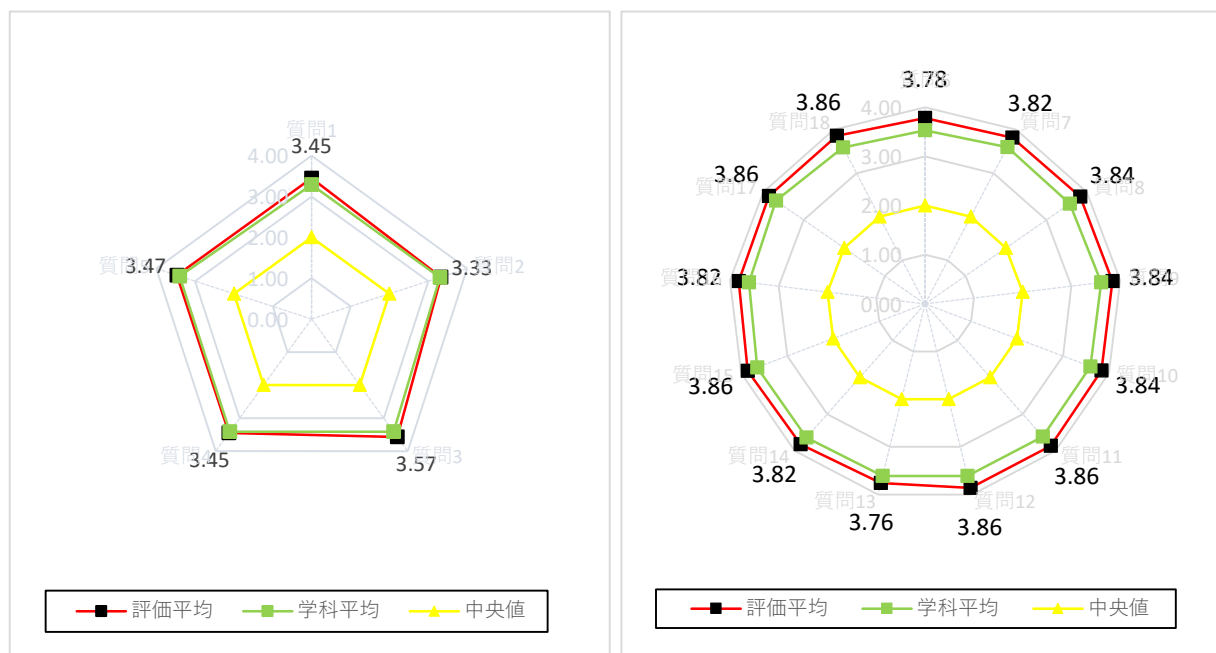
学生自身の授業への取組は、全体として学科平均をやや下回る結果であったが、その差は大きなものではなく、概ね学科平均に近い水準であった。教員の授業方法についても同様に学科平均をやや下回る評価であったが、授業運営や学生対応については一定の評価が得られている。今後は、学生の関心や学習意欲をさらに高める工夫を行うことで、より高い学習成果につなげていくことが期待される。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生同士の意見交換や振り返りの機会を充実させることで、主体的な学びを促し、授業への参加意識と理解の向上を図っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育総論	57名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

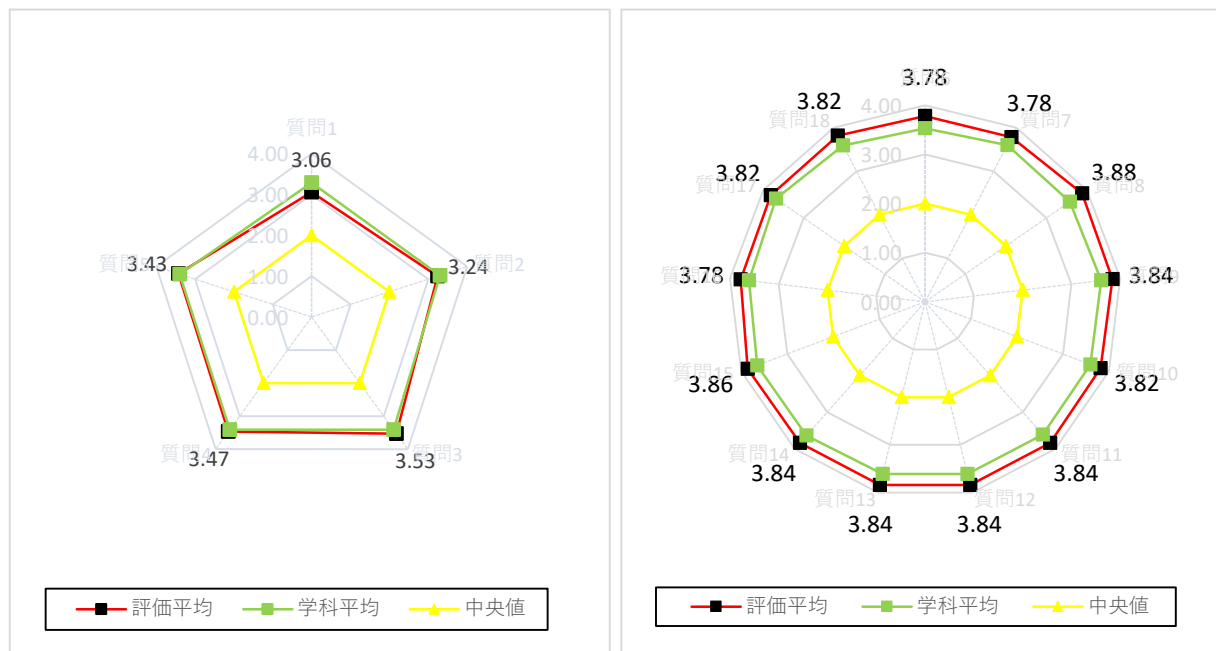
学生自身の授業への取組は学科平均と同程度であり、授業に対して概ね適切に取り組む姿勢が見られた。教員の授業方法については学科平均を上回る評価となり、授業の分かりやすさや学生への対応、授業運営などが評価されたものと考えられる。全体として、学生の取組と教員の授業方法の双方において安定した結果が得られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

引き続き、教育に関する理論や制度を身近な事例と結び付けながら、理解しやすい授業づくりに努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども家庭福祉	58名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

49/58 (85%) の回答であった。

授業評価の各質問項目においては、質問6以降は学科平均をやや上回っていた。

本科目は学年全体を対象としており、どうしても大人数での講義となるためグループワーク等の学生交流が実施しにくいことが考えられるが、「わかりやすい」との評価もあった。

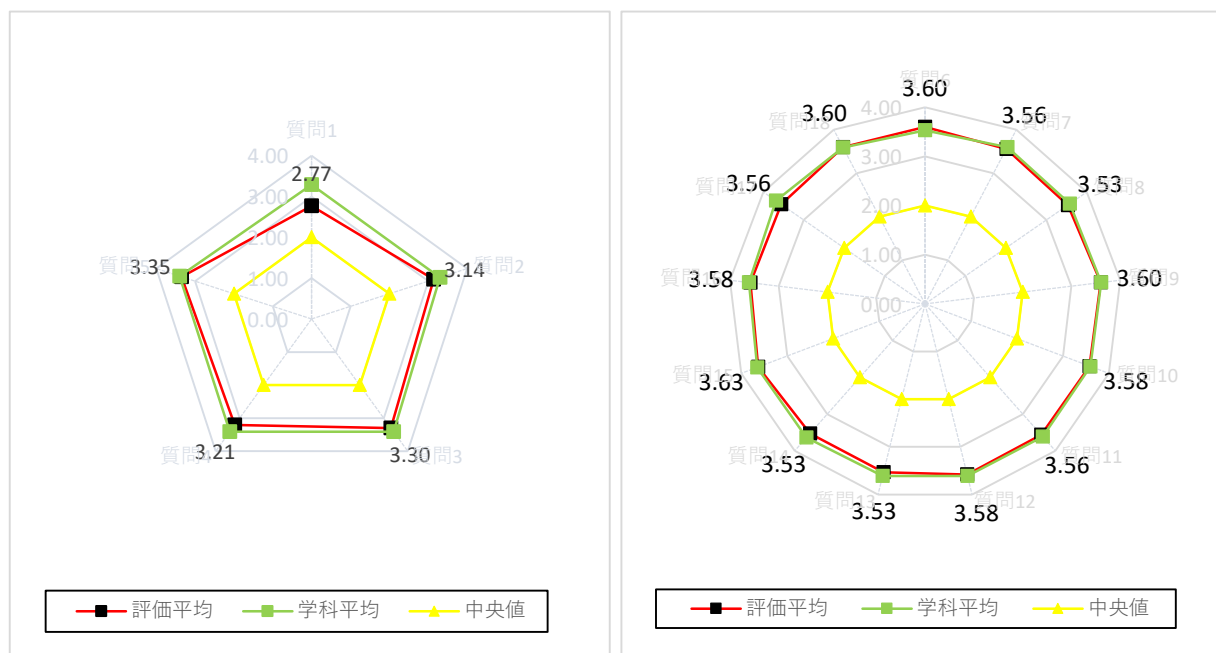
(3) 次年度に向けての取り組み

「子ども家庭福祉」においては、自由記述にて、学生よりレジュメが毎回配布されていることが評価されていた。テキストのみでは重要なポイントが明確にならないと思われるので、次年度においても引き続きレジュメ配布を継続していきたい。

また、「難しいところもあるが、こどもの福祉について理解することができた」との記載もあった。上記の教材を上手く活用しながら、より保護者支援などの実践に役立つ授業になるように工夫を図っていくようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども家庭支援の心理学	51名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全体として学科平均よりやや低い評価であった。特に出席回数や居眠り・私語、授業理解のための工夫などが低い点数となっていた。また授業の方法についても、授業の進む速さや質問等への誠実な対応などの点が、学科平均よりも低い評価であった。ただし、評価としては4点満点中の3点または4点がほとんどであり、特筆するほど低い評価とは言えないと思われる。

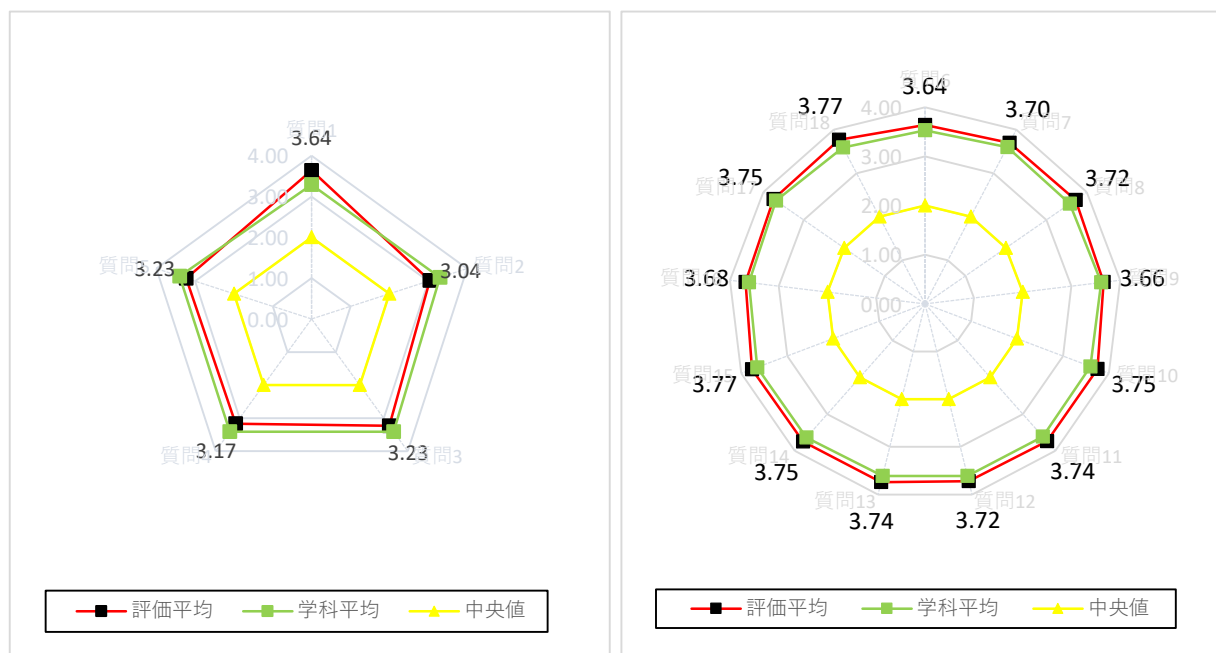
また自由記述では、貴重な学びが得られた、保育士として働く上で大切なことを学べた、分かりやすかった等のコメントもあった。したがって、授業に大きな問題があったわけではないと言える。ただし、評価の低い項目に関しては、次年度以降改善を目指す必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業内容や方法に関しては、前年と同様でよいと思われる。それに加えて、私語や居眠りといった状態が生じにくい授業の進め方を工夫することが求められる。学生が考える機会を増やしたり、意見交換やグループワークなどを活用しながら、より主体的に参加できる授業を作り上げていく必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		社会福祉	57名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

53/57 (93%) の回答であった。

授業評価の各質問項目においては、質問6以降は学科平均と同様であった。

学年全体を対象としており、どうしても大人数での講義となるためグループワーク等の学生交流が実施しにくい面があるが、「わかりやすい」などの評価もあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

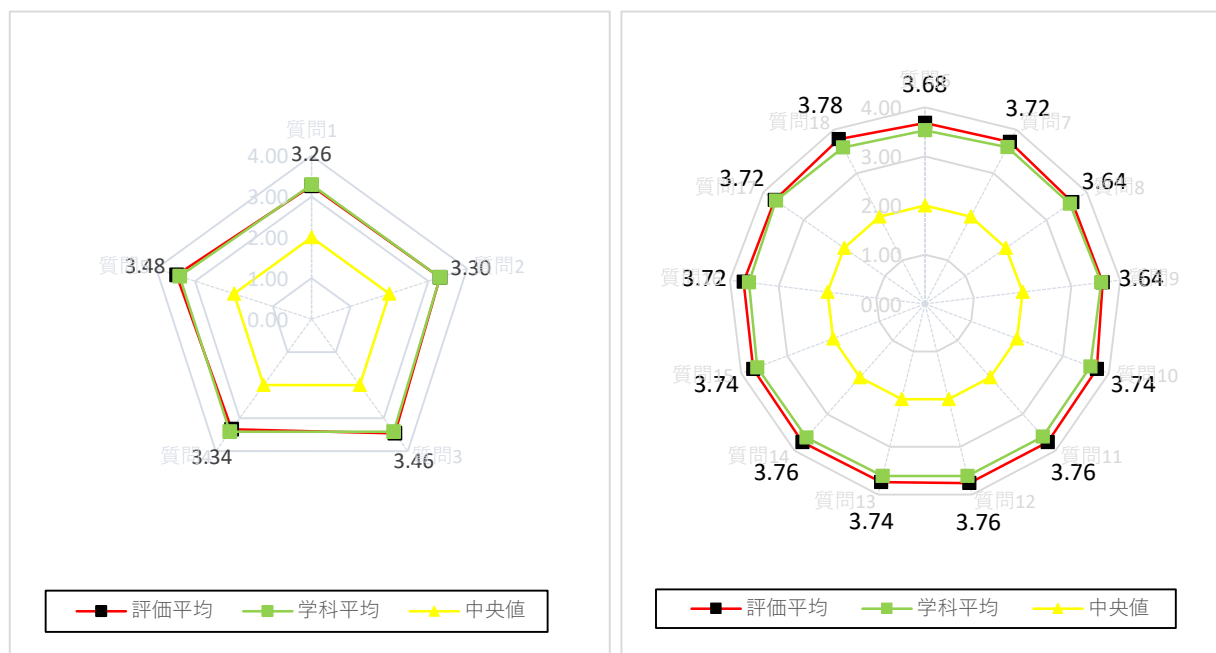
自由記述にて、学生よりレジュメが毎回配布されていることが評価されていた。

テキストのみでは重要なポイントが明確にならないと思われるので、次年度においても引き続きレジュメ配布を継続していきたい。

また、「知らなかったことが多く、福祉についてしっかり学べた」との記載もあった。学生にとっては興味ももちにくい科目かもしれないが、少しでも理解が進むように工夫を図っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども理解と教育相談	52名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

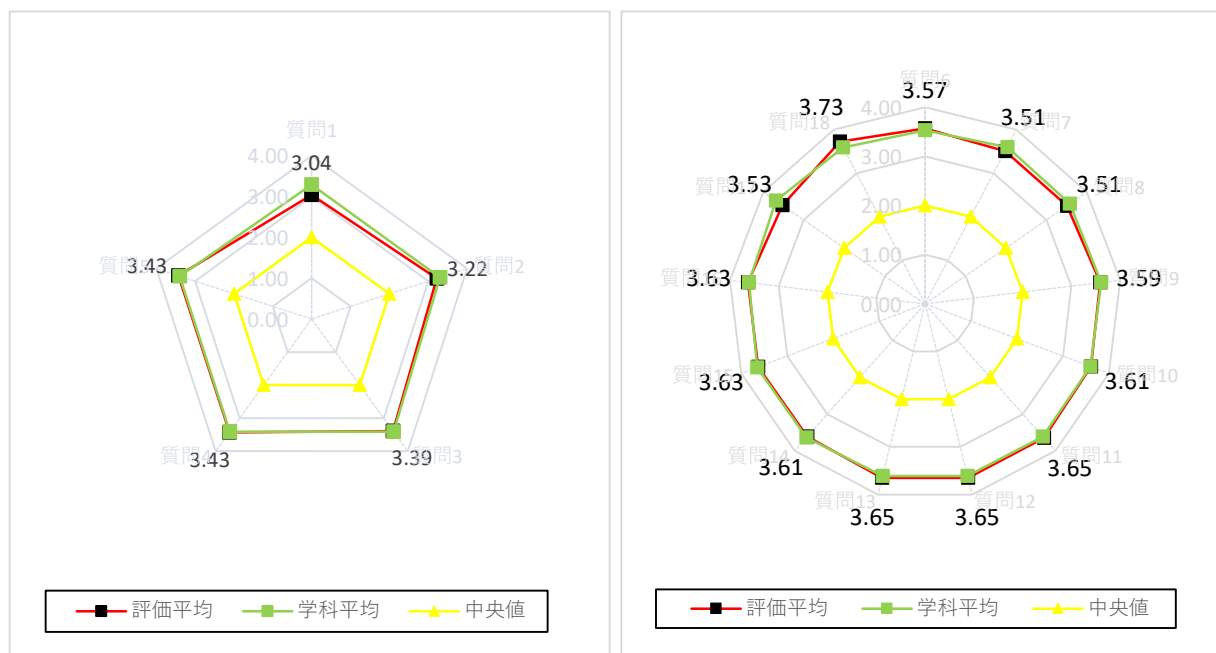
全体として学科平均と同程度の評価であった。特に授業の進め方等に関する質問項目では、7割から8割程度の学生が4点満点中4点をつけており、一定の高評価を得たと言える。自由記述の中でも、子ども一人一人の発達や背景を丁寧に理解することの大切さを学べた、保護者対応についても学べたので現場で活用したい、グループ活動などもあり楽しく学べた、といった肯定的なコメントがあった。授業の進め方、教員の授業への取り組み等に関しては、学生から概ね肯定的に捉えられていたことが読み取れる。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業内容や方法に関して、大きな変更は必要ないと思われる。次年度も、実習等での学生自身の体験と結び付けながら、実際の対応を考える機会を多く準備し、就職後に活用できる知識を身につけられる授業になるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育課程・方法論	53名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

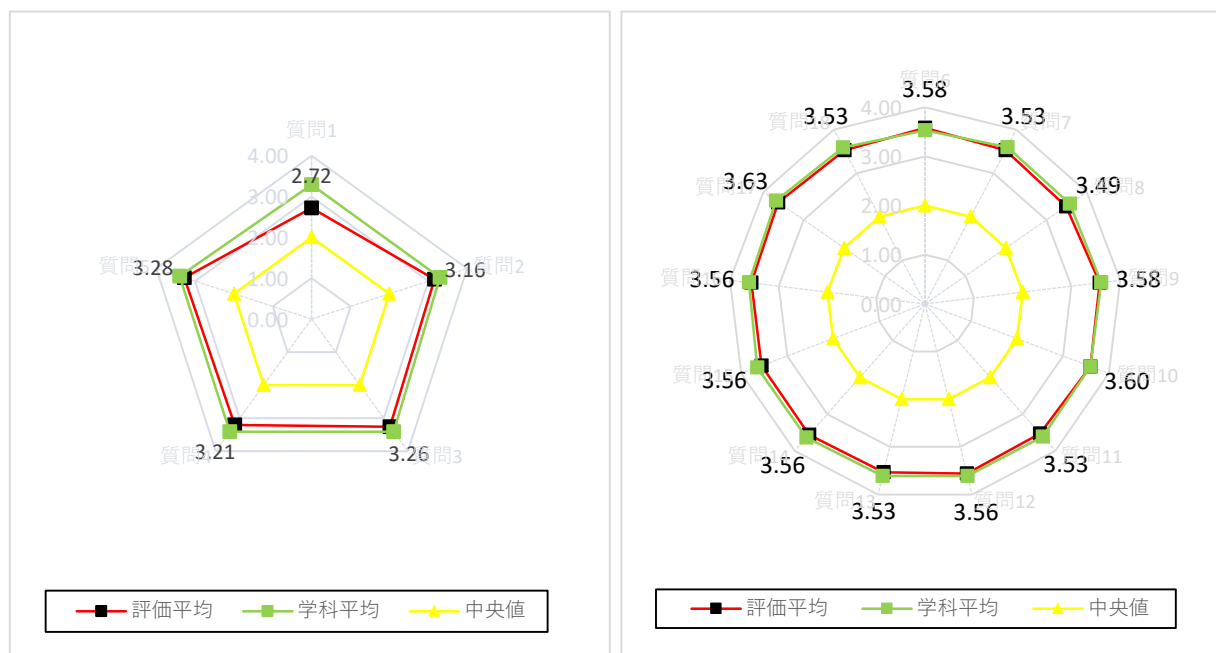
学生自身の授業への取組は学科平均と同程度であり、授業に対して概ね適切に参加していたと考えられる。教員の授業方法については学科平均と同等以上の評価が得られており、授業の分かりやすさや資料の活用、学生への対応などについて一定の評価を得ることができた。全体として、安定した授業運営のもとで学習が進められていたと評価できる。

(3) 次年度に向けての取り組み

教育課程や指導方法に関する理解をより深められるよう、具体的な保育・教育実践の事例を取り入れながら授業を展開する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容総論	51名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全体として学科平均に届かない項目が多いものの、各項目平均値と大差ないため、特段問題は無いと言える。

授業への出席状況が特に悪いのだが、2年生後期科目という点も大きな影響を与えているように思われる。この科目は、2年間の保育に関する総括という位置づけであり、各領域の復習や事例検討を行った。事例ではグループディスカッションを毎回行うなど、なるべく学生が主体的に学べるよう工夫をした。しかし、学生にとっては復習の部分が長く感じたようである。

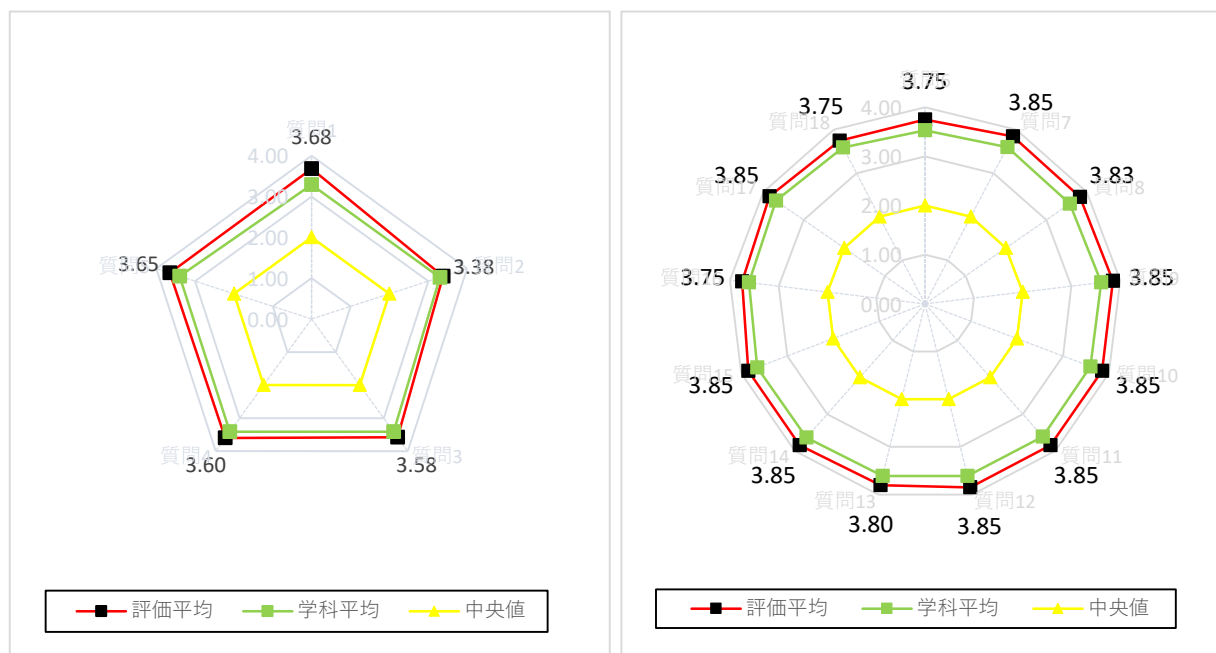
また、学生のコメントからは、「『行事』に関する回が楽しかった」という記述が複数あった。この回は保育に必要とされる行事に関する知識を深めることを目的として、クイズ形式で実施した。普通の講義に比べ、双方向のやり取りが多かったことで好印象を与えた回になったのだと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生のコメントから、学生は主体的に学べる活動、双方向の学びがある授業を求めていることが分かる。そのため、引き続き双方向の学びができるような工夫を続けていきたい。具体的には、本年度好評であった『行事』だけでなく、他のトピックスに関してもクイズ形式等を用いて、学生が楽しく主体的に学べるよう工夫をしていきたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		発達心理学	56名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

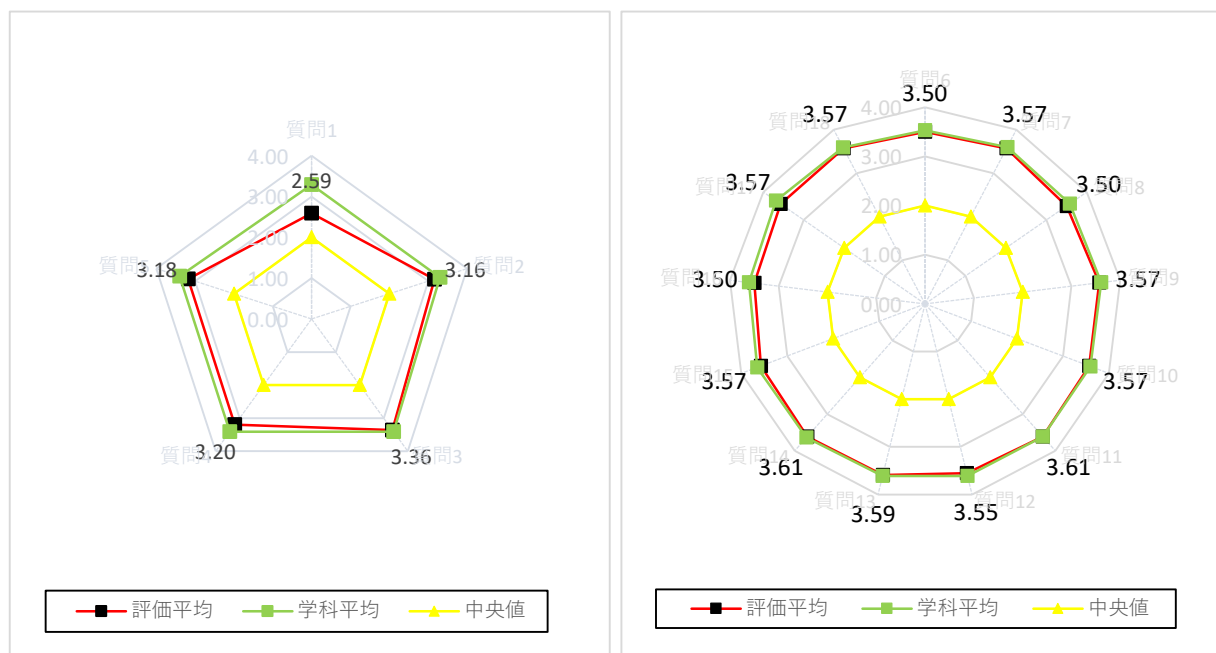
評価については、すべての項目において学科平均を少しずつ上回っている。試験は難しく、再試験を受ける学生も少なくなかったが、このような結果となっている。自由記述を見ると、「発達心理について学べました。」「先生の豆知識なども入ってとても分かりやすい授業でした。」とコメントがあった。到達目標を意識して授業を展開しているが、1年次の基礎実習の前に授業があることも踏まえて、実習中に観察できるであろう子どもの姿について具体的な情報を講義内に取り入れたのが、このコメントに反映していると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

全クラスを対象とする講義の為に、どうしても話をする時間が長くなってしまった。また体育の後の5時間目に実施したことも影響してか授業中の居眠りが目立っていた。今後はもう少しアクティビティを入れた授業展開について検討する必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容（健康）の理論と方法	51名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

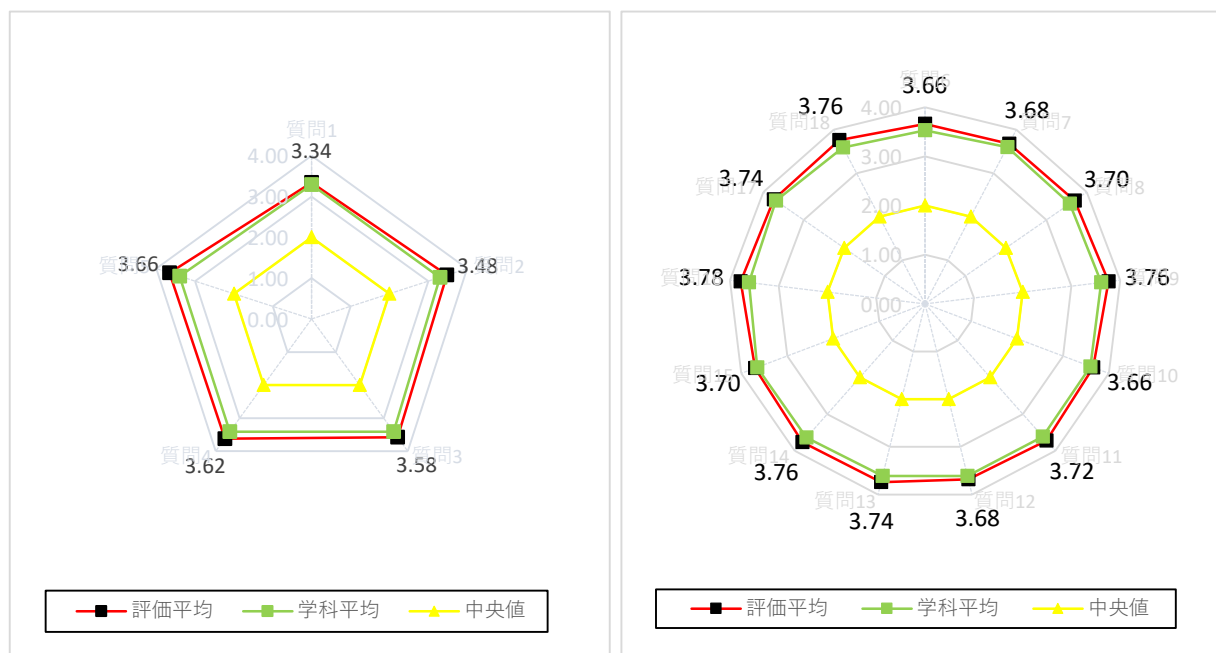
全体的に平均を下回る結果となった。この授業では模擬保育やグループ発表を中心とした授業を展開しているが、何のために模擬保育を行うかの必要性や実践力につながるような学びといったことなどのこちらの意図がうまく伝わらなかった結果、今回の評価になったと考えられる。さらに、グループワークでは積極的に取り組む学生と消極的な学生もみられたため、もう少し工夫することができたのではないかとということが反省点と挙げられる。

（３）次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き実践をとおして様々な視点から考える機会となるような授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容（音楽表現）の理論と方法	53名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

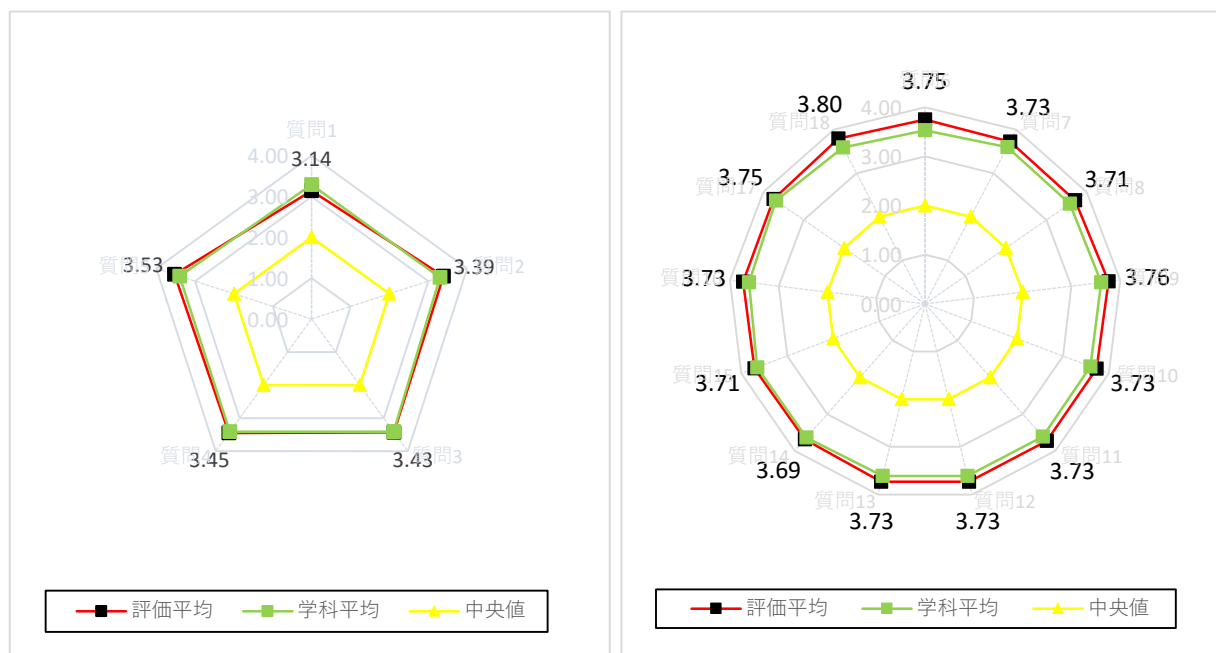
履修者53名中、回答者は50名（94.3%）であった。
 学生自身についての設問は、学科平均よりもいずれも上回る結果だった。
 授業に対する評価も概ね学科平均と同じかわずかに上回る結果であった。

（３）次年度に向けての取り組み

自由記述はほとんどなかったが、中には「音に対して好奇心を持てるような活動が展開され、毎回次はどんな授業だろうと期待感をもって受けることができた」というコメントが見られた。
 音は、子どもだけでなく学生にとってもわくわくさせられるものであることを実感したと共に、近年音楽経験者が減っている中、できるだけ苦手意識を払しょくし、学生自身が音を楽しめる授業内容を工夫すべきだと感じている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容（造形表現）の理論と方法	52名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

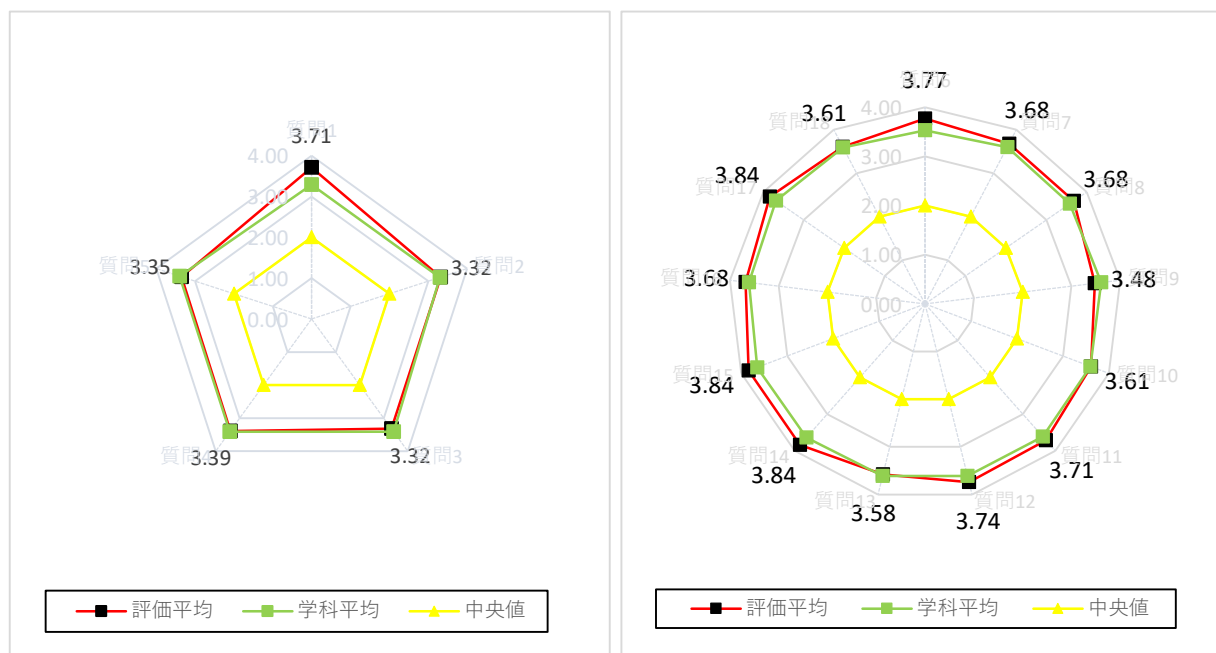
学生自身の授業に対する参加態度に関しては、概ね学科平均である。質問1「授業は何回欠席しましたか。」については、配慮が必要な学生が複数回欠席したことが要因となっている。また質問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか。」～質問4「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」については、決して低いわけではないが主体的に授業に臨んだり、予習や復習に積極的に臨む態度の高まりが望まれる。教師の指導、支援に関しては概ね高い評価を受けている。授業開始時のシラバスの確認、ICT機器の利活用、TEAMSと連動したレポート提出のシステム、制作の個々の学生への自尊感情を高めるような言葉かけ、完成した作品の美術工芸室や廊下壁面への展示などが、高い評価を受けている要因であると考えている。また、授業中の教員と学生との双方向的なやりとりの工夫や、クリニカルアートの手法を生かした学生同士の主体的・対話的な学び（アクティブラーニング）の導入によって、造形活動への苦手意識が強い学生にとっても安心して参加できる授業が展開できていると思われる。

（３）次年度に向けての取り組み

二年次の造形表現に係る授業においては、保育実習、幼稚園実習、施設実習における「模擬保育」を意識した授業づくりも求められる。指導案の書き方、発達段階に応じた材料やテーマの選択、制作時の安全の確保等である。そのためには学生自身の授業に対する参加態度に関しては、より主体的に授業に臨む態度や、実習（保育現場）を意識した予習や復習に積極的に臨む態度を高める必要がある。授業における教師の指導、支援に関しては概ね高い評価を受けている。例えば、授業開始時のシラバスの確認、ICT機器の利活用、TEAMSと連動したレポート提出のシステム、制作の個々の学生への自尊感情を高めるような言葉かけ、完成した作品の美術工芸室や廊下壁面への展示などは今後も継続したい。加えて、授業中の教員と学生との双方向的なやりとりの工夫や、クリニカルアートの手法を生かした学生同士の主体的・対話的な学び（アクティブラーニング）の導入においては、特別な配慮を要する学生への支援を行いながら、全ての学生が安心して参加でき個々のスキルアップを図れるような授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		解剖生理学	32名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

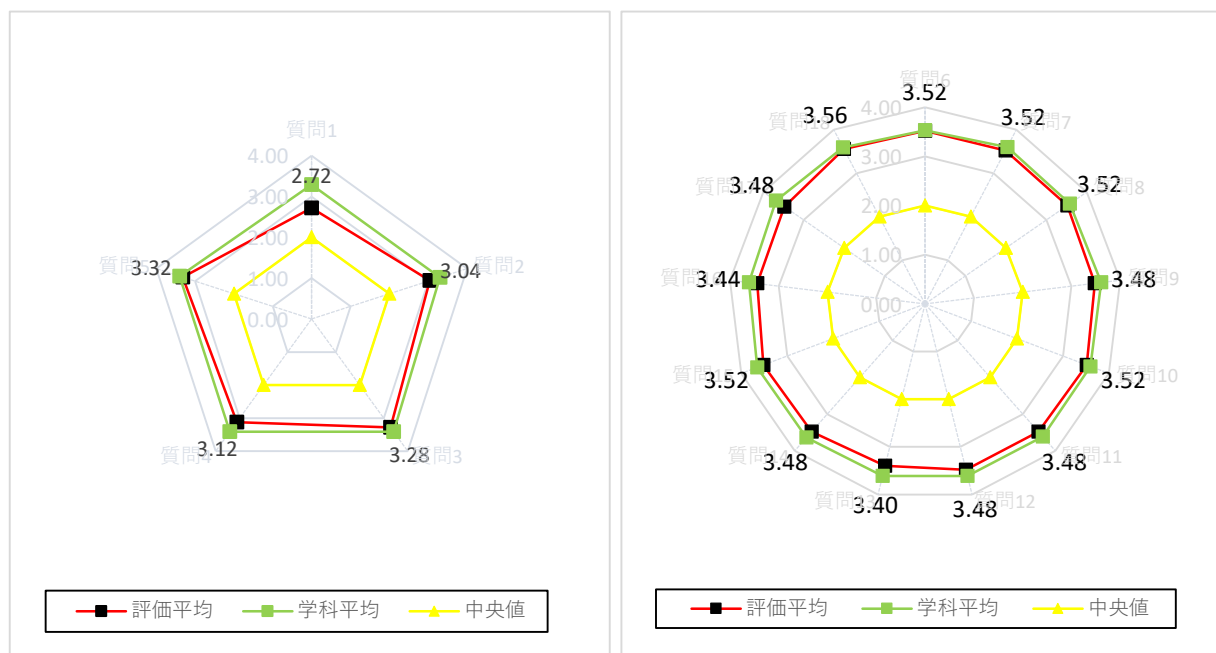
受講する学生の多くが苦手とする科目である。毎回、シラバス（テキスト）の項目を確認し、前回の振り返りから展開を進めている。図解の多いテキストを採用し、スライドをもとに授業を行っている。事前には、授業内容をまとめた資料を配付している。これをもとに大きな流れとポイントを解説するが、作成した概略図なども取り入れている。授業では、ノートを取らせてまとめるようにさせている。各単元が終了する際には、復習用に栄養士実力認定試験過去問題を解かせている。自由記入では、「解剖はとにかく覚えることがおおく難しく感じました。でも手書きのイラストを使って説明される場面もあったため理解しやすかったです。」といった記述や、「学生のペースに合わせて授業をされていた。しかし授業内容は難しかった。」などがあった。一方では、「ノート提出がないと勉強時間にゆとりが持てると思いました。そしたらだいぶ楽になると思う」といった回答もあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

これまで様々な授業改善を行ってきたが、学生の「難しい」に応える改善は今後も必要である。次学期は、他の授業科目の負担も考慮して、ノートにまとめさせることを止め、代わりに授業中の学生への質問を増やし、学習の進度・理解把握に重点を置くように改善したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		解剖生理学実験	26名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

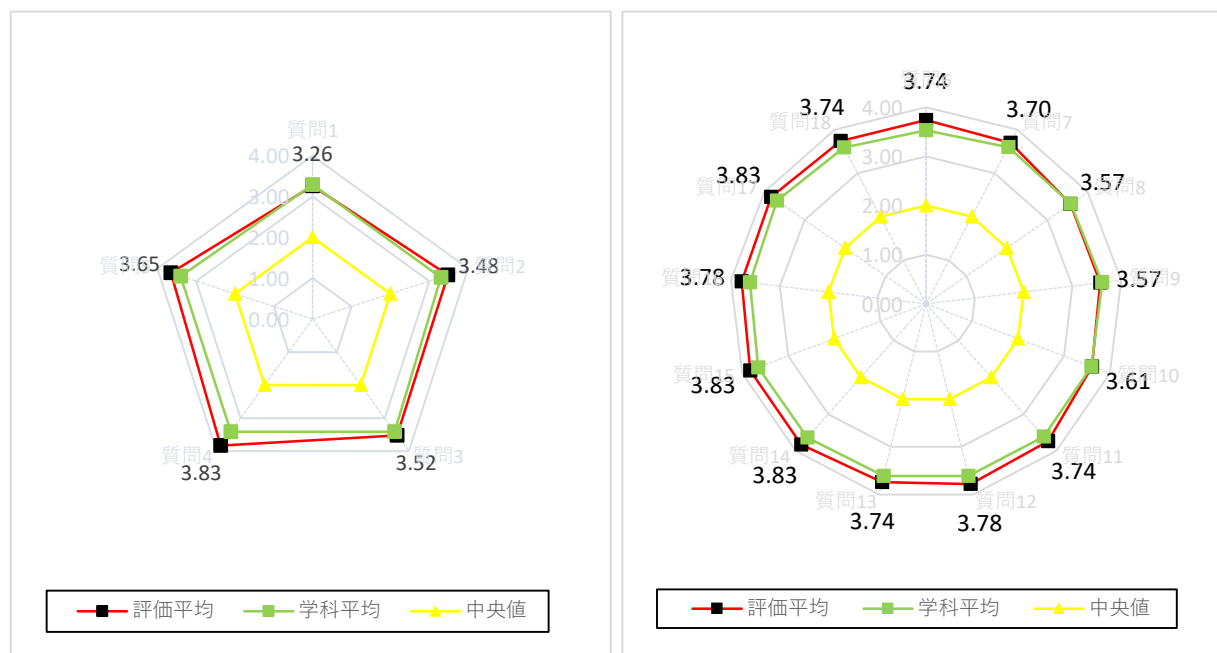
2年生の後期の講義であるためか、就職活動中の学生が多く、特に留学生の出席頻度が高いとは言えなかった。自主的に学習する習慣がついている学生ばかりではないため、講義にもっと興味を持ってもらう工夫が必要である。アクティブラーニングを今後増やす必要もあると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業にさらに興味を持ってもらうために、アクティブラーニングを今後増やす必要もあると思われ、学生自ら行動する時間を増やしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生化学	33名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

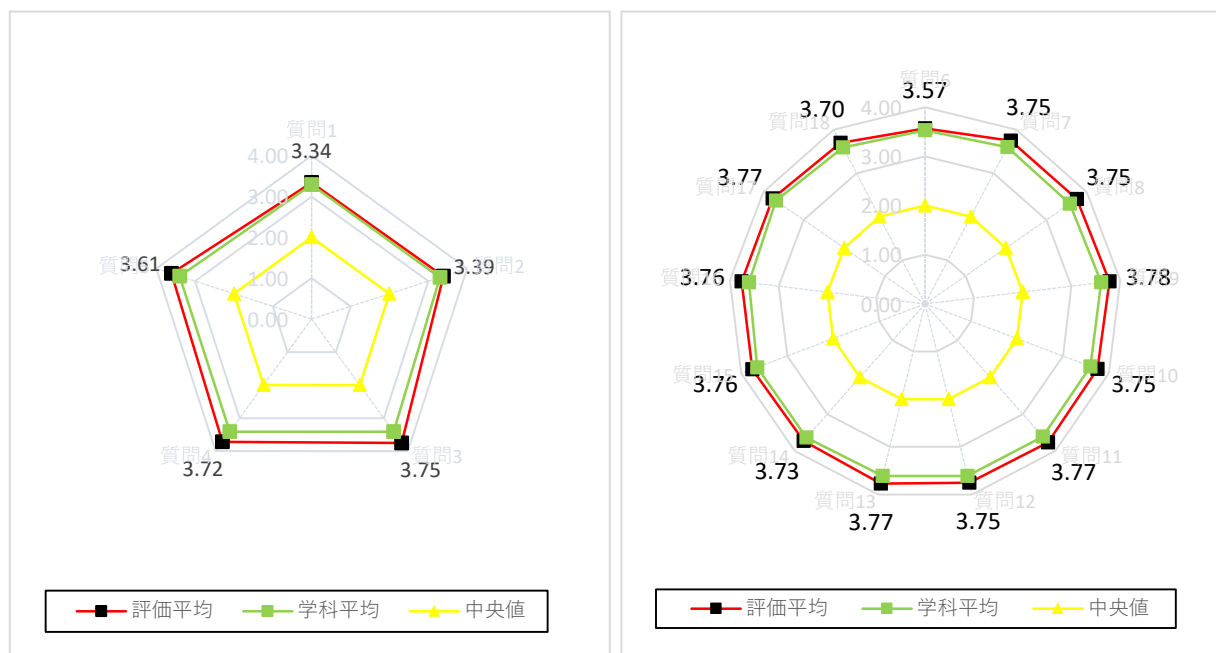
この科目は、1年後期に展開している。1年前期では、基礎栄養学、解剖生理学を学習するため、これらの科目に関連付けながら、繰り返し説明しているの、比較的、学習内容への理解は進んでいると実感する。学習内容は、先の科目と同様に用語・名称等を覚えることが多い。授業では、身近な話題と結びつけ、印象に残るように努めている。自由記入からは、「先生が学生の反応を見ながら、授業を盛り上げようとしていた点が印象的でした。しかし、生化学の内容はとても難しいです。」「この授業では、生化学の基本を学ぶことができました。体の中で起こる反応やしくみを、少しずつ理解できるようになりました。先生の説明はいいねい、むずかしい言葉も分かりやすく説明してくれました。くり返し説明があったので、安心して学べました。」といった回答を得ている。一方では、「ノートを使わない形式にしていただけると助かります。現在の方法では負担が大きく、改善は難しいのかもしれませんが、ご検討いただければ幸いです。」といった回答もあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

この科目は覚えることが多く、学生は苦手とする科目である。これまで様々な授業改善を行ってきたが、学生の「難しい」に応える改善が必要と考える。また、同学期での他の授業科目の学習負担についても十分考慮しなくてはならない。次学期は、他の授業科目の負担も考慮して、ノートにまとめさせることを止め、代わりに授業中の学生への質問を増やし、学習の進捗・理解把握に重点を置くように改善したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの表現のためのピアノ伴奏法Ⅰ	94名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

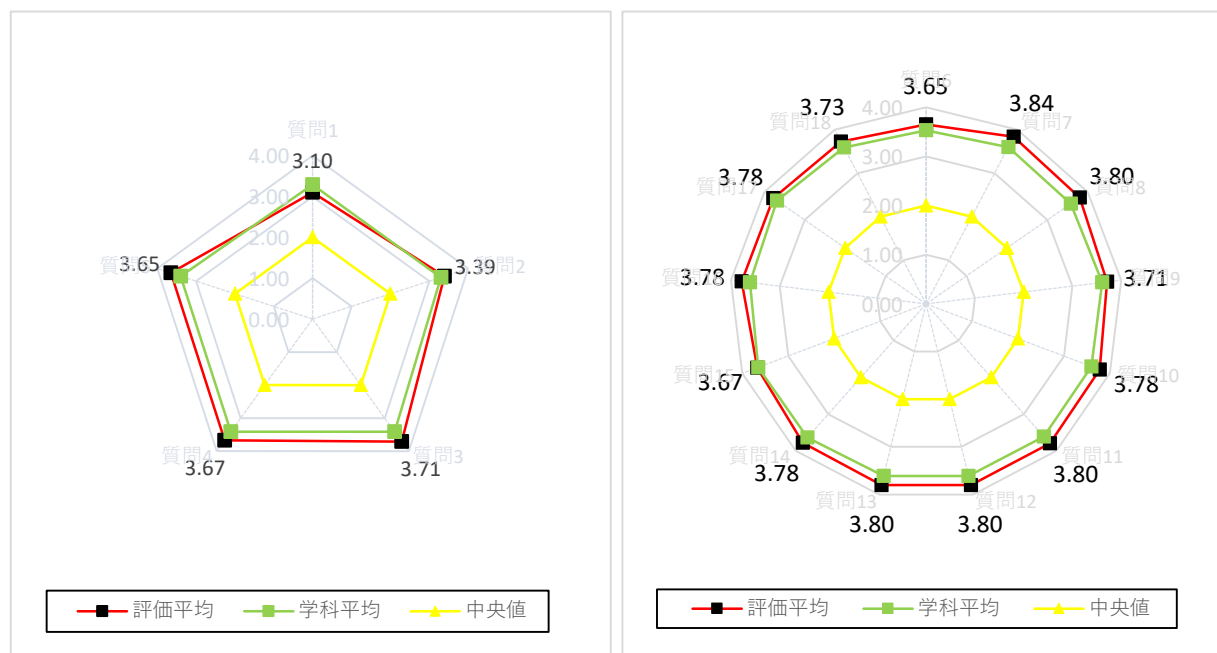
履修者94名中、回答は79名（84%）となっているが、本結果は1年生全員と、2年生の再履修者を1つにまとめているため、純粋な結果が見えづらいことを断っておく。
全体的には学生自身の評価、授業への評価、共に学科平均値と同様または若干上回る結果となっている。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は複数教員でマンツーマンの個別レッスンを実施している。そのため様々な指摘において、教員を特定することは難しいが、中にはあえて名前を明記した上で、感謝の気持ちを伝えるコメントも見られる。個別指導という特性上、同じ教員から継続的に指導を受けることで信頼関係も築かれ、上達したことへの満足感や教員への感謝の念を持つ者も多いようである。ただ今回「丁寧に指導してもらった。が時々せかされる感じがして弾きにくかった」というコメントも見られ、熱心な指導は時に、学生の負担感につながることもあることを自覚する必要があることに気づかされた。専任教員としては、こういった学生の要望を非常勤講師にも丁寧に伝え、互いによりよい環境で学習に励むことができるよう努めたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの表現のためのピアノ伴奏法Ⅰ	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本授業はML教室で非常勤講師の先生方と共に行っている。基本的に個人レッスンの形態をとっており、学生個人の音楽経験や習熟度により一人ひとり進度も違う。学生の自己評価で質問2の評価が低いのはそのためであろう。

授業評価結果は概ね学科平均を上回っているが、質問6および質問15はやや低めの評価であった。

質問6について、授業初回ではWeb上のシラバスとは別に作成した資料を配布し、授業の目的や概要、流れ、計画、教材、試験、配点、注意事項について説明しているが、学生には別資料での説明がこの質問のシラバス説明にあたるのが分かりにくいのかかもしれない。

質問15については、本授業の形態（個人レッスン）において、ピアノレッスン未経験の学生とある程度習熟している学生のレッスンの時間配分に差が出てしまうところにあるのではないかと考える。

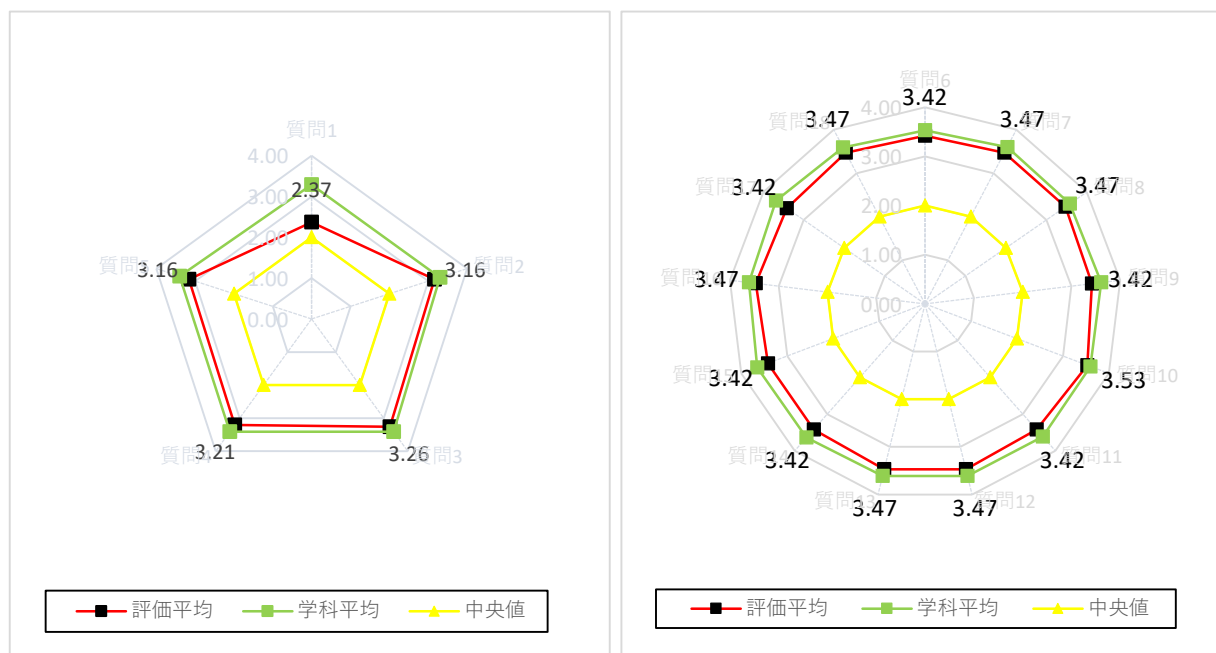
本授業では毎回ワークシートの記入とそれに対する教員からのコメントのやり取りも行っており、ピアノ初心者学生に対しても配慮をもって進めることが比較的やり易いが、こなすべき課題が多いためプレッシャーを感じる学生も少なくないと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

本授業は多くの非常勤講師に支えられている。各講師がそれぞれ担当学生のレッスンに責任をもち、丁寧にに関わりながら指導を行っているが、教員によって指導に差があるように感じる学生が一定数存在することは事実だろう。授業内での学生への伝達事項や授業内容などに偏りがないよう、授業と授業の合間の10分間は、その日の授業担当者全員が集合し、簡単な打ち合わせや情報交換をするなど常に連携しながら授業を進めていくよう考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの表現のためのピアノ伴奏法Ⅱ	28名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本授業は従来2年前期開講科目であるが、今年度は諸事情により2年次後期に開講となった。そのため、すでに実習が終了、就職先も決まっている学生もあり、履修のモチベーションが下がったためか、例年と比較して履修者が大きく減少している。

履修学生は「ピアノ伴奏法Ⅱ」の履修者に加え「ピアノ伴奏法Ⅰ」の再履修者および再々履修者の3パターンの学生が混在しているため分析が難しい。

学生自身の自己評価については、ほとんどが平均値を示しているが、質問1「出席状況」については数値が低い。

授業の評価については、ほとんどが平均値よりも僅かに下回っている。この科目は個人指導を行う実技科目であるため、質問内容が授業実態に合わないものも多く、複数教員（1名を除き非常勤講師）であるためその特性が表れた結果とも言える。

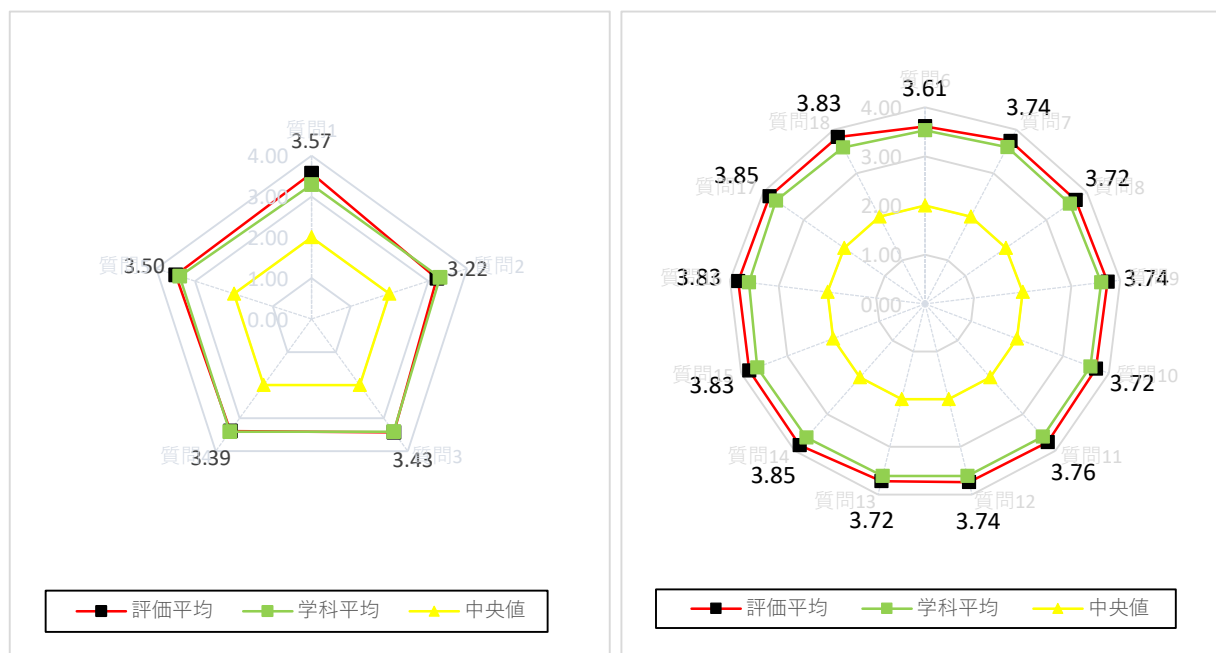
(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は複数教員による個人指導で進めているため、今後も学生指導や評価方法に差が生じないように情報共有を続けていく必要がある。

専任教員としては、時に個人的に教員に関する相談を受けることもあるが、学生との間を取り持ち、それぞれの思いを正確に伝えていくように努めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と健康	57名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

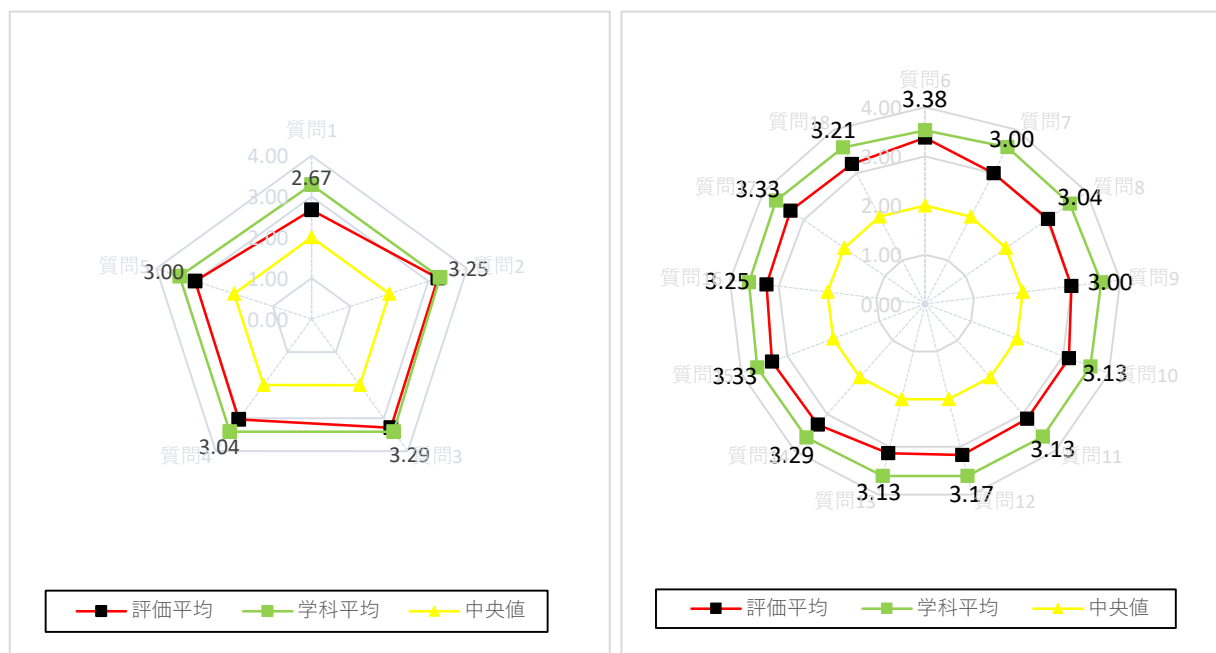
全体的に平均的な評価となった。この科目は講義と演習で授業計画は構成されてるが、領域「健康」に関する基本的な知識を学びつつ、運動遊びを通した領域「健康」への理解を目的としているが、何を学び、実践にどのように活かしていくのか、こちらの意図をもっと明確に伝える必要があったのではないかと考えられ、もっと工夫が必要だったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き、学生がしっかりと理解できるよう、保育者や子どもの視点で考える機会も作りながら授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生化学実験	26名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

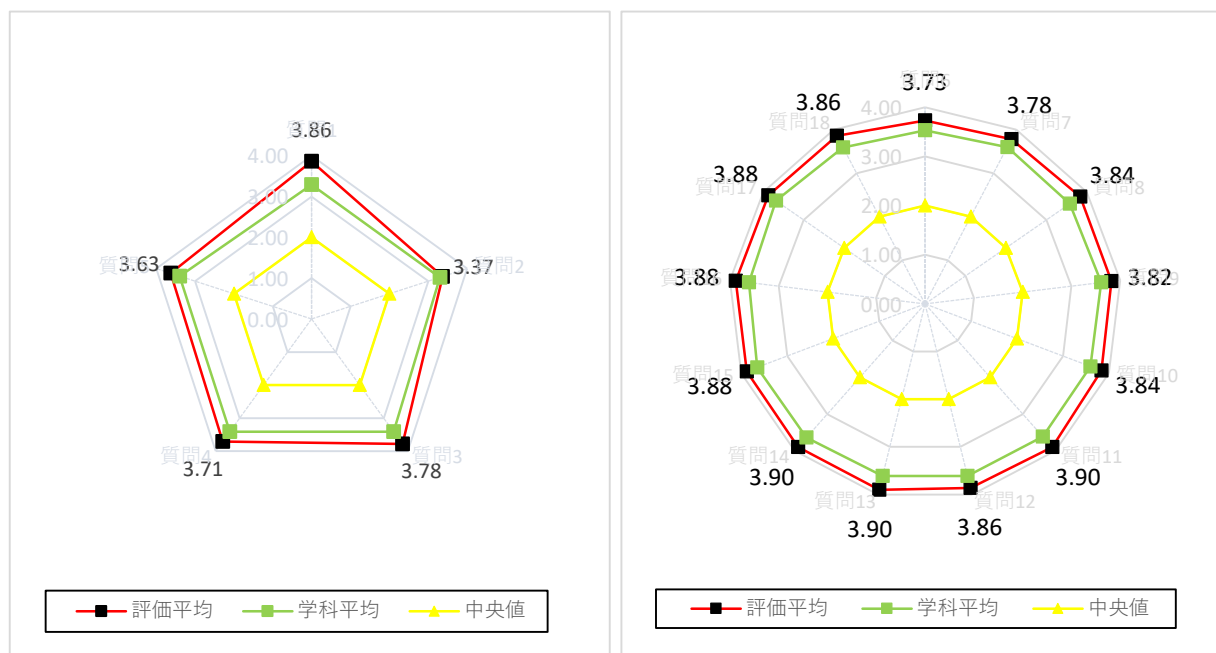
この授業は、座学の生化学を補完する科目として、三大栄養を中心に個々の実験を通して、化学的理解を深めるようにしている。実験レポート（プリントの記録）では、自ら考察することを第一として、ヒントとなる説明を実験後にしている。またレポート課題の提出については、将来現場での手続きが滞りなくできるよう、期限通りに提出することをトレーニングとして指導している。自由記入からは、「この学期で多くのことを学び、自分の成長を感じました。責任感や努力の大切さも実感できました。次の学期はもっと頑張りたいです。」、この他には、「授業では楽しく作業をしていました。ですが、今自分が何をしていた、この作業は何に作用するのか分からず、正解か不正解がよく分からないまま終わってしまったことが引かったので、せめて質問した時に新たな問題を出すような答え方をしないでくれると嬉しいです。」といった回答があり、取り扱っている内容について、他の内容との関連付けまで理解できていないことが分かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

実験自体は、およそ各回で完結するように計画しており、問題はないと考えるが、物事の関連付けができていないことが考えられる。学生自らが考えていく力を養うため、理解が進む学生には対話を多くして、考えさせるようにし、理解が浅い学生にはより丁寧にもう1ステップを組み込んだ指導を行ってみたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と人間関係	57名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全体として学科平均より高い評価であった。特に授業の進め方等に関する質問項目では、ほとんどの項目で8割以上の学生が4点満点中4点の評価をつけており、一定の高評価を得たと言える。自由記述でも分かりやすかったとのコメントがあった。

本科目は8コマであるが、内容を考慮して最初の実習が終わってから授業のほとんどを実施することになっている。そのため、実習での子どもや保育者の様子を振り返りながら学ぶことができ、それが学生にとっての学びやすさに繋がっているのではないかと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

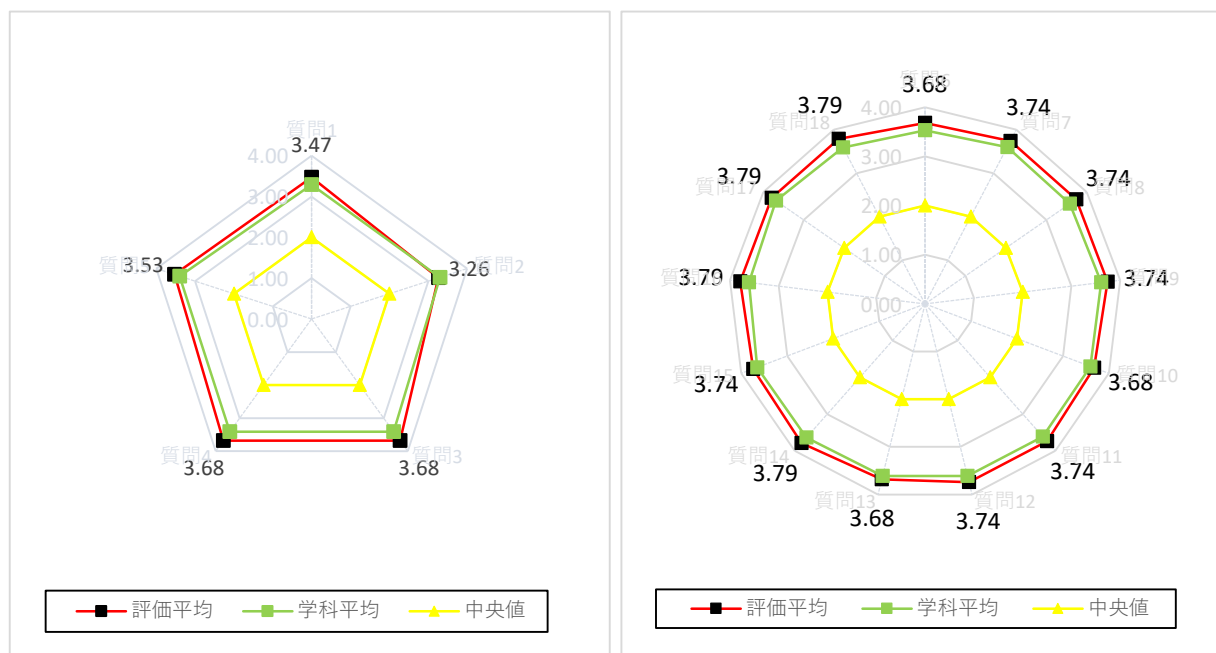
次年度も引き続き肯定的な評価を得られるよう、学生への伝わりやすさに留意しながら授業を実施していく。

また学生間のコミュニケーションの時間も適宜準備し、様々な考え方を共有しながら個々の学生が自分の意見を持てるようにしていく必要がある。

実習との繋がりを明確に意識できる授業の構造になるよう工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		リトミック	19名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

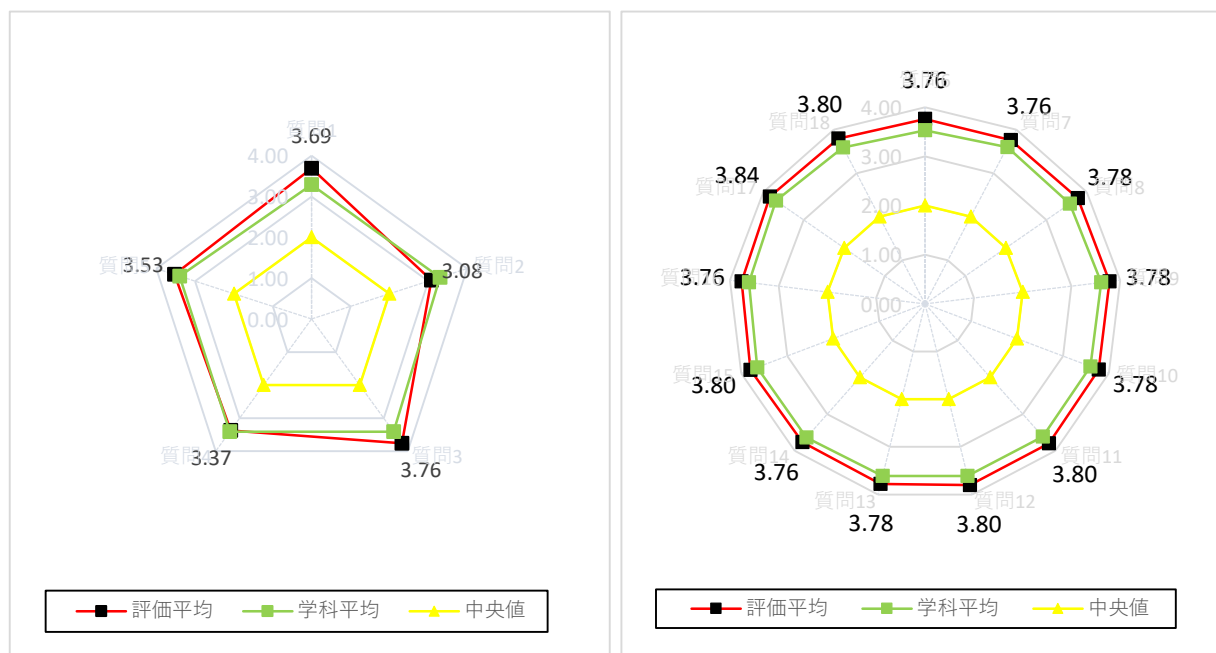
「リトミック」は多くの園で保育の一環として採用されている音楽活動であり、本学では「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」の資格取得ができる科目として開講されている。内容は幼児保育の音楽的学びの中でも、特に保育現場での実践に特化した内容であり、実習などでもすぐに実践に繋げられるため、学生の評価は概ね高いものであった。授業内のグループ活動の中では、常に学生自身の発想や工夫が求められることから、学生も毎回達成感を持てるのではないと思う。毎回の授業での演習後にノート記入の時間を確保し、活動を振り返りつつ、活動内容の一つ一つを学生自身の言葉で文字に置き換える作業を大切にしたい点も、学生の満足につながったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度は19名が履修し、その内16名が「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」を取得した。入学時においては「リトミック」という言葉さえ聞いたことがないという学生も一定数いるため、1年次の音楽科目の中で、リトミックについて触れるなどし、そのスキルの習得に学生が興味関心を持ち、資格取得に積極的になるよう取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と言葉	57名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

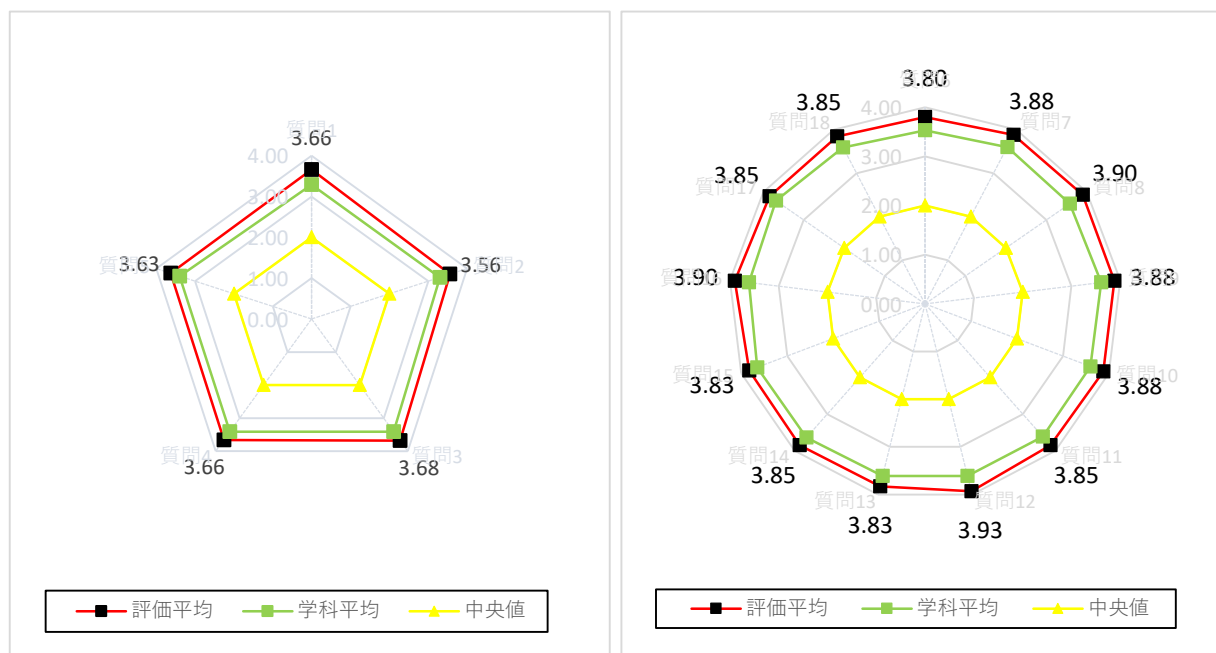
- ・ 回答率は1Aクラス82.8%、1Bクラス89.3%であった。
- ・ 全体としては、学生自身の評価および教員への評価について、学科平均値とほぼ同等の結果となった。学生からの本科目の総合評価についてはAクラス3.83、Bクラス3.76と概ね良い結果となった。
- ・ 自由記述からは「分かりやすく丁寧に授業がすすめられていた」「話す速さや声の大きさがとても聞き取りやすく、とても理解できた」「絵本の読み方を教えてもらい、実習で役に立った」などの意見があり、学生の理解度、習熟度としては一定の効果があったと考察する。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 学生の授業への意欲や理解度を確認しながら授業を行う。
- ・ 引き続き学生の実習や実践に繋がる授業内容を工夫し、実践的な学びを取り入れながら幼児の言葉の理論的理解が深めていけるようにする。
- ・ 2年次の「保育内容（言葉）の理論と方法」に繋がる科目として、保育内容「言葉」の領域について、理解を深めていけるよう授業構成を考える。
- ・ アンケートの自由記述において、ワークに関する一部進め方へのコメントがあり、次年度以降の授業改善に生かしたい。
- ・ 本科目で学んだ内容を、実習での実践としてどのように生かすことができたのか、授業終了後も追跡し、学生の学びの把握に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と音楽表現	57名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

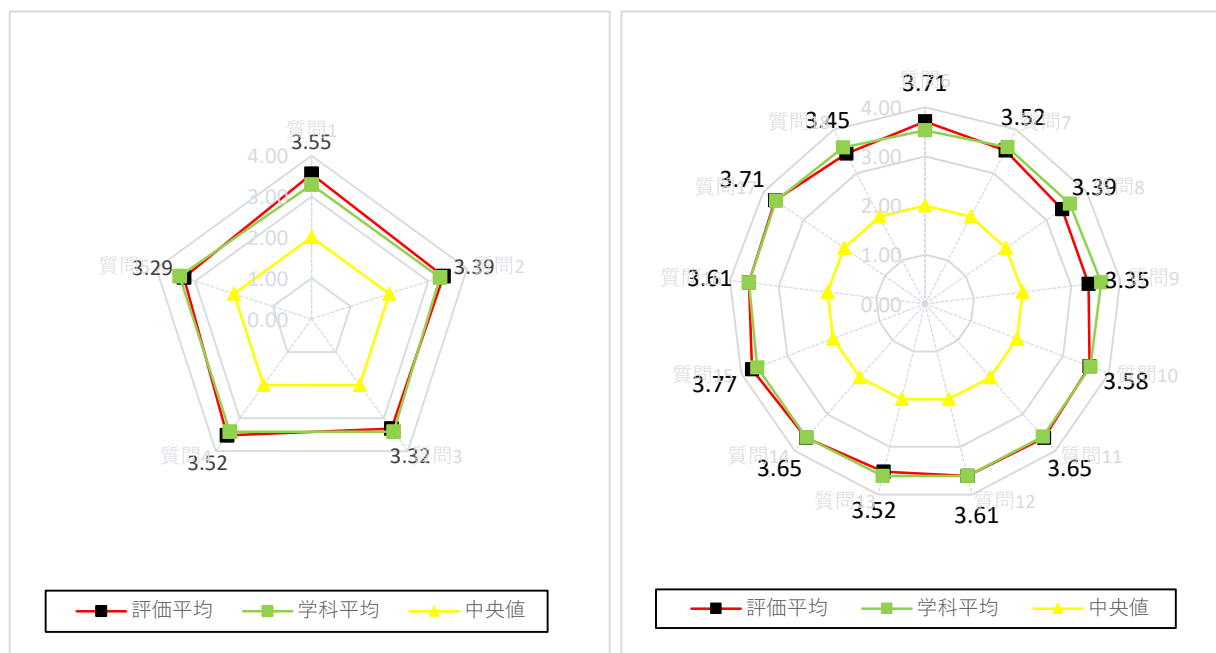
本科目幼稚園教諭2種免許状取得において、領域に関する専門的事項「表現」として位置づけられ、また保育士資格取得において、「保育内容の理解と方法」に位置付けられている。保育において音楽を通して、「子どもたちにとっての表現とは」に向き合い、その方法を学ぶ内容となっている。学生の評価は概ね高く、全ての評価で学科平均を上回っている。特に学生自身の本授業への取組みに関する設問（質問1～5）についても全てが学科平均を上回っていることは、本授業において、教員と学生が一緒に授業を創り上げていることが感じられ有難いと思う。本授業では、今年度から内容を見直し、テキストも変更したや、学生同士の動画撮影によるテスト等、学生の現状に寄り添った授業展開ができるように工夫したことが高評価の要因であると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においても、本授業内の弾き歌いのテストにおいて、ICTの活用について授業者側、学習者側それぞれのメリット、デメリットについて考察しさらに充実させたい。学生一人ひとりが子どもの頃に親しんだ童謡やわらべうたを楽しむ感覚を改めて実感しながら、保育者として、子どもの表現について多角的に考える内容にしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品学 I	32名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生による自己評価は、ほぼ学科平均と同等で、質問5（総合評価）は3.29となった。昨年の学生の自己評価は3.32とほぼ同等の結果となっている。質問6以降の授業評価についてはほぼ学科平均と同等の値であった。昨年の学生に比べると、自己評価、教員評価とも低かったことから、いかに学生のやる気を引き出し、理解度を高めていくかが今後の課題と考える。

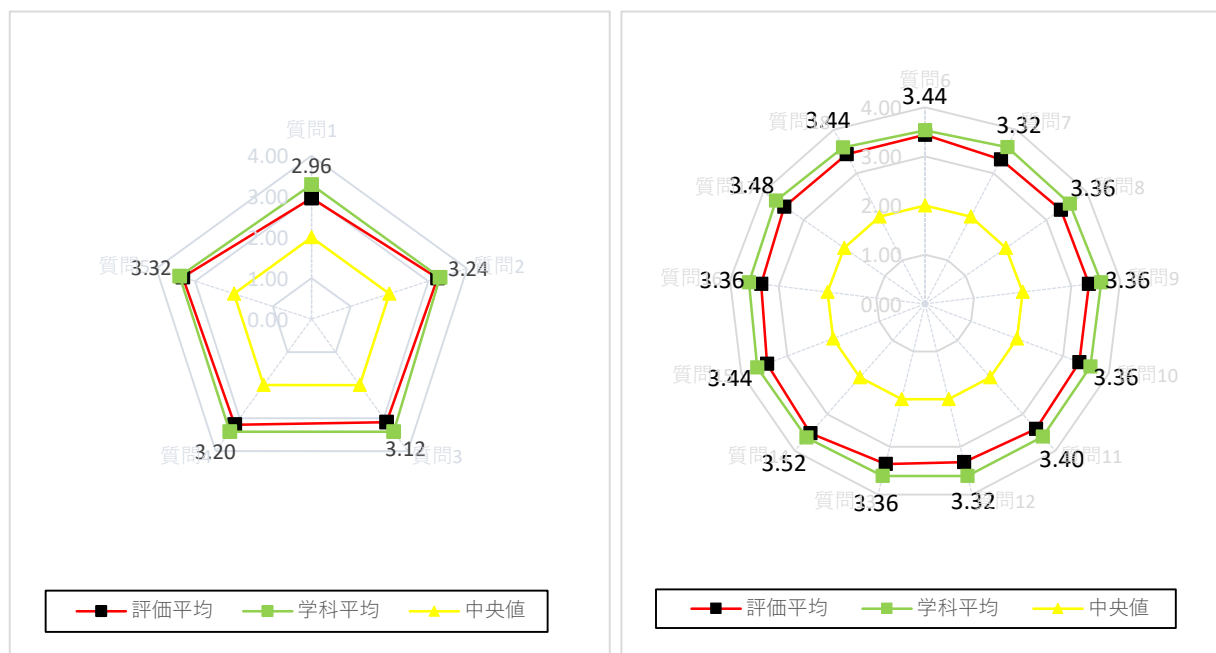
自由アンケートは、「食品について多くのことを学ぶことができました。授業はわかりやすく、とても勉強になりました。ありがとうございました。」とのコメントであった。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業内容は同じでも学ぶ学生は毎年変わる。それを踏まえて次年度も今年度同様、学生とのコミュニケーションを重視して双方向の授業、グループワークやペアワーク、学生が主体的に考え発言できる機会を増やしたい。今年度の受講者は留学生が増加し、日本人学生と留学生の双方のコミュニケーションや理解を深める授業となるよう、食関連で興味関心に結びつく話題の提供などを行い、学生の学ぶ意欲を高める授業内容について検討して授業の充実を図っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品学実験	26名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

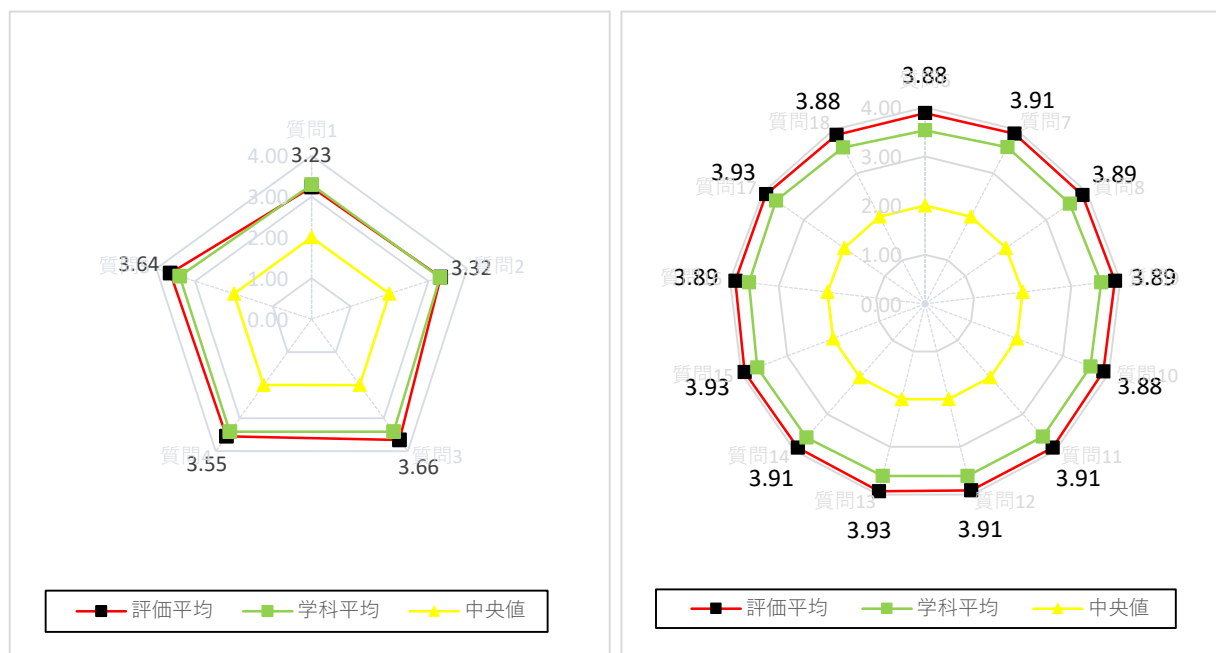
学生の自己評価は、学科平均よりやや低かった。授業全般の評価についても全体的に学科平均より低い結果となった。過去の総合評価の結果を比べると、一昨年は総合自己評価3.5、授業の総合評価3.42、昨年は総合自己評価3.54、授業の総合評価3.46、今年は総合自己評価3.32、授業の総合評価3.44となった。過去の評価とほぼ同様であった。学生は年々化学、実験に対して苦手、興味が低い傾向にあるため、学生に合わせた今後一層の授業改善を検討したい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降も一層、時間を有効に活用した実習内容に改善していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と造形表現	57名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

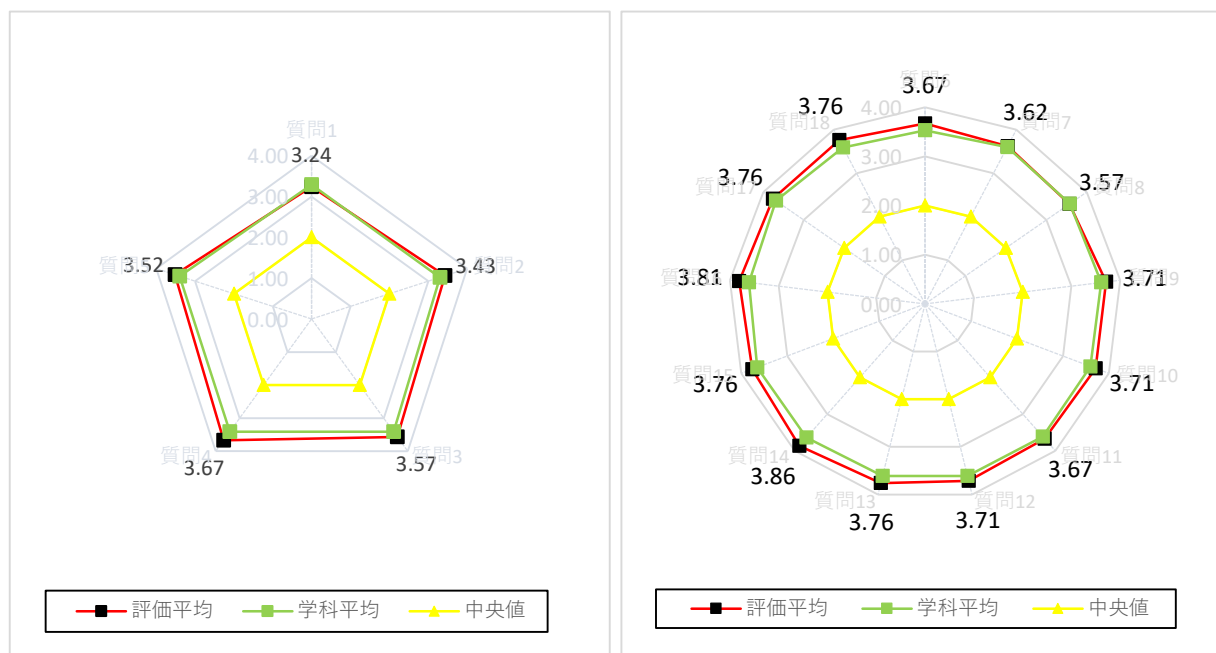
学生自身の授業に対する参加態度に関しては、総合的には望ましい結果であるが、質問1「授業は何回欠席しましたか。」については、一部の配慮が必要な学生の中に欠席が複数回あったためにやや低い傾向が出ている。また質問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか。」については、毎回授業開始時に確認はしているが主体的に予習復習に活用できていない学生がいるようである。教師の指導、支援に関しては概ね高い評価を受けている。授業開始時のシラバスの確認、ICT機器の利活用、TEAMSと連動したレポート提出のシステム、制作の個々の学生へのカウンセリングマインドを意識した言葉かけ、完成作品の展示などが、高い評価を受けている要因であると考えている。また、特別な配慮を要する学生の席順等への配慮も行いながら、教員と学生との双方向的なやりとりの工夫や主体的・対話的な学び（アクティブラーニング）の導入によって、造形活動に対する苦手意識が強い学生にとっても安心して参加できる授業が展開できていると考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生自身の授業に対する望ましい参加態度の育成については、授業への参加（原則無遅刻・無欠席）を意識させる。一部の配慮が必要な学生に対しても、心身の状況に配慮しながら可能な限り欠席がないように支援する。授業以外でのシラバス（授業計画）の活用については、授業以外の時間でのレポート作成や作品の制作も予習、復習として捉えてよいことを伝え、主体的に学ぶ態度を育成したい。教師自身の指導、支援に関しては概ね高い評価を受けているため、現在のスタイルを踏襲しながらも、ICT機器の利活用の工夫、TEAMSと連動したレポート提出による効果的な評価方法、作品制作時の個々の学生への言葉かけの工夫、完成作品の展示の工夫などを継続したい。特別な配慮を要する学生の合理的な配慮も行いながら、授業時の双方向的なやりとりの時間の設定や主体的・対話的な学び（アクティブラーニング）の効果的な導入によって、全ての学生が安心して参加できる授業づくりを展開したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品学Ⅱ（食品加工学を含む）	33名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

学生による自己評価は、質問1（欠席）がやや低く、他は学科平均よりやや高い傾向を示し、受講生の授業に対する意欲が感じられた。

学生の授業に対する全般に対する評価は、やや学科平均より高値を示しており、自己評価の結果から見られた意欲と授業に対する評価の関連が見られた。総合評価について昨年と比べると、昨年は自己評価総合3.32、授業評価総合3.5、今年は自己評価3.52、授業評価3.76となった。昨年も一昨年より学生の意識が高くよく勉強していたが、さらに昨年よりは今年の評価が高値を示した。

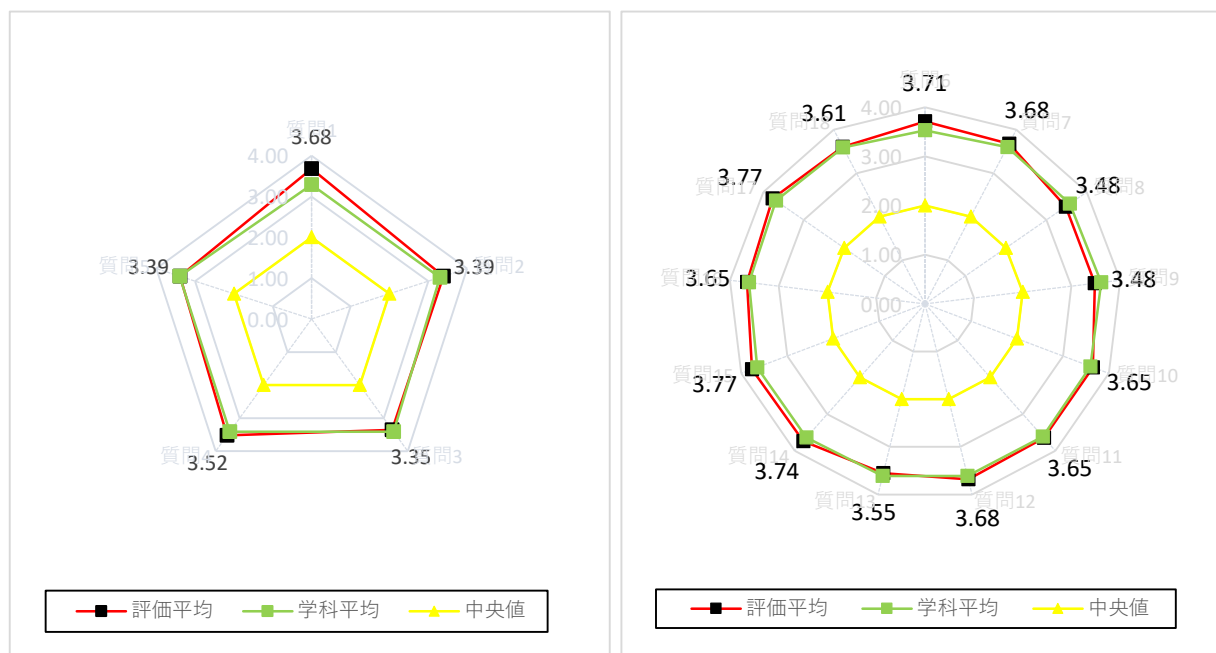
自由アンケートでは、「食品がどのように作られ、どのように保存されるのかが分かり、とても勉強になりました。先生の説明はていねいで、例も多く、理解しやすかったです。実際の食品と結びつけて考えることができたので、身近に感じました。この授業で学んだことは、将来の仕事や生活にも役立つと思います。」など授業内容に肯定的な学生の声とともに「食品学のチームズでのテスト問題はテスト勉強のためにももう少し早く返却していただけると助かります。」などの声もあり、次年度の授業改善に役立てたい。

（３）次年度に向けての取り組み

次年度も学生とのコミュニケーションを重視して双方向の授業、グループワークやペアワーク、学生が主体的に考え発言できる機会を増やしたい。また、学生の声を大切にしながら、関連で興味関心に結びつく話題の提供などを行い、学ぶ意欲を高める授業内容について検討して授業の充実を図る予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		基礎栄養学	32名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

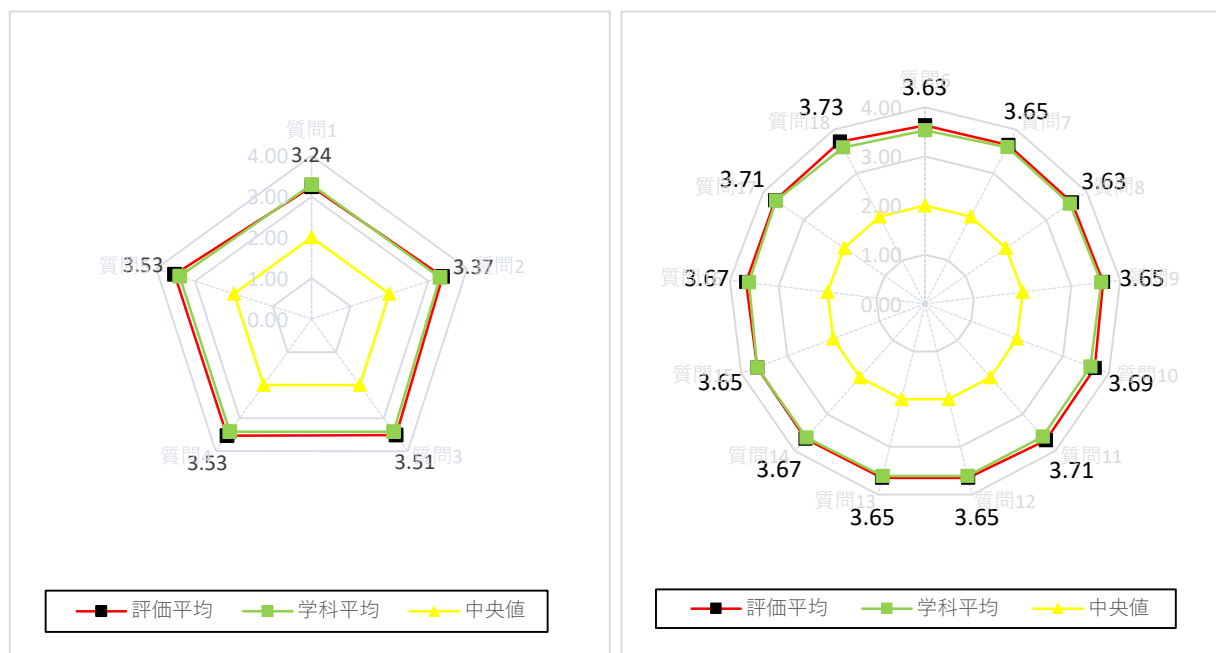
この科目は、1年前期はじめて学ぶ専門基礎科目として、高校の学びを意識して、その流れをもとに導入、展開を行っている。自由回答では、「基礎栄養学も学ぶことが多く情報量の多い講義でした。基礎栄養でもイラストを使った説明があり理解しやすくなりました。」や、「図やイラストがあってわかりやすいと思いました。」といった回答を得た。一方では、「難しかった」という回答もあった。憶える量は少なくはないので、可能な限り、イラストなどを使ってイメージから覚えていくように解説を行い、学生とのやり取りを頻繁に行っている。また、各節が終わるたびにペア学習をさせて振り返らせるようにしている。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後は、学生との対話、教室内巡回を多くするとともに、テキストを読んでもらうなどの緊張感を与えて集中させるようにしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		特別な教育的ニーズの理解とその支援（障害児保育）	53名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

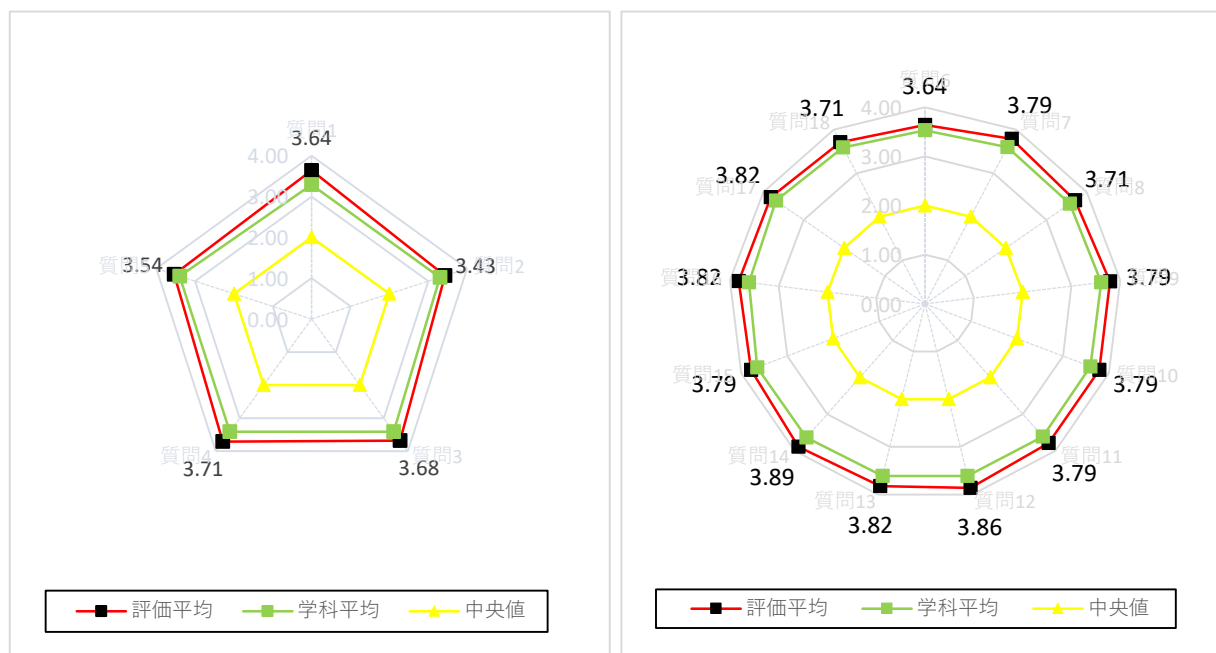
- ・ 全体的な評価はほぼ学科平均となっている。
- ・ 自由記述について、「授業を通して、多様な子どもたち一人ひとりのニーズに応じた支援の重要性を深く理解することができました。」「様々な動画や事例を活用しながら授業を進めてくださったことで、一つ一つの単語やその意味をわからないまま進むのではなく、自分なりにきちんと理解した上で進めることが出来たので、とても良い学びになったように感じます。」「発達障がい児や聴覚障がいなどについて学べた。」「先生の話が長くて眠くなることもあったが、真面目に授業をうけることができました。」という意見があった。このコメントを見る限りは、授業内容と本授業の目標についてある程度達成できたと思われる。
- ・ 話が長いという意見もあることから、各授業のテーマによってはどうしても話が中心となることもあるが、そのことがコメントを反映していると考えられる。

（３）次年度に向けての取り組み

今後の課題として、自由記述にも書かれていたように「話が長い」という点が挙げられた。これについては、映像教材やアクティビティ（グループワーク等）を取り入れることにより授業のメリハリをつけられると思われる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		音楽の基礎	32名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

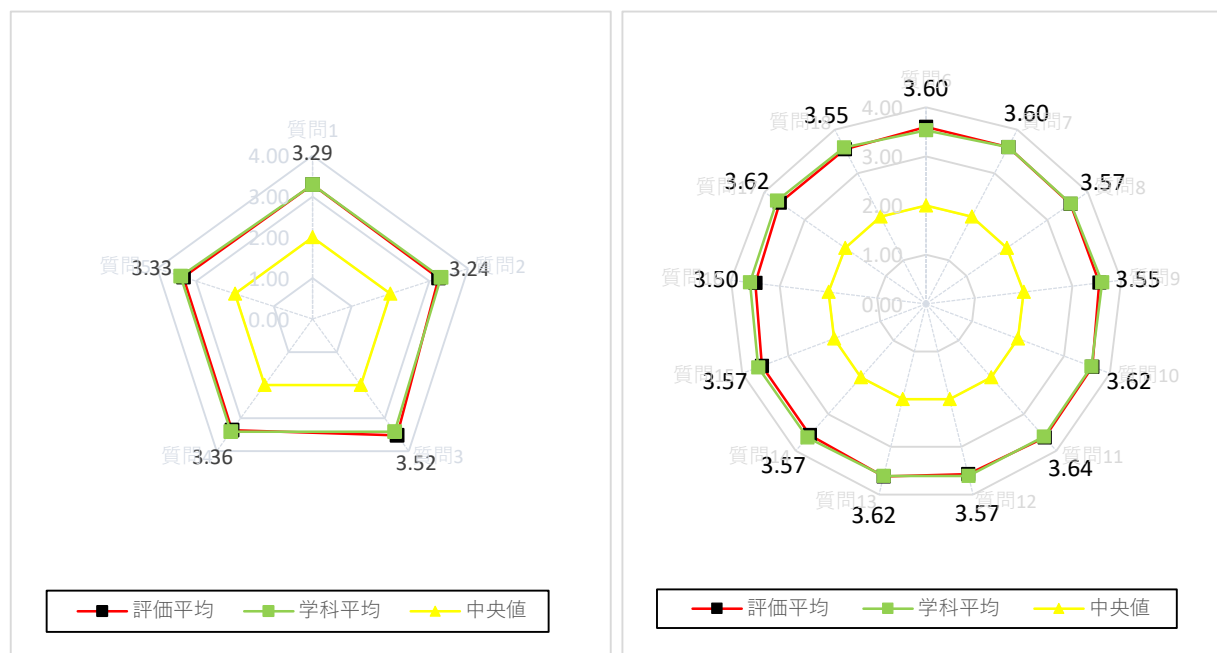
本授業は、ピアノ等の音楽経験や音楽の予備知識を問うアンケートに基づいて習熟度別に「未経験者クラス」「経験者クラス」のクラス編成で行っており、本評価は「未経験者クラス」のものである。教員に対する評価である質問6～18の評価は、質問6（シラバス説明）の3.64を除くと全て3.7点台～3.8点台と全体的に高い値を示している。音楽の理論的な学びをピアノ未経験者の理解度に合わせ、毎回、前回の復習から始め、ゆっくりな進捗で着実な理解に繋げる工夫によるものと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

自由記述には「解り易く教えていただいたので積極的に取組めた」「難しかったが、基礎から触れてくれたので良かった」などがあり、担当者の目標が学生に評価されたことを嬉しく思う。今年度は概ね高評価を得られたので、次年度もリトミックの手法も用い、楽しみながら理論を学べるよう授業を組み立てたいと考えている。PCを使用した授業「楽譜作成ソフトの活用」は次年度以降も内容を深め、学生がPC上で楽譜を書くスキルを身に付けられるようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子育て支援	51名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

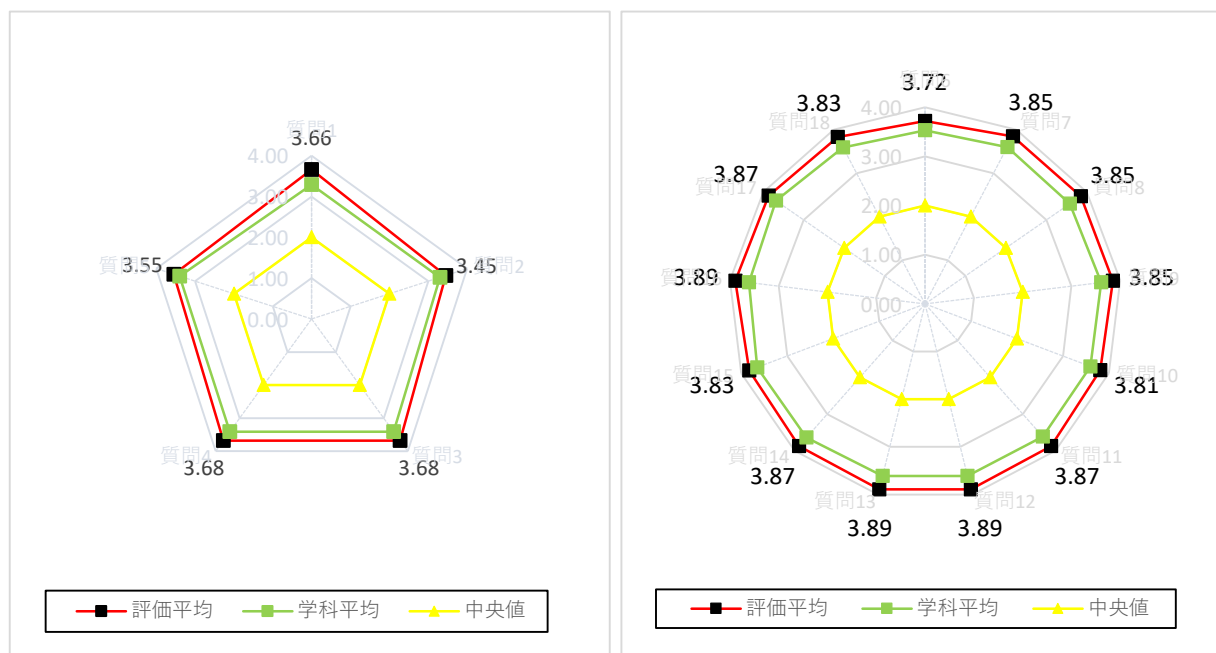
全体的に僅かであるが、学科平均を下回っているが、概ね平均と言える。
自由記述については、Bクラスからはコメントがなく、Aクラスでは1つだけ「とても学ぶことができました。」とコメントがあった。ここからは分析することが難しい。しかしながら、授業中の意見や態度を見る限りでは少なからず保育者になる直前の科目として、社会的な課題や子どもや家庭の抱える課題に対する興味や関心はあったように感じている。

(3) 次年度に向けての取り組み

特に低いスコアではないが、設問項目の中でも「質問16（教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。）」については0.18平均を下回っている。8回の講義ということで双方向的な授業方法は随分と取り入れたが、それでは十分ではなかったと思われる。もう少し学生から出てくる質問等に対する回答を元にした授業の組み立てが必要であると思われる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		乳児保育 I	57名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

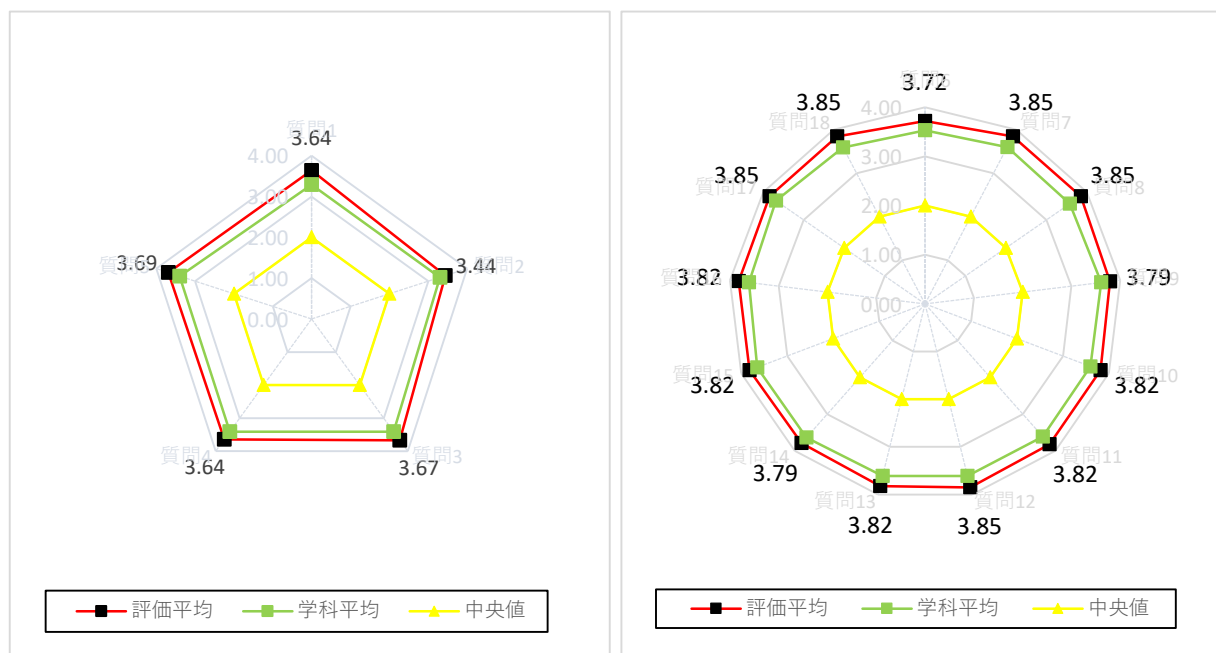
全項目で学科平均を上回る結果となっており、学生の満足度は高かったと言える。
特に、「授業の速度」や「双方向のやり取り」は前年度の結果を踏まえて意識をしていた部分であるため、特に評価が高かったのだと思う。
「双方向のやり取り」として、毎授業後に授業感想レポートを課している。疑問や質問、要望もその中に書くよう指示しており、次回授業の最初に「前回の振り返り」の時間を設け、レポートに書かれた質問等に回答をしている。
この取り組みが学生には評価されたのだと思う。
また、学生の自由記述を見ると、「体験談が入っていて分かりやすかった」というものがあった。学生にとって乳児は触れあう経験が少なく、なかなかイメージしにくい部分だと思われる。そのため、具体的事例などを用いて授業を進めることで学生の学習理解に役立つと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

本年度、高評価をもらったため、次年度も引き続き「授業の感想レポート」を用いて学生の疑問・質問へのフィードバックを行いたいと思う。
学生からの質問は、より具体的な方法を尋ねるものや、現場での対応など、授業では触れることの少ない部分も多く含まれている。
個別の対応ではなく、全体に周知することで、授業内容の面白さも見えてくる部分があるため、次年度でもできる限り学生の声に応えたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		乳児保育Ⅱ	57名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

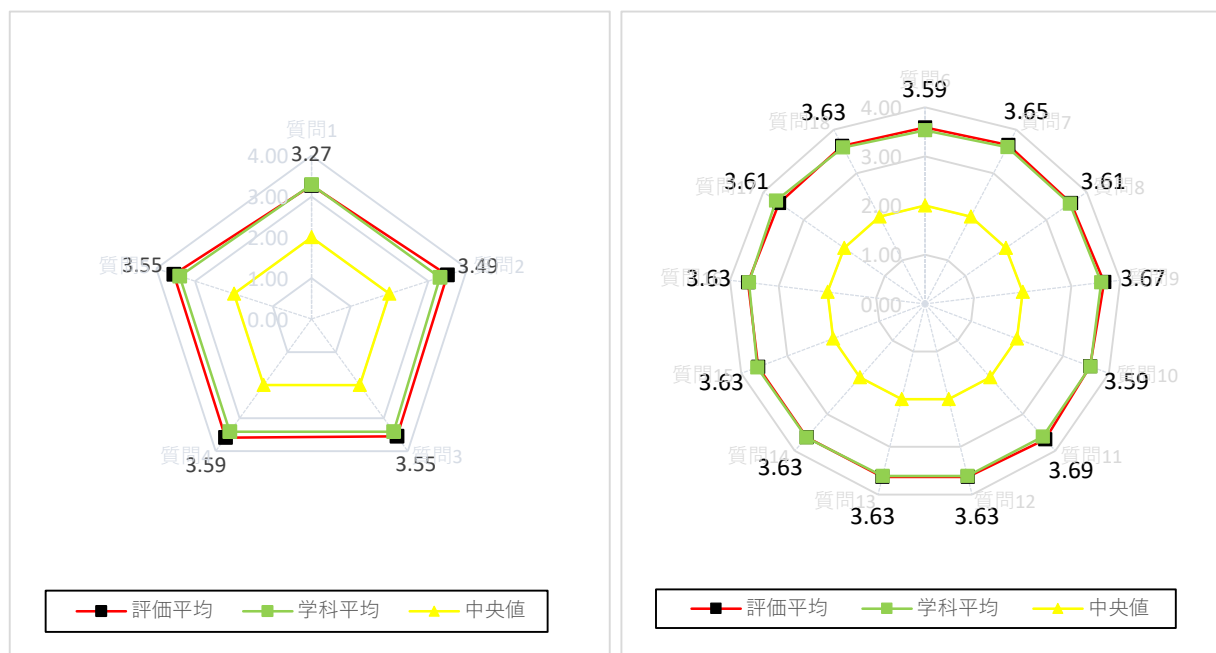
全ての項目で学科平均を上回っていることから、学生はこの授業に満足したと言える。
 この授業は前期科目「乳児保育Ⅰ」で学んだことを体験してみる演習科目である。4名程度のグループで沐浴やおむつ交換などを体験するのだが、一人一人が積極的に体験できているのかを確認することが難しく、毎回悩みながら授業を進めている。
 できる限り学生が興味を持てるよう、「おむつの実験」や「ミルクの試飲」など、五感を刺激するような内容を入れるよう工夫をしている。その結果が評価されたのだと思う。
 自由記述には「楽しかった」という回答があり、学生にとって楽しみながら学習ができた点は良かったと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

引き続き学生の興味・関心を持てるような内容を工夫していきたいと思う。
 今回のアンケートは全体的に評価が高かったものの、数名ではあるが評価が低い学生がいた。もしかしたら、教員の目が行き届かず思ったような活動ができなかった学生がいたのかもしれない。次年度はその点を踏まえ、よりきめ細やかな対応を心掛けたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習指導 I	53名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

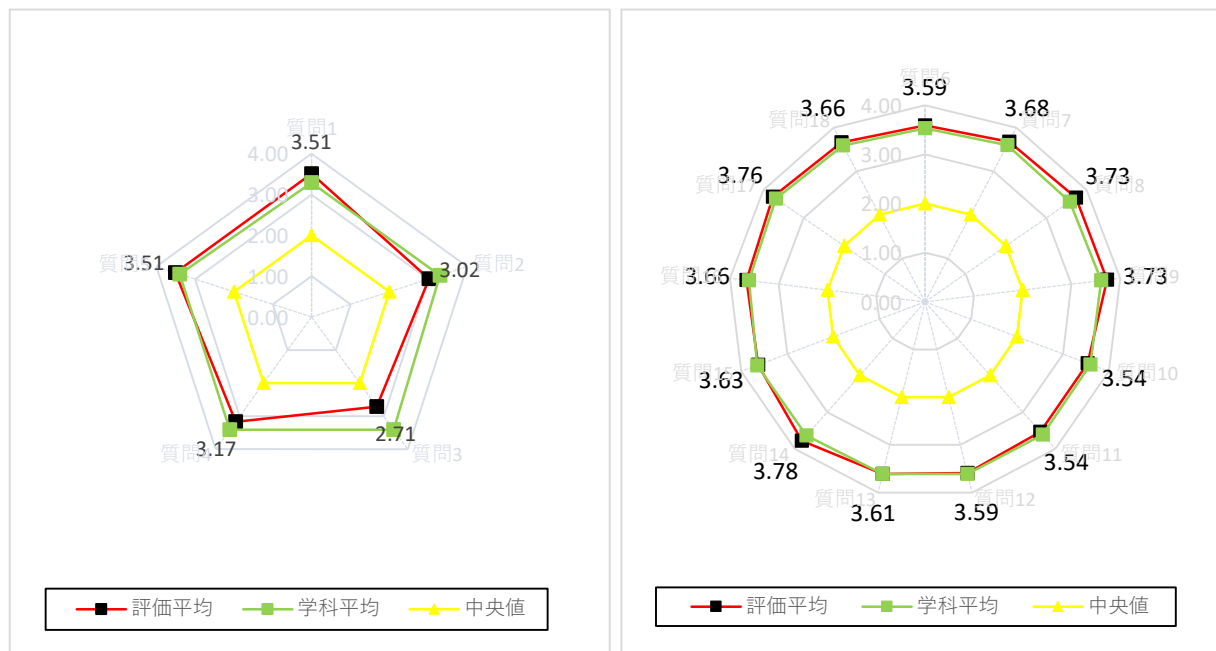
49/53 (92%) の回答であった。
 学生による評価平均においても、概ね学科平均とほぼ重なる結果となった。また、資格取得に関わるため、質問1出欠や質問3、質問4に関わる授業に取り組む態度は厳密に運営している。
 実習指導は、保育士資格取得に直結するが、様々な理由によりモチベーションを保てない学生も散見される。他方で、実習担当教員が個別かつ丁寧に学生指導を継続的に行っていることが評価されていると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

年々配慮が必要な学生や不安が強い学生が増えてきている。そのため、学生一人一人のニーズを考慮しながら、前向きに実習を行うことができるよう、授業を進めていきたい。
 引き続き学生の個々の事情などにその都度対応しながら実習に向けての指導を行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		認知症の理解 I	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

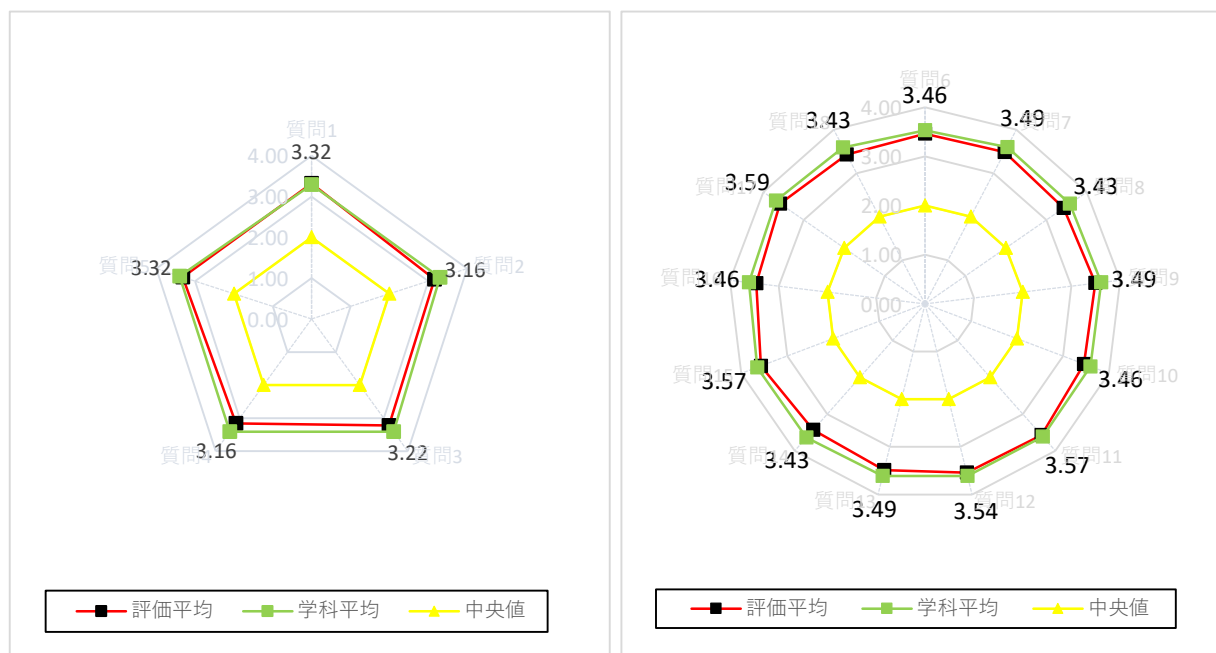
授業評価は回答者41名、回答率100%であり、総合評価は4点満点中3.53であった。質問6?18の授業運営・教員対応に関する項目は3.54?3.78と概ね高く、説明のわかりやすさ、授業の工夫、公平な対応、教員の熱意について一定の評価が得られた。一方で、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか」は2.71、質問2「シラバスの活用」は3.02と相対的に低かった。自由記述では、認知症の理解が深まった、説明が分かりやすい、プリントが役立ったという意見がある一方、資料量、授業後半の進度、私語への対応、映像や事例の追加に関する要望も見られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、学生がより主体的かつ集中して学習できるよう、授業冒頭で到達目標と学習内容の位置づけを明確に示し、シラバスとの関連も確認する。認知症の症状や対応方法については、学生から要望のあった映像教材や具体的事例を活用し、実習や将来の介護実践と結びつけて理解できるよう工夫する。また、配付資料は内容を精選し、重要事項が整理しやすい構成に改善する。授業後半で進度が速くならないよう時間配分を見直し、要点確認の時間を設ける。さらに、発言方法や私語への対応について授業ルールを明確にし、安心して学べる学習環境を整える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		認知症の理解Ⅱ	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

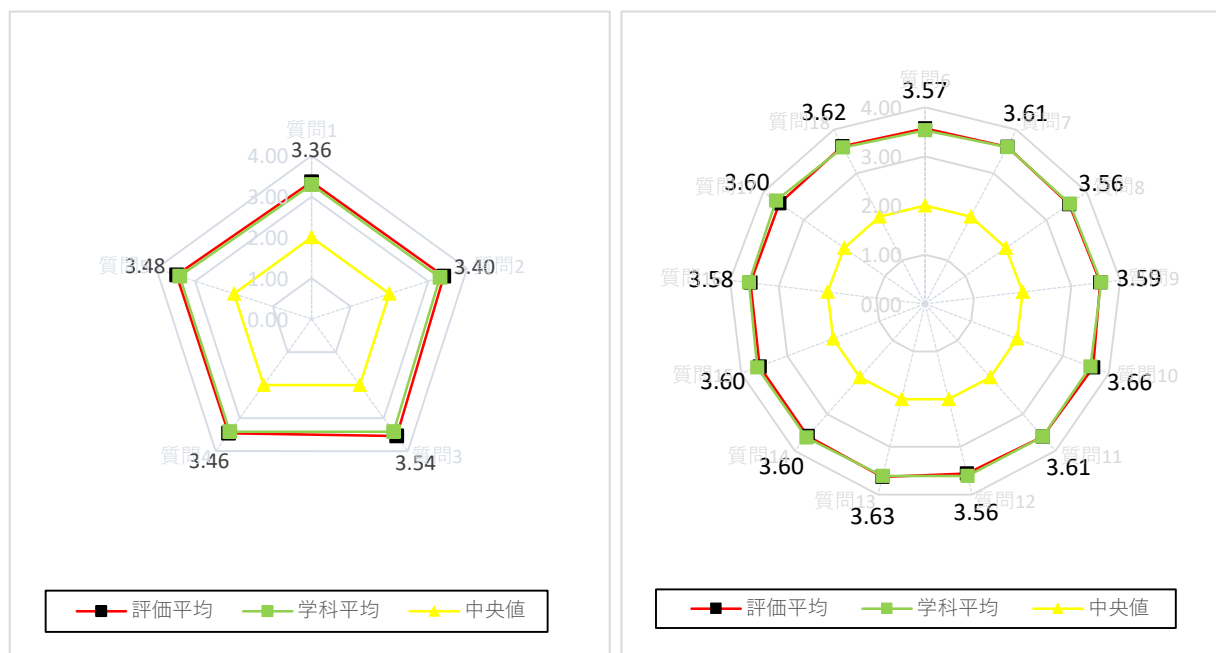
評価は、全体的に学科平均より低い値となっている。特に、質問4「授業を理解するために自分で工夫をしたか」については、2.9低く、学生自身が能動的に学習に取り組んだとは言えない。また、質問8「授業は興味・関心がの授業への工夫やされていたか」や質問16「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていたか」の値も低い。実際の授業では、ほとんどの学生が真面目な受講態度だったものの、確かに質問する学生は少なかった。質問があった際は、丁寧に回答したつもりではあったが、学生にとっては、不満足な内容だったのかもしれない。質問10「視聴覚機器や板書の用い方は適切だったか」については、動画への切り替えがうまくいかないことが数回あり、学生に迷惑をかけたと反省している。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回の結果から、学生の能動的な受講態度を導き出すような授業の工夫が必要だと痛感している。留学生が多いクラスであり、質疑応答のタイミングも学生の立場に立って設定する必要があると考える。特に留学生は、教員に迷惑をかけまいと、十分に理解していなくても「はい、わかりました」と答える傾向がある。今後は、本当に理解しているのか、質問はないのか、困ったことはないのか、慎重に確認しながら授業を進めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習Ⅰ（保育所・施設）	104名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

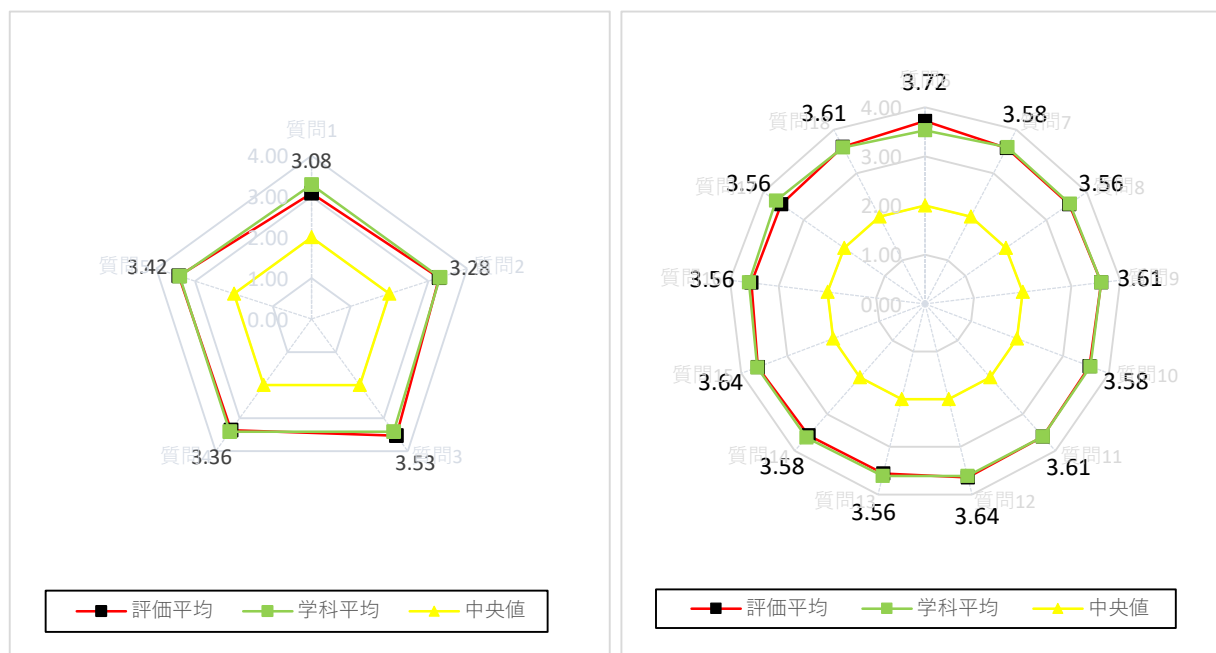
本科目は、1年次と2年次に連続するため、履修者が104名となっている。
 学生による評価平均においても、概ね学科平均と同程度の結果となった。
 保育実習Ⅰ（保育所・施設）は、1年次2月に保育所、2年次6月に施設であり、心身ともに負荷がかかる状況であるといえる。
 学生にとってははじめての学外実習であり、担当教員も事前の実習指導で十分な準備を行い送りだすように時間と労力をかけている。

（３）次年度に向けての取り組み

配慮が必要な学生増加など、年々実習指導を行う教員の負担も重くなっている。また、実習先より注意やお叱りを受けることも増加している。
 次年度に向けては、実習担当者間で連携しながら授業運営を計画し、これまでの丁寧な関わりとサポートを継続できるようにしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習指導Ⅱ	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

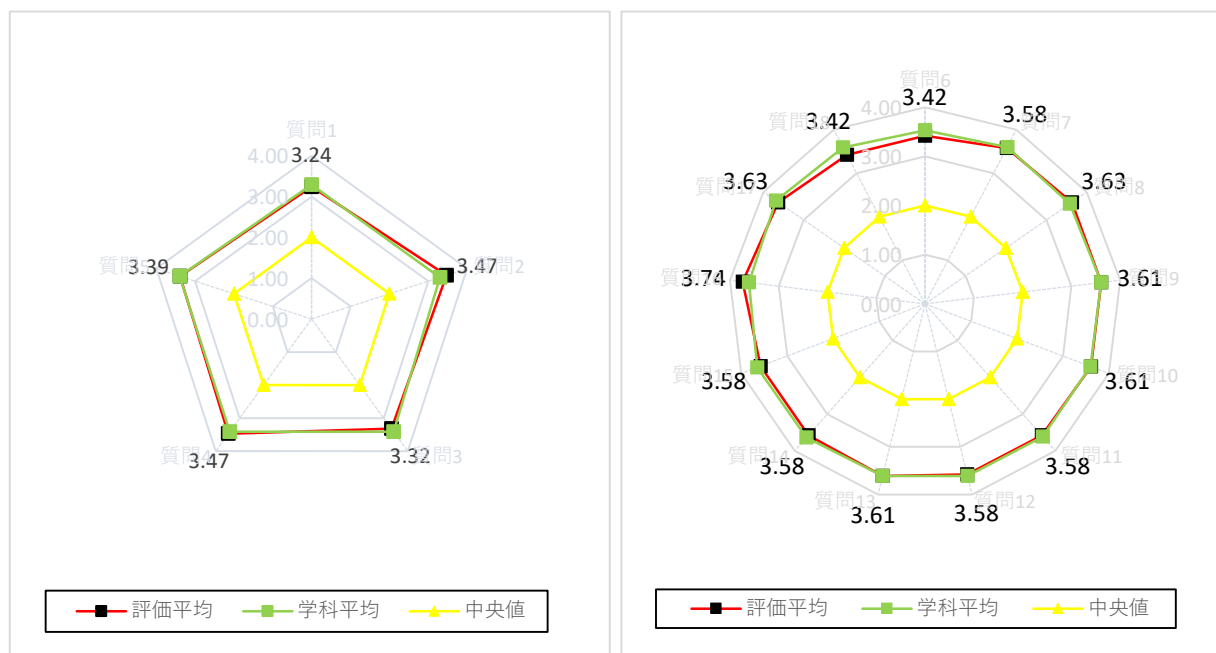
各項目、若干学科平均には届かないものの大差なく、学生からの評価としては特に問題ないとする。コメントを読むと、しっかり学べたという趣旨の内容が書かれており、実習事前・事後指導としての役割をしっかりと果たせていたのと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

引き続き学生の実習が充実したものになるよう、指導を実施したい。また、次年度は日誌の形式が変更になることが予定されている。そのため、特に記録の方法や観察の方法を中心に指導を実施したいと考える。学生が実習で深い学びができるよう、サポートしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		障害の理解Ⅱ	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

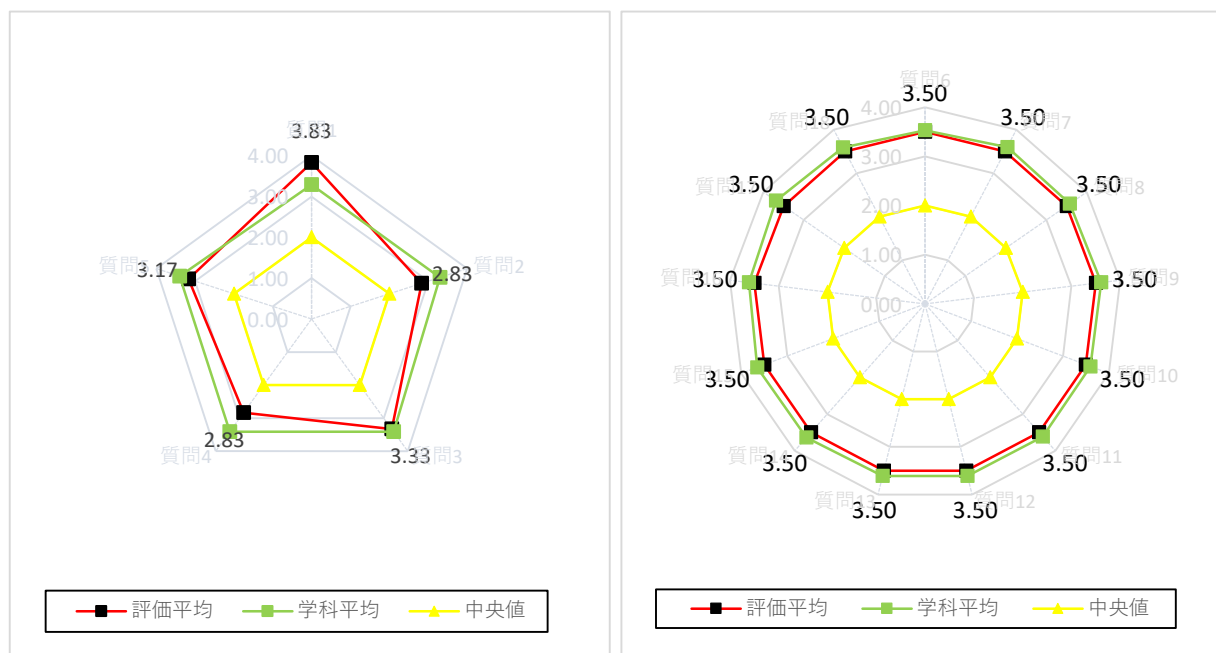
授業評価は回答者38名、回答率100%であり、総合評価は4点満点中3.55であった。質問6?18の授業運営・教員対応に関する項目は3.42?3.74で、全体として概ね良好な評価が得られている。特に、教員が熱心に授業に取り組んでいたことや、授業の工夫、資料の活用について一定の評価が示された。一方で、質問1「授業への出席」は3.24、質問3「真剣な取り組み」は3.32であり、学生自身の学習姿勢や主体的な参加には課題が見られる。自由記述では、配付資料が分かりやすい、困ったときに助けてくれるという肯定的意見があり、学生支援の姿勢は一定程度伝わっていたと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、授業内容の分かりやすさや資料提供に対する評価を維持しながら、学生の主体的な学習参加を促す工夫を強化する。障害の特性や支援方法については、専門用語の説明だけでなく、具体的な生活場面や介護場面の事例を用いて理解を深められるようにする。また、各回の冒頭で到達目標を明確に示し、授業後には要点確認や簡単な振り返りを取り入れることで、学習内容の定着を図る。さらに、学生が質問しやすい雰囲気を保ちつつ、授業中の集中を促す声かけや小課題を活用し、出席・参加・理解がつながる授業運営を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習指導Ⅲ	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

6/6 (100%) の回答であった。

授業評価の各質問項目においては、概ね学科平均をやや下回っている結果であった。

その理由として、本科目は施設実習に関する指導であり、より学生が主体的になって取り組むことを求めたからだと考える。

今後は学生のモチベーションが向上するような工夫も図っていきたい。

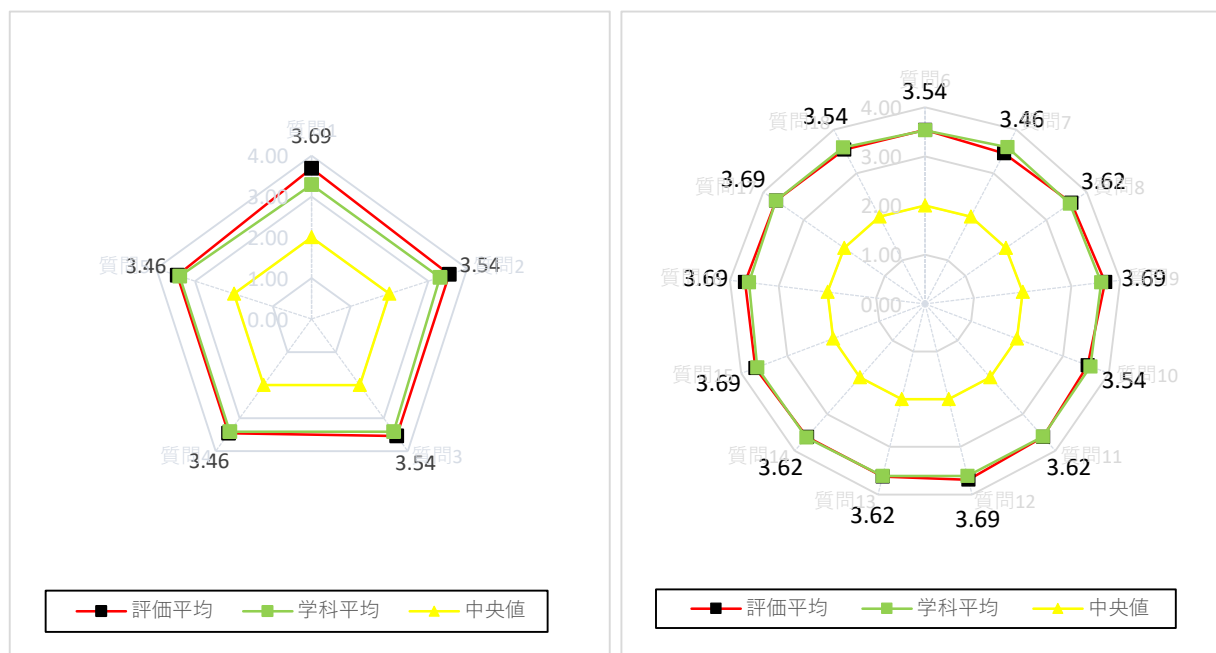
(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は、進路選択や就職活動も見据えた最後の保育実習となる。

学生の将来や職業選択にあたって、より深く考えて取り組むもらえるよう働きかけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習Ⅲ（施設）	13名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

7/7（100％）の回答であった。

授業評価の各質問項目においては、学科平均と同程度であった。

その理由として、本科目は施設実習を選択した学生が履修するため、進路や就職に直結した学びになっていると考えられる。

学生が主体的に学べるように、学生の希望を聞き取りながら調整を図っている。

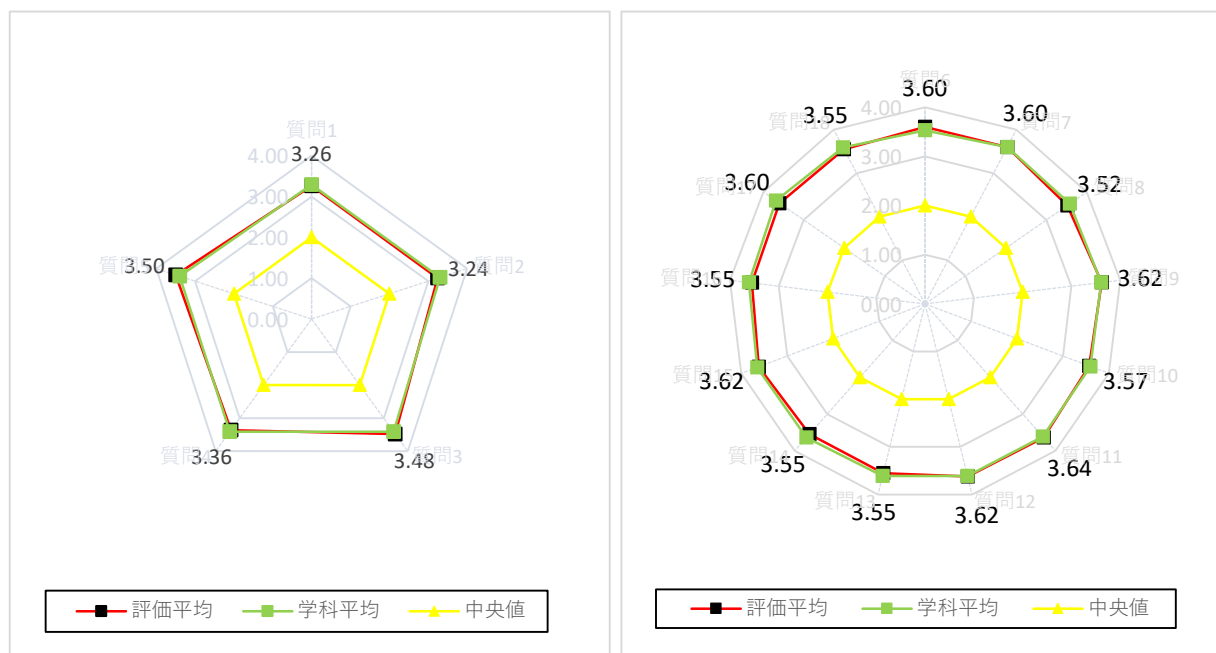
（３）次年度に向けての取り組み

本科目は、進路選択や就職活動も見据えた最後の保育実習となる。

2回目の施設実習というストレスや負荷がかかる状況となるが、学生の将来や職業選択に直結できるように働きかけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育実習指導	52名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

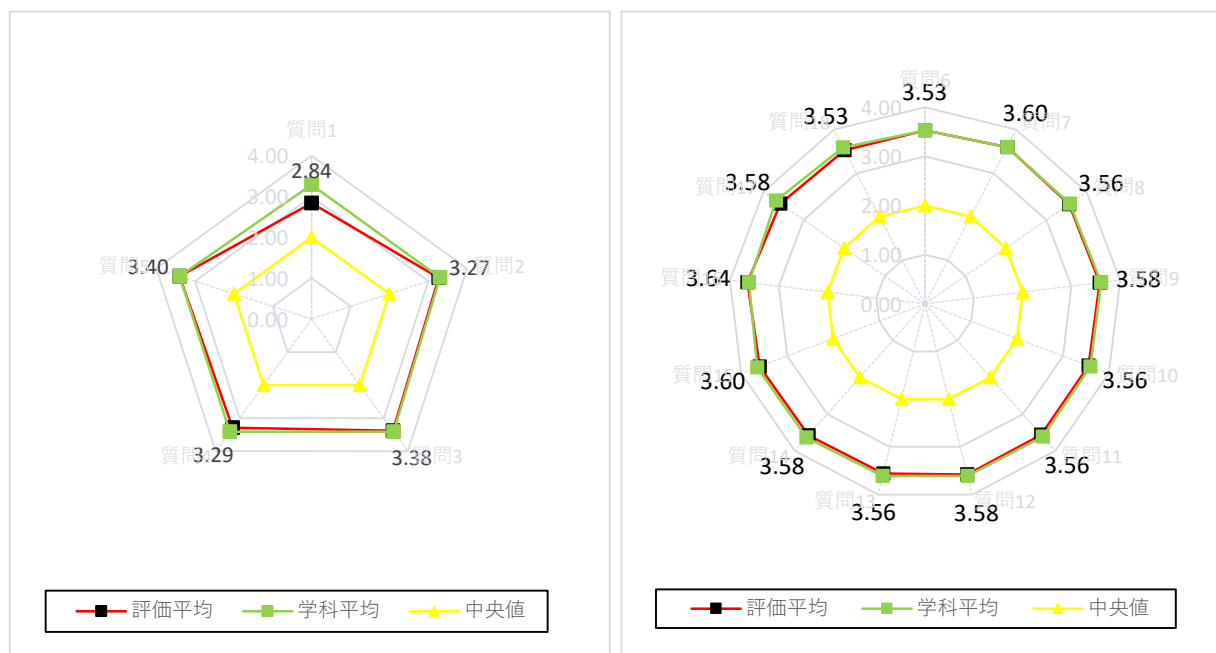
各項目とも学科平均に若干届かないものの大差なく、学生は概ね満足していると考え。自由記述には「しっかり学べた」という趣旨のコメントがあり、実習事前・事後指導としての機能は十分に果たせたものと考え。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き、学生の実習が有意義なものになるよう、指導をしたいと考える。事前指導においては、なぜ実習が求められているのかという基本的な視点に立ち返り、学生が目的意識を持って実習に臨めるよう指導をしていきたい。事後指導においては、特に学生が実習中に困った事例や、保育者の真意を理解しかねているような事例に関して全体場で取り上げ、正しく理解できるよう授業方法を工夫したいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育・教職実践演習 (幼)	51名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

45/51 (88%) の回答であった。

学生による授業評価結果においては、ほぼ学科平均と同じ結果であった。

本科目は、学科教員によるオムニバス科目であり、毎回担当する教員が異なる。しかしながら、ある程度の評価が得られた理由として、それぞれの教員による専門や個性が上手くオムニバス教科として展開できているのではないかと考えられた。

個々の担当教員の工夫により、実践的な演習が図られた結果とも思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

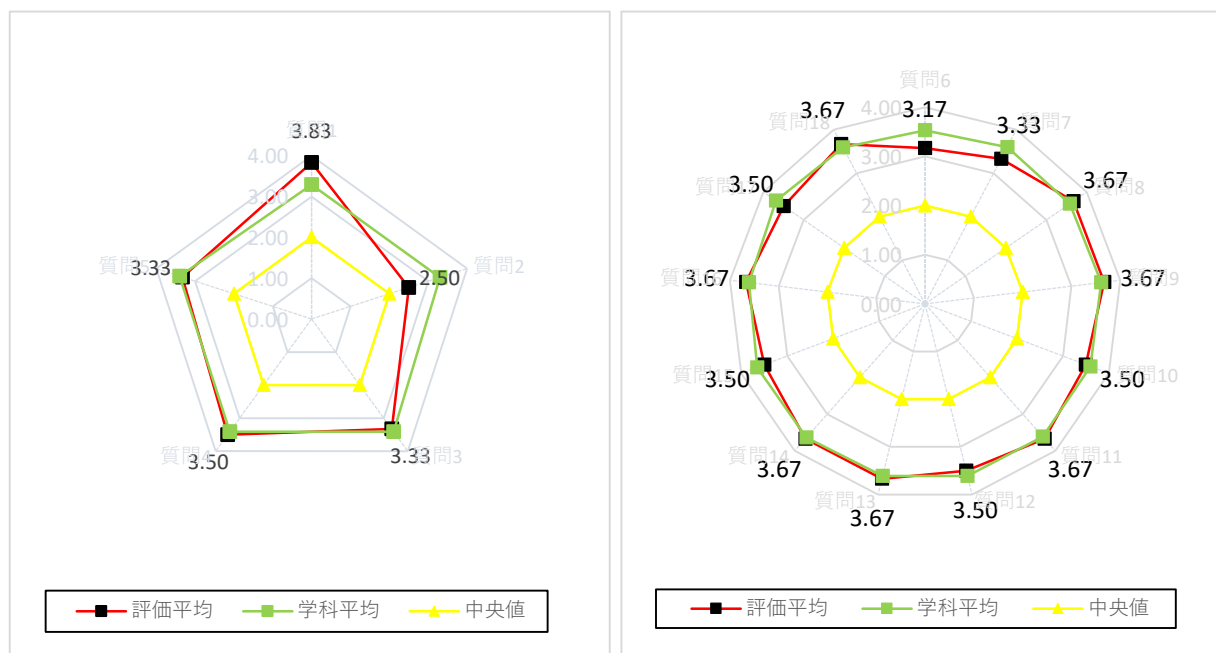
コロナ渦以降の近年は、各教員が遠隔授業や個別ワークなどの手法を多く取り入れて演習科目の役割を果たせるように工夫を図ってきた。

しかしながら、演習科目という性質を考えると、より実践的なグループワークやロールプレイ、ケーススタディなどの授業手法も取り入れていく必要があると思われる。

そのため、一昨年度から249わくわくフェスタに参画し、託児体験プログラムも組み込んだ。学内行事などとの連携も含め、より演習科目としての授業展開が図れるように学科内にて議論を深めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

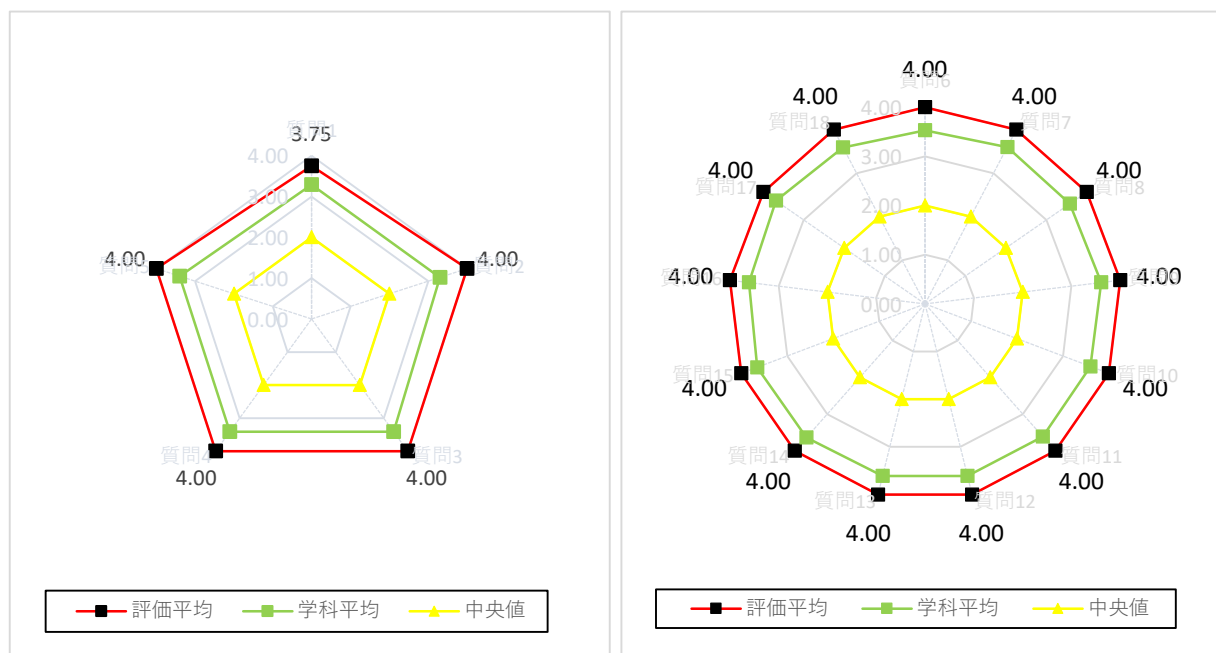
6/7 (86%) の回答であった。
授業評価の各質問項目においては、学科平均と同程度だった。シラバスの説明が手薄だったのが反省点である。
本ゼミ活動は、フィールドワークも取り入れているため、より自身の興味関心に応じて体験的に取り組むことができているという声もあった。
少人数だからこそその授業展開が図れたかと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においても、卒業研究はフィールドワークを取り入れ、学生が主体的に活動できるようにしていきたい。
また、地域のステークホルダーとつながり、学生も楽しめるようにゼミ活動の調整を図っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

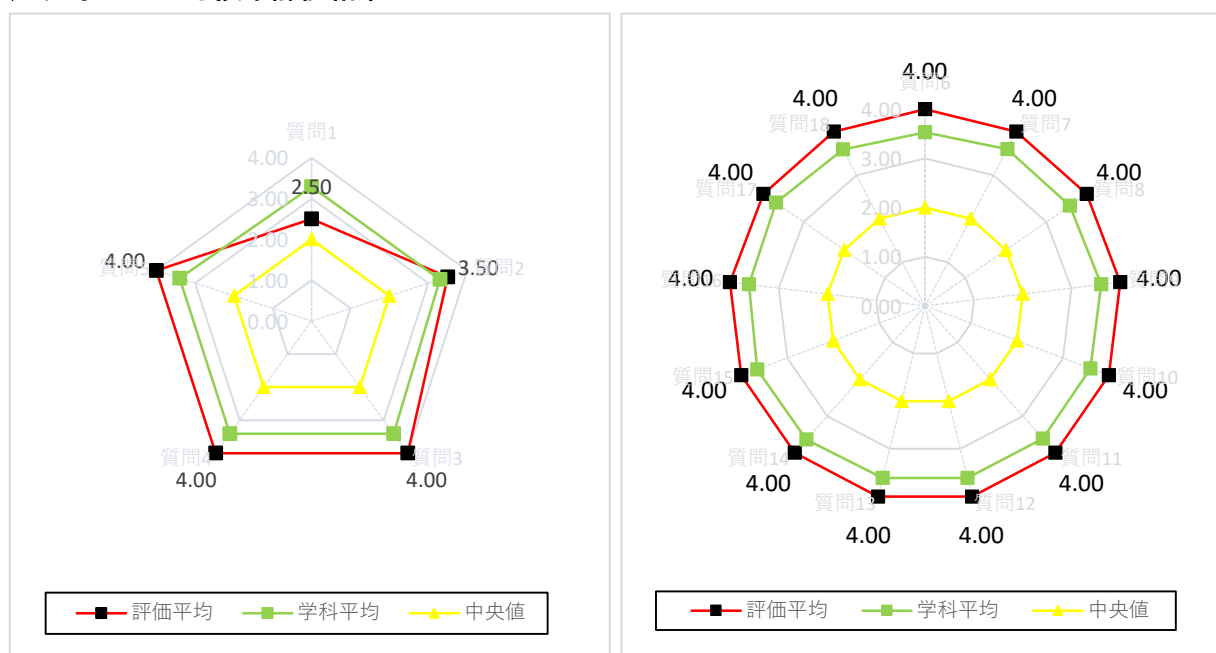
ゼミ活動では学生の取り組んでみたいことをグループで考えながら、その年に取り組む内容を決めている。学生は幼児体育やレクリエーションの中で教材を研究し、保育現場での実践活動を行っている。学生たちからは色々な意見が出ており良い刺激になっていることが評価につながっていると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生の興味・関心をもとに意欲的に取り組んでいけるよう工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	2名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

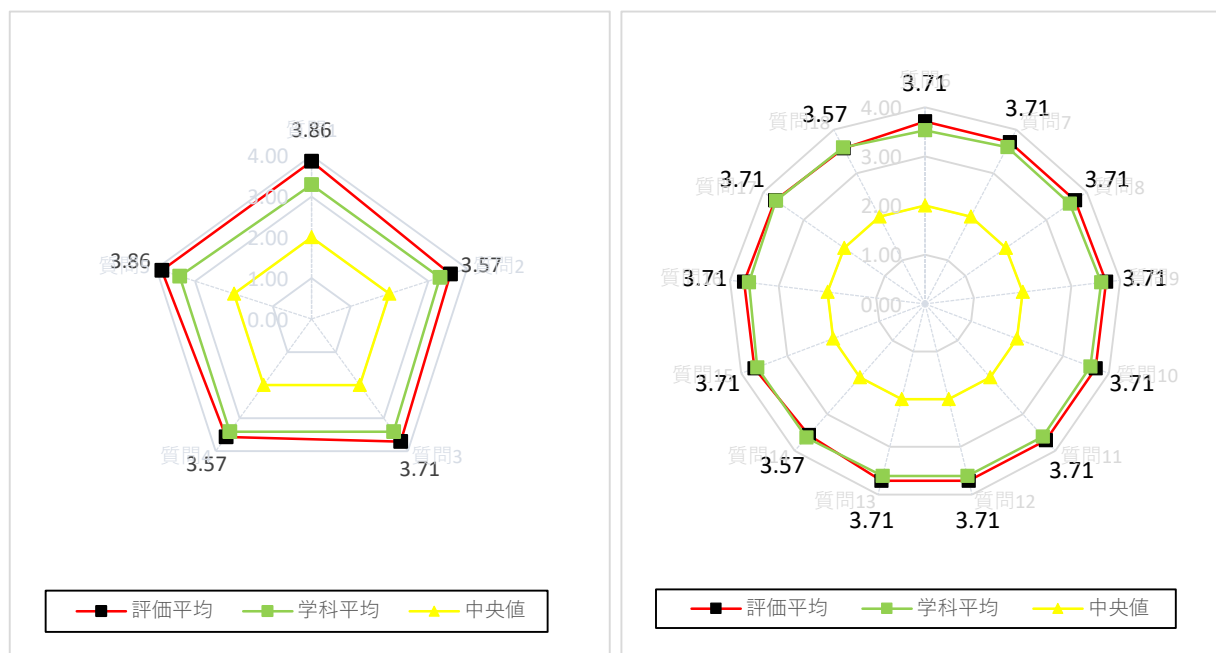
全体としては学科平均より高い評価であった。ただし欠席回数は学科平均を大きく下回った。授業方法等に関する項目については、全項目で4点満点となっていた。当該科目は少人数であり、前期は学生の関心を探りながら、研究テーマを決めていくことが主な授業内容であった。その中でやりとりを行いながら進めていたことが、肯定的な評価に繋がったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き、学生と個別にやりとりを行いながら、関心に沿ったテーマ選択ができるよう進めていきたい。
なお欠席回数については、関与できる程度は小さいものの、きちんと出席するよう呼びかける必要があると思われる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅰ	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

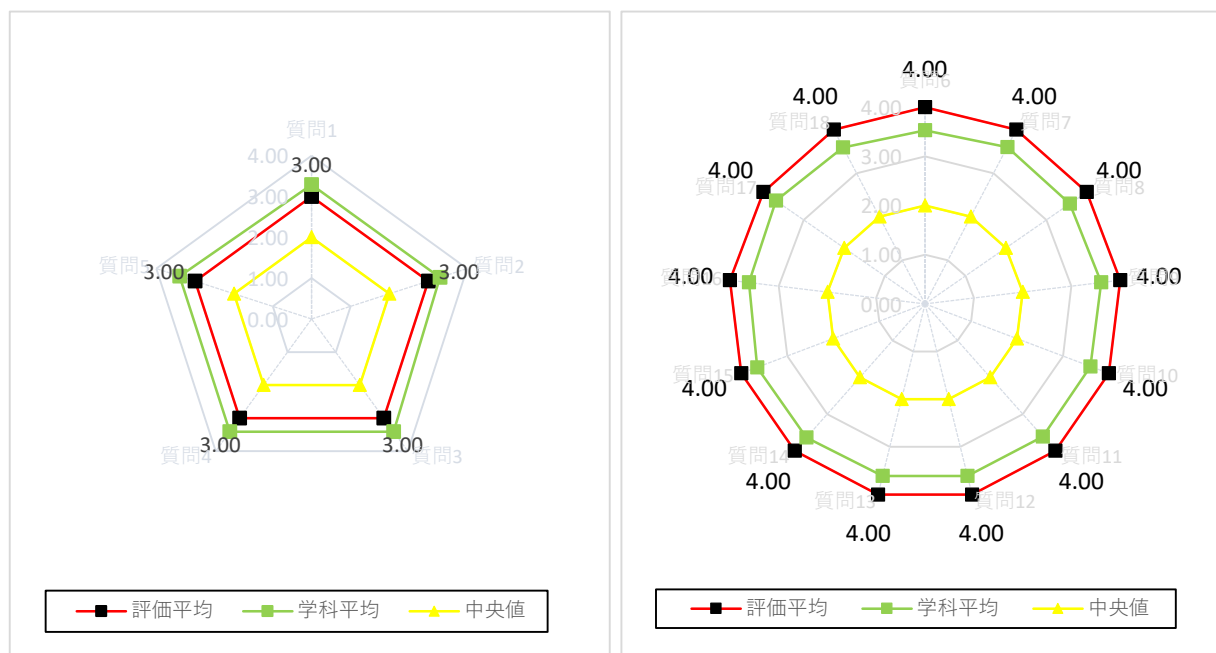
学生自身の授業への取組は学科平均を上回る評価となっており、活動の企画・準備・実践に主体的に取り組む姿勢が見られた。
 教員の授業方法については学科平均と同程度の評価であり、活動の進行に必要な助言や支援について一定の評価が得られている。
 全体として、学生が主体的に課題に取り組みながら学びを深めることができたと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生が自ら課題を見つけ、企画・実践・振り返りの過程を通して学びを深められるよう支援を充実させる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

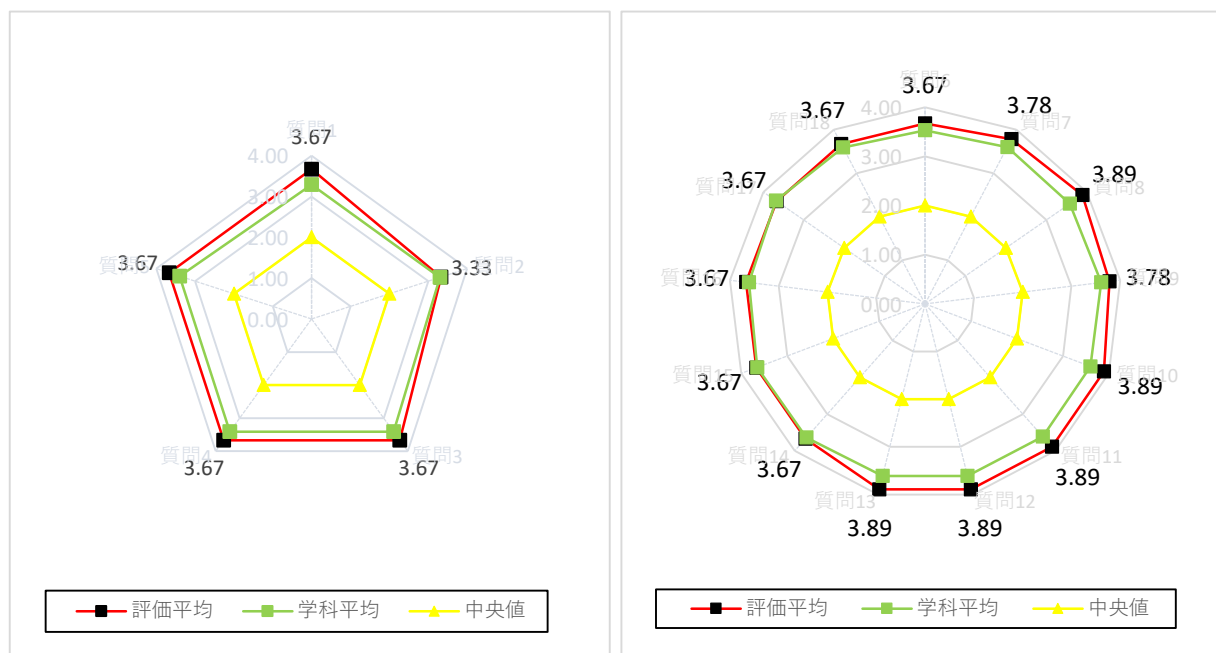
履修者5名中5名の回答率（100%）であった。
 学生自身の取り組みは、学科平均よりも下回っているが、
 授業に対する評価は学科平均よりも同様に上回る結果だった。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は実技発表をメインとしたゼミであり、
 元々学生自身の興味・関心が高い筈ではあったが、取り組み方にはむらがあった部分も見られた。
 前年度まではコース展開していたため、ゼミ以外にもその他のコース科目で発表練習を補うことができていたが、
 今年度は一気に時間数が減った感がある。発表方法やゼミで扱う内容の見直しが必要だと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

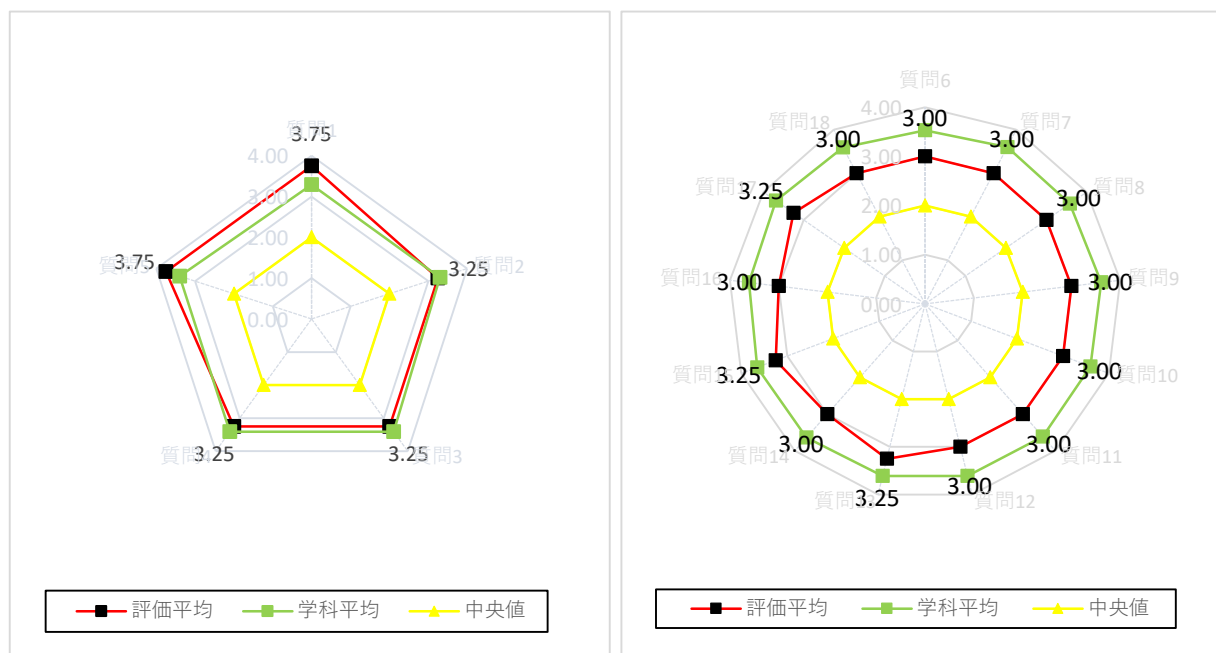
質問1から質問5についてはほぼ学科平均か若干平均を上回っている。ここから学生の授業への積極的な参加態度がうかがえる。また、質問7から質問13については、平均をかなり上回っており、高得点となっている。これはICTを使った説明、検索エンジンを用いた文献収集、アンケート調査を実施する際の細かい手続きのレクチャーなど、こちらの教示する内容も含めて、それらに対する学生の興味・関心の高さが評価に表れていると思われる。
自由記述は特になかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回の評価を元に今後も同様に学生の興味・関心に沿った授業展開を心がけたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

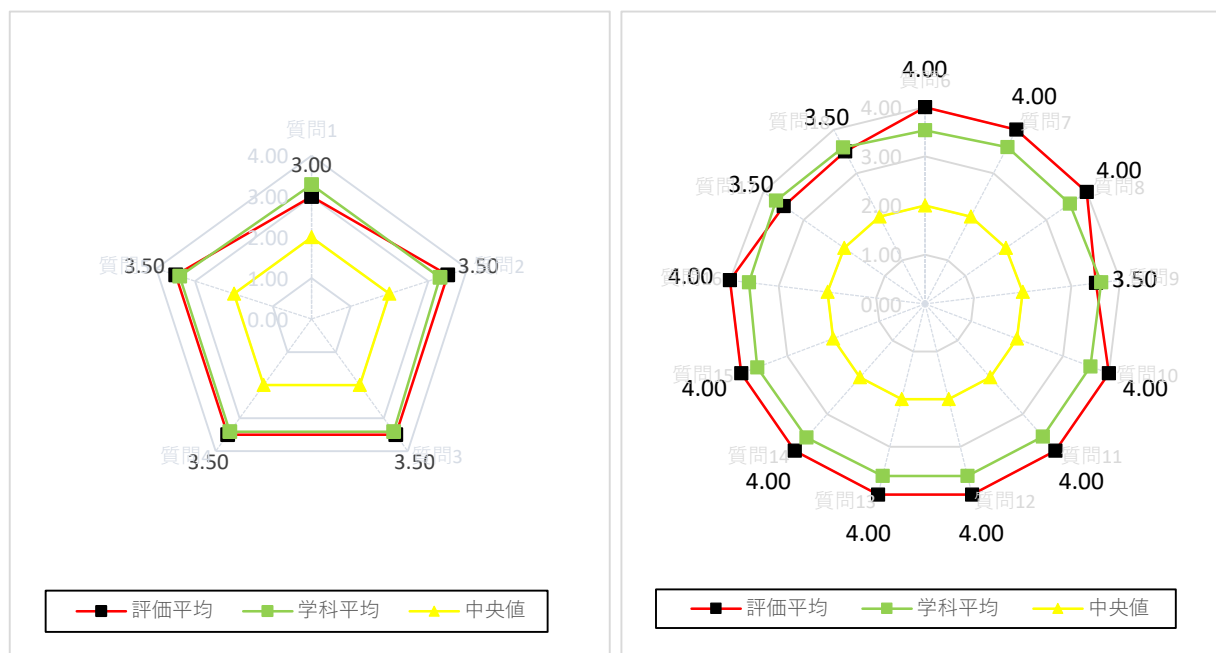
本卒業課題研究は、今年度新たに立ち上げたリトミックゼミで、特に本アンケート（前期）は、これまでの実績が何もない中で、教員も学生も模索をしている状態の時であったため、その評価は全体的に低い結果となった。先輩の実績がなく、実践の具体的なイメージが持てない中で実践に向けた、教材作成や練習は学生にとって、ある種の苦痛を伴うものであったのかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、今年度の学生が保育現場で実践した折の動画や、卒業課題研究発表会で発表したものを教材として活用できるため、今年度よりは先の見通しをもって活動を進めることができると考えている。また、教員が実際に保育現場でリトミック指導をしている様子も見学してもらうなどの工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

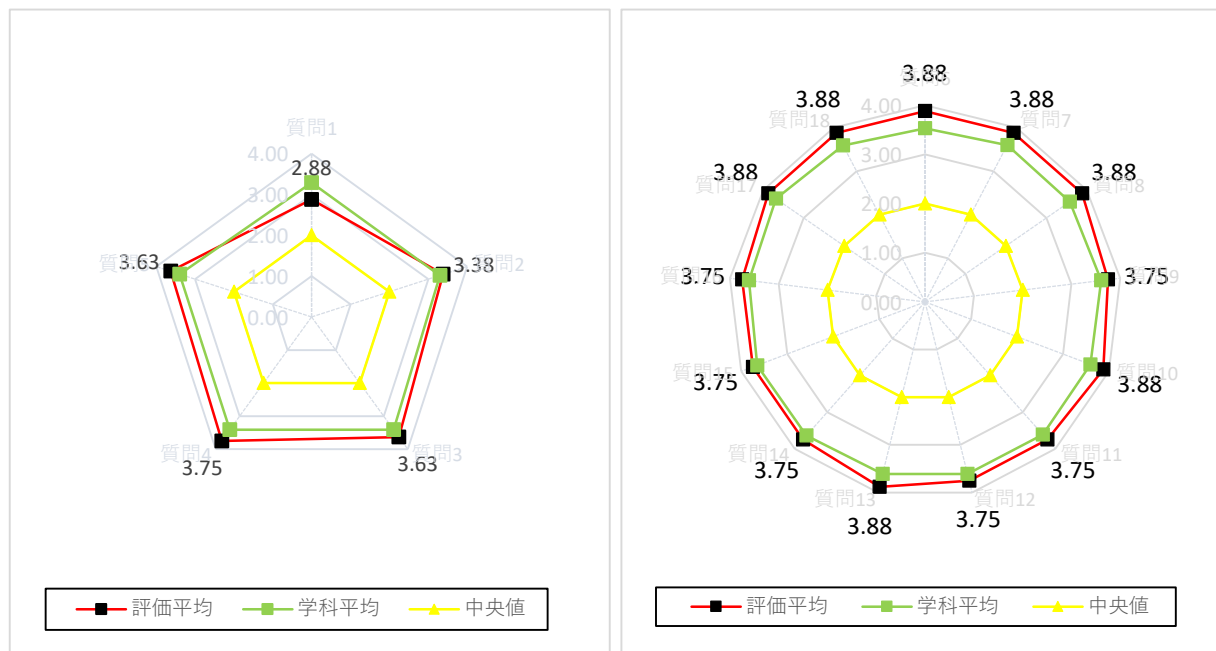
本科目は受講者5名という少人数科目である。そのため、学生の興味・関心に応じながら授業を進めた。結果を見ると、全体的に高評価であると言える。しかし、回答率が50%を切っており、正確なデータであるとは言い難い。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業に対する学生の意向を聞き、改善を実施するために、まずは回答率を上げるよう努力をしたい。そのうえで、学生の興味・関心に応じた授業が提供できるよう工夫を重ねたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

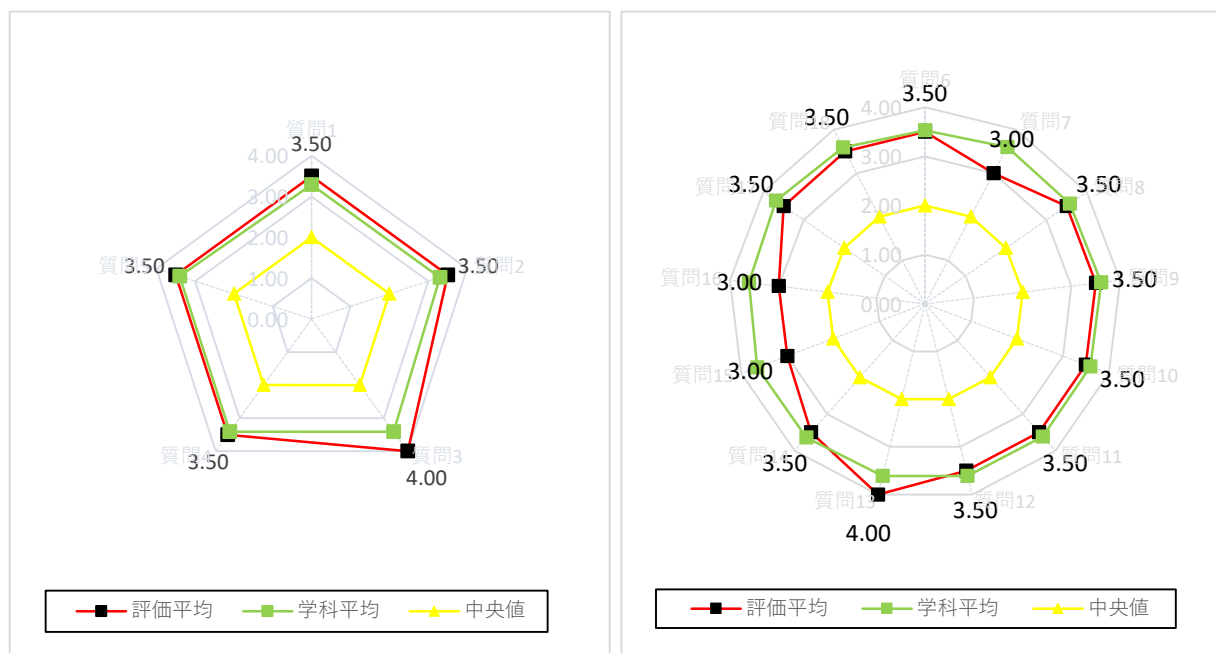
通年の授業（学内、学外における演習含む）実践である。学生の自己評価である「授業は何回欠席しましたか」の質問項目に対する評価が他の質問項目と比較してやや低いのは、体調不良の学生が複数回欠席したことと、休日を利用した学外ワークショップに参加できなかった学生が複数いたためである。昨年度と比較して好転しているのは「あなたはこの授業を期するのために自分で何か工夫したか」という問いに対する回答である。課題にそってそれぞれの学生が授業以外で学びを深めていたことが分かる。授業の進め方について原則シラバスに示した順番で行ってきたが演習場合変更を余儀なくされたことがあった。前期の活動において学生が非常に高い関心を示したのが理念であった。これまで受けてきた図画工作や美術火科の授業が競争と評価の学習スタイルだったことに対し、クリニカルアートが共感と共有を大切にするプログラムであるということで、苦手意識から解放されたという学生もいた。学生たちの表現技術だけでなくカウンセリングマインドを生かした言葉かけのスキルが高まったことは大きな成果であったと捉えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

例年、毎年臨床美術（クリニカルアート）の考え方やスキルを保育現場でどのように生かせるかについて意見交換したり、実際に体験しながら指導者の留意点について考えたり、お互いの完成作品に対して「言葉かけのシミュレーション」を行ったりしている。次年度も、前期ではクリニカルアートに関する理論学習を丁寧に行いたい。そして理論学習を実践力につなげるために保育現場で生かせるレベルのプログラムを体験させたい。毎年のことであるが、特に指導に力を入れているのは、出来上がった作品のシェアリングである。「自尊感情を高める言葉かけ」を「褒めること」とであると捉えている学生も毎年少なくない。無理に褒めるのではなく五感を生かしたコメントができるようなスキルアップを前期では意識して体験させていく。実習に向けた準備でもある。後期の「保育現場におけるプログラム体験」に向けて、発達段階に考慮したモダンテクニックの技法演習にも力を入れたい。そして本物に触れて鑑賞後の感想交流をするというアクティブラーニング型の学びも積極的に取り入れスキルアップにつなげさせたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	2名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

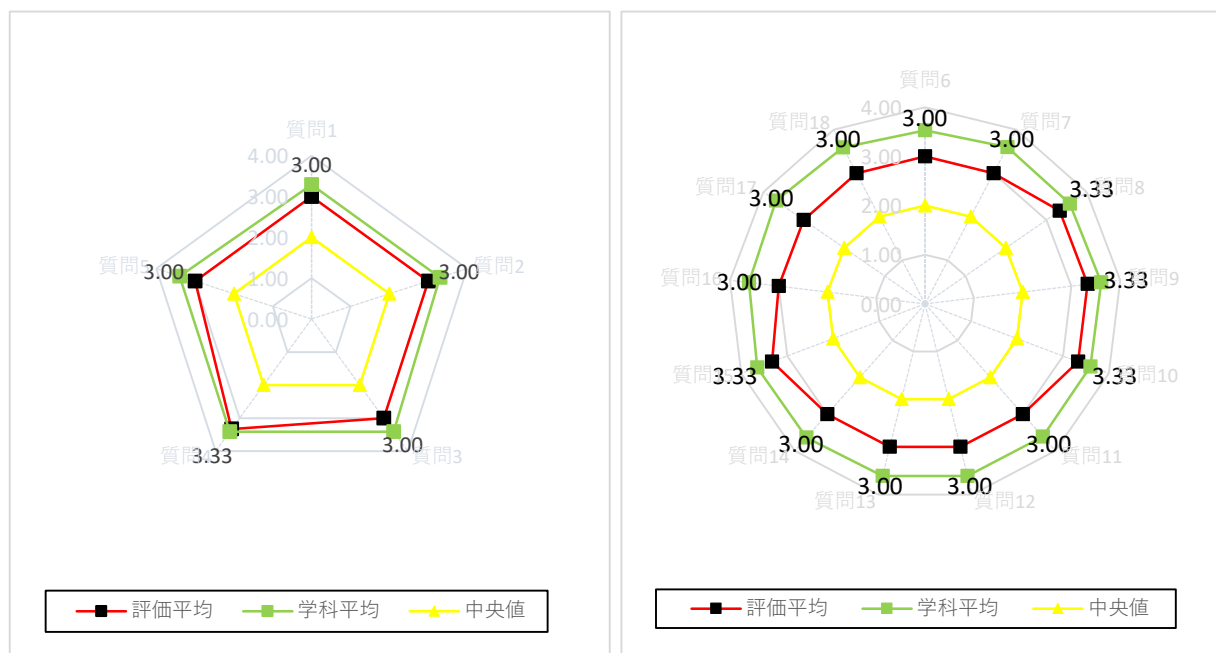
学生の取り組みに関しては、学科平均と同程度から高い評価であった。一方で授業方法や教員の対応等に関する項目では、授業の進む速さを除いて学科平均より低い評価であった。特に到達目標、学生対応の公平さ、双方向的なやりとりに関して、学生による評価の差が大きく、結果として平均値が低くなっていた。教員の対応に関して、学生による不公平感があったことが推察される。

(3) 次年度に向けての取り組み

少人数での実施にも関わらず不公平感が生じたということは、学生から見て教員の対応に明確に差があったと感じられたのだと思われる。したがって次年度はそうしたことがないよう、各学生への関わりを適宜振り返りながら、ゼミ全体として研究を進めていけるように留意したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

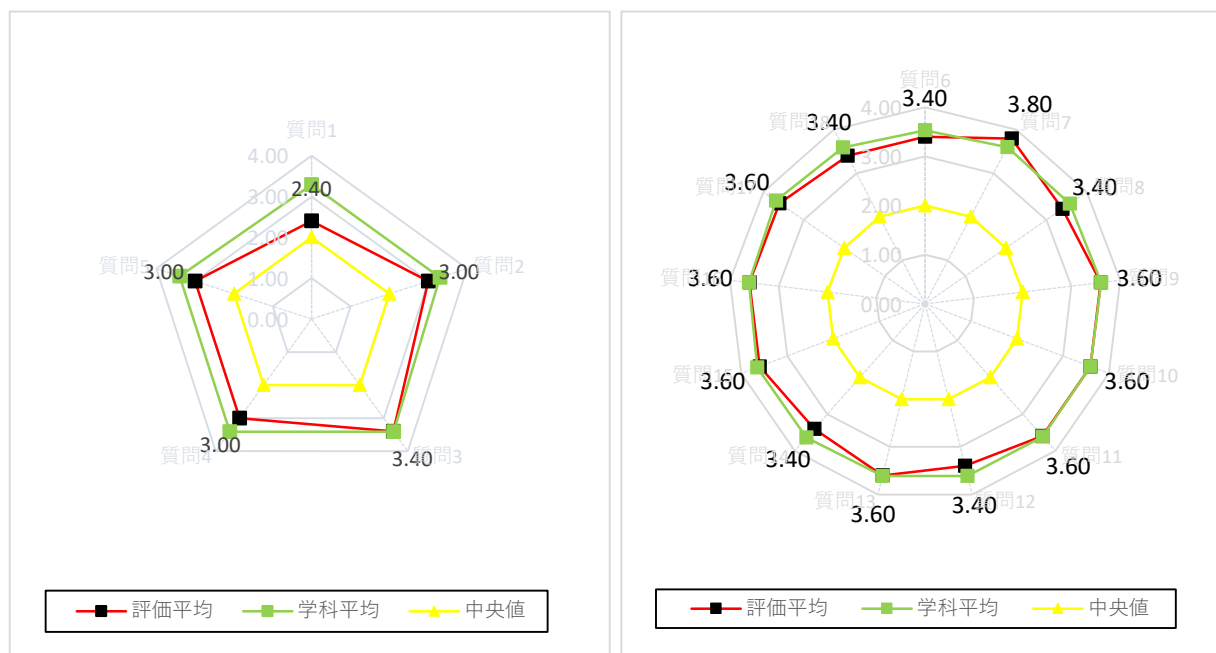
履修者5名中3名(60%)の回答率であった。
 全体的に学科平均を下回っているが、本科目はゼミ形式の授業であることから、私語も含めた自由な形で討論、練習を重ねていたためと考えられる。
 「質問4 自分で何か工夫をしたか」は一律評価が高いため、学生自身も発表に向けてそれぞれ各自の工夫をこらしながら取り組んだことが想像できる。

(3) 次年度に向けての取り組み

前項目において学科平均よりも下回っているが、履修者および回答人数も低いため、個人の感じ方が必要以上に大きく反映されているように見えているかもしれない。
 今後、質問項目の内容を教員側の授業目標として意識しながら授業を組み立ててみたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

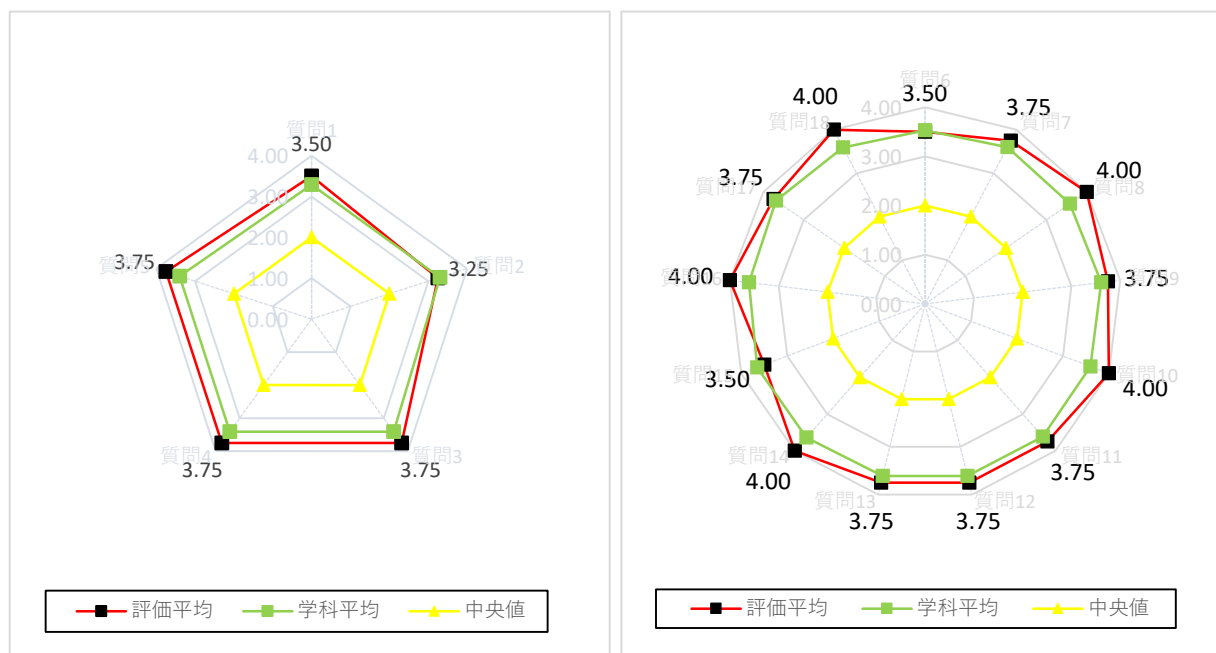
この科目は受講生が5名と少人数であるため、一人一人の興味・関心に応じて内容を決めていった。全体的な評価としては学科平均に届いていない項目が多いものの、殆どの項目で大差ないため、及第点であると考えられる。しかし、出席状況に関する質問1は他の項目に比べて明らかに点数が低い。他にも、受講生自身に関する設問（質問1～質問5）に関しては多くの項目で低い点数となっている。一人一人がリラックスした状態で授業を受けることができていたと思うが、それが良くも悪くも学生の参加姿勢に影響を与えているように思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

引き続き学生の興味・関心に応じた授業を展開することは続けたいと思う。その一方で、より主体的に学ぶという意識づけをしていく必要も感じる。一人一人に役割を与え、発表機会を設けるなど、学生の意欲を引き出す工夫を考えたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

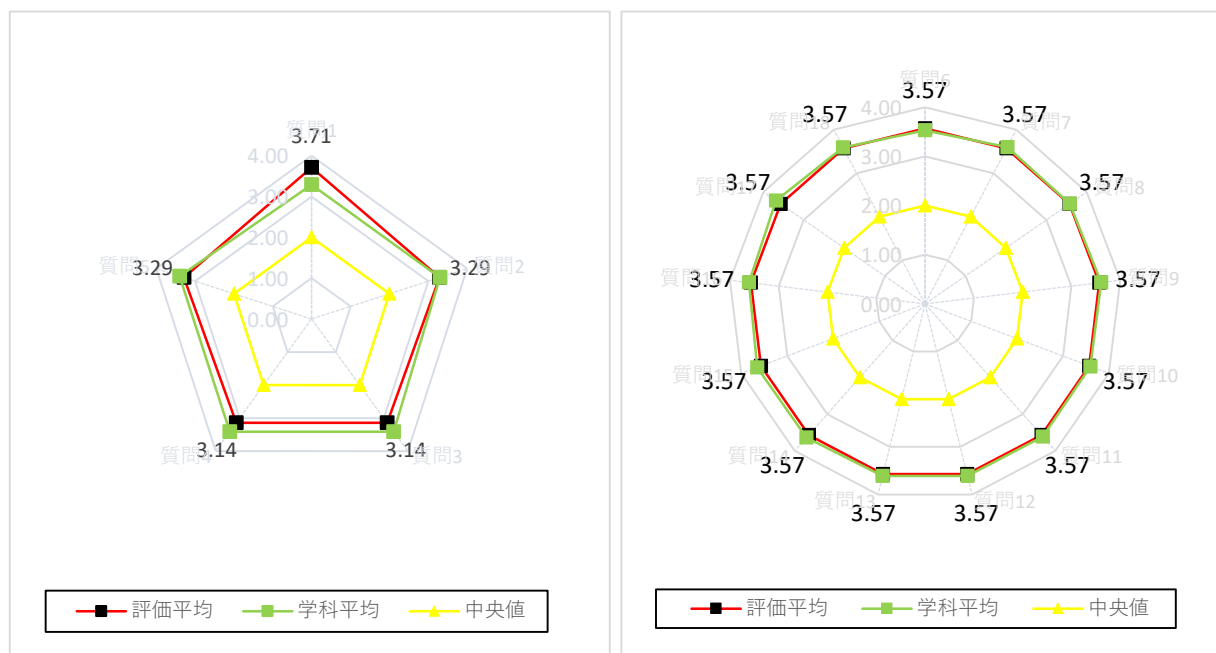
ゼミ活動では学生の取り組んでみたいことをグループで考えながら、その年に取り組む内容を決めている。後期は卒研発表会に向けての資料作成の時間が多かったため、平均的な評価になったと考えられる。もう少し学生の意欲を引き出せるような工夫ができたのではないかと反省している。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生の興味・関心をもとに意欲的に取り組んでいけるよう工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

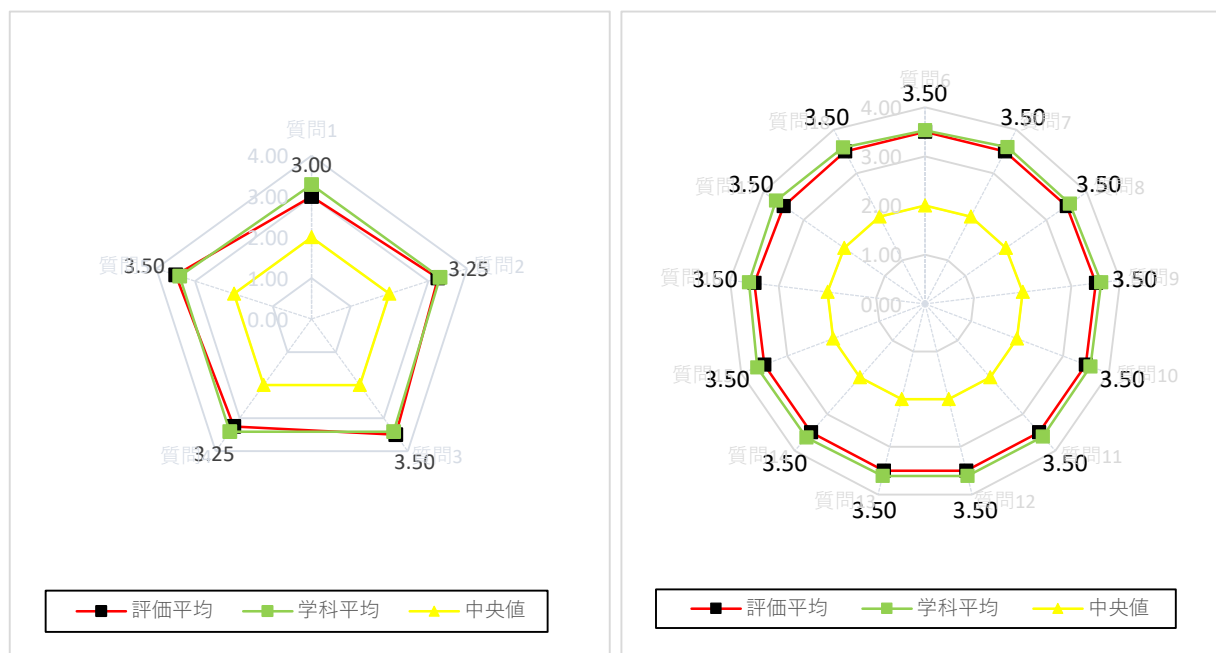
前期の卒業課題研究Ⅰと比べると学科平均を全体的に下回っている。特に前期と後期では教示内容は変えていないが、この時期には学生自身でまとめることが多く、論文をまとめていく手続きの中で難しさを感じていた可能性も考えられる。しかしながら、本ゼミ活動はかなり早い段階でまとめを終わらせており、平均値を下回った理由については冗長的になったことが一番の原因ではないかと分析する。

(3) 次年度に向けての取り組み

全体的に平均値を若干下回った理由は明らかではないが、学生によっては作業が滞るあるいはかなり労力を必要とする場面が見られた。今後はチームとして卒業課題に取り組む際の役割分担など細かい学生指導に関する配慮が必要と思われる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

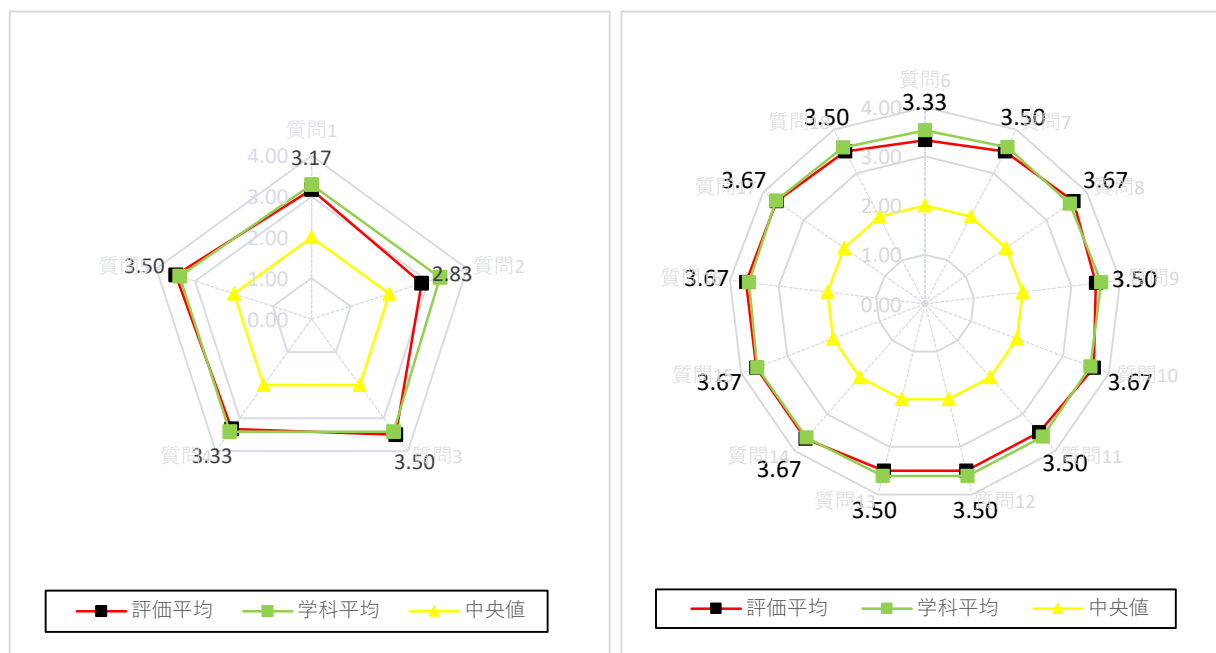
学生自身の授業への取組は学科平均と同程度であり、企画・準備・実践・振り返りの各段階に概ね継続して取り組む姿勢が見られた。教員の授業方法については学科平均をやや下回る結果であったが、その差は大きなものではなく、概ね学科平均に近い水準であった。全体として、学生が実践活動を通して学びを深めることができたと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生一人ひとりの活動状況や課題に応じた助言を行うとともに、活動の目的や見通しをより明確に共有できるよう工夫する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

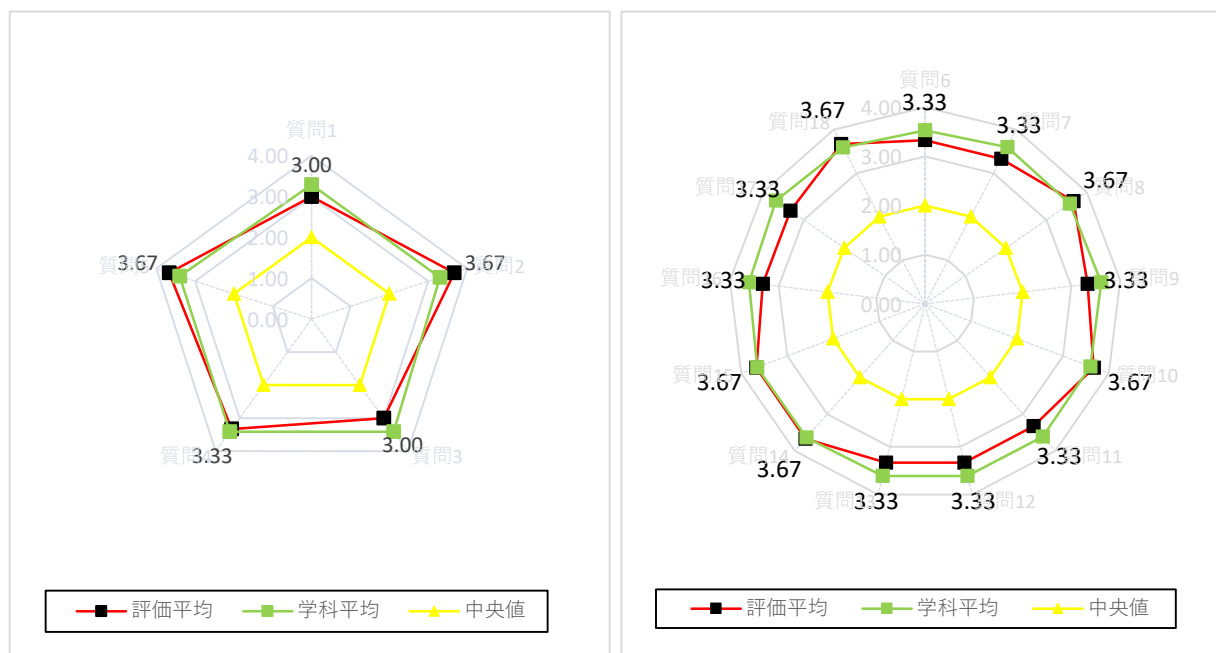
6/7 (86%) の回答であった。
 授業評価の各質問項目においては、総じて学科平均と同程度であった。シラバスの説明が手薄だったことが反省点である。
 ゼミ活動はフィールドワークも取り入れているため、より体験的に取り組むことができたとの声があった。
 少人数だからこそその授業展開が図れたかと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

ゼミ活動においては、次年度においてもフィールドワークを取り入れ、学生が主体的に活動できるように工夫していきたい。
 また、研究発表会においては、学生の整理しまとめる力を伸ばすために、プレゼンテーションの指導にも時間を割いていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

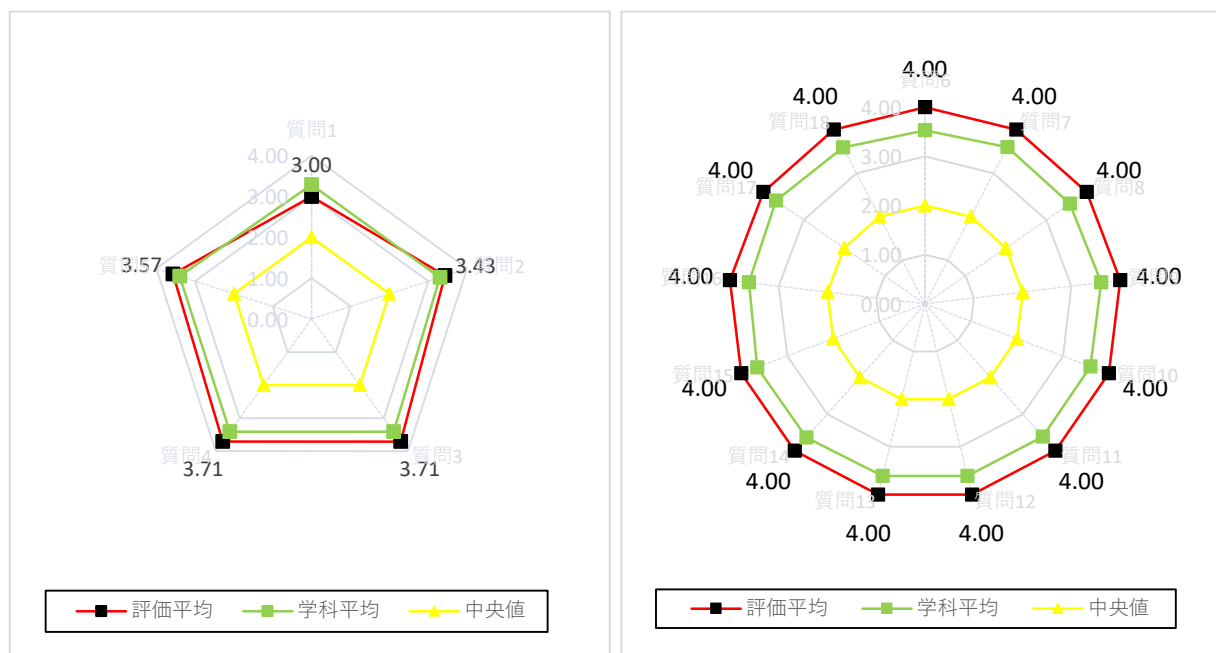
本科目の前期科目（卒業課題研究Ⅰ）と比較すると、評価は改善しているものの、やはり今年度から立ち上げたゼミで、先輩の実績等がない分、保育現場でいかに実践を進めるかの具体的なイメージが持てない中での活動は、学生にとって苦しさがあったのかもしれない。教員自身も初年度のゼミで学生をどう導くかに難しさがあった。しかしながら、保育現場での実践は、現場からも学生自身からも好評ではあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

このアンケートの対象であった4名のゼミ生の頑張りによりできた実績（作成した教材、現場での実践動画、卒業研究抄録）が、次のゼミ生に具体的なイメージを与えてくれることと思う。またそれに加えて、実践の場の見学の機会も計画に組み入れ、学生の実践への不安を排除し、モチベーションを上げるために工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

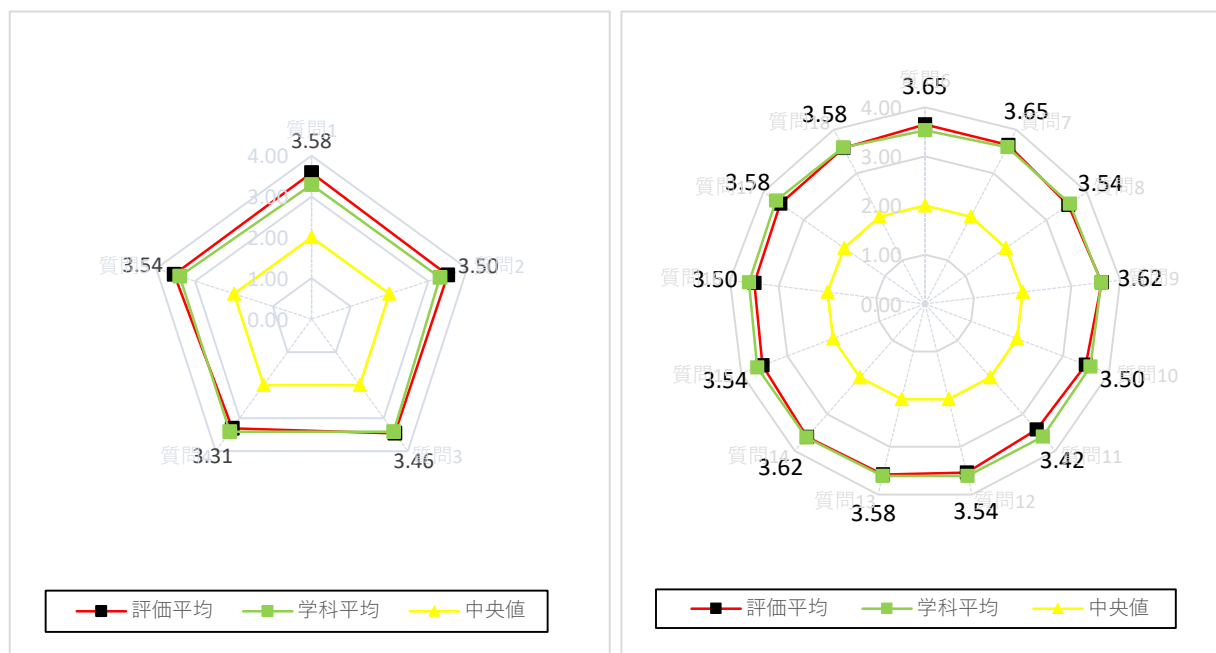
通年の授業（学内、学外における演習含む）実践である。学生の自己評価である「授業は何回欠席しましたか」の質問項目に対する評価が他の質問項目と比較してやや低いのは、体調不良の学生が複数回欠席したことと、休日を利用した学外ワークショップに参加できなかった学生が複数いたためである。昨年度と比較して好転しているのは「あなたはこの授業を期するのために自分で何か工夫したか」という問いに対する回答である。課題にそってそれぞれの学生が授業以外で学びを深めていたことが分かる。授業の進め方について原則シラバスに示した順番で行ってきたが演習場合変更を余儀なくされたことがあった。前期の活動において学生が非常に高い関心を示したのが理念であった。これまで受けてきた図画工作や美術火科の授業が競争と評価の学習スタイルだったことに對し、クリニカルアートが共感と共有を大切にするプログラムであるということで、苦手意識から解放されたという学生もいた。学生たちの表現技術だけでなくカウンセリングマインドを生かした言葉かけのスキルが高まったことは大きな成果であったと捉えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

例年、毎年臨床美術（クリニカルアート）の考え方やスキルを保育現場でどのように生かせるかについて意見交換したり、実際に体験しながら指導者の留意点について考えたり、お互いの完成作品に対して「言葉かけのシミュレーション」を行ったりしている。次年度も、前期ではクリニカルアートに関する理論学習を丁寧に行いたい。そして理論学習を実践力につなげるために保育現場で生かせるレベルのプログラムを体験させたい。毎年のことであるが、特に指導に力を入れているのは、出来上がった作品のシェアリングである。「自尊感情を高める言葉かけ」を「褒めること」とであると捉えている学生も毎年少なくない。無理に褒めるのではなく五感を生かしたコメントができるようなスキルアップを前期では意識して体験させていく。実習に向けた準備でもある。後期の「保育現場におけるプログラム体験」に向けて、発達段階に考慮したモダンテクニックの技法演習にも力を入れたい。そして本物に触れて鑑賞後の感想交流をするというアクティブラーニング型の学びも積極的に取り入れスキルアップにつなげさせたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援学（演習含む）	36名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

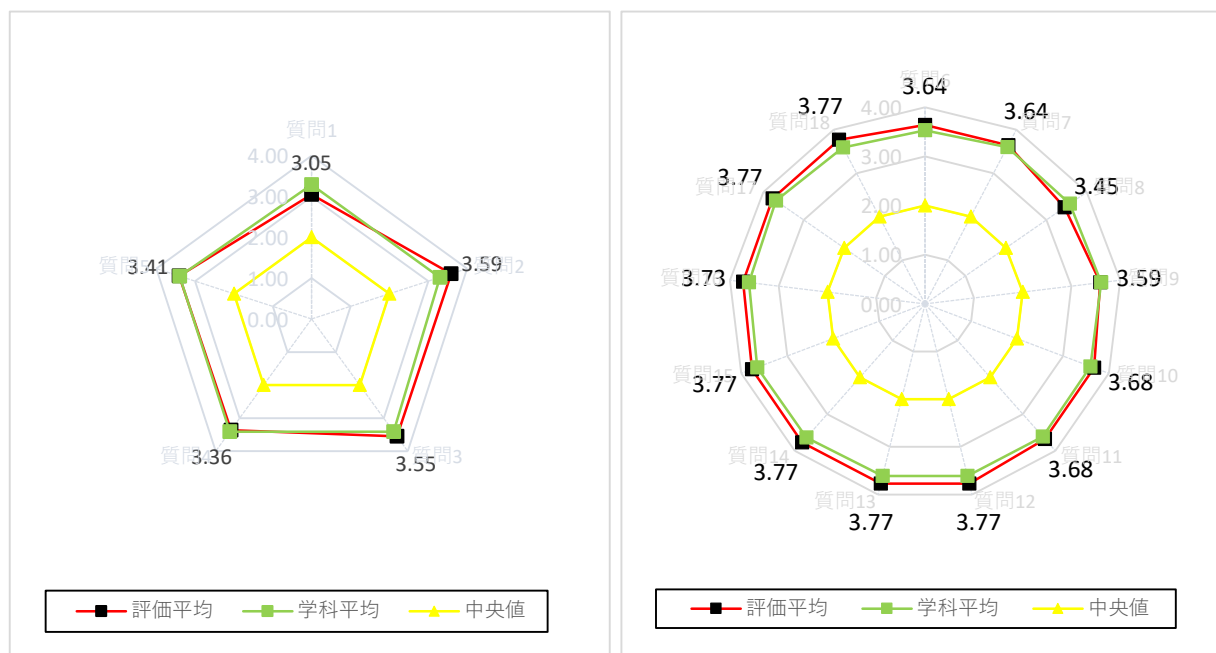
この授業は、コース混合にて、「地域生活支援」をテーマに前期は座学、後期は任意選択の体験活動を取り入れ、最後にグループ発表を行っている。教科書はなく、授業資料を配付している。総合評価は、割の学生が4、4割が3と評価している。授業では学生グループでの意見交換の場を設けて、各コースの学生間での意見の共有や、違いを理解して、他職種協働志向を高めるようにしている。

（３）次年度に向けての取り組み

今後も授業計画、展開法を大きく変えることは想定していないが、学習の区切りでは、教員のファシリテーションを充足させるとともに、学生グループの意見交換では教室巡回において学生との対話の機会も適宜増やしてみたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援学（演習含む）	33名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

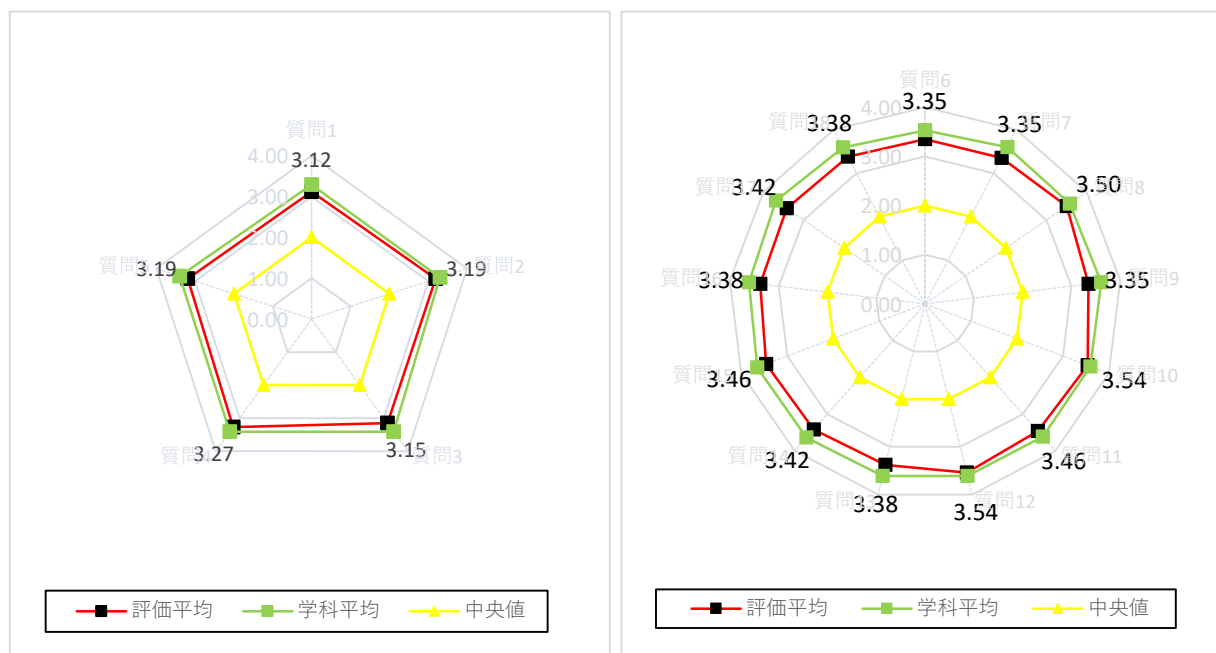
この授業は、コース混合にて、「地域生活支援」をテーマに前期は座学、後期は任意選択の体験活動を取り入れ、最後にグループ発表を行っている。教科書はなく、授業資料を配付している。総合評価は、8割の学生が4、2割が3と評価している。授業では学生グループでの意見交換の場を設けて、各コースの学生間での意見の共有や、違いを理解して、他職種協働志向を高めるようにしている。

（３）次年度に向けての取り組み

今後も授業計画、展開法を大きく変えることは想定していないが、学習の区切りでは、教員のファシリテーションを充足させるとともに、学生グループの意見交換では教室巡回において学生との対話の機会も適宜増やしてみたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	40名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

質問14「学生の質問等に対応したか」や質問15「公平に学生に対応したか」、質問17「授業に熱心に取り組んでいたか」の項目では満点に近い極めて高い数値を示しており、教員の指導姿勢や学生への個別サポートが強く支持されていることが窺える。

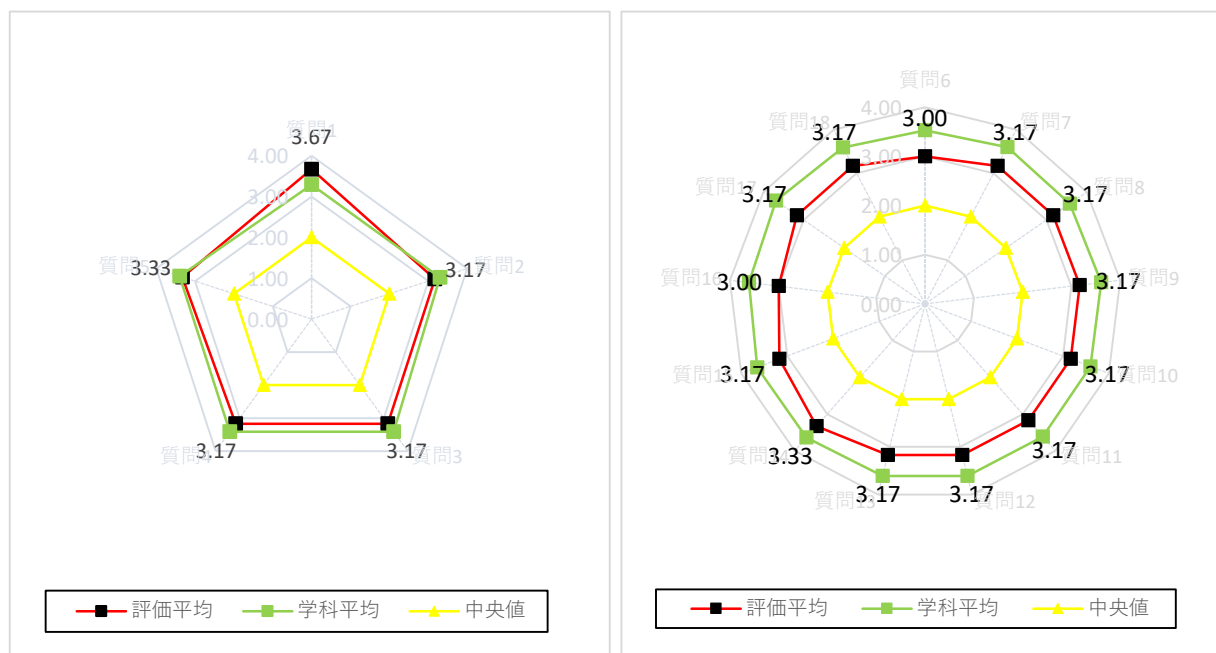
一方で、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真面目に取り組んだか」や質問4「理解するために自分で何か工夫をしたか」といった学生自身の主体的コミットメントに関する項目は、他の項目に比べてやや控えめな数値に留まっている。

（３）次年度に向けての取り組み

学生がより能動的に卒業研究に没頭できるよう、ゼミ内での進捗発表の機会を増やすなど「自発的な探求心と工夫を促す仕掛けづくり」を強化する。これにより、学生自身の学習態度および自己評価のさらなる向上を目指す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	7名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

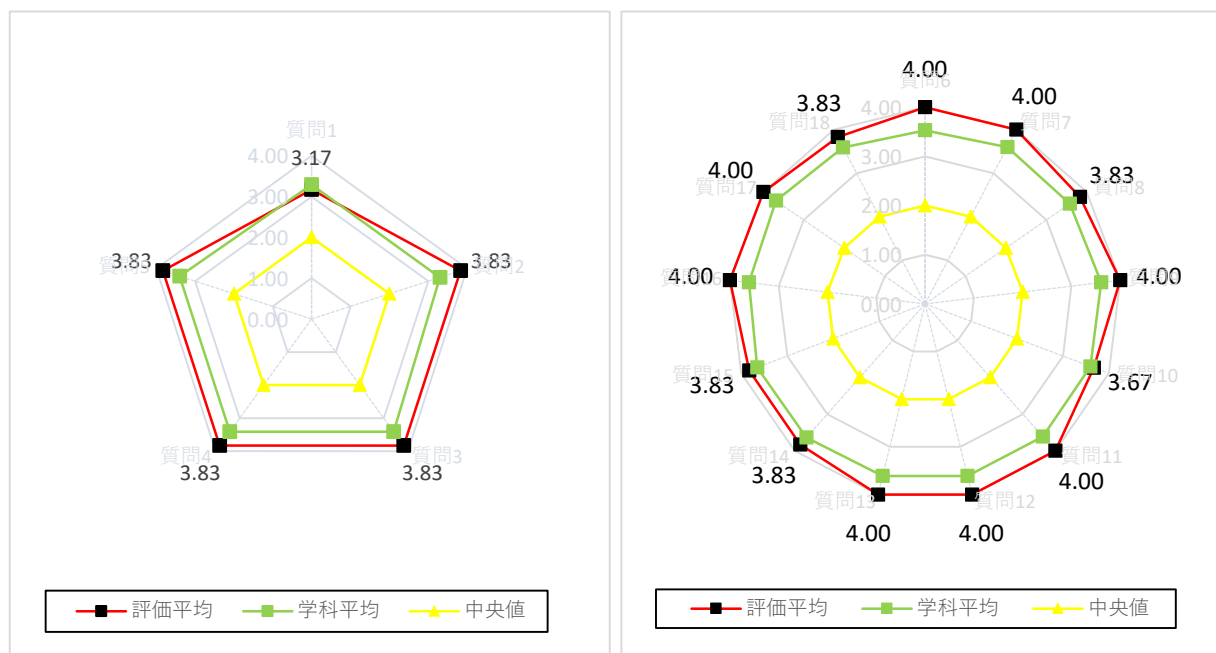
一昨年度より産学連携でレシピ開発を行っている。地域企業の要請を受けて地域の食材を用いたレシピ開発をグループで行ったが、学生によりその興味関心は異なっていた。留学生の出席率が悪いこと、産学連携のため夏休みに多くの活動を進める中でアルバイトで参加できない学生が多いことなどがあり、活動状況は学生間でバラツキがあった。例年と比べゼミのまとまりがなく、リーダー役のがんばる学生に負担がかかっていたこと、商品開発は行えたがその満足度は学生間で異なっていたことが今後の大きな課題である。

（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、今年度の開発レシピを活かした取り組みを行う予定である。その際も学生と密にコミュニケーションを取り、テーマについて話し合い、学生の興味関心を成果に結び付けたい。学外の地域活動など学生の食、栄養の知識、技術を実践できる活動を効果的に取り入れる工夫をして取り組む予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	9名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

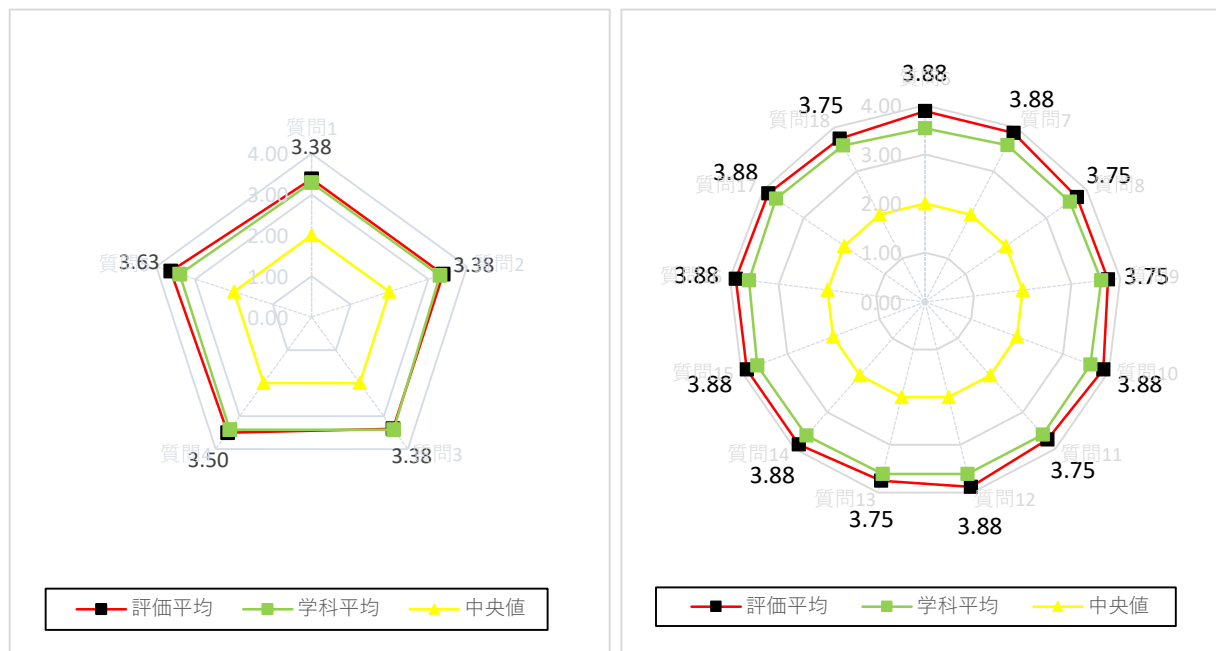
質問1の授業欠席回数以外の項目は、すべて学科平均を上回る結果であった。そもそも卒業研究は、学生が興味のあるテーマについて各自研究を進める上に、場合によっては教員と学生一緒にフィールドワークを行うなど行動範囲も広がり、学生にとっては座学以上に満足感のある授業となったのであろう。また、極少数のグループごとに学生と教員とがディスカッションするこまめに双方向の授業であった。さらに、外部の方々との関りも、学生の重要な学びとなり、高い授業評価の数値となったと考えられる。

（３）次年度に向けての取り組み

次年度も、学生が選んだテーマを尊重し、できるだけ学生自身が積極的に研究に取り組み、自らの探求心を意識しながら意欲的に研究が進められるよう、これまで同様丁寧な個別指導を行いたい。また、見学調査やインタビューなどを通し、外部の方との関りを多く持つことで視野を広げ、より良い研究になるよう支援したいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	9名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

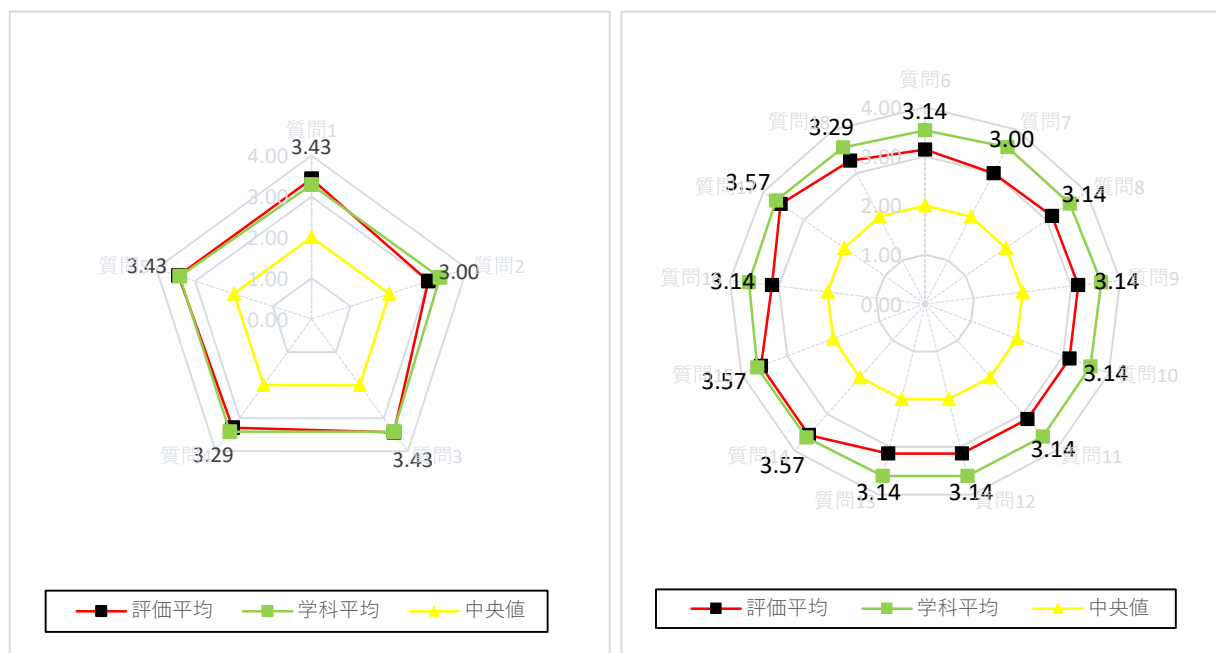
授業評価は回答者8名、回答率100%であり、総合評価は4点満点中3.73であった。質問6～18の授業運営や教員の関わりに関する項目では3.75～3.88と高い評価が得られており、シラバス説明、授業目標の提示、説明のわかりやすさ、質問対応、公平な対応、教員の熱意等について、概ね良好に授業を実施できたと考える。一方で、質問1～5の学生自身の取り組みに関する項目は3.38～3.63であり、授業者の支援に対する評価に比べ、学生の主体的な学習行動には若干の課題が見られる。自由記述はなかったため、具体的な意見の把握には限界があるが、全体として授業運営は良好であったと評価できる。

（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、卒業研究の進め方について、初回段階で到達目標、研究計画、提出期限、評価基準をより具体的に示し、学生が見通しをもって主体的に取り組めるようにする。特に、テーマ設定、文献検索、調査方法、結果の整理、考察の書き方など、学生がつまずきやすい内容については、具体例や記入例を用いて段階的に指導する。また、学生自身の取り組みに関する評価が相対的に低かったことを踏まえ、授業ごとの進捗確認、ミニ課題、個別面談を計画的に実施する。自由記述が得られなかった点については、授業内で簡単な振り返りを行い、学生の困りごとや改善要望を早期に把握し、授業改善につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	7名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

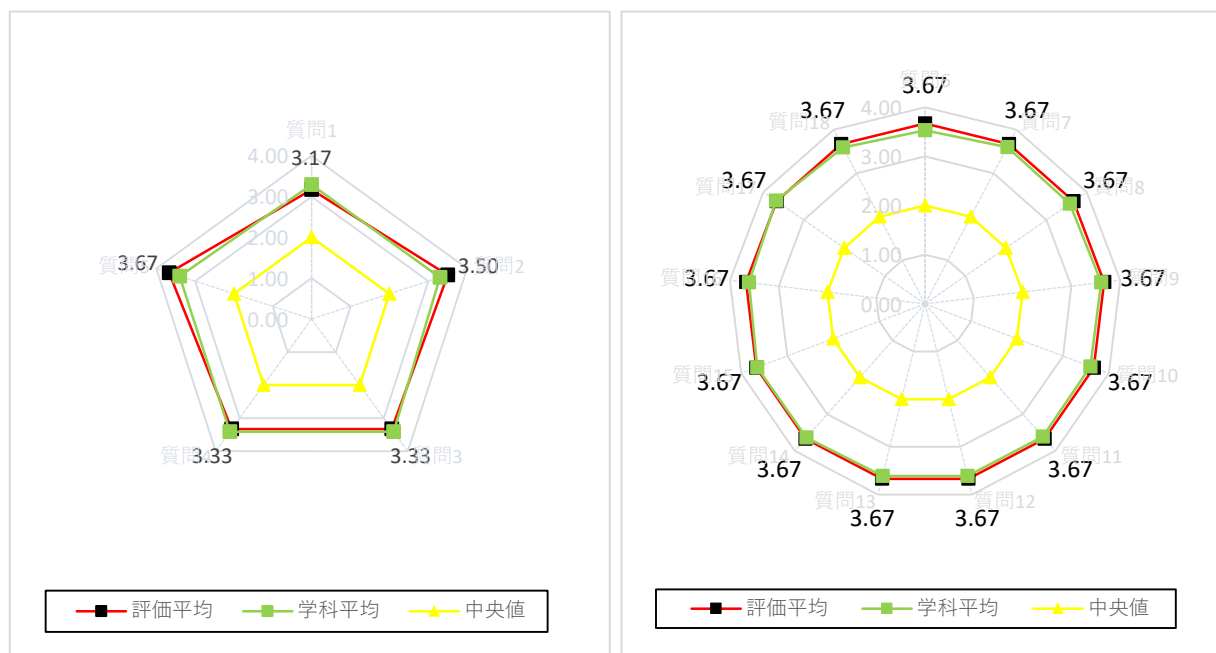
この授業は、1年開講の「地域生活支援学」に続いて、2年生での卒業研究課題を設定して各コースの専門性を深めるものである。教員4名の各ゼミとして、年間を通して教員の指導の下で学生主体的にそれぞれの課題に取り組み、学期末に成果発表を行っている。活動を通して、実践性、協調性や協働志向も養うようにしている。内容においては調理実技系の実践報告的な内容が多く、学術的な面を深く考えることが薄れる傾向がある。授業では、1年間を通して卒業研究課題に取り組み、学期末に成果発表会を実施している。課題は、教員から指示せずに、学生グループ自ら主体的に考え、計画を立てて活動している。自由記入からは、「この授業を通して、食生活と健康の大切さを理解することができました。今後の生活に活かしていきたいです。」といった回答を得た。

（３）次年度に向けての取り組み

今後も、学生自らが課題を発見して、解決していけるよう、主にファシリテーターとして学生指導に臨んでいく。課題の成果だけでなく、取組んできた力を含めて、学生の自信につながるようにしていきたい。実技系の探究は十分行えているので、今後は活動を通して、これらに関連付けた学術的な考察が行えるように、指導の充実を図っていく必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	6名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

この授業では、学生が自らテーマを設定し目標を立てて取り組むため、グループ内でのコミュニケーションを重視して授業を実施している。

授業評価の結果では、学生自身による評価項目Q4「授業の出席回数」は3.17とやや低い結果であったが、総合自己評価は3.67であった。また、教員側の授業内容・方法に関する評価は、すべての項目で3.67であった。総合評価は3.58であり、学科平均と比較すると0.04低い結果となった。

授業では、学生が積極的に参加できるよう双方向のやり取りを取り入れ、質疑応答の時間を設けるなど、興味・関心を高めながら授業を展開した。

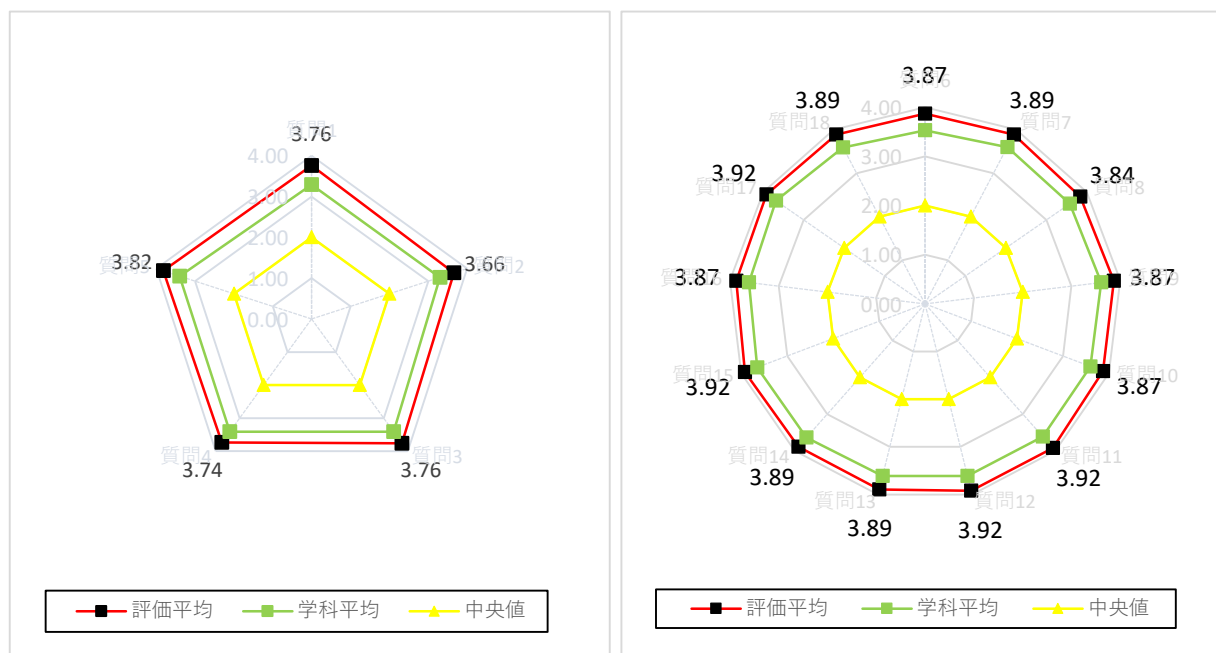
（３）次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みは今年度同様におこなっていく。

- ①シラバスを活用させ目的意識を明確にする。
- ②グループ活動では互いが意見を出し合い、ディスカッションできる環境をつくっていく。
- ③机上・学内だけでなく地域との連携ができるような体制で実施し実践力を高めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育実習 I	56名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全体として学科平均よりも高い評価であった。ただし、この科目は実習であり、特に授業の進め方等に関する項目の中には科目の実施内容にそぐわないものも多く見受けられる。自由記述に「実習頑張りました」といったコメントがあったことから、学生たちは当該科目の授業評価を自身の実習への取り組みに基づいて行った可能性が考えられる。

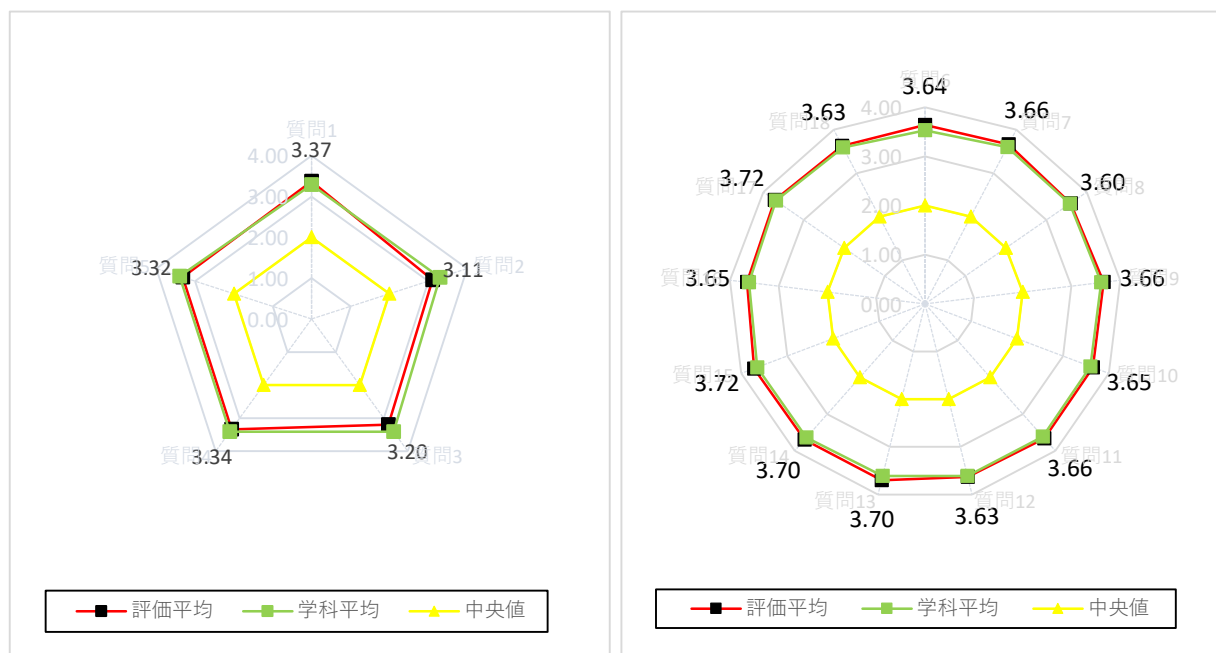
学生が自身の実習での頑張りを肯定的に評価しているのであれば、実習としては価値のあるものになっていると言える。項目ごとの評価というよりは、全体として学生が当該実習を肯定的な体験として捉えていたと考える方が適切かもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習科目のため、授業評価を高めるための工夫は困難である。引き続き、到達目標や実習の意味などを繰り返し伝えながら、学生にとって価値のある実習になるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		情報リテラシー I（実習を含む）	170名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

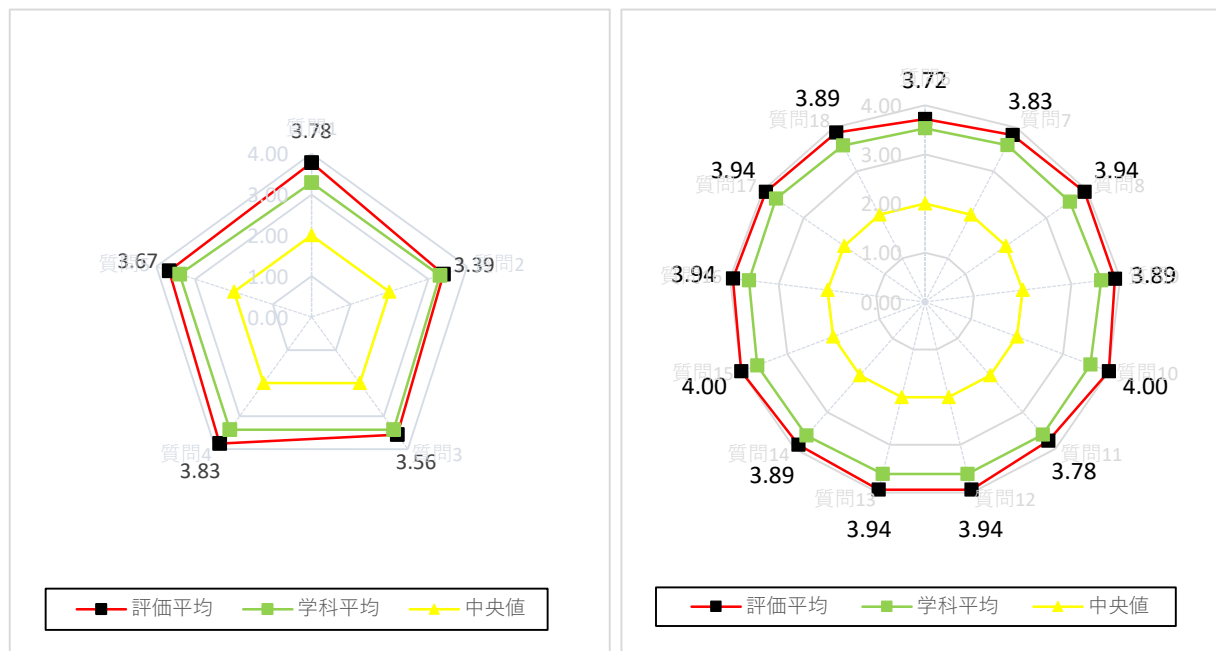
学生の自己評価（質問1?5）では、出席状況やシラバスの活用、真面目な受講姿勢が平均して高い数値を示しており、主体的な取り組みが見られる。一方で、授業に対する教員側の評価（質問6?18）において、評価平均が全体平均を下回る項目が散見される。特に、授業の工夫（質問8）や分かりやすさ（質問9）、板書の工夫（質問10）の項目で凹みが確認でき、授業内容の伝達方法や視覚資料の提示方法において、学生の満足度を十分に満たせなかった可能性がある。

（３）次年度に向けての取り組み

今後は、パワーポイント資料の見直しや、情報の構造化を進め、視覚的な分かりやすさを強化する。また、授業内に小テストや振り返りの時間を設けることで、双方向的なやり取りを増やし、学生の理解度をリアルタイムで把握しながら進行速度を調整する。教員の熱意（質問17）や総合評価（質問18）の向上を目指し、学生の興味関心を惹きつける具体的な事例を用いた授業展開に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		情報リテラシーⅡ	124名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

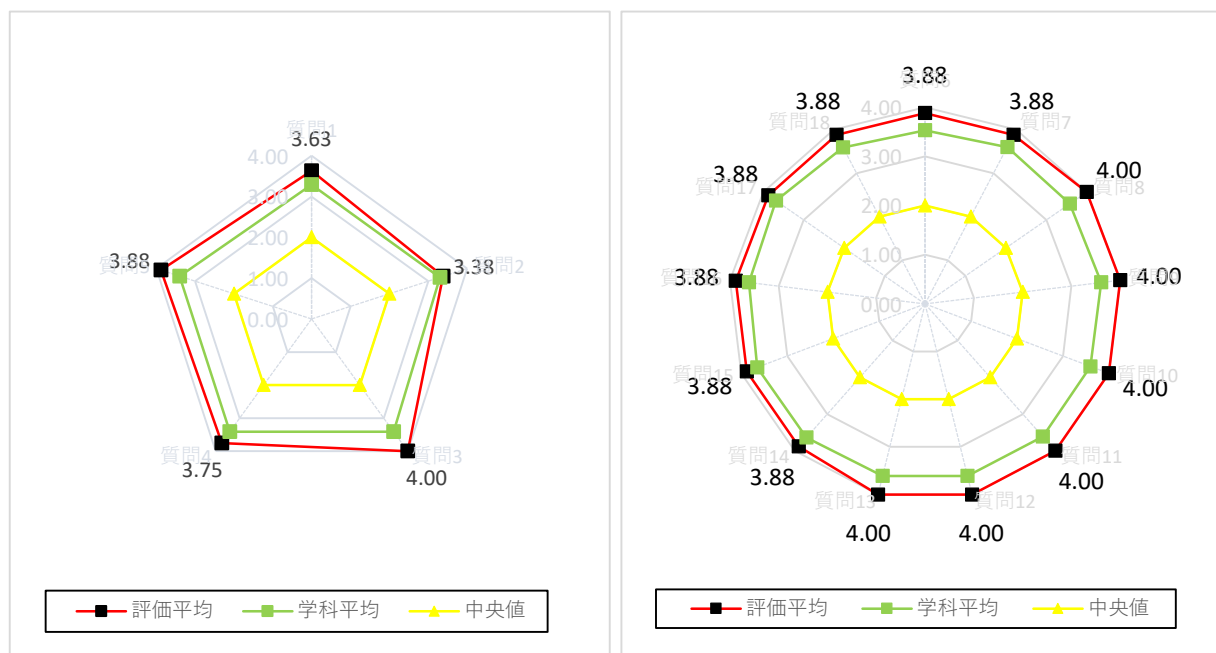
学生の授業への取り組み（質問1?5）では、質問2が比較的低い評価である。このことから、シラバスについての説明が不足していると考えられる。
教員側の評価（質問6～18）でも、質問6が比較的低い評価であることも、シラバスの活用が不足していることがわかる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度へ向けては、シラバスの活用についての改善を行う予定としている。講義の開始時に、シラバスについての説明を丁寧に行うことを心掛けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		レクリエーション演習	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

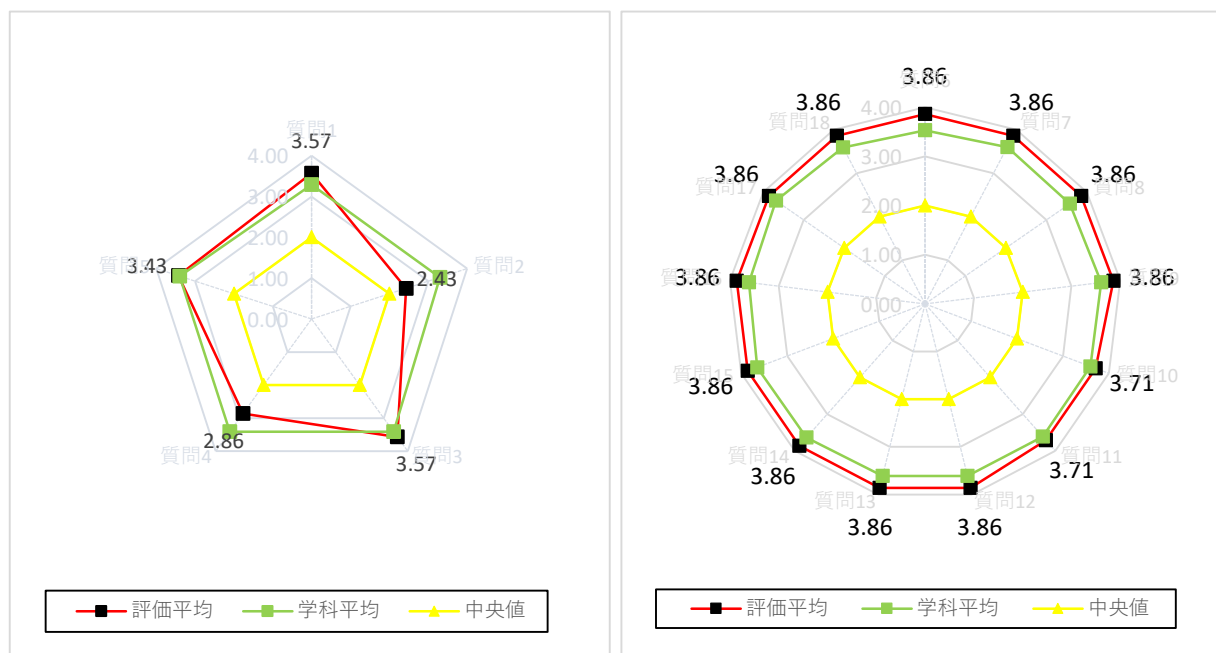
この科目はレクリエーションインストラクター取得に関する実技科目であるが、受講者が少ないため、人数に応じた授業内容を展開した。こちらでレク教材を提供しながら、後半は学生の実践演習の場を設け、支援する側と受ける側の両方の視点から受講者全員で学び合う機会をつくったことも評価につながったのではないかと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も一方的な授業でなく、学生と共に学びあう環境を意識しながら、レクリエーションの価値を伝えることができる授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		レクリエーション実習	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

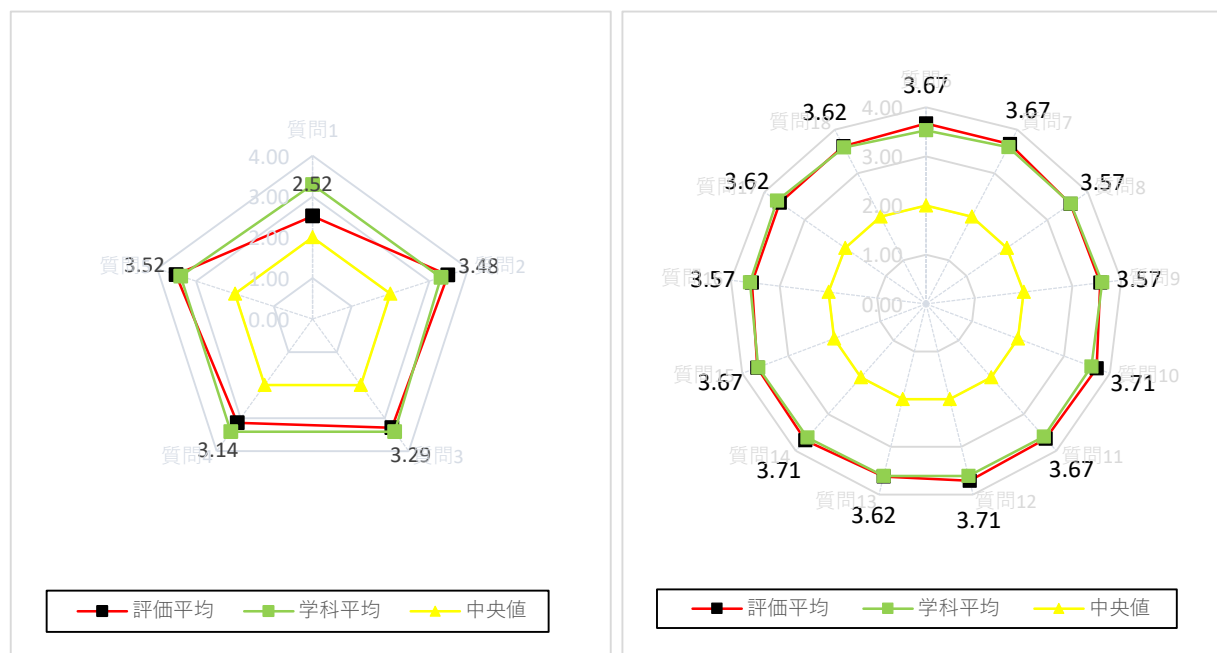
この科目はレクリエーション資格関連科目であり、現場実習として地域レクリエーション協会のイベントや事業に参加している。実習を通してレクリエーション支援の目的や意義について学んでいる。普段の授業とは異なり、地域住民や他大学の学生との交流などがあることも評価につながったのではないかと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き資格取得希望者が意欲的に取り組めるよう工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		アートマネジメント演習	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

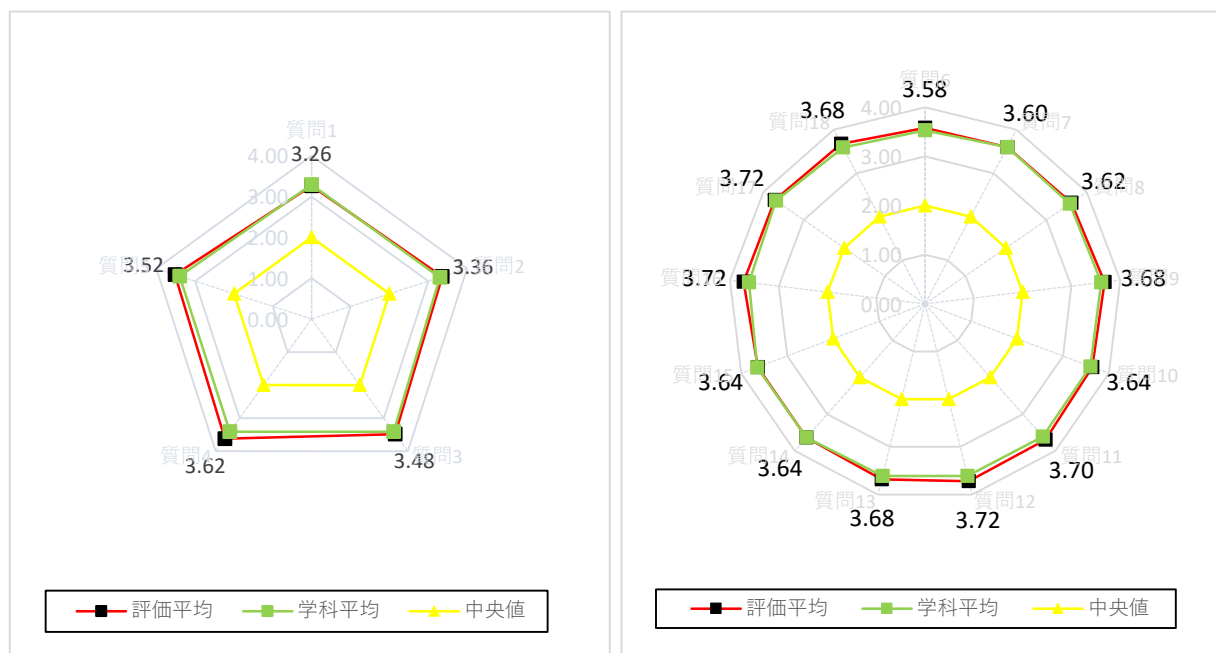
教師の授業内容に関する評価は全体的に高評価である。一方、学生の授業態度に関する質問1の「授業は何回欠席しましたか。」については一部の留学生の欠席が目立ったことで低い評価になっている。専門的な知識の網羅性（美術館運営、文化的政策、広報戦略等）については概要説明を丁寧に行うことができた。実践的なノウハウや事例も紹介する必要がある。実践的な内容については、実際のプロジェクト企画やイベント運営シミュレーションなど、実務に役立つ演習を前年度に引き続き実施した。特に臨床アート（臨床美術）を利用したワークショップでは主体的な学びの姿勢が感じられた。教材・資料の質については、日本臨床美術学会発行のテキストも有効活用しながら内外のアートシーンや地域アートプロジェクトについて最新の情報を提供できた。指導方法の工夫改善については、留学生も受講しているために授業の進行・構成については、基礎から応用へとテーマを整理しながら学生が理解しやすい資料作り及び説明を心がけた。美術作品を鑑賞後、グループディスカッションやプレゼンテーションなど学生参加型のスタイルを取り入れたことで言語活動も活性化した。

(3) 次年度に向けての取り組み

令和8年度は本年度の結果を踏まえ以下の三つの授業改善に力を入れていく。「①アートマネジメントに関する専門知識の網羅性の工夫」「②アートマネジメントが求められる美術館、文化的政策、広報戦略等に関する具体的な事例の紹介」「③学生の就職先における実践的なノウハウの例示。」である。実践的な内容については各種プロジェクトの企画やイベント運営のシミュレーションを取り入れると共に、現場におけるワークショップも継続していきたい。教育機関や行政機関等と連携したワークショップについては次年度も佐賀県や多摩市などと連携して実施する予定である。教材・資料の質の向上については、日本臨床美術学会の資料等活用しながら、具体的な演習内容になるように工夫する。授業の進行や構成については、基礎的な内容から発展的な内容へとテーマをきめ細かに整理しながら学生が理解しやすい資料の作成に努める。授業全体では前年度から継続してアクティブラーニング（主体的・対話的学び）のスタイルを多く取り入れながら、学生主体の課題解決学習的な授業を展開する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		レクリエーション概論	56名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

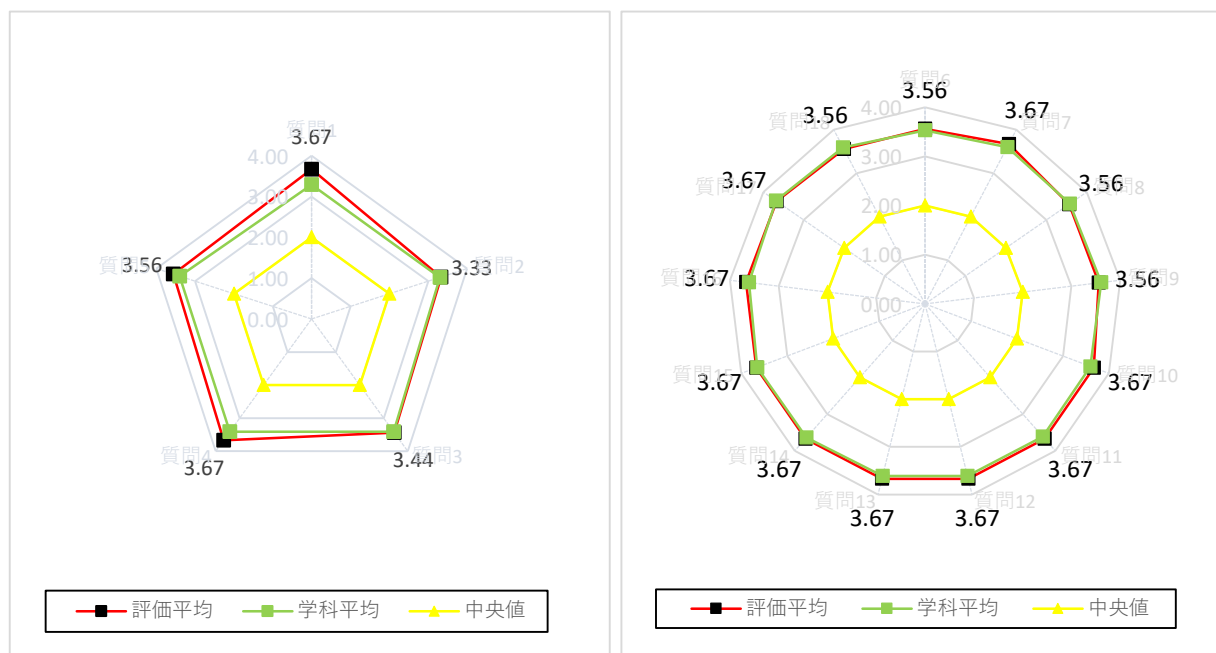
全体的な平均的な評価となった。この科目はレクリエーションインストラクター取得に関連した科目であるが、取得を考えない学生も受講できるため、学生の温度差があるなかでの授業に難しさを感じている。今年度より対面授業に切り替えたものの、留学生が多く受講している中で、レクリエーションの意義や価値について、上手く伝えることができなかったと感じている。

(3) 次年度に向けての取り組み

引き続き、レクリエーションの意義、必要性について学生が理解できるように工夫をしていきたい。また、資格取得を目指す学生、そうでない学生といることを理解しつつ、授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの支援Ⅰ（基礎・実習）	15名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

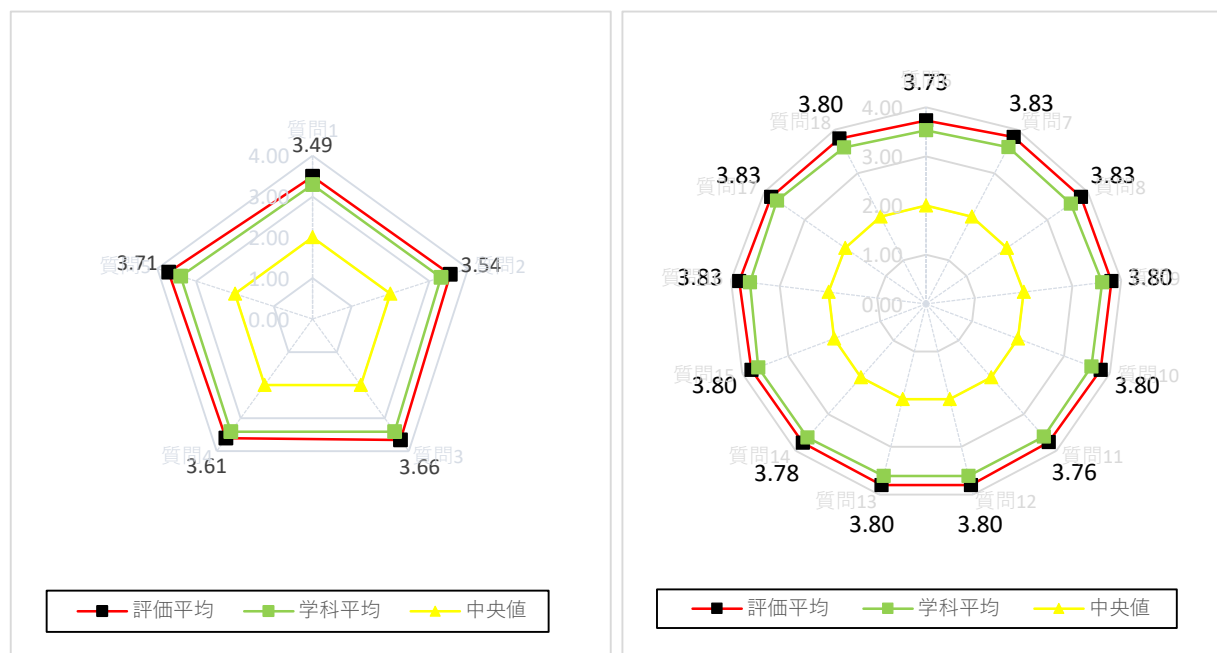
この授業は講義と実習から成り立っており、特に実習については長い時間をかけて子どもたちと直接触れ合い、実践的に学んでいくことが求められる。その為、欠席は少なく、また自身で工夫をしないと子どもへの対応がうまくいかない。その為、質問1から5については比較的高い評価になったのではないかと予想される。その他の評価項目については学科の平均とほぼ同じである。本科目は実践的な授業である為に一概にこの評価項目では評価することは難しい。自由記述については特に回答がなかったが、毎回の実習の振り返りノートで自身の振り返りを行っている。

（３）次年度に向けての取り組み

本科目は大学コンソーシアム佐賀内で決められた内容で進めている。特に工夫する点については、本学の実践活動に参加する子どもの数にばらつき（欠席することが多々あった）がある為に、手ごたえのある臨床経験としては不十分だったと思われる。実習内の役割等について再検討が必要だろう。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		あすなろう体験Ⅰ	56名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

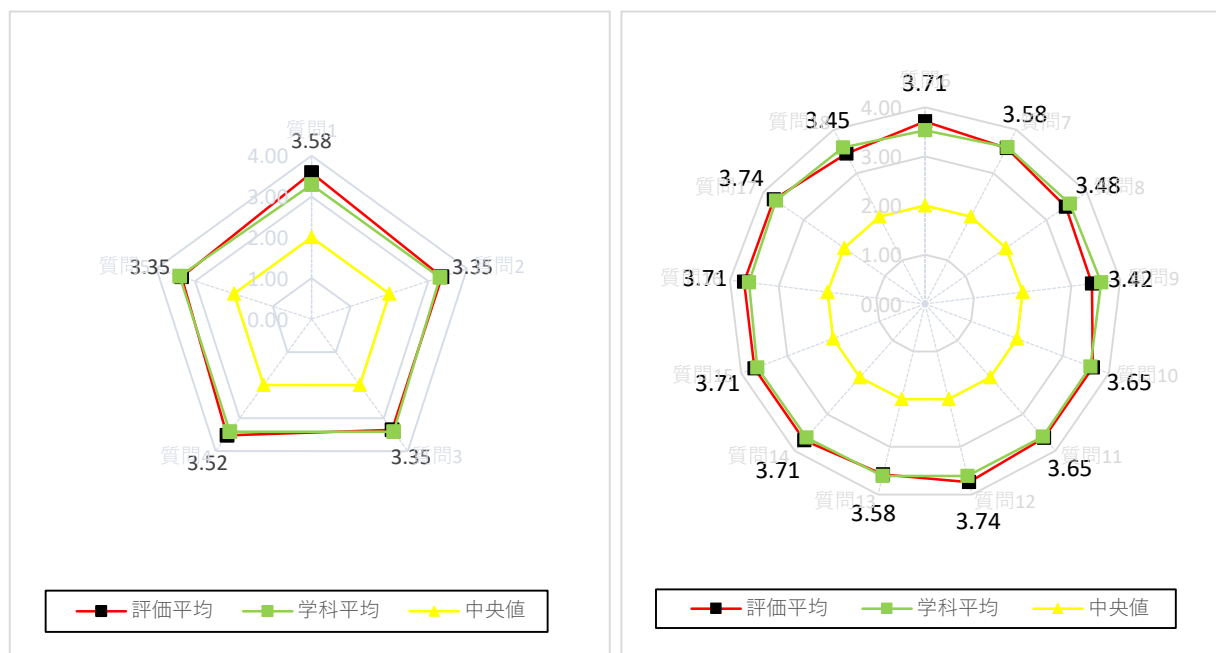
特に目立って高いスコアはないが、すべての評価項目について学科平均を上回っている。自由記述については、「壁面の画案頑張りました。」「みんなと協力して製作できました。」とコメントがあり、学生の自主的な学習への意欲や協力して活動を進める態度が見受けられる。本授業の大きな狙いは保育士養成に係る基礎的な実践力を身に付けるところにあり、授業内容から察すると概ね達成できていると考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

課題としては、今回の調査に表れていないが、途中から欠席者が目立ち始め、イベント等の終了後のモチベーションの維持が難しいと感じている。授業内容が「保育研修（体験型）」「三光附属園見学（発見型）」「わくわくフェスタ準備と参加（体験型）」、最後に「親子いきいき広場の準備（作業活動）」となっており、最後の準備の期間になると欠席が増えてきた為、次年度のビジョンを明らかにして、何を目標しているのか、学生の目標を明確にすることが重要と思われる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品衛生学	32名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

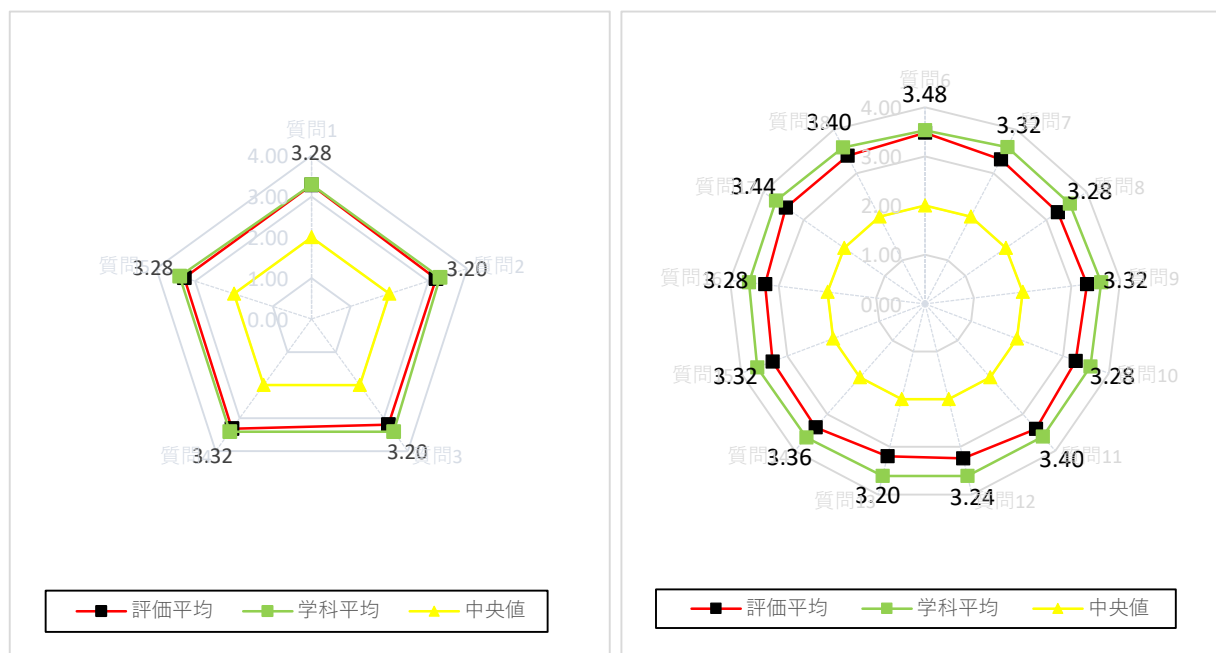
学生による自己評価は、学科平均とほぼ同等の値であった。
授業評価については、学科平均とほぼ同等の値を示した。
留学生が加わったことで授業スピードを少しゆっくりと進め、日本の事情と留学生の母国の事情を問うような質問を投げかけを試みた。次年度も留学生と日本学生との混合クラスとなるのでこれら試みについて継続していきたい。
自由アンケートの中に「食品衛生について基礎から学ぶことができ、とても勉強になりました。今後の日常生活や仕事にも活かしていきたいです。ありがとうございました。」などの声が寄せられた。このような学生の声を参考と励みにして、今後もさらにその時の学生に対応した授業展開の工夫を行い、授業改善に努めたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も今年度同様、文化の違う学生同士の相互理解を意識した双方向授業について検討し、グループワークやペアワーク、学生が主体的に考え発言できる機会を少しでも増やしたい。また、関連で興味関心に結びつく話題の提供などを行い、学生の学ぶ意欲を高める授業内容について検討して授業の充実を図る予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品衛生学実験	25名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

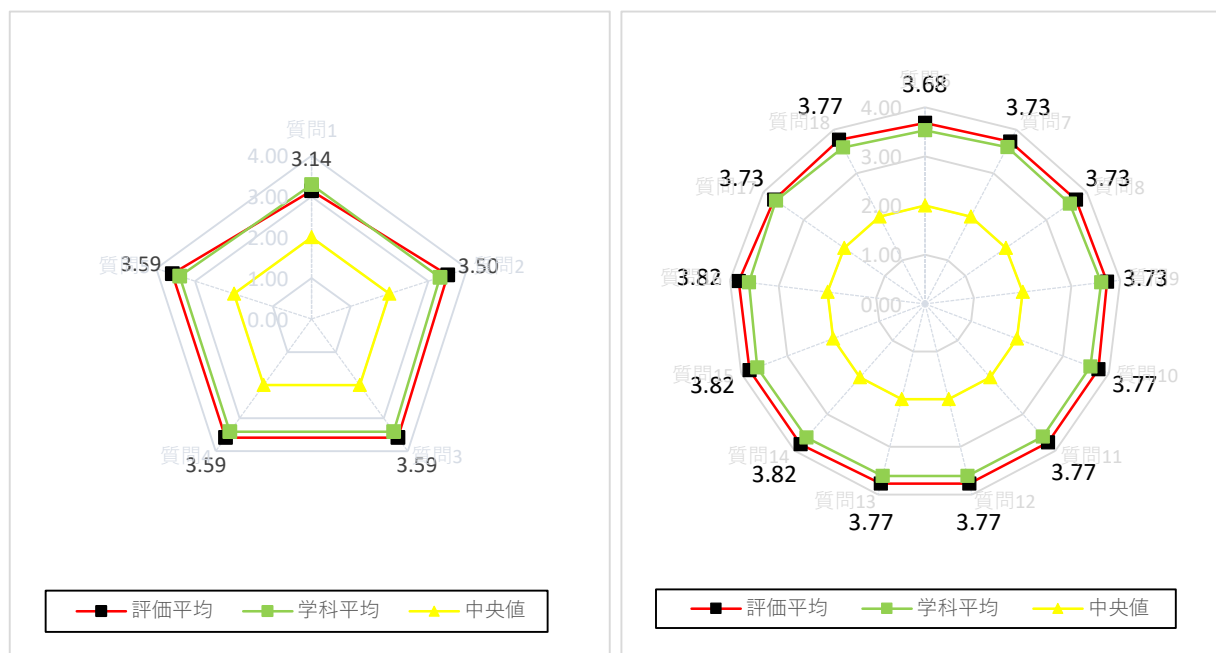
学生の自己評価は、学科平均値よりやや下回っている。授業についての評価も学科平均値より低値を示している。留学生も増える中、実験が苦手な学生も多くみられる。今の学生に対応できるよう、学生とのコミュニケーションや学生の自発的活動、実験項目に対する興味関心を引き起こす工夫が足りなかったと感じる。今後一層の内容、展開の工夫を検討したい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、今年度の授業を振り返り、授業内容を再検討していきたい。前半は食品学実験で、後半を当該科目で展開しているので、両科目の棲み分けをさらに検討し、実験内容と授業展開の改善に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養指導論 I	33名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

栄養指導論 I は、栄養士の専門科目として、人々の健康の維持・増進を図るため、正しい食生活の確立に向けた栄養指導の基本的な考え方や実践方法を学ぶ科目である。

授業評価の結果、学生自身による評価では、Q1「授業は何回欠席しましたか」が3.14と比較的低かった。一方で、Q3「授業への取り組み」およびQ4「授業の工夫」はともに3.59であり、積極的な学習姿勢がうかがえた。また、シラバスの活用に関する評価は3.62と高く、総合自己評価は3.59であった。

授業内容・方法に関する評価では、Q14「学生に誠実に対応しましたか」、Q15「公平に対応しましたか」、Q16「双方向的なやり取りで授業を行っていましたか」が3.82と高い評価を得ており、授業に対する満足度の高さがうかがえた。この授業の総合評価は3.77であり、学科平均を0.14上回った。

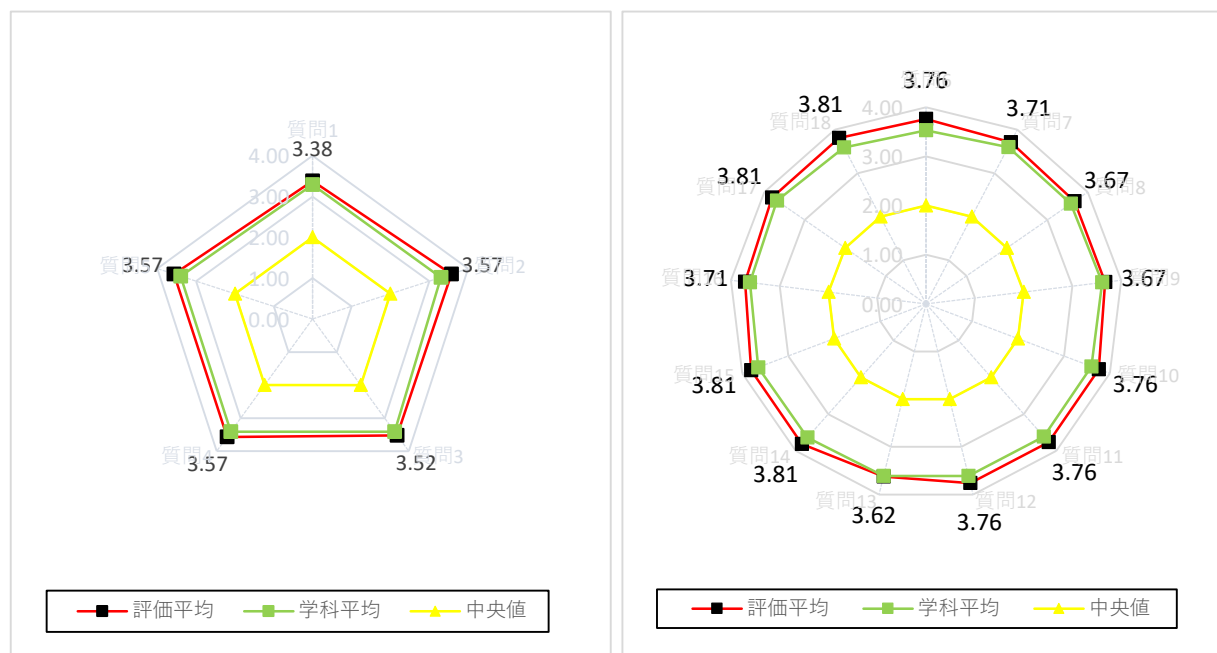
自由記述では、「テキストに沿ってスライドが丁寧に構成されており、理解しやすかった」「対象者一人ひとりの生活や状況に合わせた指導の大切さを、具体的な事例を通して理解できた」等があり本授業は栄養指導の基礎知識と実践的な視点で学べる内容として、評価されている。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は評価が低かった「出席状況」の改善に向けて、魅力ある授業内容を展開し出席率を高めたいと思う。そのためには、学生の自己評価で質疑応答の時間を設けて興味・関心をもたせながら双方向的な学習につなげていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養指導論実習Ⅰ	33名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

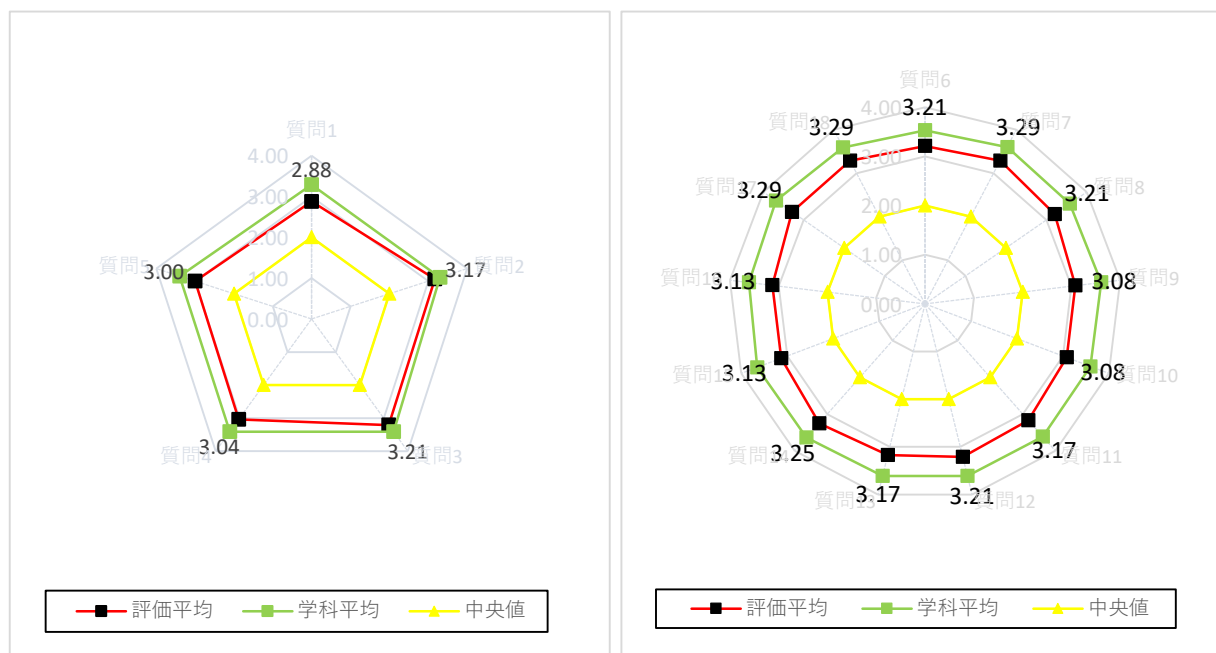
この授業は栄養士の専門科目である栄養指導論で習得した知識を実地または実物について実際に学びながら将来現場で栄養指導に役立つ力を修得していく授業である。授業評価の結果では、Q1「授業は何回欠席しましたか」が3.38と比較的低い値であった。また、学生自身の総合評価は3.57であった。一方、教員側の授業内容・方法に関する評価では、Q14「学生に誠実に対応しましたか」、Q15「公平に対応しましたか」、Q17「教員は熱心に授業に取り組みましたか」がいずれも3.81と高い評価を得ており、授業に対する満足度の高さがうかがえた。授業全体の総合評価は3.81で、学科平均を0.18上回る結果となった。学生からは、「発表について、準備が十分な学生と準備が間に合っていない学生が混在しており、努力した学生がより適切に評価される工夫があるとよいと感じました」とのコメントがあった。発表に関する評価については、発表内容だけでなく、準備状況や取り組み過程も含めた総合的な評価を行っている。今後は評価基準についてさらに丁寧に説明し、学生の理解を深められるよう努めたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後の取り組みとして各項目の評価を高めていくことと、この科目の実習は実践的要素が含まれているので理解しやすい科目である。今後も興味・関心を持てるように分かりやすい内容で授業を展開し、予習・復習を習慣化させ積極的に学ぶ力を修得させていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養指導論Ⅱ	26名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

栄養指導論Ⅱの科目は栄養士資格必修科目である。栄養指導論Ⅰの授業内容を踏まえてライフステージ別に日常生活に即した内容である。授業評価の結果では、学生自身の総合評価は3.00であった。また、Q1「授業は何回欠席しましたか」は2.88と比較的低い結果であり、出席状況や受講姿勢について課題がみられた。一方、教員側の評価は3.08～3.29で推移し、総合評価は3.29であった。しかしながら、この値は学科平均と比較して0.34低い結果となった。

項目別では、Q9「授業は分かりやすくする工夫がなされていたか」、Q10「視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか」の評価が相対的に低かった。今後は、スライドや板書の構成をより整理し、図表や具体例を効果的に活用することで、授業内容の理解を深められるよう改善を図りたい。また、視聴覚教材の活用方法についても見直し、より分かりやすい授業運営に努める。

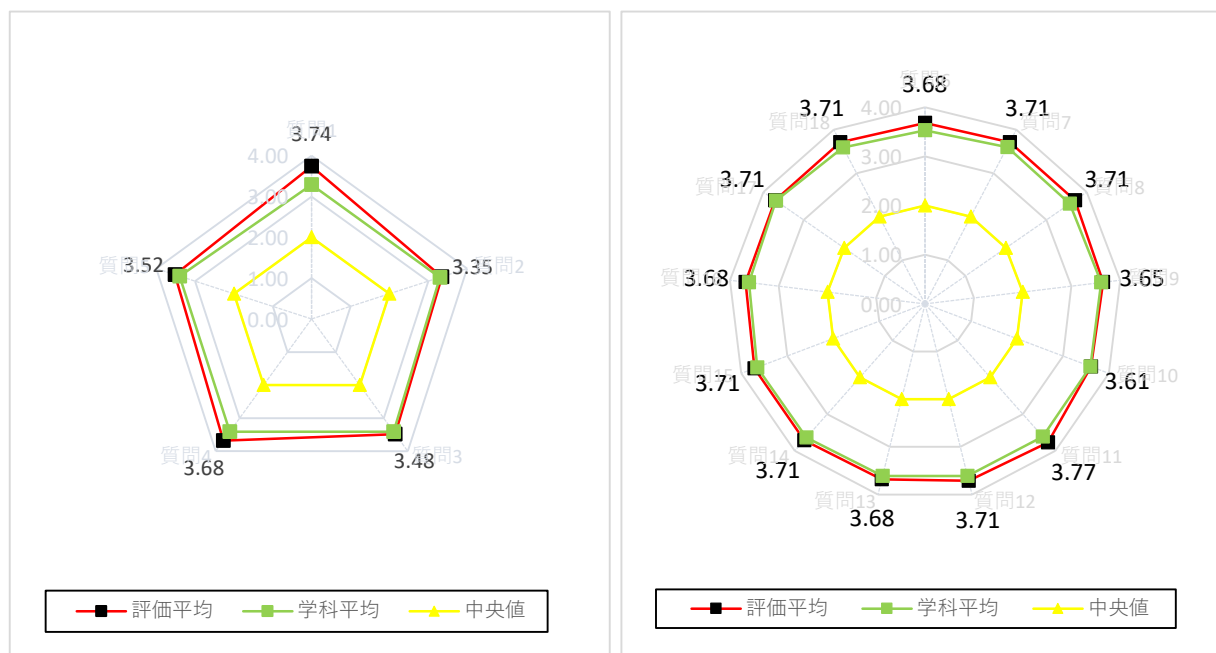
学生からの自由記述コメントはなかったが、今回の評価結果を真摯に受け止め、授業内容や提示方法の改善を継続して行っていく。今後も学生の理解度向上と学習意欲の向上を目指した授業づくりに取り組みたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後は、学習成果の向上を目指し、授業内容を分かりやすく伝えるための工夫を重ねるとともに、スライドや板書を効果的に活用していく。また、毎回の課題に対して丁寧な解答・解説を行い、学生の学力向上につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理学	32名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

調理学は、日常的な調理操作の基礎を科学的に理解し、調理実習へと結び付けることを目的として授業を展開した。

学生による自己評価では、Q1「授業は何回欠席しましたか」が3.74と比較的高い値であった、総合自己評価は3.52であり、概ね良好な評価が得られた。教員に対する評価についても総合評価は3.68で、学科平均を0.05上回る結果となった。

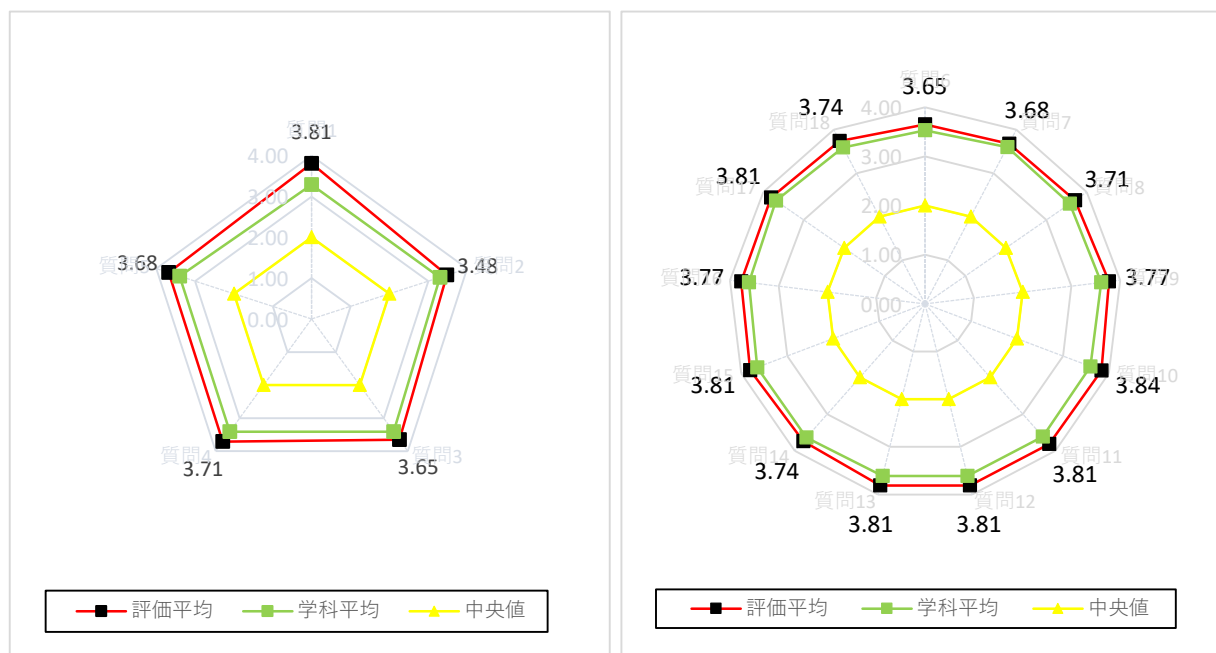
自由記述では、「生活に役立つ内容である」「説明が理解しやすい」「授業時間内に課題まで終わらせる点が良い」といった意見が見られた。また、「日本料理だけでなく中国料理や西洋料理についても理解できた」「重要な箇所が色分けや太字で示されており分かりやすかった」「画像が多く理解しやすかった」など、授業資料や視覚的な工夫に対する肯定的な評価も多く寄せられた。さらに、「課題にしっかり取り組むことができた」との意見から、学習活動への主体的な参加も促すことができたと考えられる。今後も、調理実習との関連性を意識した授業内容の充実を図るとともに、学生がより主体的に学べる環境づくりに努めていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

教科書と併用したスライドに語句の解説や写真を取り入れたことで、分かりやすい授業であったことがうかがえた。次年度は、さらに分かりやすいスライドの作成に努めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理実習（日本料理）	32名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

この授業評価結果からは、基礎調理の授業が概ね良好に運営され、学生の学習意欲や満足度の向上につながったことがうかがえる。学生自身の「授業参加態度」は3.81と高く、総合自己評価も3.68であったことから、学生が主体的に授業へ取り組んでいたことが示された。教員側への評価も3.71～3.84と安定して高く、総合評価は3.74で学科平均を0.11上回ったことから、本授業の教育効果は一定程度達成されたと考えられる。

自由記述では、「大好きな授業です」「調理の基礎から応用まで学ぶことができた」「班の人とのコミュニケーションを深めることができた」「留学生と協力して調理し絆が深まった」といった意見から、実習を通じた協働学習や交流促進の効果が確認できた。さらに、教員による事前準備やデモンストレーションについても、実習を円滑に進める上で高く評価されていた。一方で、「栄養計算が難しかったので、もう少し詳しい説明が欲しかった」「調理実習の作業順序を考えるのが難しかったため、事前説明やヒントが欲しい」の意見もあり、栄養計算や実習計画に関する学習も強化していく。

（３）次年度に向けての取り組み

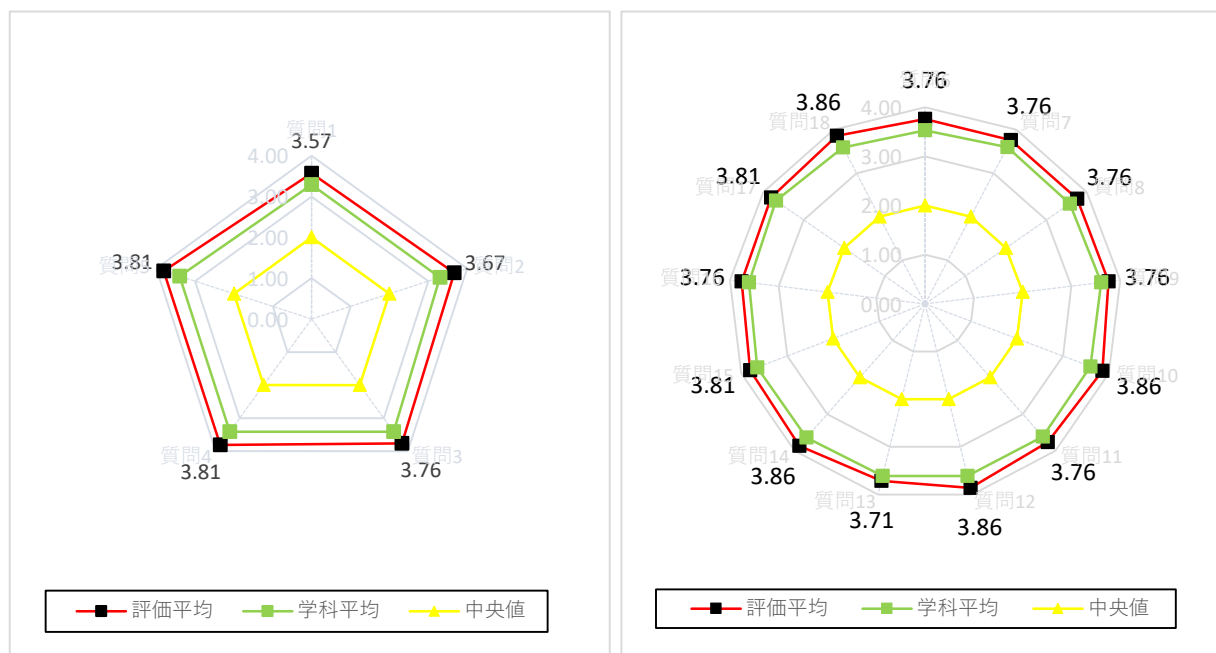
概ね良好な結果が得られたことから、次年度も引き続き工夫を重ねながら、魅力ある授業づくりに努めていきたい。

今後も、これまでと同様に以下の内容を中心として実習を展開する。

- ① 授業内容の理解を深めるため、これまで同様に実習カードを事前に配布し、予習に取り組ませる。また、実習後には家庭での再実習を必ず行うよう指導し、実習前後の家庭学習の充実を図る。
- ② 学生の学習意欲や技術力、生活環境には個人差が大きいため、調理技術の習得だけでなく、グループ実習を通して積極性・協調性・指導力・マナーなども併せて育成する。また、人間形成の場として互いに学び合いながら実践的な実習ができるよう指導していく。
- ③ 包丁の扱いをはじめとする基礎的な調理技術の向上に努めるとともに、大量調理へ円滑に移行できるよう段階的な訓練を行う。
- ④ 実習時間の配分を明確にし、メリハリのある実習を展開することで、学習意欲の向上を図る。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理実習（西洋料理）	33名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は、栄養士として即戦力を高めるために必要な調理技術等を習得させる基礎調理である。技術習得を目的として、材料の特殊な切り方や調理操作については、理解しやすいように具体的なイメージを持たせながら説明を行った。また、特殊な調理操作についてはデモンストレーションを併用し、実際の動きを視覚的に確認できるよう工夫しながら授業を進めた。

その結果、学生自身の総合自己評価は3.81であった。授業内容・方法に関する各項目もすべて良好であり、評価は3.7～3.86の範囲であった。総合評価は3.86であり、学科平均と比較すると0.23高い結果となった。学生からの自由記述では、「実習班のメンバーに慣れてきた頃にメンバー変更があり、負担を感じた。変更に関する説明や配慮があると安心して取り組める」といった意見が見られた。一方で、「実習を通して西洋料理の基本的な調理方法や盛り付けを学ぶことができた」「食材の下処理や加熱方法の違いによって味や見た目が変化することを実感した」「教員の指導が丁寧で分かりやすく、安心して実習に取り組めた」といった肯定的な評価もあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

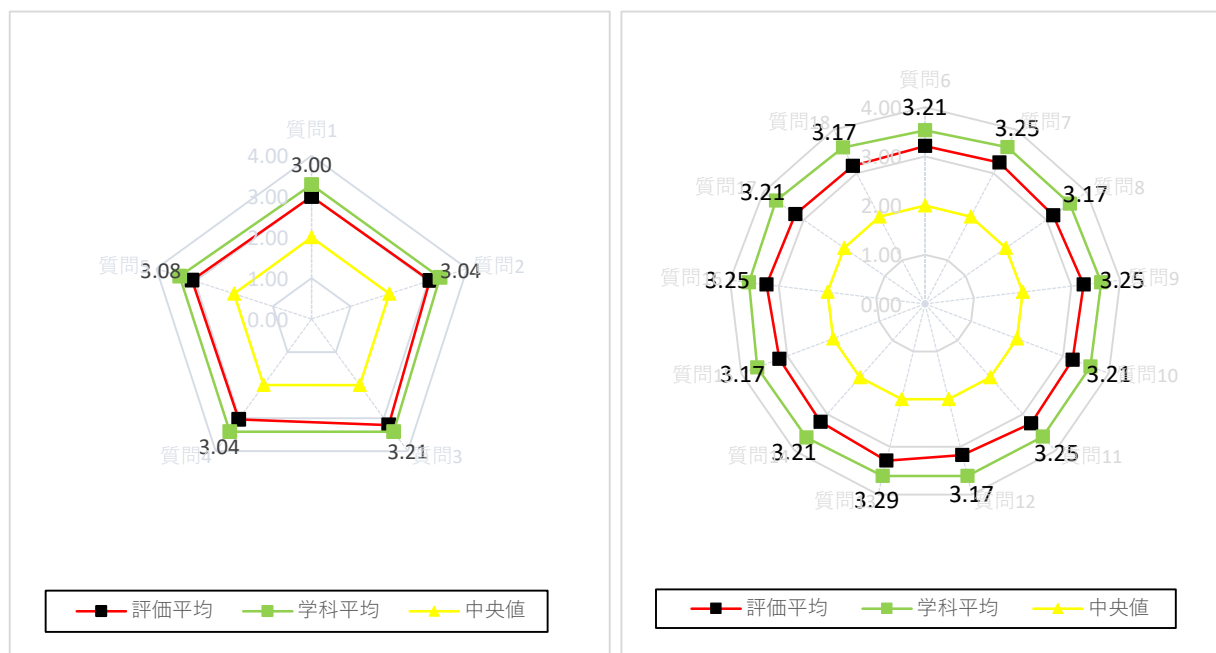
概ね良好な結果が得られたことから、次年度も引き続き工夫を重ねながら、魅力ある授業づくりに努めていきたい。

今後も、これまでと同様に以下の内容を中心として実習を展開する。

- ① 授業内容の理解を深めるため、これまで同様に実習カードを事前に配布し、予習に取り組ませる。また、実習後には家庭での再実習を必ず行うよう指導し、実習前後の家庭学習の充実を図る。
- ② 学生の学習意欲や技術力、生活環境には個人差が大きいため、調理技術の習得だけでなく、グループ実習を通して積極性・協調性・指導力・マナーなども併せて育成する。また、人間形成の場として互いに学び合いながら実践的な実習ができるよう指導していく。
- ③ 包丁の扱いをはじめとする基礎的な調理技術の向上に努めるとともに、大量調理へ円滑に移行できるよう段階的な訓練を行う。
- ④ 実習時間の配分を明確にし、メリハリのある実習を展開することで、学習意欲の向上を図る。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理実習（中国料理）	26名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

この授業は2年後期に開講される科目であり、栄養士として即戦力となるために必要な調理技術等を習得させる基礎調理である。学生は既に1年次に日本料理および西洋料理の基礎を修得している。初回授業では、中国料理の特徴や特殊な食材、調理器具について解説を行った。また、技術習得を目的として、材料の特殊な切り方や調理操作が理解できるよう、デモンストレーションを取り入れながら授業を進めた。

学生による自己評価では、Q1「授業の欠席回数」が3.00と低く、総合自己評価も3.08と低い結果となった。また、教員に対する評価においても総合評価は3.17であり、学科平均を0.46下回った。一方、自由記述では「前年度と違い、レシピカードに記載されていなかったポイントや、合わせる調味料について事前にホワイトボードに書かれていたため、授業がわかりやすくなっていて良かった」といった肯定的な意見が見られた。

（３）次年度に向けての取り組み

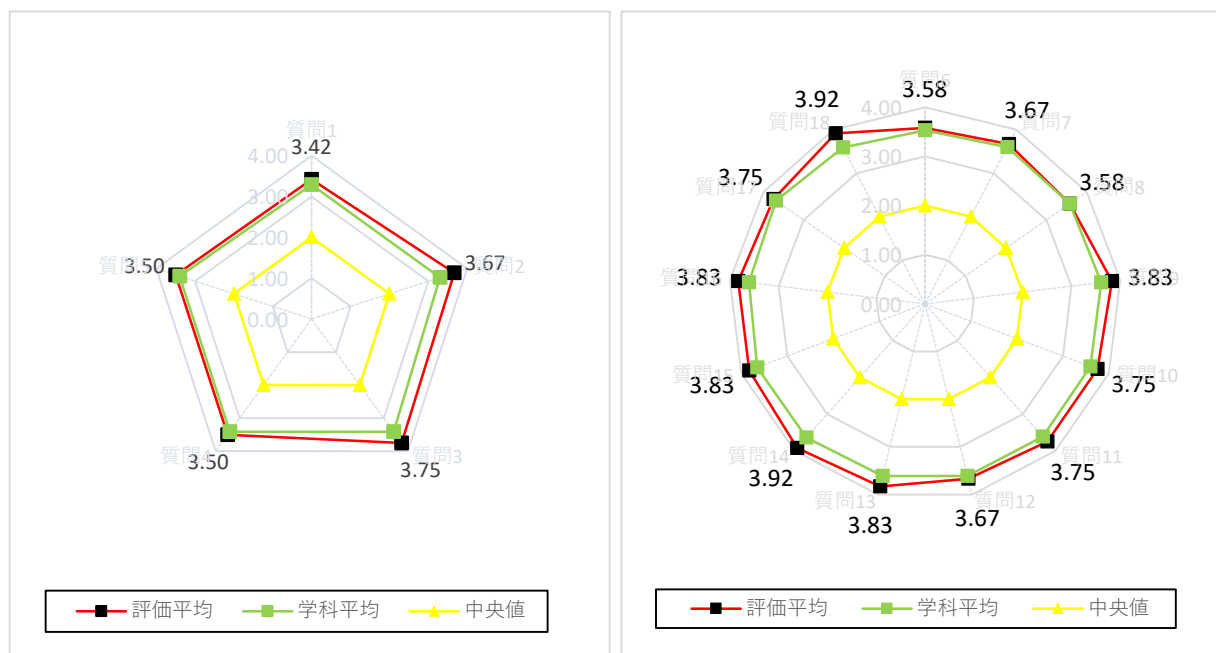
次年度も引き続き工夫を重ねながら、魅力ある授業づくりに努めていきたい。

今後も、これまでと同様に以下の内容を中心として実習を展開する。

- ① 授業内容の理解を深めるため、これまで同様に実習カードを事前に配布し、予習に取り組ませる。また、実習後には家庭での再実習を必ず行うよう指導し、実習前後の家庭学習の充実を図る。
- ② 学生の学習意欲や技術力、生活環境には個人差が大きいため、調理技術の習得だけでなく、グループ実習を通して積極性・協調性・指導力・マナーなども併せて育成する。また、人間形成の場として互いに学び合いながら実践的な実習ができるよう指導していく。
- ③ 包丁の扱いをはじめとする基礎的な調理技術の向上に努めるとともに、大量調理へ円滑に移行できるよう段階的な訓練を行う。
- ④ 実習時間の配分を明確にし、メリハリのある実習を展開することで、学習意欲の向上を図る。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		実践食育	19名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

食育実践では、食育の計画・実施・評価・改善（PDCAサイクル）までの一連の流れを学習する授業として展開した。学内外での食育活動に積極的に参加することで、対象者に応じた食育指導力の育成を図った。授業評価の結果、学生による総合評価は3.50であり、教員評価は3.58～3.83、総合評価は3.92であった。これらは概ね良好な評価であり、学科平均と比較すると0.29上回る結果となった。

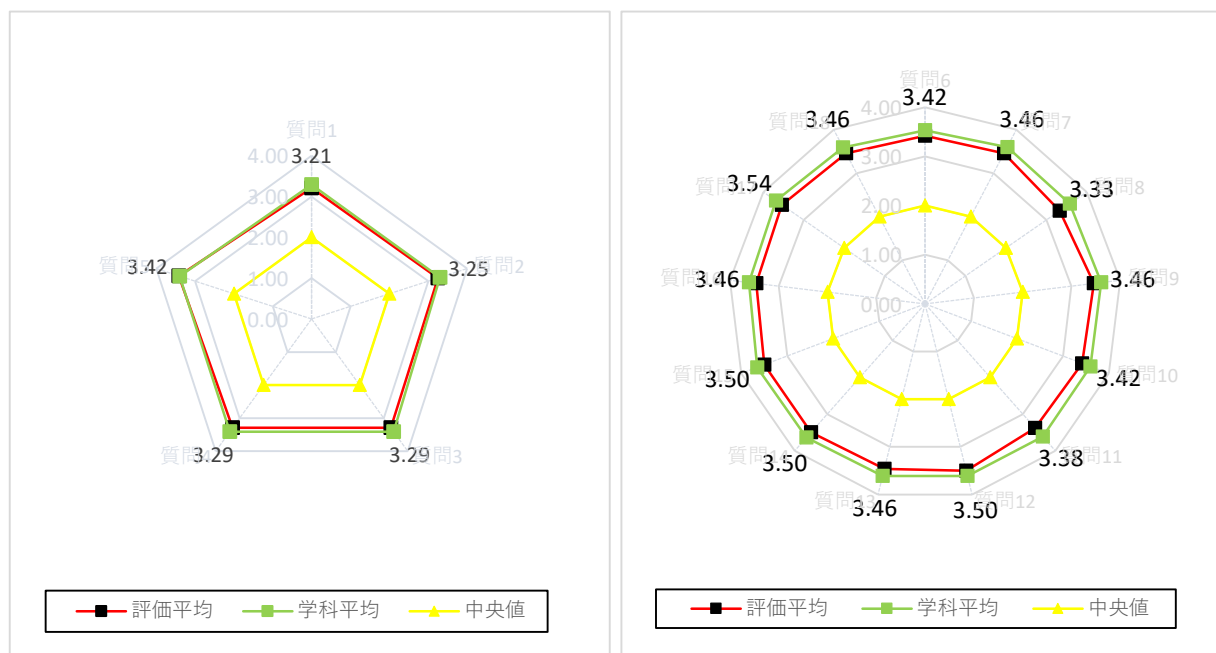
自由記述では、「健康ウォークでは学生同士が協力し合い、授業を通して信頼関係が築かれた」「実践的な食育活動を通して、年齢や生活背景に応じた指導の重要性を理解できた」「グループワークや実践活動により主体的に学ぶことができた」「教員の指導が丁寧で分かりやすく安心して参加できた」といった肯定的な意見が多く見られた。一方で、「クッキーの試作をもう1回授業内で実施できれば、より完成度の高い成果につながったのではないか」といった改善点も挙げられた。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後は、各項目の評価を高めるために、学習内容に対する興味・関心を持てるよう分かりやすい授業を展開する。また、予習・復習の習慣化を図ることで、学生が主体的に学ぶ力を修得させていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		給食管理実習Ⅱ	26名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

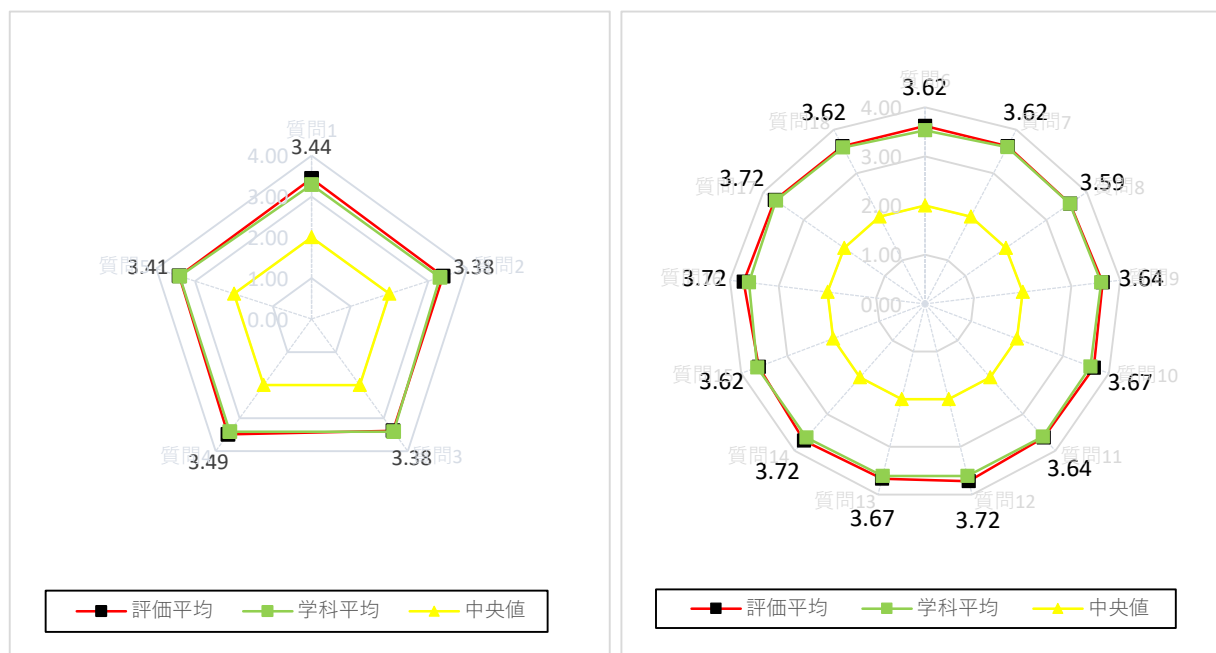
「給食管理実習Ⅱ」は学外で行う実習であり、特定給食施設における給食管理の実際を体得するとともに、特定給食における栄養管理のあり方を習得する科目である。学生自身による総合評価は3.42であり、Q1「授業は何回欠席しましたか」が3.21と他の項目より低い結果であった。教員側への評価は3.38～3.54の範囲であった。総合評価は3.46であり、学科平均と比較すると0.17低い結果となった。なお、学生からのコメントは特になかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回の授業評価を踏まえ、学外の実習施設において実践的な実習を行い、これまでに習得した専門的知識および技術を活用することで、実習先での課題発見や問題解決能力の向上を図る。また、栄養士業務に必要な実践力のさらなるスキルアップを目指す。さらに、実習を通して積極性、協調性、指導力、マナーなどの社会人基礎力を養い、人間形成の場としての役割も担う力を育成する。引き続き、実習終了後には、学生同士での学びの共有を目的として、パワーポイントを用いた発表を行い、情報共有と振り返りを行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		社会の理解 I	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

39/44 (87%) の回答であった。

授業評価の各質問項目においては、総じて学科平均と同程度であった。

本科目は、日本の法律や制度をあつかうものであり、留学生にとっては難解に感じる内容だと思われる。留学生も主体的に取り組む授業となるように、グループワークも実施しながら工夫を図った。

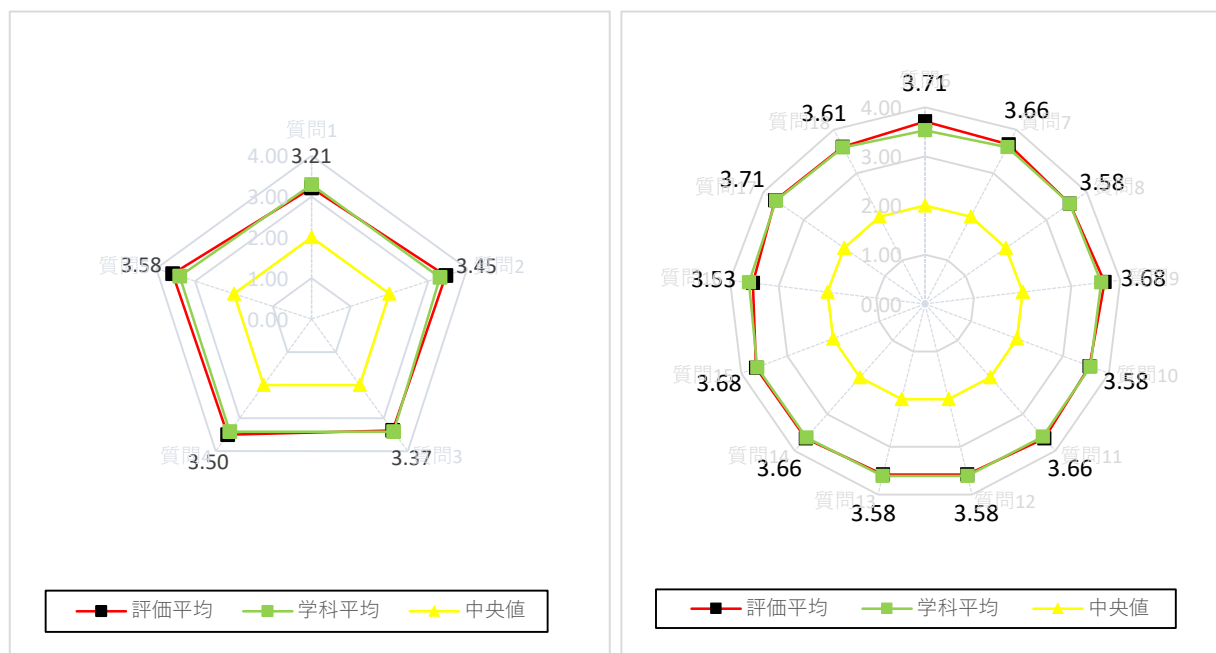
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においては、引き続き留学生も理解しやすいような授業となるように、グループワークや事例検討も行っていきたい。

自由記述からは「資料があってよかった」などのコメントもあり、留学生も主体的に取り組めるように工夫を図っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		社会の理解Ⅱ	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

38/40 (95%) の回答であった。

授業評価の各質問項目においては、総じて学科平均と同程度であった。

本科目は、日本の法律や制度を学ぶものであり、留学生にとっては難解に感じる内容だと思われる。留学生も主体的に取り組む授業となるように、グループワークも実施しながら工夫を図った。

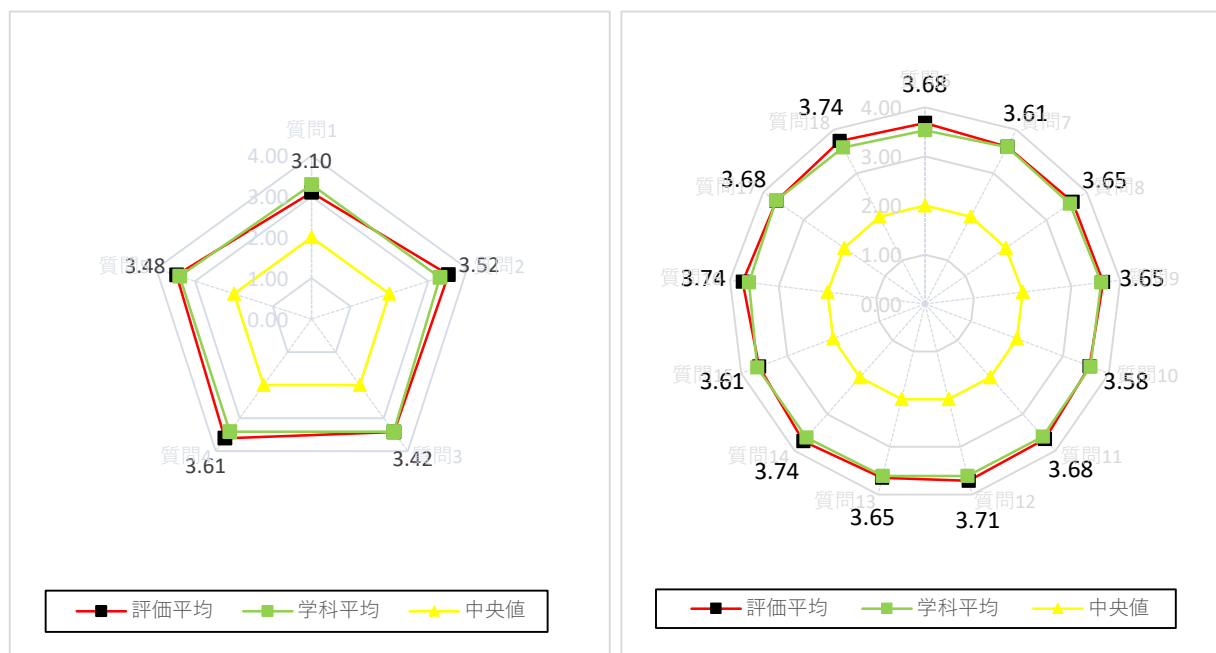
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においても、引き続き留学生が理解しやすいように、グループワークや事例検討を含めて授業の工夫を図っていきたい。

また、国家試験受験に対応できるように基礎的理解が進むように授業を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合講座	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

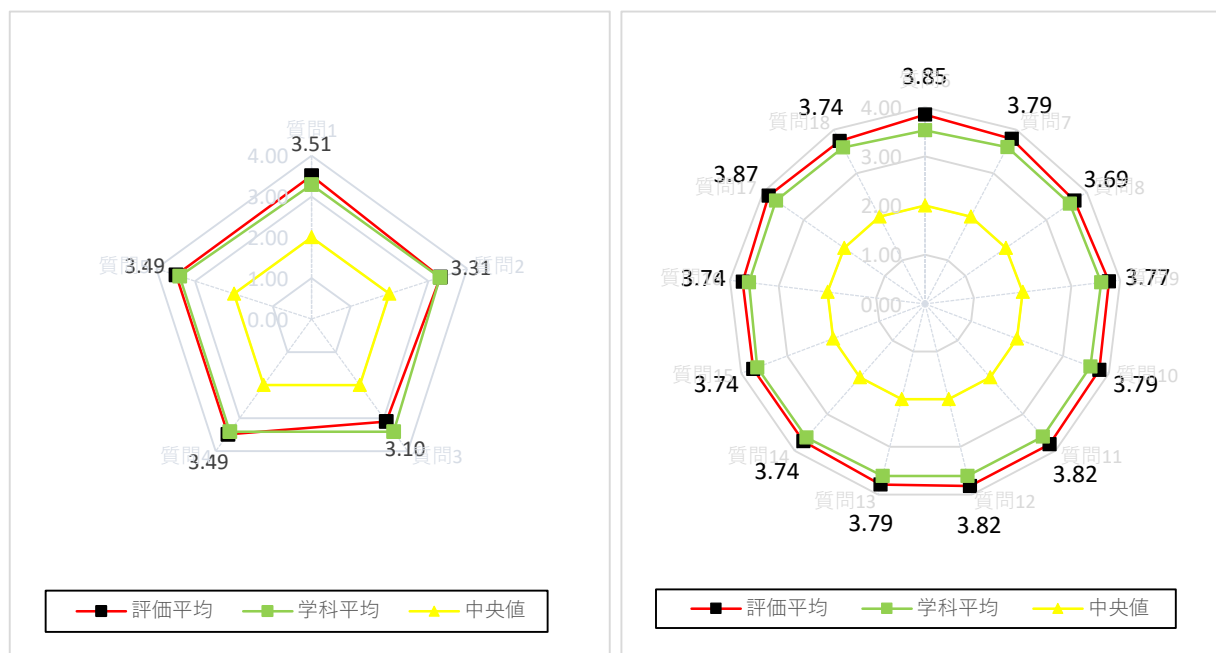
授業評価は回答者31名、回答率100%であり、総合評価は4点満点中3.63であった。授業運営・教員対応に関する項目は概ね良好で、自由記述でも国家試験対策として役立ったこと、過去問題や重要ポイントの整理、解説の分かりやすさが評価された。一方、今回の国家試験では日本人合格率100%に対し、留学生は80.6%であり、前年度の88.9%から低下した。また、パート合格制の導入や問題順の変更等への準備が十分でなかった点は課題である。さらに、科目群0点の学生が複数名いたことから、総得点だけでなく科目別の到達状況を把握し、苦手科目を早期に補強する必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、国家試験の制度変更や出題形式の変化を早期に把握し、授業内で学生に分かりやすく周知する。過去問題演習と重要ポイントの整理は継続しつつ、模擬試験や小テストの結果をもとに、総得点だけでなく科目群ごとの得点状況を分析する。特に、科目群0点を防ぐため、苦手科目を早期に発見し、個別指導や補習、復習課題を計画的に実施する。また、留学生については、日本語の読解、設問文の理解、専門用語の確認を重点的に支援し、科目ごとの基礎知識の定着を図る。複数教員で情報を共有し、全体指導と個別支援を組み合わせた国家試験対策を強化する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅠA	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

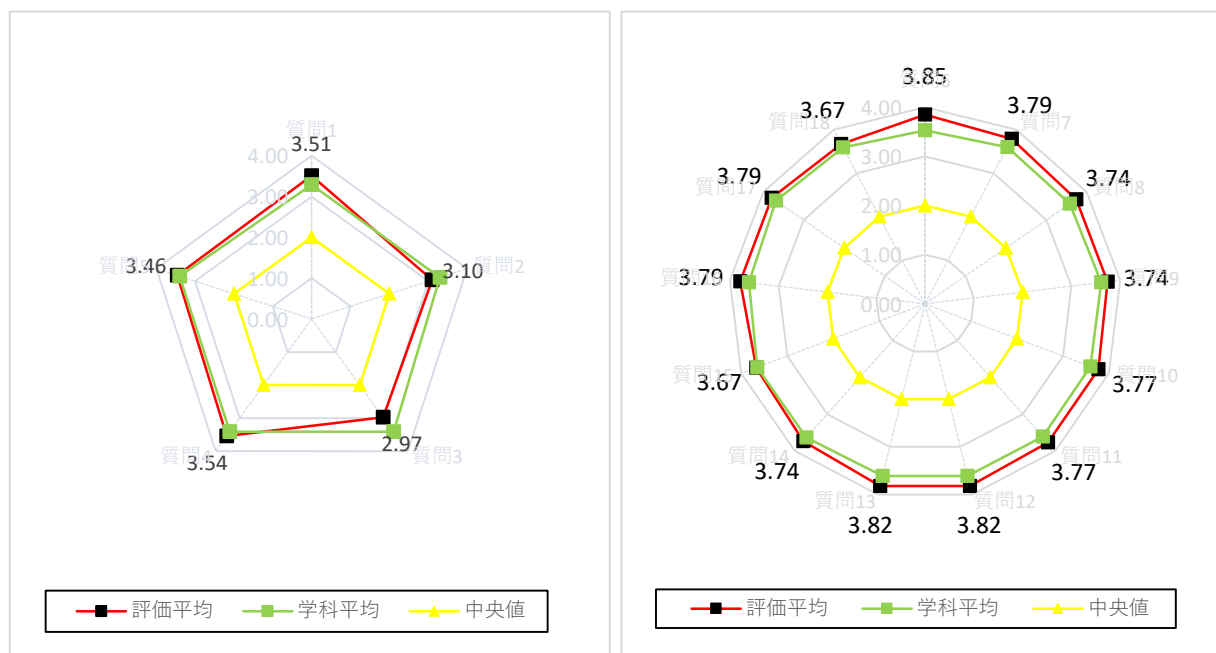
授業評価の平均値は全項目で3.69～3.87と高い水準にあり、学生から概ね良好な評価を得ることができた。特に、「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか」(3.87)、「シラバスについて説明がありましたか」(3.85)、「教科書・配布資料等は役に立ちましたか」(3.82)、「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか」(3.82)などの項目で高評価を得ており、授業運営の基本的な部分について学生の理解と満足が得られていたと考えられる。また、「到達目標の明確化」(3.79)や「授業の分かりやすさ」(3.77)についても高い評価であり、授業内容や学習目標が適切に伝えられていたことがうかがえる。一方で、「授業は興味・関心が持てる工夫」、「学生の質問等に誠実に対応」、「双方向的なやり取りをしながら」、「総合評価」については、他項目と比較するとやや低い結果であった。評価自体は良好であるものの、学生の主体的な参加を促す工夫や、双方向的な学習活動の充実が今後の課題として考えられる。総合的には、授業計画や教材の活用、授業運営に対する評価は高く、教育目標に沿った授業が実施できていたと評価できる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、現在の授業運営の良さを維持しながら、学生の興味・関心をさらに高める授業づくりに取り組む。具体的には、実践的な事例紹介や身近な課題を取り上げることで、学習内容と実社会との関連性を意識できるよう工夫する。また、学生との双方向的なコミュニケーションを充実させるため、授業中の質問時間の確保や小グループでの意見交換、オンラインツールを活用した意見収集などを積極的に取り入れる。これにより、学生が自ら考え、発言する機会を増やし、主体的な学習姿勢の形成を促したい。さらに、授業内容の理解度を適宜確認しながら進行することで、学生一人ひとりの学習状況に応じた指導を心掛ける。今後も授業改善に継続的に取り組み、学生の学習効果と満足度の向上を目指していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅠB	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

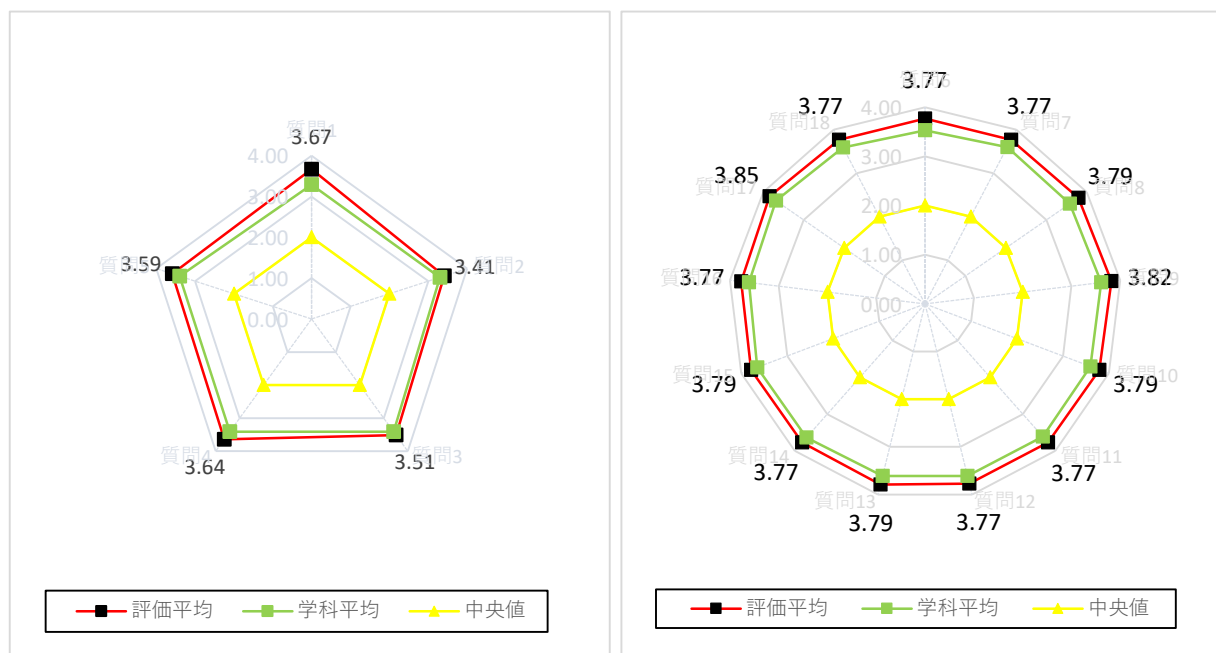
授業評価の平均値は3.67～3.85の範囲にあり、全体として学生から良好な評価を得ることができた。特に、「シラバス（授業計画）について説明がありましたか」（3.85）、「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか」（3.82）、「授業の進む速さは適切でしたか」（3.82）といった項目で高い評価が得られ、授業運営や学習環境の整備が適切に行われていたことがうかがえる。また、「到達目標の明確化」（3.79）、「双方向的なやり取り」（3.79）、「教員の熱意」（3.79）についても高い評価を得ており、授業目標を意識した指導や学習者との関わりに対して一定の評価が得られている。一方、「公平に学生に対応しましたか」（3.67）および「この授業を総合評価してください」（3.67）は他の項目と比較してやや低い結果となった。評価自体は高い水準にあるものの、学生がより主体的に授業へ参加できる工夫や、理解を深めるための授業展開についてさらなる改善が期待される。総合的には、授業計画や進行、説明方法など授業運営に関する評価は良好であり、学生の学習を支援する環境は適切に整備されていたと評価できる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、現在の授業運営の強みを維持しながら、学生の興味・関心をさらに高める授業改善に取り組む。具体的には、実際の事例や演習課題を積極的に取り入れ、学習内容と実社会との関連性を示すことで、学生の学習意欲の向上を図る。また、授業内容の理解を深めるために、適宜確認問題や振り返り活動を実施し、学生の理解度を把握しながら授業を進める。加えて、質問しやすい雰囲気づくりや意見交換の機会を設けることで、双方向的な授業展開をさらに充実させたい。さらに、学生一人ひとりの状況に配慮しながら、公平で丁寧な対応を継続するとともに、授業に対する要望や意見を積極的に取り入れ、授業内容や指導方法の改善につなげていく。今後も継続的な授業改善を行い、学生の満足度と学習成果の向上を目指す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅡA	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

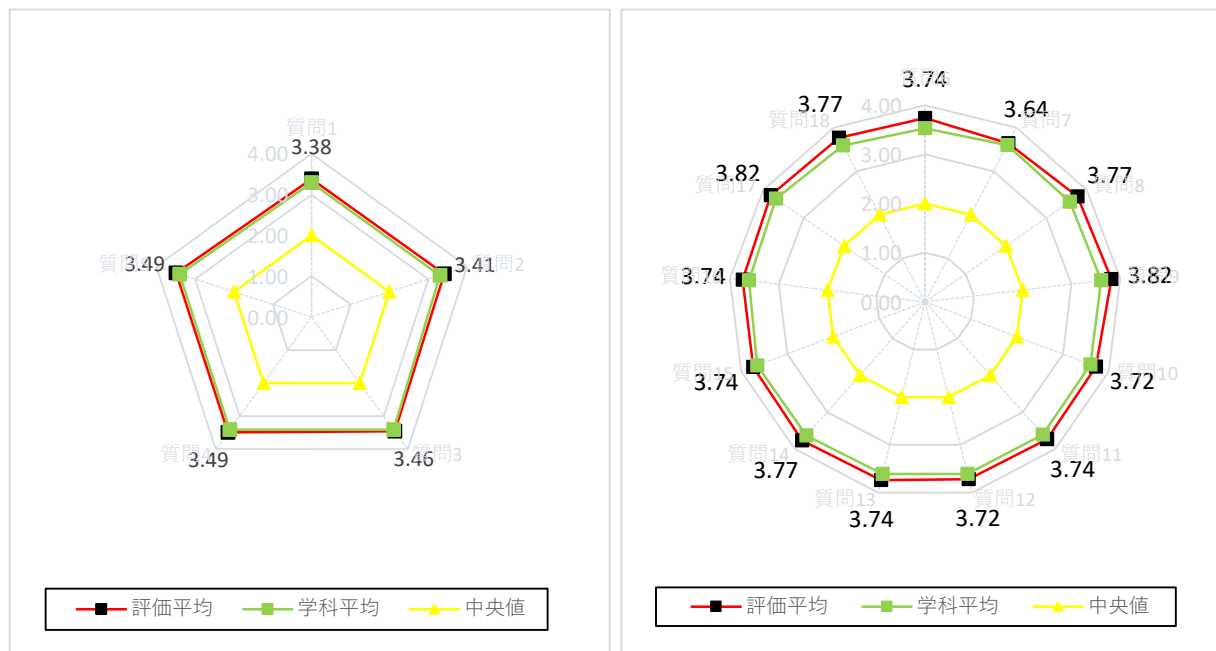
授業評価は回答者39名、回答率100%であり、総合評価は4点満点中3.74であった。質問6?18の授業運営・教員対応に関する項目は3.77?3.85と高く、授業目標の提示、説明の分かりやすさ、教材・課題の活用、質問対応、教員の熱意などについて良好な評価が得られた。質問1「授業への出席」も3.67と比較的高く、安定した受講状況がうかがえる。一方で、質問2「シラバスの活用」は3.41と相対的に低く、授業計画や到達目標を学生がより意識できる工夫が必要である。自由記述では、グループワークや事例を交えた説明が分かりやすいという肯定的意見が見られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、介護の基本となる理念や姿勢を、より具体的な介護場面と結びつけて理解できるよう授業内容を工夫する。各回の冒頭で到達目標やシラバスとの関連を確認し、学生が学習の見通しを持って取り組めるようにする。また、自由記述で評価されたグループワークや事例学習を継続しながら、利用者の尊厳、安全・安心、自立支援に関する判断を深める演習を取り入れる。さらに、学生から要望のあった実践的な内容を充実させ、具体的な対応方法や現場を想定した課題に取り組む機会を増やすことで、介護福祉士として必要な考える力と実践力の育成につなげる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅡB	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

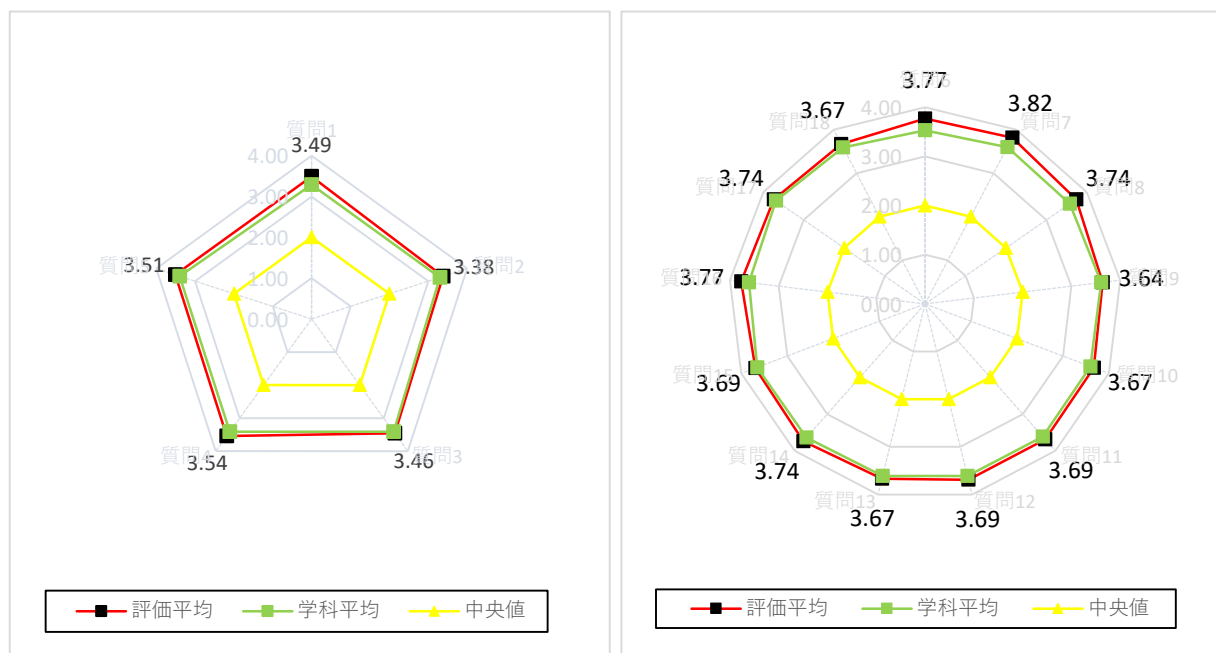
本科目は、全ての項目において学科平均値を上回っており、総じて学生から高い評価を得ることができたと考えられる。特に、質問9「授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。」および質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」では、ともに3.82という高い評価を得ており、授業内容や教授方法に関する教員の工夫が学生のニーズに合致していたことがうかがえる。また、本科目は1年次後期の開講科目であるが、受講前に夏季の介護実習を経験していることから、実習を通して授業内容への興味・関心が高まり、主体的な学習態度や積極的な受講につながった可能性が考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においても、学生にとって理解しやすい授業運営を継続するとともに、介護実習での学びと授業内容を関連付けながら、より実践的な理解を深められるよう工夫していく。また、学生が主体的に学習へ取り組めるよう、グループワークや事例検討等を積極的に取り入れ、学習意欲の向上と知識・技術の定着を図る。さらに、学生からの意見や要望を踏まえながら授業内容や方法の改善を継続し、教育効果の向上に努めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅢA	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

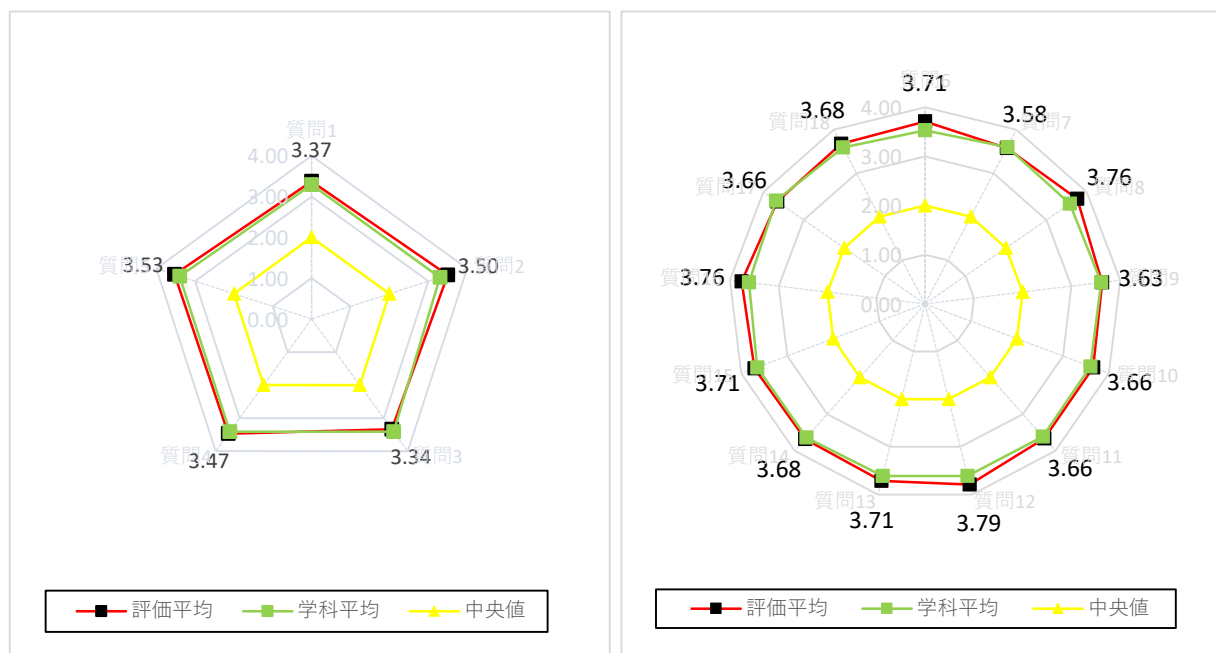
本科目では、主に介護現場におけるリスクマネジメントについて学習している。授業を通して、学生がリスクマネジメントに対して高い関心を持っていることが受講態度からうかがえた。そのため、教員も学生からの質問や反応を踏まえながら、必要に応じて教材や授業内容を調整するなど、理解を深めるための工夫を行った。また、質問7「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。」では3.82という高い評価を得た。授業では到達目標を意識して展開するとともに、適宜学生と目標の確認を行っていたが、その取組が学生にも十分に伝わっていたことがうかがえる。さらに、本科目は留学生が多く受講するクラスであることから、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。」および質問13「授業の進む速さは適切でしたか。」の評価について注目していたが、いずれも概ね良好な評価であり、授業運営上大きな課題は見られなかった。ただし、多様な学習背景を持つ学生が在籍していることを踏まえ、今後も分かりやすい説明や適切な授業進行を心掛けていく必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においても、学生の関心や理解度を把握しながら、リスクマネジメントに関する知識を実践的に学ぶことができる授業運営を継続していく。また、学生からの質問や意見を積極的に授業に反映し、事例を活用した学習を充実させることで、より深い理解につなげていく。さらに、授業の到達目標を明確に示すとともに、授業の進行に応じて適宜確認を行い、学生が学習の目的や達成状況を意識できるよう支援する。加えて、留学生を含む多様な学習背景を持つ学生が理解しやすい授業となるよう、説明の仕方や授業の進行速度に配慮し、学習環境の充実に努めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅢB	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

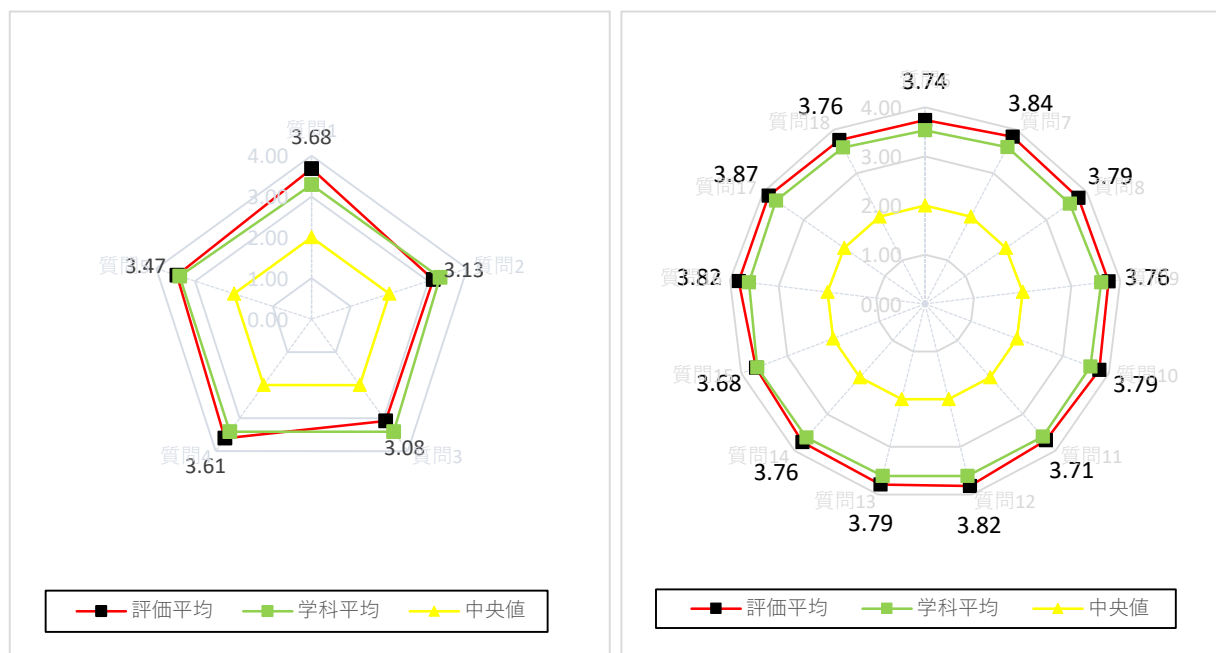
授業評価は回答者38名、回答率100%であり、総合評価は4点満点中3.62であった。質問6?18の授業運営・教員対応に関する項目は3.58?3.79と全体的に高く、授業目標の提示、説明の工夫、教材の活用、声の大きさ、質問対応、公平性などについて良好な評価が得られた。一方で、質問1「授業への出席」は3.37、質問3「真剣な取り組み」は3.34であり、学生自身の学習姿勢や主体的参加にはやや課題が見られる。自由記述は少なかったが、「先生の言葉に支えられて前に進むことができました」との肯定的意見があり、学生への関わりは一定の支援として受け止められていたと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、授業運営に関する高い評価を維持しつつ、学生の主体的な参加をさらに促す授業設計を行う。介護の基本に関する理念や多職種連携、倫理的視点などは抽象的になりやすいため、具体的な介護場面や実習場面の事例を用いて、学生が自分の経験と結びつけて考えられるようにする。また、各回の冒頭で到達目標と学習の意義を明確に示し、授業中に小課題や振り返りを取り入れることで、集中して学ぶ機会を増やす。さらに、学生が意見を出しやすい雰囲気を保ちながら、グループワークや発表の方法を工夫し、介護福祉士として必要な考える力と協働する力の育成につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術A	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

授業評価の平均値は3.68～3.87の範囲にあり、全体として高い評価を得ている。特に、「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか」(3.87)が最も高く、教員の授業に対する意欲や責任感が学生に十分伝わっていたことがうかがえる。また、「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか」

(3.84)、「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか」(3.82)、「教員は双方向的なやり取りをしながら授業を行っていましたか」(3.82)についても高い評価を得ており、授業運営や学習環境は概ね良好であったと評価できる。

さらに、「授業は興味・関心が持てる工夫」(3.79)、「視聴覚機器や板書の用い方」(3.79)、「授業の進む速さ」(3.79)についても高い水準を維持しており、授業内容や進行方法に対する学生の満足度は高かったと考えられる。

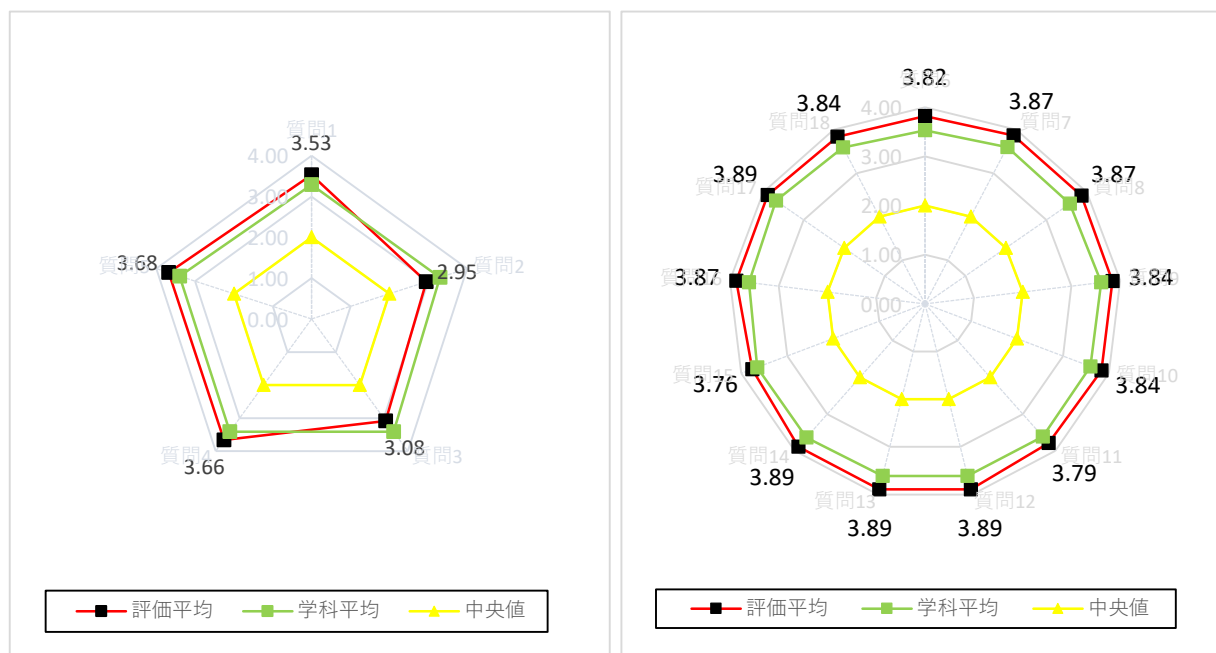
総合評価(3.76)からも、授業内容や指導方法に対する学生の満足度は高く、教育目標に沿った授業運営が実践できていたものと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、現在高く評価されている授業への熱意や到達目標の明確化、双方向的な授業運営を維持しながら、さらなる授業改善に取り組む。特に、シラバスの内容や授業の位置付けについて初回授業でより丁寧に説明するとともに、各回の学習目標を明確に示しながら授業を進めることで、学生が学習の目的をより理解しやすい環境づくりを行う。また、授業内容の理解を深めるため、具体的な事例や演習問題を取り入れ、学習内容への興味・関心を高める工夫を継続していく。さらに、教材や配布資料については、内容の充実や見やすさの改善を図り、授業後の復習や自主学習に活用しやすい資料の作成に努める。加えて、学生からの質問や意見を積極的に受け止める機会を設けることで、一人ひとりへの丁寧かつ公平な対応をより一層心掛ける。今後も学生の学習状況や授業評価を踏まえながら継続的な改善を行い、学習効果と授業満足度のさらなる向上を目指していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術B	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

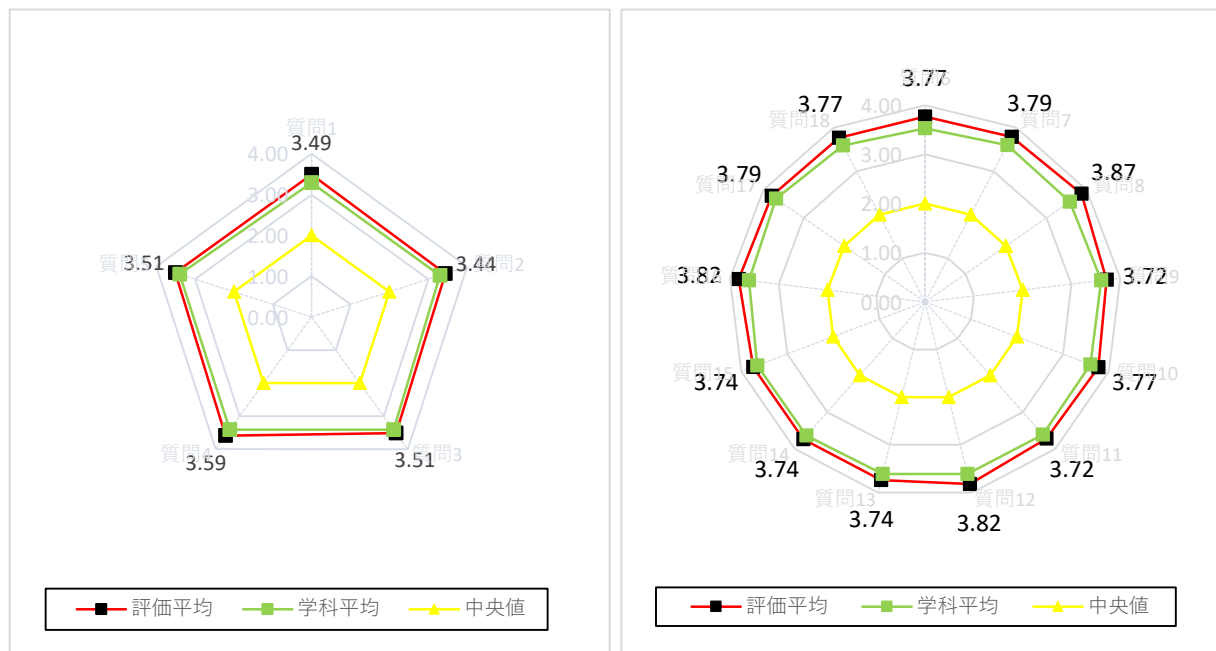
本科目では、座学で学習した知識を介護実習室での演習を通して実践し、知識と介護技術の統合を図っている。1年次前期の科目であることから、自ら考えて応用する段階というよりも、まずは基本的な手順や方法を理解し、それに沿って演習を行うことを重視している。その上で、教員が要点を確認しながら繰り返し演習を実施することで、介護技術の習得を目指している。質問6から質問18までの各項目は、いずれも高い評価を得ていた。演習では、学生が介護技術を早期に習得しようと意欲的に取り組む姿勢が見られ、その積極的な学習態度が評価結果にも反映されたものと考えられる。一方で、質問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか。」および質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」については、他の項目と比較して評価が低かった。特にシラバスの活用については、授業の到達目標や学習計画をより意識できるよう、授業との関連を明確に示していく必要がある。また、授業への主体的な参加を促すため、学習規律の維持や学習意欲の向上に向けた働きかけについても継続して検討していきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においても、介護技術の基礎的な知識と技術の習得を重視し、座学と演習を効果的に連動させながら授業を展開していく。また、繰り返し演習を行うことで技術の定着を図るとともに、学生が学習の意義や到達目標を理解しながら主体的に取り組めるよう支援していく。さらに、シラバスの活用を促進するため、授業開始時や各授業回において到達目標や授業計画との関連を明確に示していく。また、演習への積極的な参加を促し、学習規律の維持に努めることで、より効果的な学習環境の構築を目指す。加えて、学生一人ひとりの理解度や習熟度に応じた指導を行い、介護技術の確実な習得につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術C	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

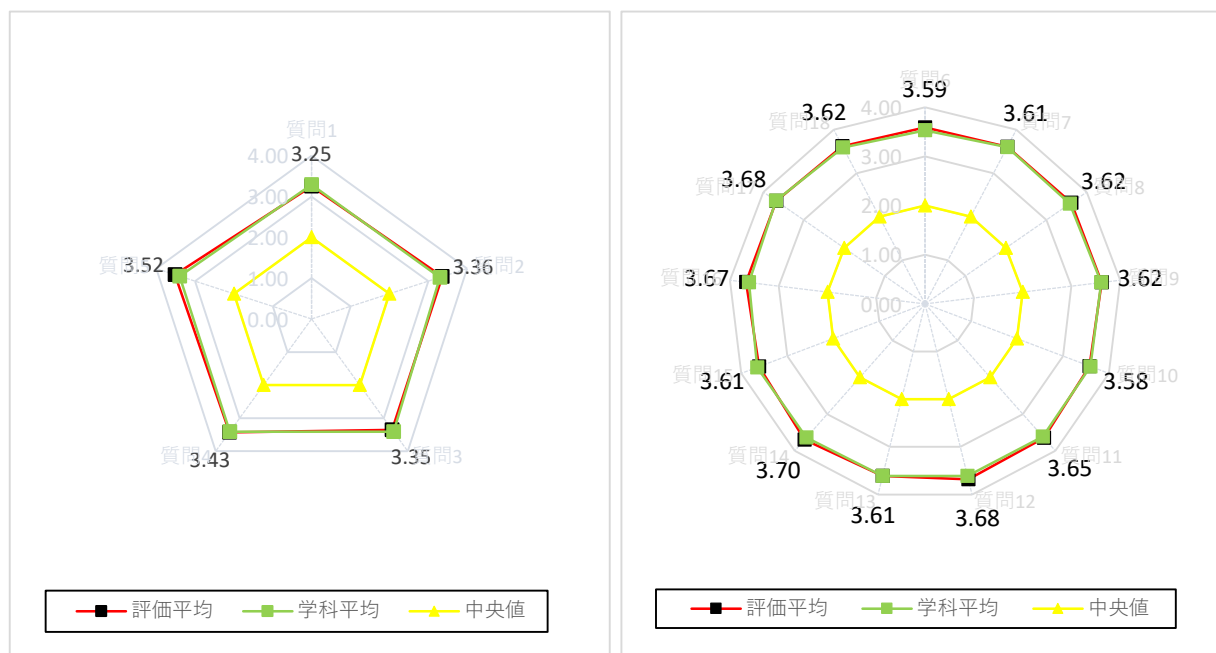
授業評価は回答者39名、回答率100%であり、総合評価は4点満点中3.72であった。質問6?18の授業運営・教員対応に関する項目は3.72?3.87と高く、授業目標の提示、説明の分かりやすさ、授業の工夫、教材の活用、質問対応、教員の熱意などについて良好な評価が得られた。一方で、質問2「シラバスの活用」は3.44であり、授業計画や到達目標を学生がより意識できる工夫が必要である。自由記述では、ポイントを押さえた指導、実技や具体例の分かりやすさが評価される一方、現場を想定した応用的な支援方法をさらに学びたいという要望も見られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、生活支援技術の基本的な介助方法を丁寧に確認しながら、実際の介護現場を想定した応用的な演習を増やす。具体的には、利用者の状態像や生活背景を設定した事例を用い、安全・自立支援・尊厳の保持を意識して介助方法を考える時間を設ける。また、各回の到達目標や技術習得のポイントを授業冒頭で明確に示し、シラバスとの関連を確認する。実技では、チェックリストや相互評価、教員からの個別フィードバックを活用し、学生が自分の課題を把握しながら練習できるようにする。基本技術と応用力の両方を高め、実習や将来の介護実践につながる授業を目指す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護過程Ⅲ	80名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

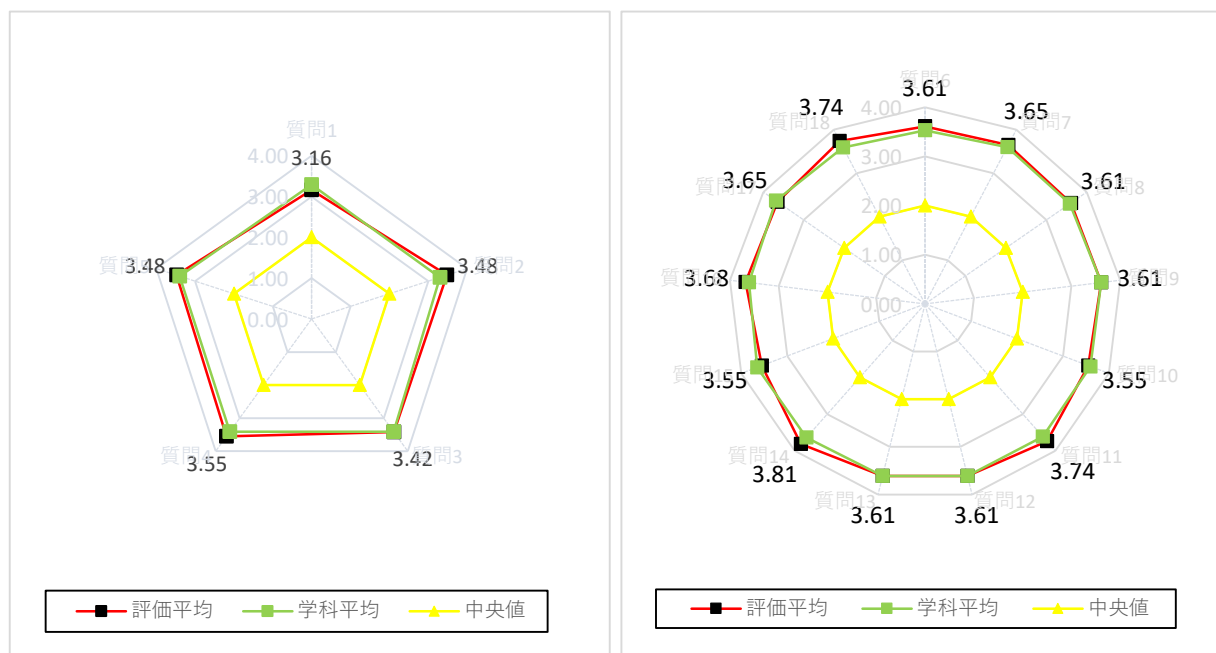
本科目は通年開講科目であり、前期と後期で異なる学習内容・授業形態を採用している。前期は担当教員が事例を用いて介護過程の展開について指導し、後期は介護福祉現場で活躍する実務家を講師として招き、オムニバス形式で授業を実施している。後期の授業では、各講師がそれぞれの専門分野や実践経験を踏まえながら、現場の実状に即した介護過程の展開について指導しており、学生はより実践的な視点から学ぶ機会を得ている。後期は5名の講師によるオムニバス形式であるため、授業の進め方や教授方法に違いがあり、学生にとって授業評価を行うことが難しい側面もあったと考えられる。しかしながら、評価結果に大きく低い項目は見られず、授業内容や学習機会については概ね学生の満足が得られていたものと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

年度においても、前期の基礎的な介護過程の学習と後期の実践的な学習との連続性を意識しながら、段階的に理解を深められる授業運営を行っていく。また、オムニバス形式による授業の特色を生かし、介護福祉現場における多様な実践事例や視点に触れる機会を継続的に提供することで、学生の学習意欲や実践力の向上を図る。さらに、各講師間で授業内容や到達目標に関する情報共有を十分に行い、授業全体としての一貫性を確保するとともに、学生が各回の学習内容の関連性を理解しやすい授業構成となるよう工夫していく。加えて、授業評価や学生からの意見を踏まえながら、より効果的なオムニバス授業の実施に向けた改善を継続していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護過程Ⅳ	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

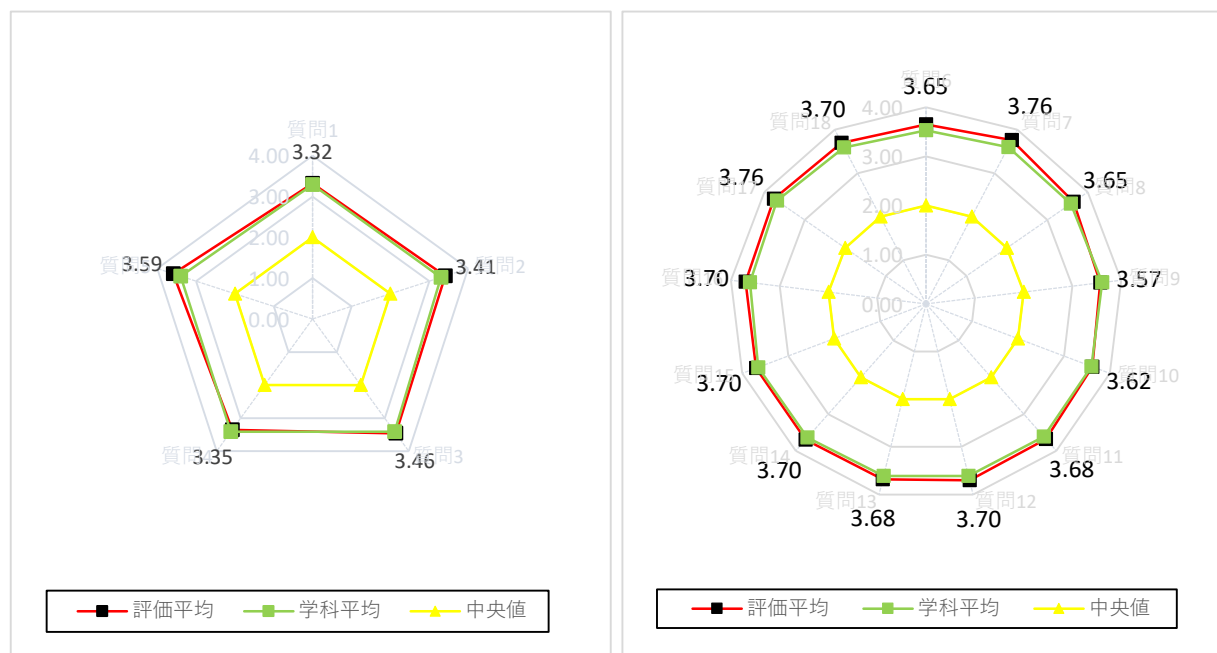
本科目は、5週間の介護実習を終えた後に開講される科目であり、それまでに学修した介護過程の総括的な学びの機会として位置付けられている。学生は、介護実習において実践した介護過程の展開を事例研究としてまとめ、最終的に発表を行う。また、他の学生の事例研究に触れることで、多様な介護実践や考え方を学ぶとともに、自身の介護過程を振り返り、理解を深める機会となっている。授業評価においては、質問10「視聴覚機器や板書の使い方は適切でしたか。」および質問15「公平に学生に対応しましたか。」が学科平均をやや下回る結果となったものの、その差は大きなものではなかった。その他の項目については概ね良好な評価が得られており、本科目の授業内容や運営については、学生から一定の評価を得ることができたと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においても、介護実習での学びを振り返りながら介護過程の理解を深める機会として、本科目の教育内容の充実を図っていく。事例研究の作成や発表を通して、学生が自身の実践を客観的に分析するとともに、他者の実践から学びを得られるよう指導を継続していく。また、視聴覚機器や提示資料の活用方法について見直しを行い、より分かりやすい発表・授業運営に努める。さらに、学生一人ひとりの発表や意見に対して公平かつ丁寧に対応するとともに、発表機会やフィードバックの充実を図ることで、学生が安心して学びを共有できる環境づくりに取り組んでいく。加えて、授業評価結果や学生からの意見を踏まえながら、より効果的な事例研究発表の在り方について継続的に改善を進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合演習Ⅲ	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

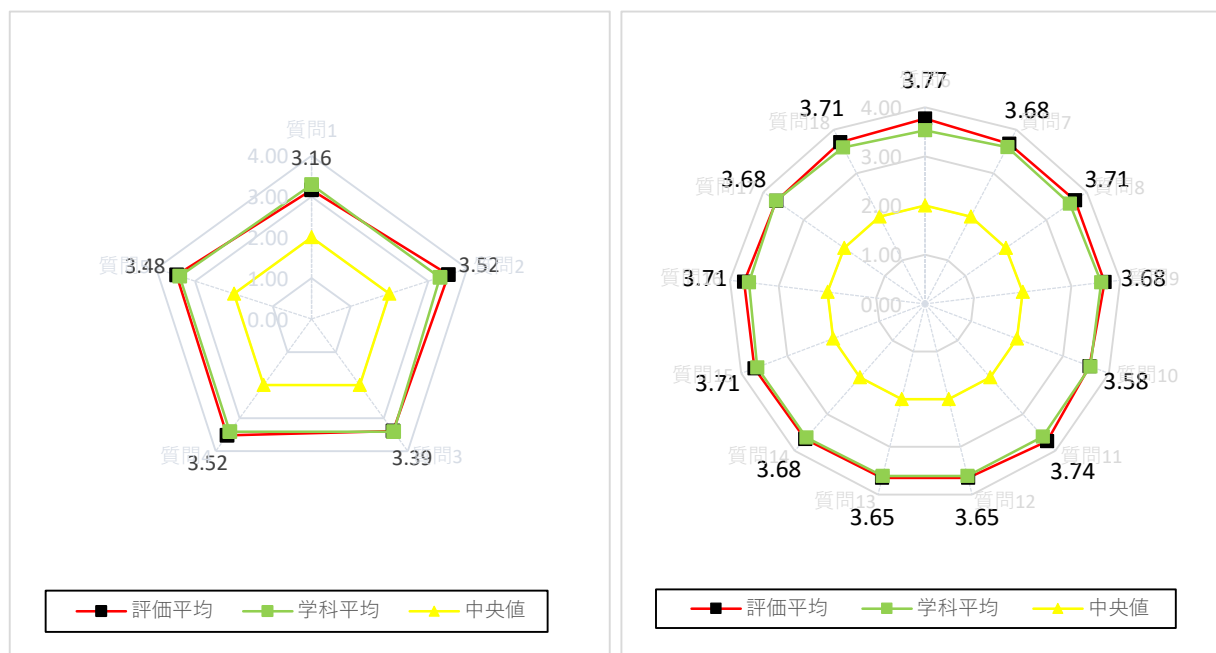
本科目は2年次前期開講科目であり、5週間の介護実習Ⅱを円滑に実施するための事前準備としての性格が強い。実習内容や実習施設の概要の確認に加え、事前オリエンテーション、介護過程の展開に関する準備、介護技術の確認など、多岐にわたる内容を計画的かつ効率的に進めることが求められる。そのため、授業を欠席した場合には準備の遅れにつながることから、学生に対しては極力欠席しないよう指導するとともに、個別に声かけを行いながら、書類作成や準備の進捗状況を確認し、支援を行っている。授業評価の結果は概ね良好であり、本科目の特性上、学生自身が主体的に準備を進めることが求められることから、結果として能動的な受講態度が形成されていたものと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においても、介護実習Ⅱの円滑な実施に向けた事前準備科目としての役割を踏まえ、実習内容や施設概要の理解、介護過程の展開準備、介護技術の確認等を計画的かつ体系的に進めていく。また、限られた授業時間の中で必要事項を効率的に整理し、学生が見通しを持って準備を進められるよう授業構成の工夫を行う。さらに、欠席が準備進捗に大きく影響することを踏まえ、継続的な出席を促す指導を徹底するとともに、個別の声かけや進捗確認を通して、学生一人ひとりの理解状況に応じた支援を行っていく。加えて、学生が主体的に準備を進められるよう、課題の明確化とフィードバックの充実を図り、実習に向けた学習意欲と実践力の向上につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合演習Ⅳ	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

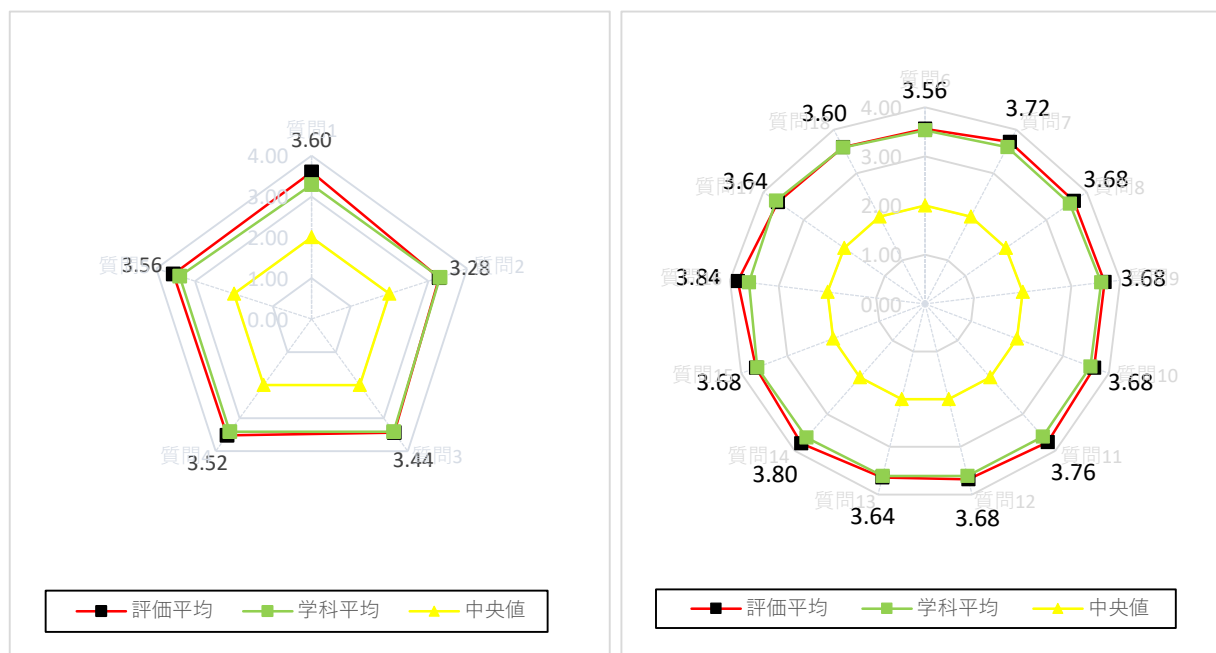
本科目は、5週間の介護実習Ⅱを終えた後の2年次後期に開講されている。主な内容としては、実習施設へのお礼状の作成に加え、介護実習Ⅱの総括的な振り返りを行っている。学生は自身の実習経験を整理・省察することを通して、介護観を明確化し、介護福祉士としての自覚を高めていく様子が見えてくる。授業評価の結果は、学科平均値とほぼ同程度であった。一方、出席状況については学科平均より良好であったものの、国家試験対策が本格化する時期でもあることから、睡眠不足や体調不良等を理由とした欠席が一部の学生に見られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においても、介護実習Ⅱの総括科目としての位置付けを踏まえ、実習経験の振り返りを通して学生が自身の介護観を整理し、介護福祉士としての自覚を高められるよう授業内容の充実を図っていく。また、実習施設へのお礼状作成や事例の共有を通じて、実践経験を言語化する力の育成にも取り組んでいく。さらに、国家試験対策が本格化する時期であることを考慮し、学習負担や生活状況に配慮しながら、計画的な学習が継続できるよう支援を行う。加えて、体調管理や出席状況にも留意し、必要に応じた個別指導や声かけを行うことで、安定した学習環境の維持に努めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護実習Ⅱ	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

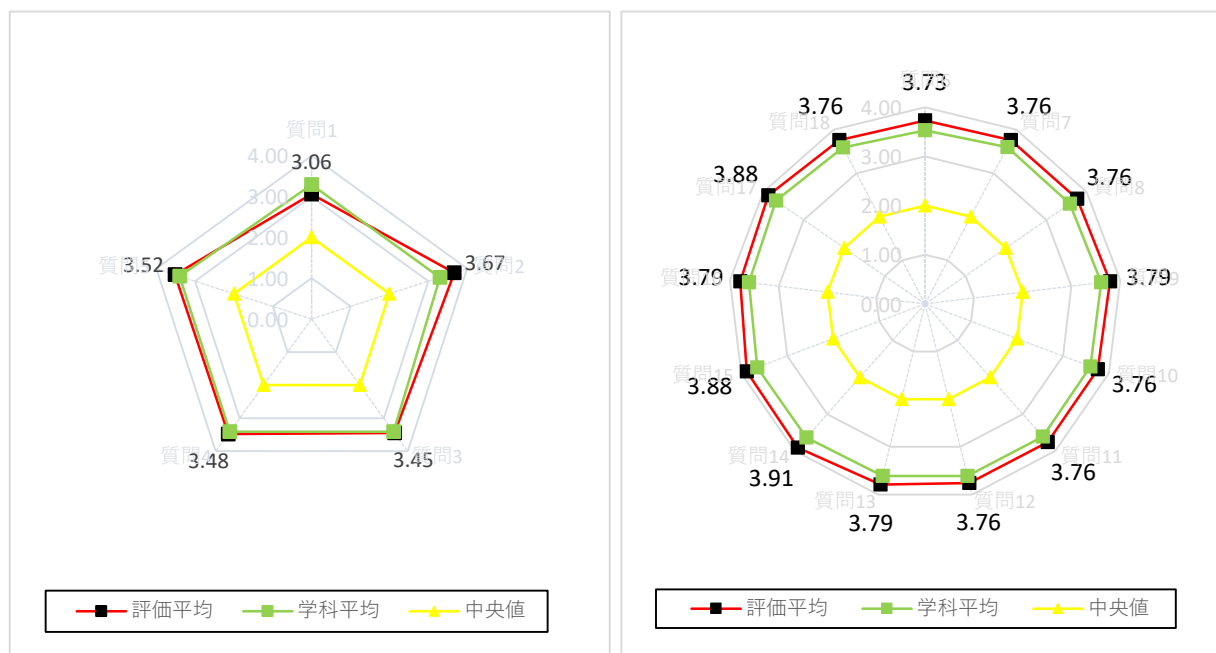
本科目は、2年次の夏季休業期間に実施される5週間の福祉施設実習である。学生は各実習施設において、介護技術の習得に加え、介護過程の展開や多職種連携の実際について、実践を通して学んでいる。また、4名の教員が実習施設を巡回し、実習内容の確認に加え、実習日誌の記載方法や介護過程の展開に関する指導を行っている。授業評価においては、質問14「学生の質問等に誠実に対応しましたか。」が3.8、質問16「教員は双方向的なやり取りをしながら授業を行っていましたか。」が3.84と高い評価であった。これらの結果は、実習指導において学生の質問への対応や双方向的なコミュニケーションを重視するとともに、実習中の不安軽減を含めた精神的サポートにも配慮している取り組みが反映されたものと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においても、5週間の福祉施設実習が円滑かつ有意義に実施されるよう、実習前の準備指導および実習期間中の巡回指導の充実を図っていく。特に、介護技術の習得に加え、介護過程の展開や多職種連携の理解が深まるよう、実習先での経験を適切に整理しながら振り返りを促す指導を継続する。また、教員による巡回指導においては、実習内容の確認や技術指導に加え、実習日誌の記載方法や介護過程の展開に関する助言を丁寧に行い、学生が学びを深化できるよう支援する。さらに、実習中の不安軽減や精神的サポートにも引き続き配慮し、学生が安心して実習に取り組める環境づくりに努めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		リラクゼーション（演習を含む）	37名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

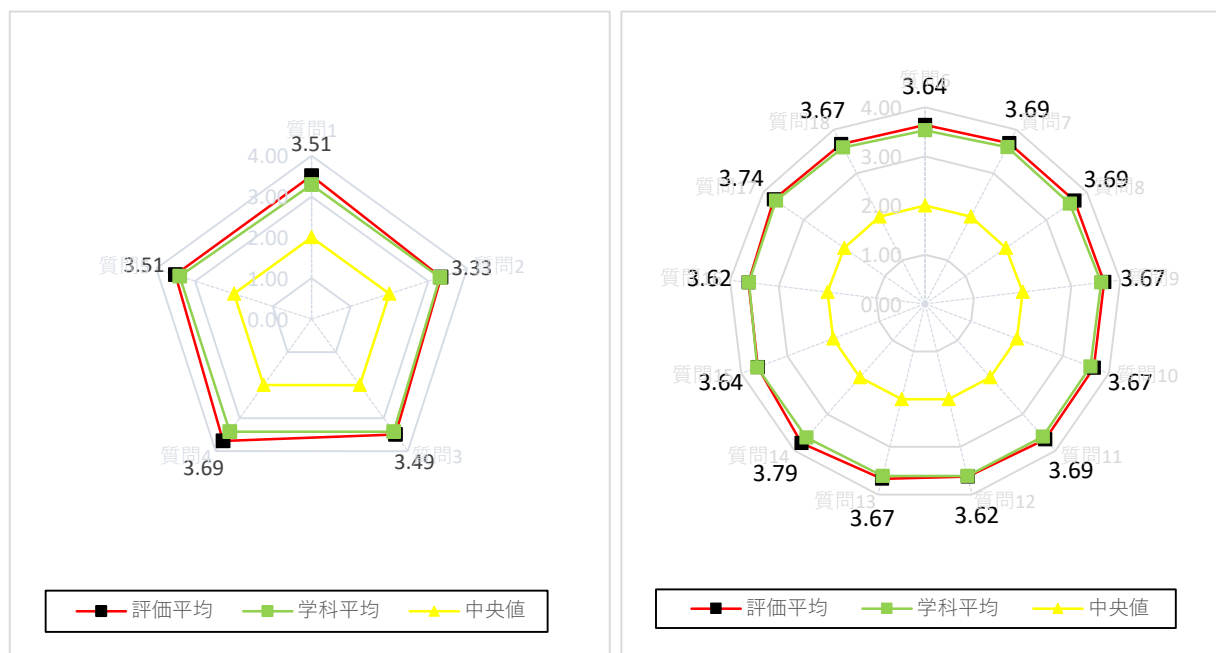
受講者は全員、多文化コースの留学生であった。質問1の評価値は3.06であったが、出席状況は概ね良好であった。授業評価については、質問6から質問18の各項目において比較的高い評価が得られた。特に、質問14「学生の質問等に誠実に対応しましたか。」は3.91、質問15「公平に学生に対応しましたか。」および質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」はいずれも3.88と高い評価であった。これらの結果は、日頃から留学生に対して丁寧なコミュニケーションを心掛け、個々の質問や理解度に応じた対応を行っていたことが反映されたものと考えられる。一方、自由記述においては、「授業では、日頃の緊張や疲れをほぐすことができ、心も体も軽くなるような感覚を味わうことができた。知らなかった視点や考え方に触れとても有意義な時間となった。特に具体的な事例を交えた説明が理解を深めるのに役立った。一方で、もう少しグループワークや意見交換があると他の受講者の考えにも触れより学びが深まると感じた。」という意見があった。グループワークや意見交換を充実させることで相互学習を促進し、さらに学習効果の向上が期待されると考えられる。

（３）次年度に向けての取り組み

次年度においても、多文化コースの留学生を対象とした授業であることを踏まえ、引き続き丁寧なコミュニケーションを心掛け、個々の理解度や質問内容に応じた対応を行っていく。また、授業内容については具体的な事例を用いるなど、理解を促進する工夫を継続し、学習内容の定着を図っていく。さらに、自由記述で指摘されたグループワークや意見交換の時間については、授業内での実施方法や時間配分を見直し、学生同士が互いの考えに触れる機会をより多く確保するよう改善を図る。これにより、受動的な学習にとどまらず、主体的かつ相互的な学びを促進し、授業全体の学習効果の向上につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		人間の尊厳と自立	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

39/44 (89%) の回答であった。

授業評価の各質問項目においては、総じて学科平均よりやや上回っていた。

その理由として、留学生に理解しやすいように、事例をつうじてグループワークを実施したからだと思われる。

自由記述からは「難しい内容だが、理解が深まった」「事例が良かった」という感想もあった。

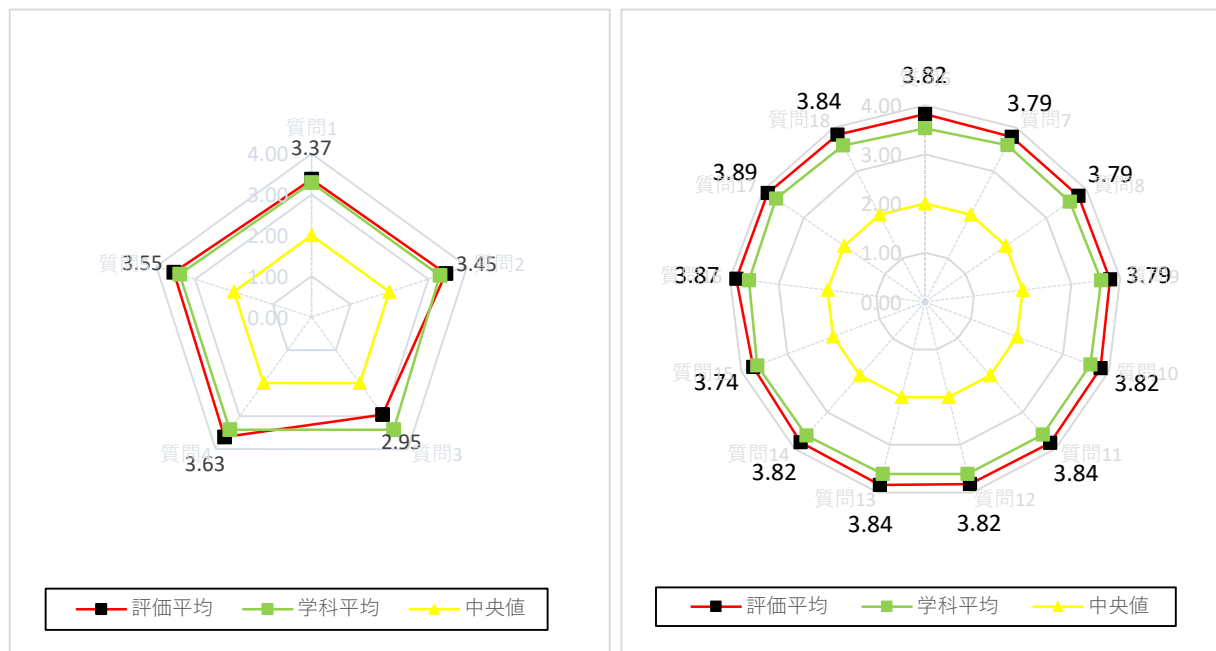
(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は、倫理や価値を含み、日本の文化を含んだ生活理解が必要になってくる。留学生にとっては、理解が難しい側面もあると思われる。

該当年度は、留学生も含め一定の評価を得られた。次年度においても、日本人学生と留学生とのグループディスカッションをととして、学生がより主体的に参加できる授業にしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		人間関係とコミュニケーション I	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

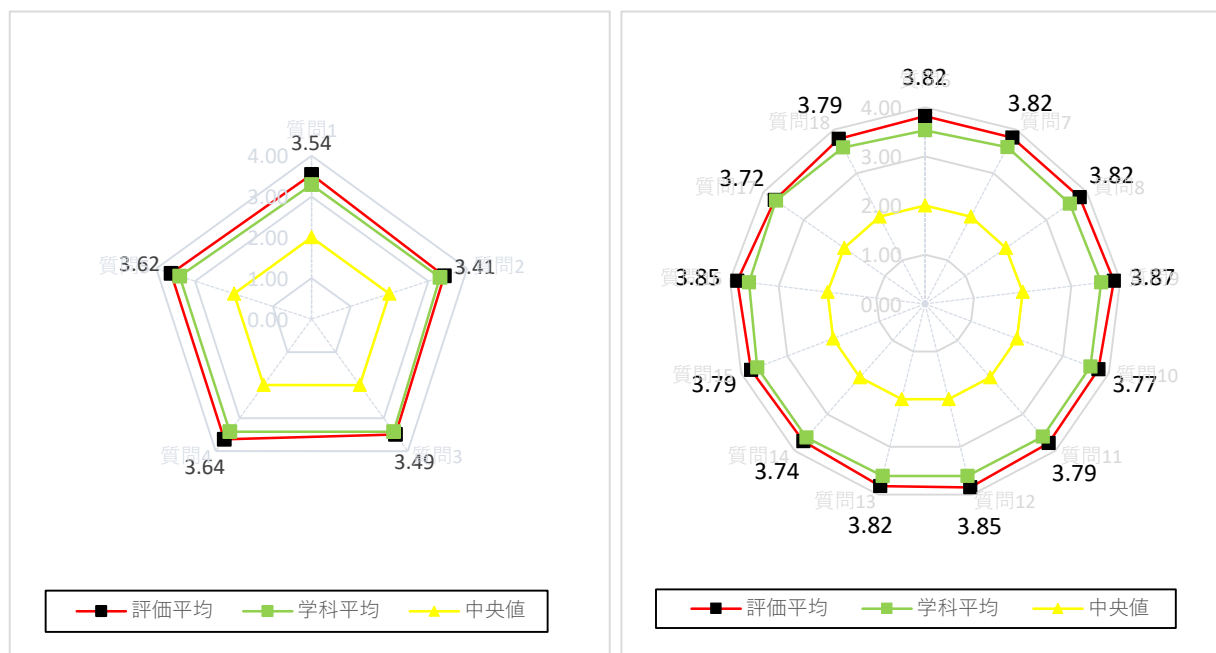
授業評価は回答者38名、回答率100%であり、総合評価は4点満点中3.70であった。質問6?18の授業運営・教員対応に関する項目は3.74?3.89と高く、授業目標の提示、説明のわかりやすさ、資料の有用性、質問対応、公平性、教員の熱意について良好な評価が得られた。一方で、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか」は2.95と最も低く、授業環境や学生の集中を保つ点に課題が見られる。自由記述では、プリントが分かりやすい、実例があり理解しやすい、グループワークや発表を通して他者理解が深まったという意見がある一方、発表方法や私語への対応に関する要望も確認された。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、授業運営・教材面で得られた高い評価を維持しながら、学生がより集中して主体的に参加できる授業環境づくりを強化する。具体的には、授業冒頭で到達目標と活動の意義を明確に示し、グループワークや発表の目的、発表方法、参加ルールを事前に丁寧に説明する。また、私語や学習に関係のない行動については、授業内ルールを明確にし、必要に応じて適切に注意する。発表については、学生の不安にも配慮し、希望制や段階的な発表方法を取り入れる。今後も、具体例や実習・介護場面と結びつけた説明、分かりやすい配付資料を活用し、対人援助職に必要なコミュニケーション力の育成につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		人間関係とコミュニケーションⅡ	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

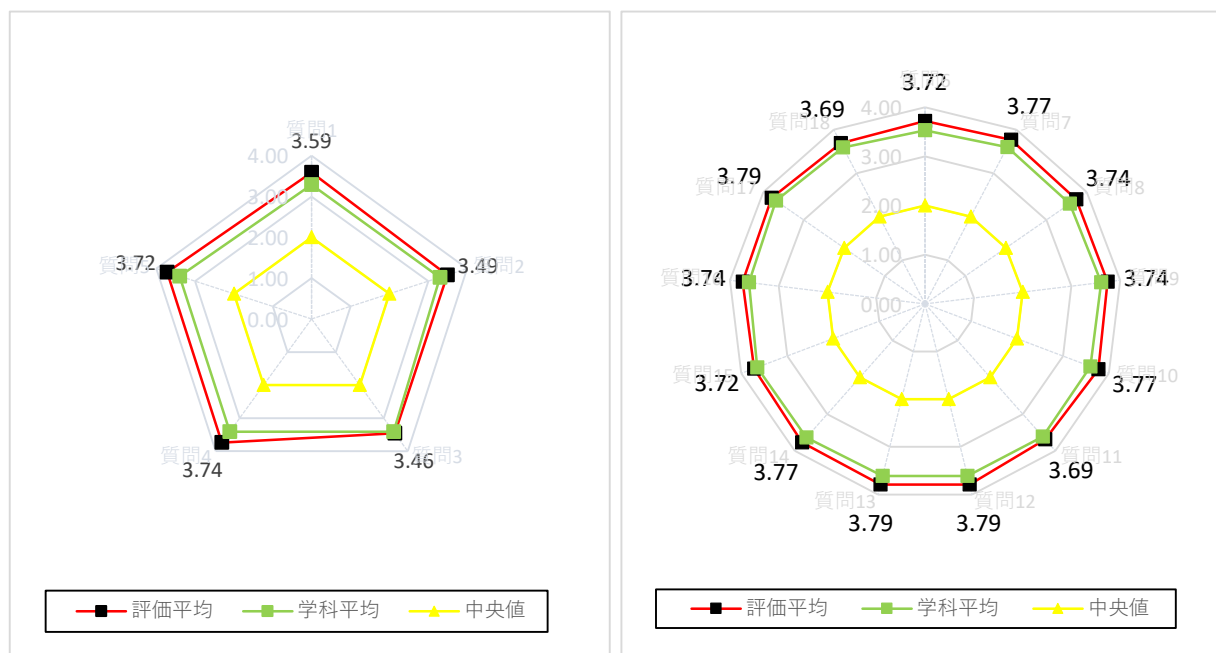
授業評価は回答者39名、回答率100%であり、総合評価は4点満点中3.74であった。質問6?18の授業運営・教員対応に関する項目は3.72?3.87と高く、授業目標の提示、説明の分かりやすさ、教材・課題の活用、質問対応、教員の熱意などについて良好な評価が得られた。一方で、質問2「シラバスの活用」は3.41、質問3「真剣な取り組み」は3.49であり、学生自身が授業計画を意識し、主体的に学習へ参加する点には改善の余地がある。自由記述では、ワークや事例・演習が分かりやすいという意見に加え、より多くのロールプレイを希望する意見が見られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、授業運営に関する高い評価を維持しながら、学生の主体的な参加と実践力の向上を図る。授業冒頭で各回の到達目標やシラバスとの関連を明確に示し、学習内容の見通しを持たせる。介護現場における信頼関係の形成、傾聴、受容、共感などについては、事例検討やワークに加え、学生から要望のあったロールプレイを段階的に取り入れる。また、演習後には振り返りの時間を設け、自分の関わり方や相手への伝わり方を確認できるようにする。これにより、知識理解だけでなく、実習や将来の介護実践に活かせるコミュニケーション力の育成につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		レクリエーション活動援助法Ⅰ	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

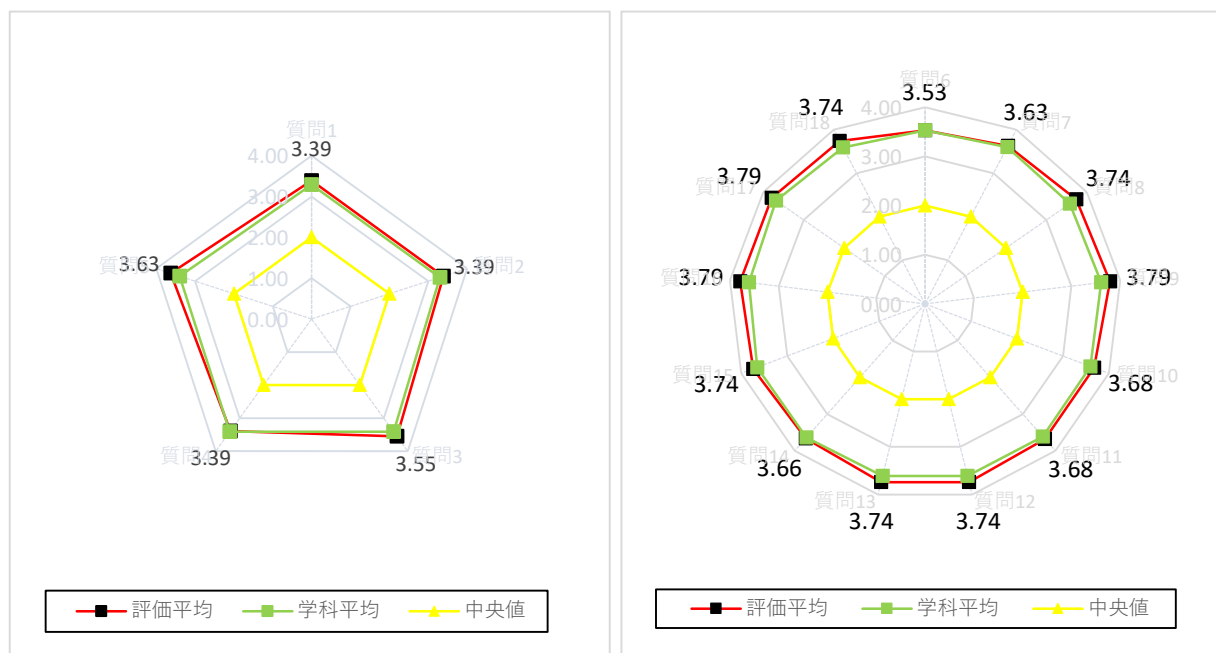
授業評価は回答者39名、回答率100%であり、総合評価は4点満点中3.73であった。質問6?18の授業運営・教員対応に関する項目は3.69?3.79と高く、授業目標の提示、説明の分かりやすさ、授業進度、質問対応、教員の熱意などについて概ね良好な評価が得られた。質問1?5の学生自身の学習姿勢に関する項目も3.46?3.74であり、全体として安定した学習状況がうかがえる。自由記述では、事例を交えた説明やレクリエーションへの助言が評価された一方、助言時に否定から入られる場面が多いと感じた学生もあり、フィードバックの伝え方には改善の余地がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、レクリエーション活動の意義や対象者理解、安全面への配慮をより具体的に示し、実践に結びつく授業展開を行う。学生が企画した内容に対しては、改善点を伝えるだけでなく、まず良い点や工夫されている点を確認したうえで、より良くするための提案として助言するよう心がける。また、実際の介護現場を想定した演習や具体的な対応方法を取り入れ、対象者の状態に応じたレクリエーションの工夫を考える機会を増やす。さらに、企画・実施・振り返りの流れを明確にし、学生が自信をもって実践できる力の育成につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		レクリエーション活動援助法Ⅱ	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

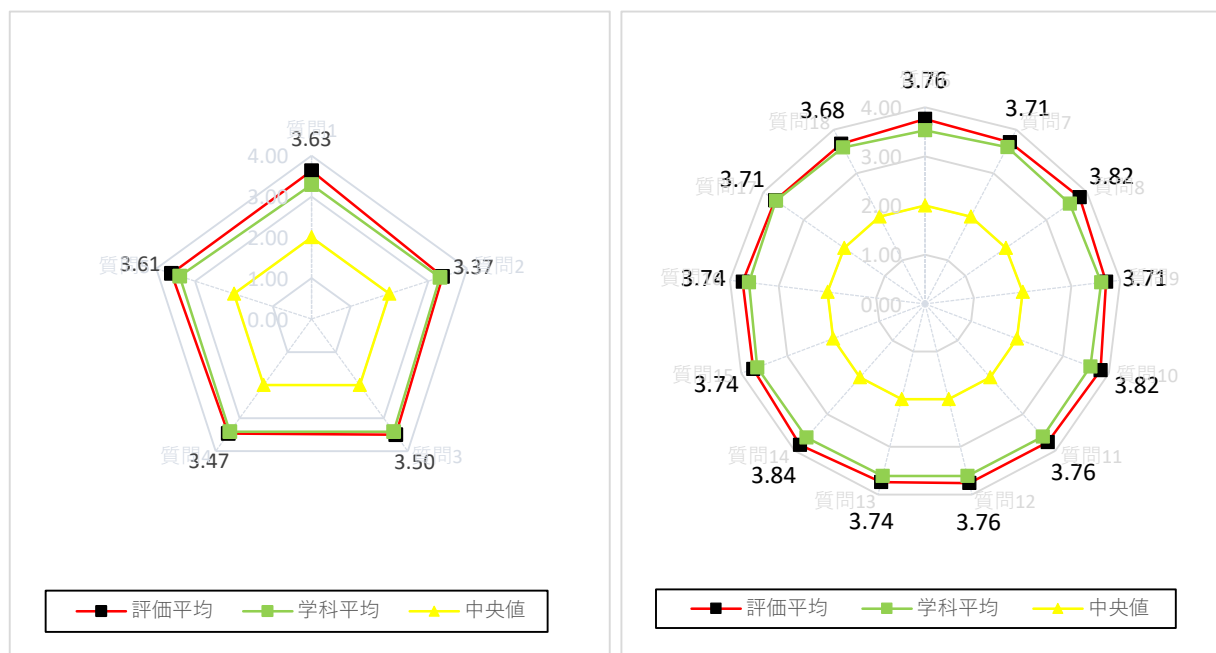
授業評価は回答者38名、回答率100%であり、総合評価は4点満点中3.66であった。質問6?18の授業運営・教員対応に関する項目は3.53?3.79と全体的に高く、説明の分かりやすさ、授業の工夫、質問対応、公平性、教員の熱意などについて良好な評価が得られた。一方で、質問1「授業への出席」、質問2「シラバスの活用」、質問4「理解のための工夫」はいずれも3.39であり、学生自身の主体的な学習行動にはやや課題が見られる。自由記述では、温かい指導により学ぶ楽しさを感じたという肯定的意見が確認された。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、授業運営に関する高い評価を維持しつつ、学生がより主体的に学習へ参加できるよう改善する。レクリエーション活動援助法Ⅱでは、地域高齢者との関わりや実践場面を通して学ぶ内容が多いため、各回の到達目標、活動の目的、事前準備のポイントをより明確に示す。また、グループでの企画・実施・振り返りを段階的に行い、学生が自分の役割を意識して取り組めるよう支援する。さらに、授業後の振り返りや簡単な自己評価を活用し、学生が学びの成果を確認できる機会を増やすことで、実践力と学習意欲の向上につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護予防支援学	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

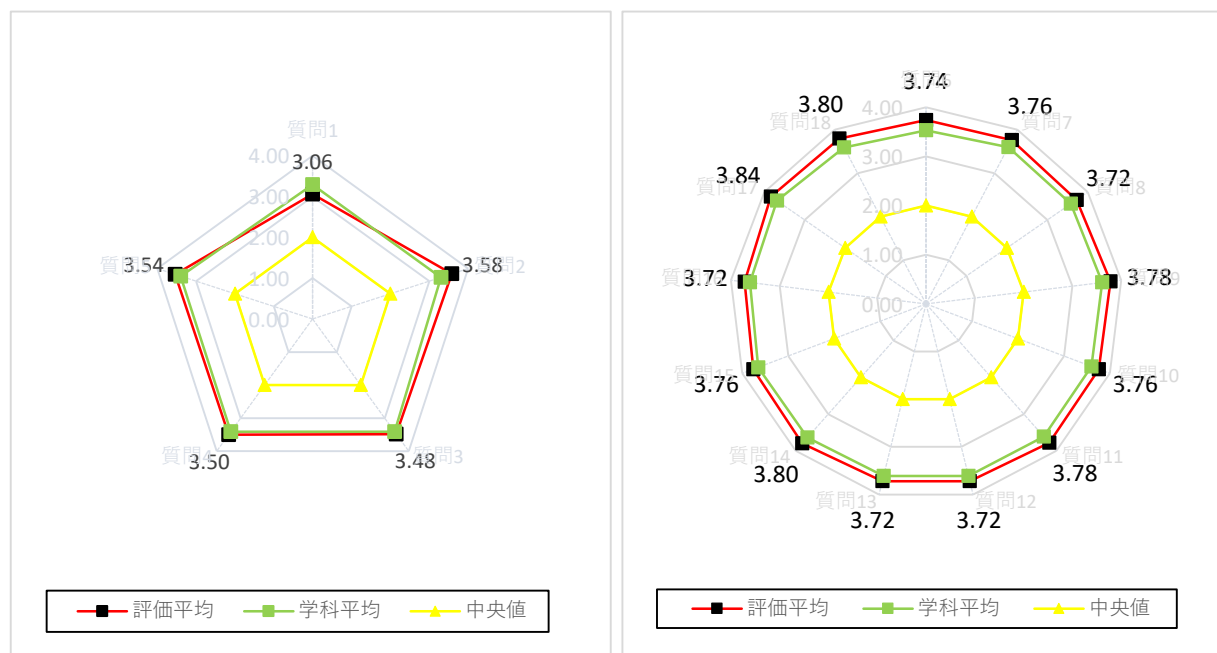
授業評価は回答者38名、回答率100%であり、総合評価は4点満点中3.70であった。質問6?18の授業運営・教員対応に関する項目は3.68?3.84と高く、授業目標の提示、説明の分かりやすさ、教材の活用、質問への対応、教員の熱意などについて良好な評価が得られた。質問1「授業への出席」も3.63であり、比較的安定した受講状況がうかがえる。一方で、質問2「シラバスの活用」は3.37と相対的に低く、授業計画や到達目標を学生が十分に意識できる工夫が必要である。自由記述では、温かい指導により学ぶ楽しさを感じたという肯定的意見が確認された。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、介護予防支援学の学びが実践場面と結びつくよう、各回の到達目標、授業内容、課題の意義をより明確に示し、シラバスとの関連を授業内で確認する。介護予防、フレイル予防、口腔ケア、栄養、運動等の内容については、具体的な高齢者像や地域支援の事例を用い、学生が実際の支援場面をイメージしながら学べるようにする。また、複数教員で担当する科目であるため、授業全体の流れや評価基準の共有をより丁寧に行い、科目としての一貫性を高める。授業後には簡単な振り返りを取り入れ、理解度や困りごとを把握しながら、学生の主体的な学習につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本文化事情（演習含む）	52名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

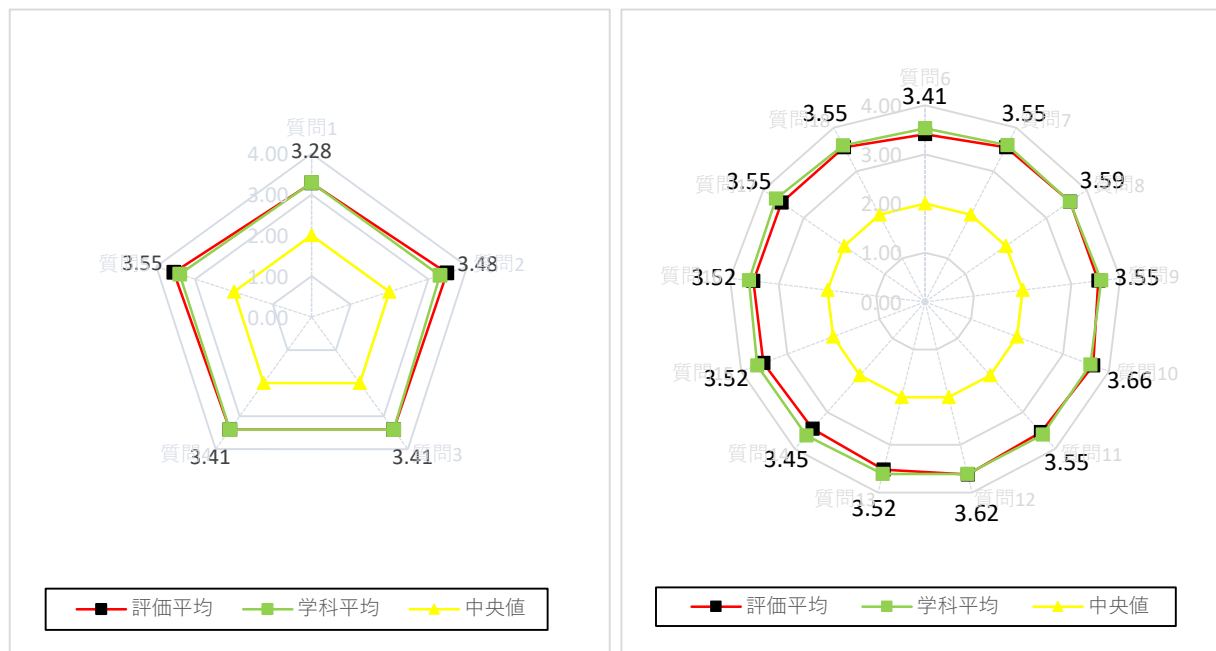
受講生の九割が食健康コース、介護福祉コースと多文化コースの留学生である。授業評価の結果は全体的に高評価であった。（１）内容の理解しやすいについては、①日本文化の概念（礼儀作法・宗教観・伝統行事・歴史など）について、実際の事例や映像、資料等を示しながら授業を行った。資料には可能な限りルビをふり、日本語能力の低い学生にも理解しやすい工夫を行った。（２）教材や資料の質については、パワーポイントや配布資料、映像資料などが適切で興味を引くものになるように努めた。最新の文化事情も反映しながら講義した。（３）授業の進め方については①話すスピードに気を配った。一方的な講義だけでなく、アクティブラーニング（主体的・対話的授業）になるようにディスカッションやグループワークなど参加型の工夫を行った。（４）教師の態度については、異文化理解の視点に立ち、ダイバーシティー的な対応を心がけ、全ての学生に対して親身に接し、質問や意見を受け止めた。（５）国際的視点の導入については日本文化を他国文化と比較するなど広い視野を養う工夫を行いながら授業を展開した。次年度も継続したい。

（３）次年度に向けての取り組み

本年度の結果をもとに次年度に向けて、授業内容の理解を促す手立てについては①日本文化の概念について実際の事例や映像・資料等を示しながらより具体的に理解を促す。資料には次年度も可能な限りルビをふり日本語能力の低い学生にも理解しやすい工夫を行う。②教材や資料の質については①パワーポイントや配布資料、映像資料などが適切で興味を引くものにする。資料には最新の文化事情も反映させる。④授業者として話すスピードやテンポや間に気を配る。⑤アクティブラーニング（主体的・対話的な授業スタイル）になるように授業の中では可能な限り双方向的な会話、ディスカッション、グループワーク等、学生参加型の工夫を行う⑥異文化理解の視点に立ち、ダイバーシティー的な対応を心がける。全ての学生に対してきめ細かに対応し質問や意見を受け止める。⑦留学生の母国と日本文化とを比較して考えを述べさせるなどグローバルな視野を養う工夫を行いながら授業を展開する。⑧授業のまとめにおいては各自でテーマを決めたプレゼンテーションを行いコミュニケーション能力の育成につなぐ。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化理解 I	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

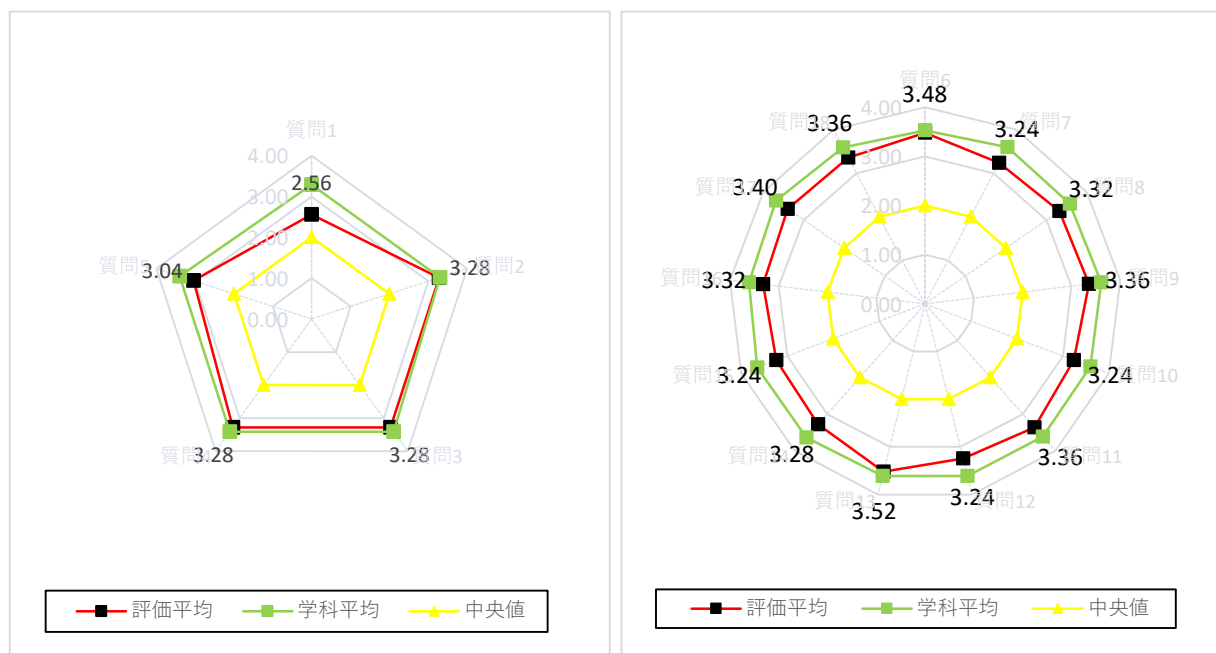
本授業は実務家教員（外部講師）と本学教員によるオムニバス授業で海外や国内の政治・経済ニュース、文化事情を取り上げ、グローバル社会の中で国際人に必要なメディアリテラシーの習得を目指している。実務家教員の一人は官公庁で国際交流の実務を担当し、国際交流事業や外国人の支援にあたり、長年の経験を基に、地域での国際交流活動の実際、異文化理解について講義している。もう一人は英語教育等、日本での長年の経験を活かし、国内外の文化比較と多文化社会について講義している。本学教員は学生の特性を活かし日本の歴史文化に触れ、双方の文化の違いを体感させながら学生同士の相互理解を深めるように講義している。講義と演習を組みあわせグループディスカッションなど交え、学びの報告・発表を行っている。自己評価は学科平均とほぼ同等の評価であった。授業の評価も学科平均とほぼ同等であり、一昨年の数値（自己評価3.89、総合評価4）、昨年の数値（自己評価3.22、総合評価3.33）、今年の数値（自己評価3.55、総合評価3.55）と変動しているが、昨年よりは高い評価であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

留学生が急増する中、昨年は、授業評価が例年に比べ低かったが、今年は昨年より評価が高かった。今年は昨年よりクラス人数は減っており、昨年よりはグループ学習などやりやすかった。クラスの数、留学生の国籍と日本語力、日本人学生と留学生の割合などを考慮し、多文化クラスの授業展開について3教員が連携、情報を共有して各担当回の内容の一層の充実を図る予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		ホスピタリティ心理学	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

授業評価の平均が学科（地域生活支援学科）の平均をかなり下回っている。特に質問14、質問15についてはスコアが低くなっている。一方、授業中や終了後には質問時間を設けたりするものの、大半を占める留学生はすぐに教室を出ていく様子だった。就職の話をしたり、資料も希望通り紙で配布したり、英語も交えて対話することを試みたが、公平性に欠けるという回答があったことは大変に残念である。また、留学生がこれらの質問項目をすべて理解しているのか検証することも必要と思われた。

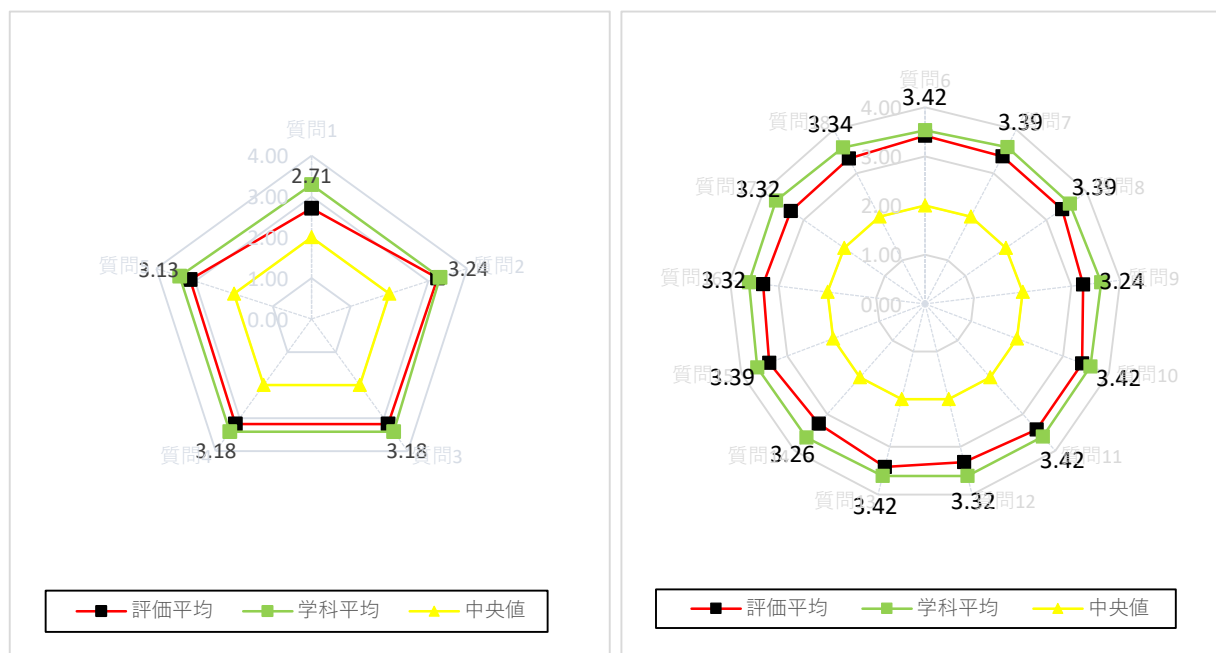
自由記述には、「この授業を通して、食生活と健康の大切さを理解することができました。今後の生活に活かしていきたいです。」とあり、食健康コースはすべて日本人だったことから、十分に授業の意図は伝わっていたことが分かる。

(3) 次年度に向けての取り組み

多くの留学生が日本語能力が十分でなく、英語によるレポート提出も認めたが、それでも難しかった。語学の壁を感じた授業だった。その為、あまり使用しなかった視聴覚教材を使って理解を促進するような工夫が必要と思われた。一方で、ホスピタリティという難しい概念を扱う為、ある程度の自主学習についても促していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		社会とデータサイエンス	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

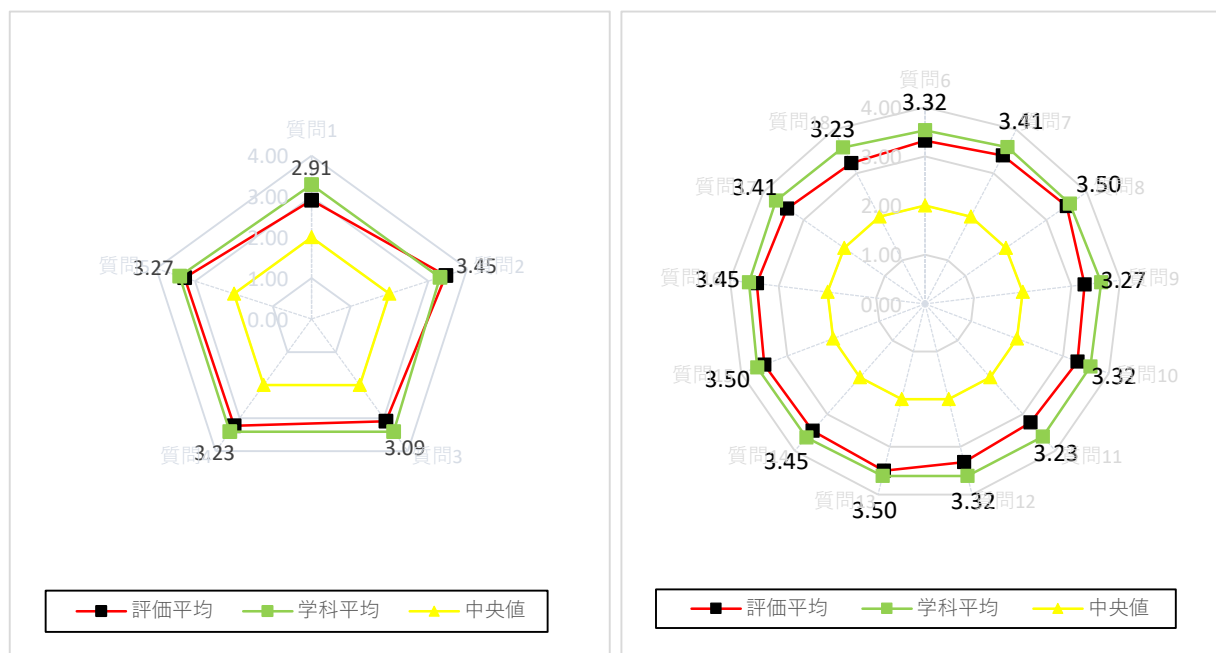
この授業は、PCを使ってデータの統計処理を行うことを主な内容としている。
多くの項目で、学科平均よりも下回る結果となっている。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度は、講義中に授業評価アンケートを行うなどして、早期の授業改善に取り組みたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		社会とデータサイエンス 演習	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

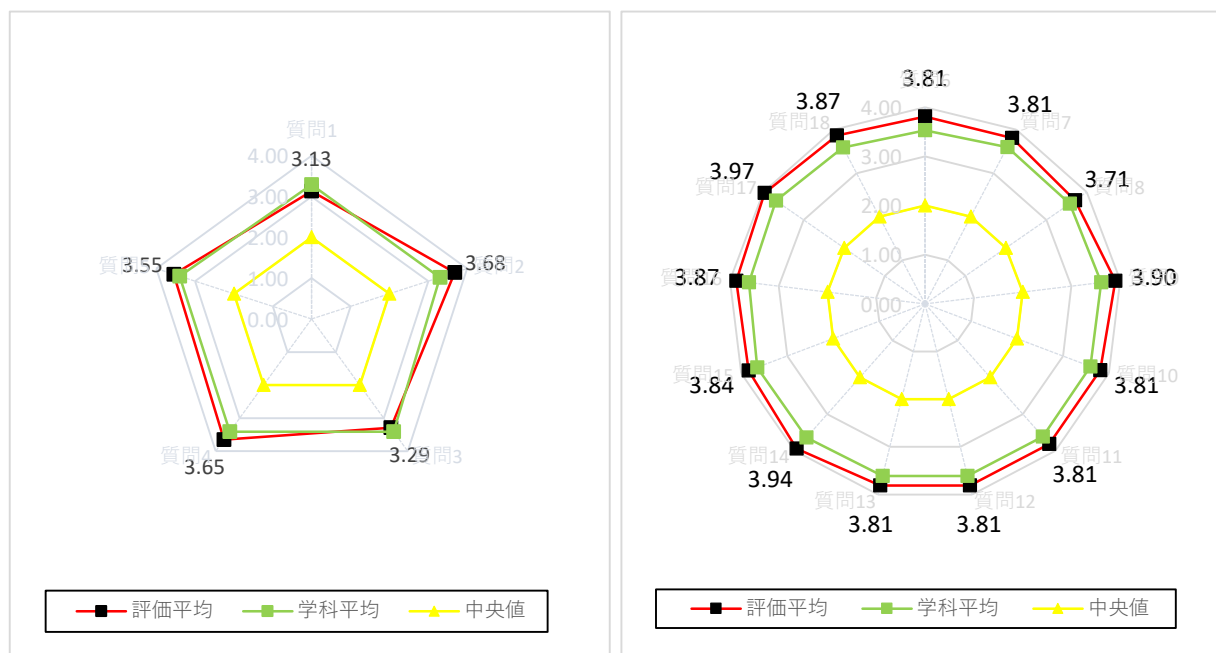
この授業は、PCを使ってデータの統計処理を行うことを主な内容としている。
多くの項目で、学科平均よりも下回る結果となっている。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度は、講義中に授業評価アンケートを行うなどして、早期の授業改善に取り組みたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		プレゼンテーション概論	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

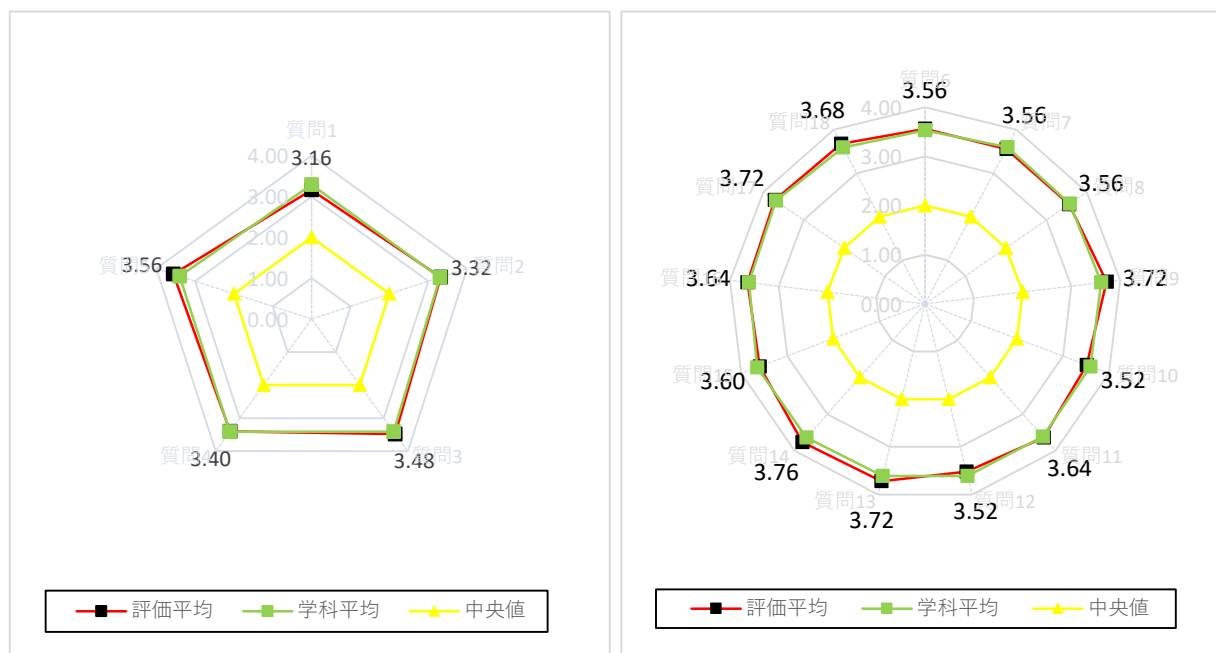
この授業では、ペア学習と学生の発言の機会を多く設けている。自由記入からは、「人前で話す自信が少しずつついてきたと感じています。準備から発表までのプロセスを通して、話す力だけでなく、考えをまとめる力も伸ばすことができました。先生のアドバイスもとてもわかりやすく、次に活かそうと思える内容ばかりでした。今後は、もっと他の人の発表を聞く時間も増えると勉強になると思います。」、「プレゼンテーションの授業を通して、いろいろなことに気づきました。まず、相手にわかりやすく話すことがとても大切だと思いました。(中略)何回も練習することで、少しずつ自信がついてきました。これからも、プレゼンテーションの力をつけて、いろいろな場面でしっかりと自分の意見を伝えられるようにしたいです。」、この他に「(中略)、発表の準備時間が短く感じることもあったので、もう少し時間に余裕があると助かります。」「(略)一方で、もう少しグループワークや意見交換の時間があると、他の受講者の考えにも触れられてより学びが深まると感じました。(略)」といった回答を得た。

(3) 次年度に向けての取り組み

限られた時間のなかで、グループワークを効率よく取り入れるよう工夫したい。また、可能な限り、学生が考える時間の余裕を与え、発表の準備ができるよう工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		プレゼンテーション演習	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

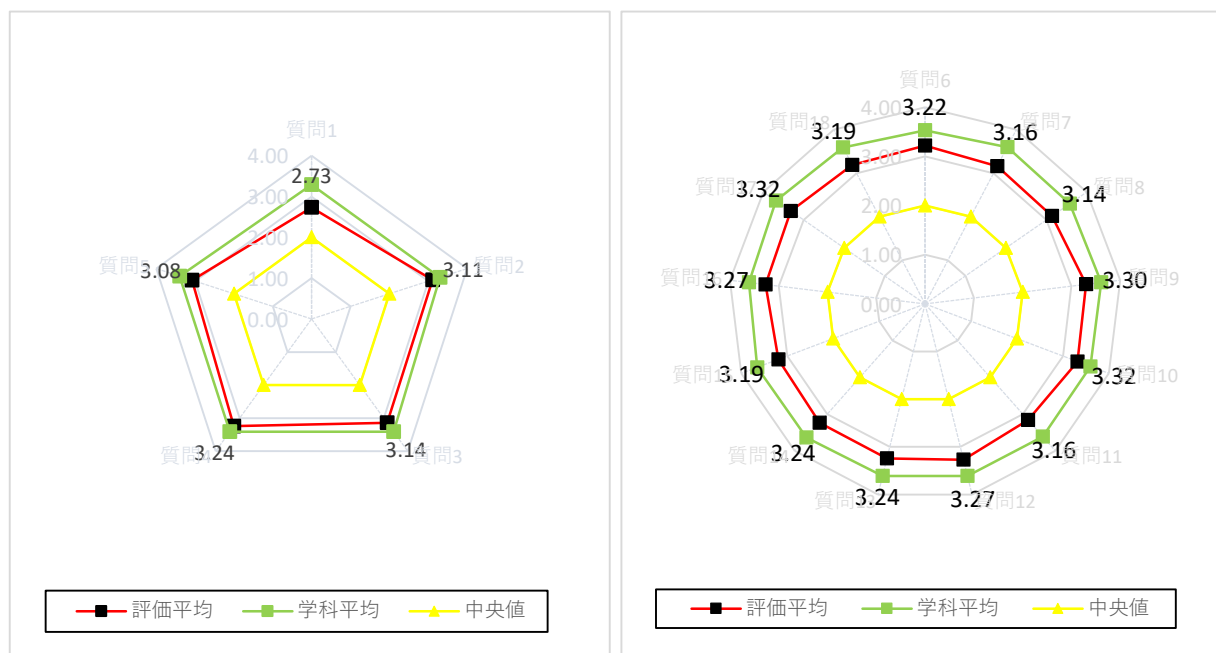
この授業は、プレゼンテーション実務士資格の科目として、PowerPointを効果的に活用する方法を学ばせている。演習課題をもとに、実際にスライドを作成している。加えて、ポスター発表の機会を設けて、実践的な学習を行っている。自由記入からは、「卒業後の就職に役立つ資格が取れる講座を用意してほしいです。また、実際の仕事を体験できる実習や実践的な学習の機会も増やしてほしいと思います。」

(3) 次年度に向けての取り組み

実際に仕事として体験できるような課題を検討し、その機会を設けたい。PowerPointのスライド作成においては、初歩から学習が必要な学生と十分にできる学生との差があることから、共通課題だけではなく、初歩と発展の課題を検討して取り入れたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		応用プレゼンテーション 演習	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本授業は、プレゼンテーション概論と同演習で修得した知識と技術を基に、実践的なプレゼンテーション力を身に付けることを目的に学内外のイベント、観光プランなど具体的な企画を各自が行うことで実践力を養っている。プレゼンテーション実務士の資格取得のための必須科目となっている。前半は、佐賀県の観光資源と地域観光についてのグループワーク、観光地視察と観光プランの作成とプレゼンテーションであり、地域観光の魅力を学生自身が視察により確認して学びを深める内容としている。

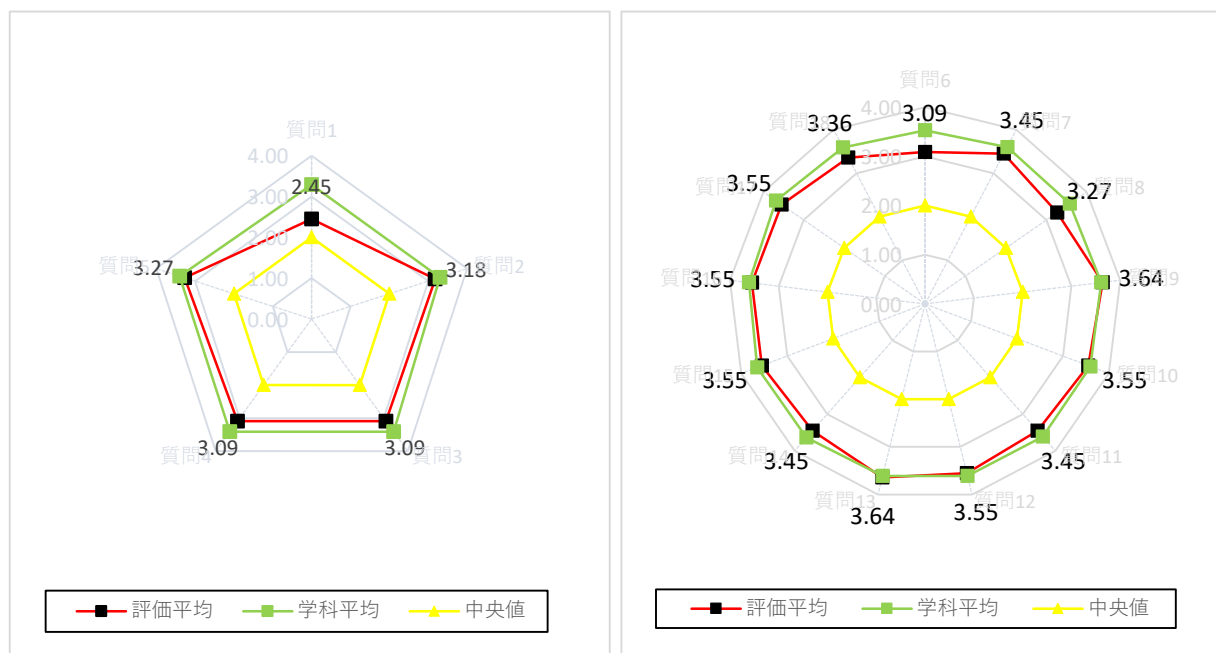
本授業の受講者は一昨年は5名、昨年は11名、今年は39名と急増した。この受講生の急増に伴い、学生の自己評価、質問6以降の授業評価とも学科平均と下回っており、自己評価、授業評価を過去の結果と比べると、一昨年は3.8, 3.6、昨年は3.22, 3.44、今年が3.08, 3.19となっている。

(3) 次年度に向けての取り組み

留学生の急増に伴い、本授業の受講生もほぼ留学生となっている。そのためこれまで以上、留学生とのコミュニケーションを大事にし、留学生に対応したわかりやすい日本語での説明を心がけ、個々の学生がグループワークに積極的に参加できるように工夫し、地域観光を理解するための学外活動を取り入れて改善を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化共生とSDGs	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

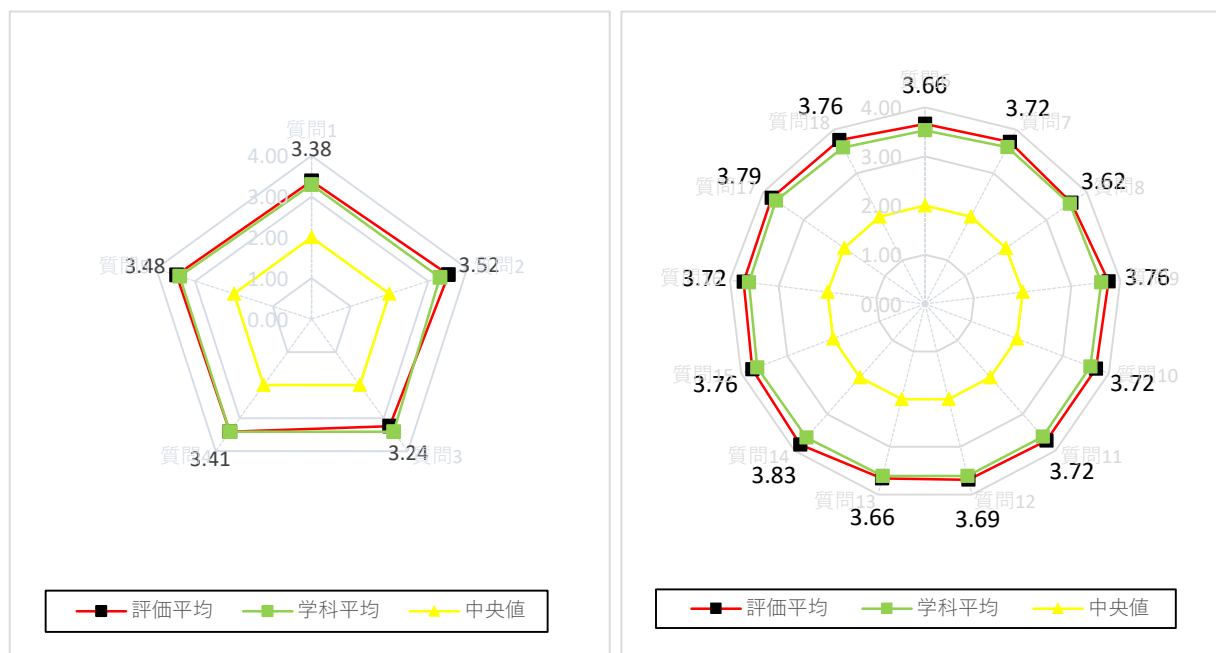
シラバスの計画説明は初回で行うほか、適宜授業回で説明したが、学生の理解はなかった。授業では、学生との対話を中心とした学習を進めてきたが、質問への対応は十分でないと感じている。

(3) 次年度に向けての取り組み

学習内容は多岐にわたるものであり、何を議論しているのか理解できていないと考えられる。学習内容を資料に明確に示して、より分かりやすく説明し、論理的な考えと話ができるように展開を工夫してみたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化ゼミナール I	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

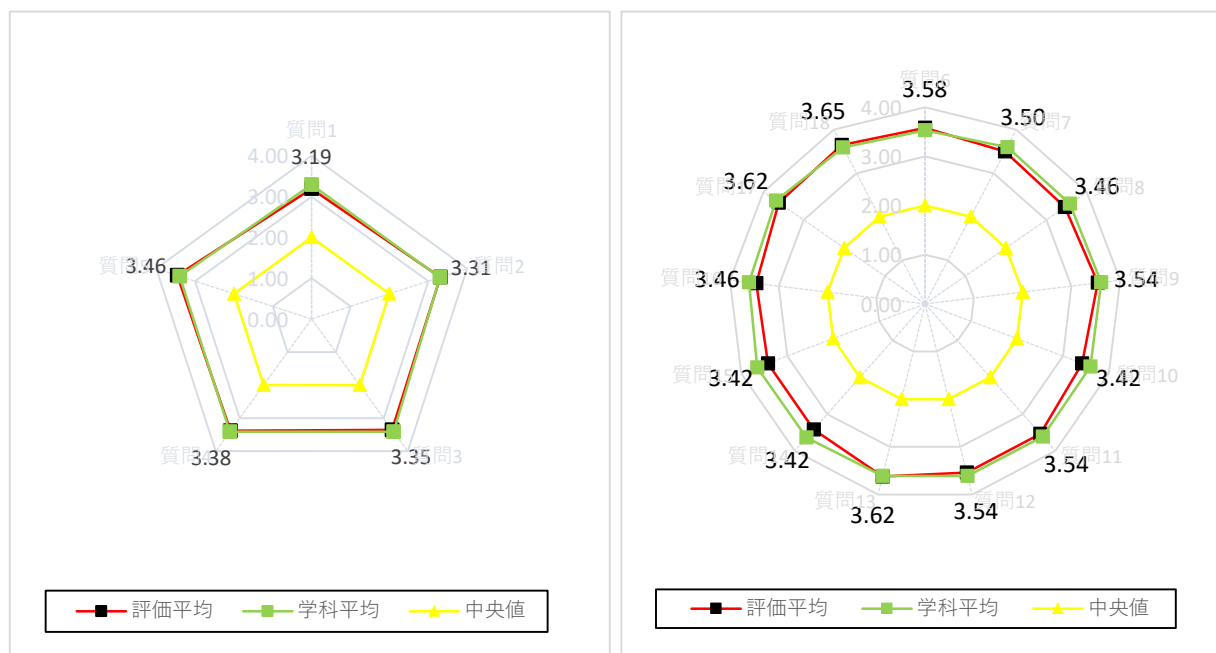
「授業を理解するために自分で工夫したか」「あなた自身の総合自己評価」の数値が3.5?4.0と非常に高く、学科平均や中央値を大きく上回っています。学生が主体的に学び、手応えを感じている様子が伺える。「学生の質問等に誠実に対応したか」「教員は熱心に授業に取り組んでいたか」が4.0に近い。「シラバスを活用したか」「シラバス（授業計画）について説明があったか」「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していたか」の項目が、他に比べてやや低め（2.5?3.0付近）に留まっている。

(3) 次年度に向けての取り組み

第1回目の授業でシラバスの構成や各回のつながりを丁寧に解説し、いつでも確認できるようデータでのアクセスを促す。
各回の授業開始時に「本日の到達目標（何ができるようになるか）」をスライドや板書で明示し、終了時に振り返りを行う。
ゼミの議論やワークシートとして「役に立った」と実感しやすいよう、文字量やレイアウトを整理し、実用性の高い資料構成に見直す。
学生の自己評価や積極性が非常に高いため、次年度もグループワークやディスカッションなど、学生が主役となる双方向的な運営スタイルをベースとして維持する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化ゼミナールⅡ	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

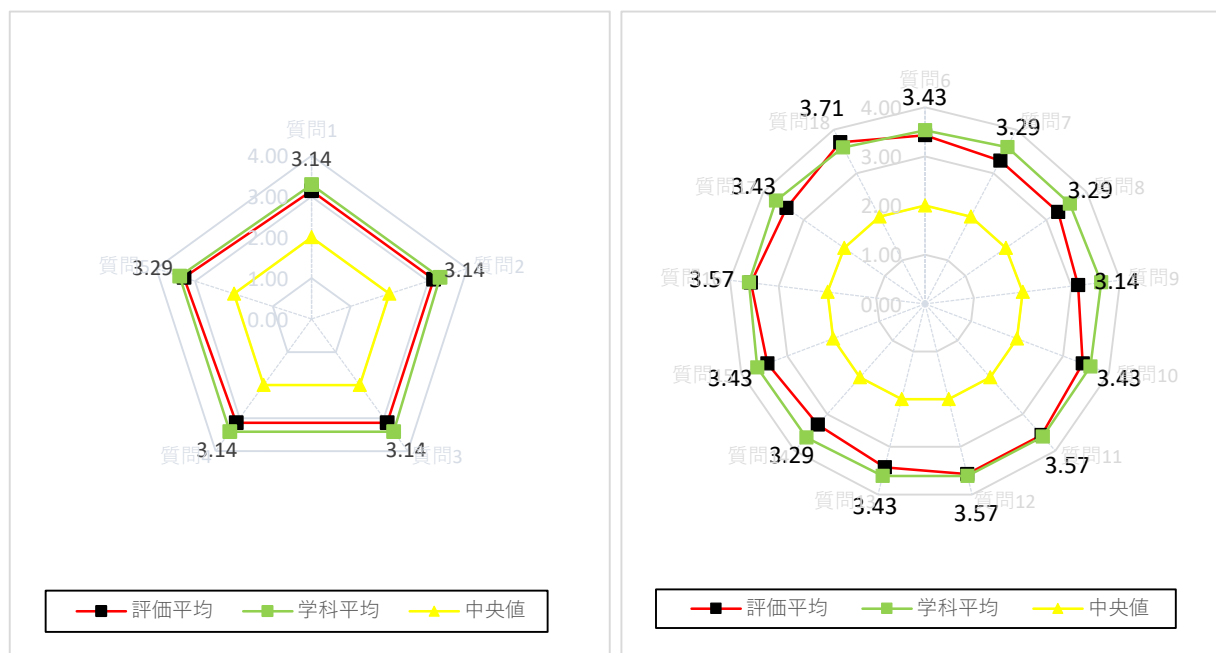
質問1や質問4については、学科平均より下回っている。主体的な授業態度に問題があると考えられる学生が多いと考えられる。
 質問13、質問18以外は、学科平均より下回っている。全体的に低い評価となった。特に、質問10、14、15、16が低いと考える。講義中の学生とのコミュニケーションが不足していると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

この科目は、分野ごとに教員が異なっているため、講義中の学生とのコミュニケーションについて丁寧に行うように依頼したいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化ゼミナールⅢ	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

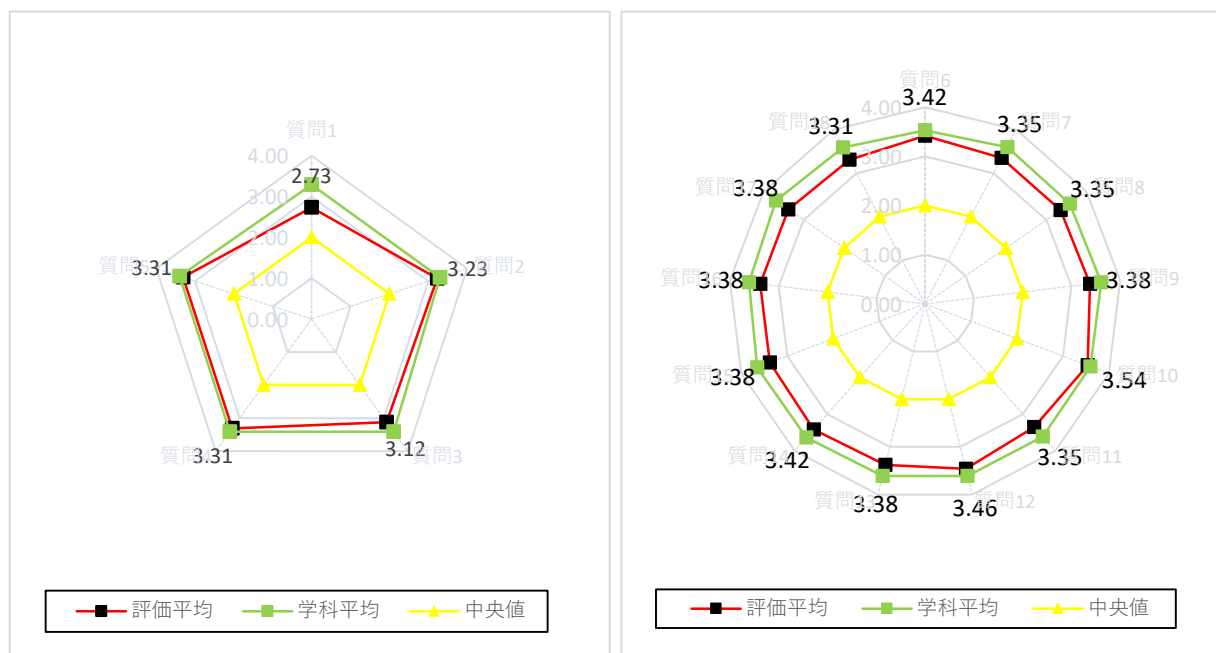
この講義は、4人の教員が分担して講義を実施している。
 多くの項目で、学科平均よりも低い評価となっている。特に、質問7～9、質問14、質問17が低い評価だと考える。
 これらの質問は、教員による授業の教え方に関する評価だと考えられるため、早急に改善を要する事項だと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

この評価を教員間で共有し、教員各自での改善策を考えるようにしたい。
 そのうえで、講義期間の途中でも、授業評価のようなアンケートをとるなどして、学生の要望・希望を講義に実現する必要があると考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化ゼミナールⅣ	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

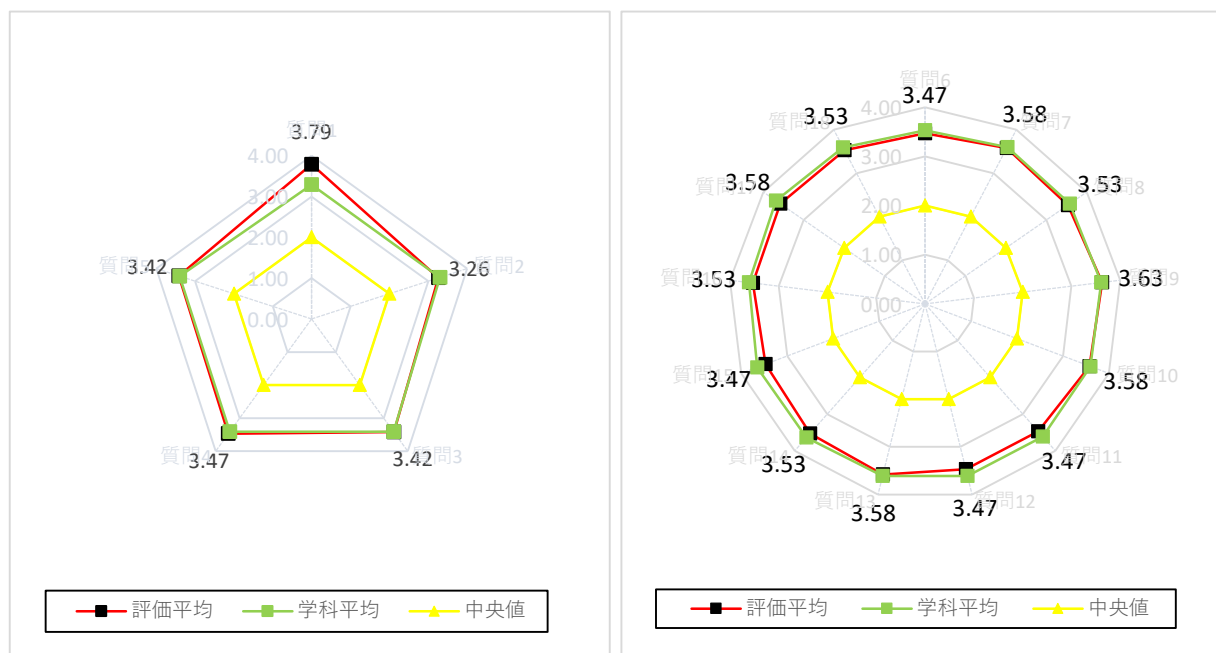
この講義は、4人の教員で分担し、それぞれの専門分野で講義を行っている。
多くの項目で、学科平均よりも下回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

担当教員でこの情報を共有し、授業改善に取り組むたい。
来年度は、講義の途中でも授業評価アンケートを実施し、その結果を早期に反映させることで、出来るだけ
学生のニーズに沿った科目運営を心掛けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		インターンシップ I	76名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この科目は、学外会社や団体等に研修を行うことを主な目的としている科目である。

多くの項目で、学科平均程度の評価となっている。

学生自身の評価については、概ね良い評価となっているため、学生が熱心に研修に取り組んだ結果だと考える。

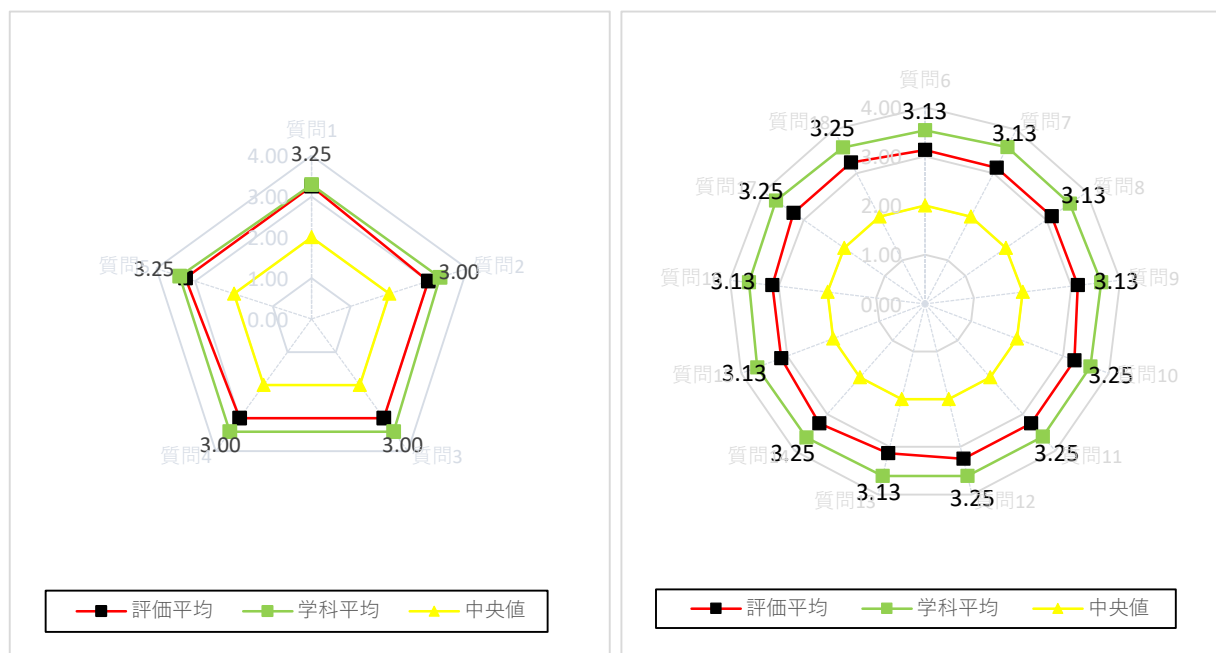
講義についての評価については、質問6、質問12が低い評価となっている。シラバスの説明が不足していたと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度の講義の際には、シラバスの説明を丁寧に行うことを心掛けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語応用（栄養学）Ⅱ	8名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

この授業は、初めて留学生を受け入れるために開設された科目であり、将来の栄養士や食関連分野の職種、ならびに他科目で使用される専門用語について、日本語の理解と習熟を深めることを目的としている。学生による総合評価は3.25であり、シラバスの確認、授業への取り組み、理解を深める工夫の各項目はいずれも3.00であった。教員への評価は3.13～3.25の範囲にとどまっており、総合評価3.25は学科平均を0.38下回る結果となった。

また、日本語能力に個人差があり、内容理解に困難を感じる学生も見られることから、今後はより丁寧で段階的な指導を行う必要性が示唆された。

（３）次年度に向けての取り組み

留学生にとっては、将来の就職につながるよう計画的に学修を進めることが重要である。栄養士としての専門知識に加え、特定技能や厨房業務、さらには食事提供に必要な幅広い知識についても積極的に習得させていく。そのためには、各自の日本語能力の向上に一層力を入れて教育していく。

西九州大学短期大学部

令和 7 年度 学生による授業評価アンケート調査結果報告

令和 8 年 8 月 6 日

IR 室

【質問事項】

1. 授業は何回欠席しましたか。
【評価 4: 0回、3: 1回、2: 2～3回、1: 4回以上】
2. シラバス（授業計画）を活用しましたか。
【評価 4: 0回、3: 1回、2: 2～3回、1: 4回以上】
3. 授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。
【評価 4: 0回、3: 1回、2: 2～3回、1: 4回以上】
4. あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
5. あなた自身の総合自己評価
【評価 4: 良い、3: やや良い、2: やや悪い、1: 悪い】
6. シラバス（授業計画）について説明がありましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
7. 教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
8. 授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
9. 授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
10. 視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
11. 教科書・配布資料等は役に立ちましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
12. 声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
13. 授業の進む速さは適切でしたか。
【評価 4: 十分、3: だいたい十分、2: やや不十分、1: 不十分】
14. 学生の質問等に誠実に対応しましたか。
【評価 4: 十分、3: だいたい十分、2: やや不十分、1: 不十分】
15. 公平に学生に対応しましたか。
【評価 4: 十分、3: だいたい十分、2: やや不十分、1: 不十分】
16. 教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。
【評価 4: 十分、3: だいたい十分、2: やや不十分、1: 不十分】
17. 教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。
【評価 4: そう思う、3: だいたいそう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない】
18. この授業を総合評価してください。
【評価 4: 良い、3: やや良い、2: やや悪い、1: 悪い】

【令和 7(2025)年度授業評価アンケート回答結果】

(前期科目)

	開講科目数		延べ履修者数		回答科目数		回答者数		回答者率	
	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門
地域	8	60	471	2,112	7	59	430	1,867	91.3%	88.4%
幼保	8	51	230	1,254	7	51	195	1,143	84.8%	91.1%
西九短	16	111	701	3,366	14	110	625	3,010	89.2%	89.4%

※通年科目を除く

(後期科目)

	開講科目数		延べ履修者数		回答科目数		回答者数		回答者率	
	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門
地域	12	84	704	2,492	12	82	540	1,945	76.7%	78.0%
幼保	12	53	403	1,410	11	53	314	1,112	77.9%	78.9%
西九短	32	137	1,107	3,902	23	135	854	3,057	77.1%	78.3%

※通年科目を含む

【学生回答による項目別評価平均値】

(前期科目)

質問	共通教育科目		地域生活支援学科 (専門科目)		幼児保育学科 (専門科目)	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
1	3.36	0.85	3.34	0.84	3.38	0.87
2	3.27	0.81	3.28	0.83	3.33	0.73
3	3.39	0.77	3.25	0.82	3.54	0.61
4	3.46	0.66	3.41	0.72	3.51	0.63
5	3.41	0.6	3.42	0.65	3.51	0.59
6	3.47	0.77	3.6	0.66	3.66	0.6
7	3.61	0.64	3.61	0.63	3.7	0.57
8	3.55	0.64	3.58	0.63	3.69	0.59
9	3.58	0.66	3.59	0.65	3.7	0.58
10	3.57	0.68	3.59	0.64	3.71	0.56
11	3.62	0.63	3.61	0.65	3.73	0.56
12	3.58	0.66	3.61	0.66	3.72	0.57
13	3.59	0.64	3.6	0.64	3.73	0.56
14	3.64	0.62	3.64	0.63	3.73	0.57
15	3.66	0.61	3.62	0.67	3.73	0.57
16	3.59	0.67	3.62	0.64	3.72	0.58
17	3.71	0.57	3.66	0.64	3.73	0.57
18	3.55	0.68	3.58	0.66	3.72	0.52

質問 5 総合自己評価

質問 18 授業の総合評価

(後期科目)

質問	共通教育科目		地域生活支援学科 (専門科目)		幼児保育学科 (専門科目)	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
1	3.24	0.86	3.29	0.83	3.15	0.96
2	3.32	0.75	3.4	0.68	3.27	0.76
3	3.43	0.66	3.43	0.69	3.48	0.6
4	3.37	0.71	3.49	0.61	3.38	0.66
5	3.4	0.63	3.49	0.59	3.44	0.57
6	3.57	0.58	3.62	0.52	3.61	0.54
7	3.59	0.55	3.61	0.54	3.65	0.52
8	3.61	0.54	3.61	0.53	3.63	0.54
9	3.62	0.55	3.62	0.54	3.64	0.53
10	3.62	0.52	3.62	0.54	3.65	0.52
11	3.59	0.58	3.63	0.53	3.65	0.52
12	3.62	0.55	3.65	0.53	3.66	0.52
13	3.62	0.54	3.64	0.53	3.64	0.52
14	3.64	0.55	3.66	0.51	3.64	0.53
15	3.64	0.54	3.63	0.54	3.66	0.53
16	3.62	0.56	3.63	0.54	3.63	0.53
17	3.67	0.52	3.67	0.5	3.66	0.5
18	3.61	0.56	3.63	0.52	3.63	0.53

※通年科目を含む

質問 5 総合自己評価

質問 18 授業の総合評価

分析に基づく検証評価・改善について

地域生活支援学科

評価・成果等	課題・問題点等	今後実行可能な改善事項等
現在編集集中		

幼児保育学科

評価・成果等	課題・問題点等	今後実行可能な改善事項等
現在編集集中		

編集者一覧

令和8年度 F D委員会

FD 委員会委員長	春原 淑雄	准教授
副学長・地域生活支援学科長	平田 孝治	教授
幼児保育学科長	野口 美乃里	教授
地域生活支援学科	西岡 征子	教授
幼児保育学科	矢ヶ部 陽一	准教授
事務局・次長	大石 妙子	

西九州大学短期大学部

令和7年度 学生による授業改善のための授業評価結果に関する報告書

編集日 令和8年9月 日 ()

編集・発行 西九州大学短期大学部 教務課

〒840-0806 佐賀県佐賀市神園三丁目 18-15

電話 0952-37-9614 (教務課直通)

URL https://www.nisikyu-u.ac.jp/junior_college/

メール kyomu_info@nisikyu-u.ac.jp